自然環境保全基礎調査 植生調査実施要領(平成 28 年度版)

平成 28 年 4 月

環境省自然環境局 生物多様性センター

自然環境保全基礎調査植生調査実施要領(平成28年度版)の改訂

本実施要領は、「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領(平成 27 年度版)」の一部を見直し、 平成 28 年度版実施要領として改訂したものである。平成 28 年度の植生調査業務は、本実施要領、 植生図 GIS データ製品仕様書(第 2.0 版)、植生図 GIS データ作成ガイドライン(第 2.2 版)に 準拠する。主な改訂は以下の通りである。

- 最終打ち合わせを成果品の確認に変更した。
- 特定植物群落等の現地確認結果を第2回ブロック調査会議で検討し、重要な植物群落一覧を 作成することとした。
- 過年度隣接図の接合で修正が必要な場合は、隣接図 GIS データの修正を行うことが望まれる とした。
- 成果品のうち、報告書(紙媒体)の数量を削除し仕様書によることとした。
- 巻末資料の「資料4 山岳地調査の手引き」を追加した。

目 次

1.	. 調査の概要	1
	1.1 目的	1
	1.2 経緯	1
	1.3 本要領の位置づけ	1
	1.4 調査対象地域	2
	1.5 実施体制	3
	1.6 業務管理サイト・メーリングリスト	6
	1.6.1 業務管理サイト	6
	1.6.2 メーリングリスト	6
	1.7 植生図の基本的仕様	7
	1.7.1 基図	7
	1.7.2 判読画像	7
	1.7.3 最小表示面積	7
	1.7.4 凡例	7
	1.7.5 隣接植生図との調整	8
	1.7.6 GIS データの仕様	9
	1.8 植生図の図化指針	9
2.	. 植生図の作成方法	
	2.1 植生図の作成工程	
	2.2 工程管理	
	2.2.1 管理資料の確認・承認手順	
	2.2.2 打ち合わせ 2.3 計画・準備	
	2.3 計画・準備 2.3.1 判読画像の入手及び確認	
	2.3.1 刊前画像の八子及び確認	
	2.3.3 2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ別工程表の作成	
	2.3.4 着手打ち合わせ	
	2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング	
	2.3.6 現地調査計画書の作成	
	2.4 植生判読及び現地調査	
	2.4.1 予備判読	
	2.4.2 現地調査	
	2.4.3 図化基準案の作成	
	2.4.4 植生図案の作成・提出	

	2.5 第1回ブロック調査会議	38
	2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載	38
	2.5.2 会議の開催	40
	2.5.3 議事録及び議事概要の作成	40
	2.5.4 会議後の打ち合わせ (中間打ち合わせ)	40
	2.6 凡例検討部会	41
	2.6.1 仮凡例の検討	41
	2.6.2 仮凡例の検討フロー	42
	2.7 植生図 GIS データの作成	43
	2.7.1 植生図案の確定	43
	2.7.2 植生図 GIS データの入力および修正	44
	2.7.3 2次管理資料の提出と進捗状況の報告	45
	2.7.4 植生図全図の確認	46
	2.8 第 2 回ブロック調査会議	48
	2.8.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載	48
	2.8.2 会議の開催	50
	2.8.3 議事録及び議事概要の作成	50
	2.8.4 会議後の打ち合わせ	50
	2.9 植生分科会	51
	2.10 成果品の作成	52
	2.10.1 植生図の最終確認	52
	2.10.2 成果品案等の提出	52
	2.10.3 最終打ち合わせ	53
	2.11 納品	54
3	. 調査成果とりまとめ	55
	3.1 成果品の概要	55
	3.1.1 成果品の概要	55
	3.1.2 環境省 RL 種にかかわる情報	58
	3.2 GIS 植生図の出力図	59
	3.2.1 GIS データおよび植生図	59
	3.3 ブロック版報告書	60
	3.3.1 ブロック版報告書の仕様	60
	3.3.2 ブロック版報告書の作成	62
	3.3.3 ファイル作成要領	64
	3.4 現地調査データ	65
	3.4.1 現地調査入出力システムの概要	65
	3.4.2 現地調査データの内容	69

3.5 電子ファイル(電子媒体)	73
3.5.1 格納媒体	73
3.5.2 電子媒体の表題	73
3.5.3 CD の内容	77
3.6 空中写真等	79
3.6.1 空中写真に関わる成果品の構成	79
3.6.2 空中写真アルバムの整理	81
3.6.3 標定図の整理	83
3.7 電子ファイル	85

- 資料1 全国レベルの精度基準
- 資料 2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き
- 資料3 統一凡例一覧表 (大・中・細区分)
- 資料4 山岳地調査の手引き

1. 調査の概要

1.1 目的

自然環境保全基礎調査(以下「基礎調査」という。)は自然環境保全法第4条に基づき、概ね5年ごとに地形、地質、植生及び野生動物に関する調査その他自然環境の保全のために講ずべき施策の策定等のために実施している調査である。本調査は、基礎調査のうち植生に関わる調査であり、全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備することを目的として実施するものである。

1.2 経緯

我が国の自然環境の最も基本的な構成要素である植生については、1978年(昭和53年)~1987年(昭和62年)度の第2回・3回基礎調査において全国の<u>縮尺5万分の1現存植生図</u>(以下、「<u>1/5万植生図</u>」という。)が作成され、1988年(昭和63年)~1998年(平成10年)度の第4回・5回基礎調査では人工衛星データにより把握可能な植生改変地域の更新を行ってきた。

しかしながら、環境影響評価法が施行されたこと、また里地・里山の保全等近年の自然環境への関心の高まりの中、植生図は日本全土を面的に網羅する自然環境に関する最も基礎的な資料として今後の自然環境保全施策の適切な推進に必要不可欠であり、環境アセスメントの基礎資料としても精度の高い植生のデータを提供していくことが求められていたため、1999年(平成11年)度以降の第6回基礎調査より新たに縮尺2万5千分の1現存植生図(以下、「1/2.5万植生図」という。)の作成に着手した。第6回基礎調査では、植生図を作成していくために空中写真から植生情報を判読した判読情報資料図を作成するとともに、現地調査を実施して植生原図*の作成を行い、2004年(平成16年)度までの調査期間で全国の約3分の1の図面を整備した。第6回基礎調査では全国規模での凡例の統一等の改訂を行い、作成手法においても GIS を使用した植生図*の作成が進む等の変更を行った。

2005年(平成17年)度より開始した第7回基礎調査では、第6回基礎調査で整理したGIS 仕様に基づき、植生図GISデータを作成し、これまでに全国の約70%の地域を整備した。

* 本業務では、第6回植生調査において紙ベースで作成された1/2.5万植生図を「植生原図」と呼ぶ。平成16年度以降、仕様に基づいて作成されたGISデータ並びに出力図は、これと区別する意味で「植生図」と呼ぶ。

1.3 本要領の位置づけ

本要領は、2013 年(平成 25 年) 度以降の植生調査業務について、全国的観点から植生図の精度を確保・均質化するため、作業の実施体制、作業内容、作業の進め方を明確にしたものである。

なお、植生図 GIS データの技術的事項については、本要領とは別に「植生図 GIS データ製品 仕様書 第 2.0 版」及び「植生図 GIS データ作成ガイドライン 第 2.2 版」に定めた。

1.4 調査対象地域

本調査は、基本的に国土を 8 ブロック(北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国・四国、 九州・沖縄:図 1-1)に分割して業務を実施する。

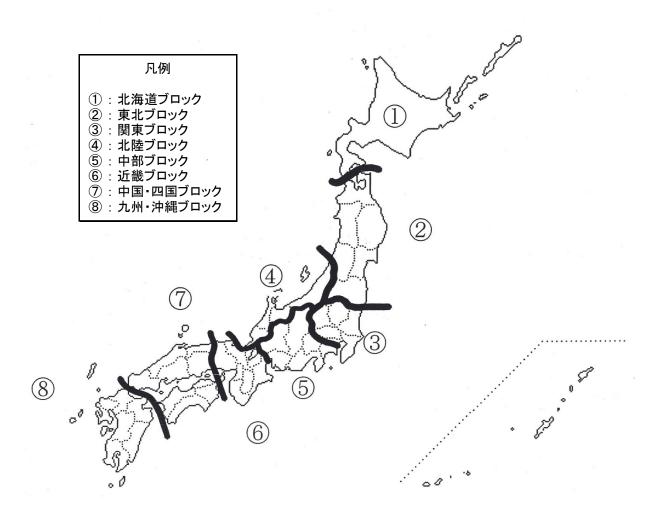


図 1.4.1 調査ブロック位置図

1.5 実施体制

本調査は、環境省(生物多様性センター)、環境省から業務を請け負った「現地調査法人」*1 及び「幹事法人」*2が連携し、一定の精度が確保された植生図を作成する。

各者の役割分担は以下のとおりとする。環境省、現地調査法人、幹事法人は、学識経験者の助言を参考にし、植生図の精度管理*3を実施する。図 1.5.1 に実施体制を示す。

- *1 現地調査法人:環境省からの業務請負により、植生図作成業務を担当する法人
- *2 幹事法人:環境省からの業務請負により、植生図精度管理業務を担当する法人
- *3 植生図の精度管理: 植生図の精度管理とは、植生図の全国的な精度を確保するため、要領及び協議にて定めた作成手法に沿って、工程に応じて中間成果及び最終成果の植生図の精度を確認し、必要に応じて修正を行う作業を指す。

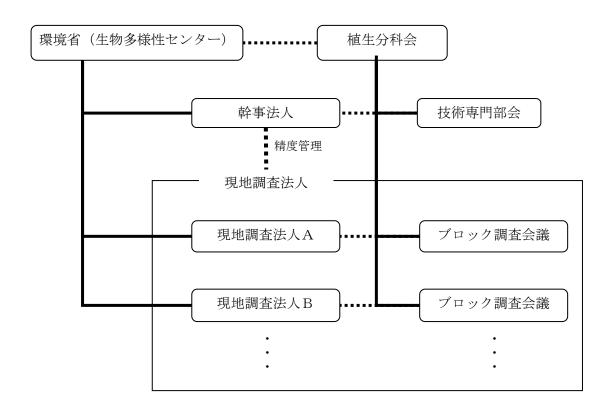


図 1.5.1 植生調査業務の実施体制

環境省(生物多様性センター)

- 植生調査業務の進行管理及び監督
- 植生図最終成果品の検査
- 植生分科会の事務局

幹事法人

- 植生図の全国レベルの精度の均一性及び水準を保つための現地調査法人間の調整
- 現地調査法人の途中成果及び進捗の確認と環境省への報告

- 植生調査業務を円滑に進めるための現地調査法人への情報提供・技術的支援
- 技術専門部会の事務局、植生分科会の会議資料の作成
- 体制

(1)業務管理者

全国の植生図の精度管理を円滑に進めるため、業務の全体を総括する業務管理者をおく。 業務管理者は、精度管理担当者が実施する植生図の精度管理を統括し、全ブロックの進捗管理を行う。

(2)精度管理担当者

ブロック間の植生図精度を調整するため、精度管理担当者をおく。精度管理担当者は、各 ブロックの植生図精度を確認し、確認結果に応じて現地調査法人への作成支援を行い、各ブ ロックの植生図作成の進捗管理を行う。

現地調査法人

- 植生図成果品の作成(現地調査の実施、調査結果とりまとめを含む)
- 整備地域内及び隣接植生図図幅間の精度調整
- 幹事法人からの指示に基づく管理資料等の修正
- ブロック調査会議の事務局
- 体制

(1) 業務管理者

複数の図幅作成者(植生図の図幅別作成者を以下「<u>作成者</u>」とする)相互の調整、図幅間の精度調整、作成者の進捗管理を行うため<u>「業務管理者」</u>をおく。業務管理者は、植生図作成業務全体を統括し、業務の進捗管理を行う。また、図幅ごとの精度管理と全図面間の調整を行い、工程ごとの精度管理結果を環境省及び幹事法人に報告する。

(2) 作成者

各図幅の植生判読を行う<u>「作成者」</u>をおく。作成者は、日本の植生に関する知見を有する者が担当する。作成者は、現地調査法人の業務計画に従い、担当する図幅の植生図を作成する。

植生図精度を均一化するために開催する会議

(1) 植生分科会

目的: 植生図精度の均一化を図るため、全国レベルで統一する必要のある事項についての検討、作成された植生図の確認。

事務局:環境省

構成員:植生、画像判読に関する技術を専門とする学識経験者及び各ブロック統括委員(表 1.5.1)

(2) 技術専門部会

目的: 植生調査を実施する上で必要となる専門的知見による技術的な検討等。

事務局:幹事法人

平成 28 年度に開催を予定している技術専門部会 凡例検討部会

目的: 植生図作成業務において現地調査法人から提案される追加凡例の可否、公開にあ

たって保護上配慮すべき凡例の表示方法等の検討。

構成員:植物社会学、植生学等に関する広範な知見を有するほか、植生図作成に関する統

一凡例等に詳しい学識経験者等の専門家。

表 1.5.1 植生分科会検討員名簿 (平成 27 年度) (敬称略)

区分	氏 名	所 属・役 職	備 考 (担当ブロック)
植生分科会検 討員	奥田 重俊(座長)	横浜国立大学名誉教授	
	原慶太郎	東京情報大学総合情報学部教授	
ブロック統括 委員	植村 滋	北海道大学北方生物圏フィールド科学センタ ー准教授	北海道ブロック
	齋藤 員郎	山形大学名誉教授	東北ブロック
	星野 義延	東京農工大学農学部准教授	関東ブロック
	増沢 武弘	静岡大学理学部特任教授	中部ブロック
	古池博	石川県地域植物研究会会長	北陸ブロック
	武田 義明	神戸大学名誉教授	近畿ブロック
	波田 善夫	岡山理科大学学長	中国・四国ブロック
	中西 弘樹	長崎大学名誉教授	九州・沖縄ブロック

(3) ブロック調査会議

目的: 植生図作成業務において、調査実施に必要な事項の検討。年2回程度の開催とするが、 開催形式、開催時期は環境省とブロック統括委員の協議により決定する。

事務局:現地調査法人

構成員:学識経験者、ブロック統括委員(座長)(表 1.5.1) +都道府県ごとに検討委員1人(北

海道は8人)

都道府県担当者:原則として未整備地域を含む都道府県ごとに1人

1.6 業務管理サイト

植生調査関係者(環境省、植生分科会検討員、技術専門部会委員、ブロック検討委員、幹事法人、現地調査法人、都道府県の担当職員)を対象とした、電子データのアップやダウンロードができるサイト。管理資料の提出や植生調査関係者間の情報共有等に利用することができる。幹事法人が運営する。

1.7 植生図の基本的仕様

1.7.1 基図

国土地理院発行の、最新の縮尺 1/2.5 万地形図または数値地図とする。

1.7.2 判読画像

植生判読は、縮尺1万分の1~3万分の1程度の最新の空中写真による立体視判読を基本とする。現地調査法人は、整備地域を撮影した空中写真及び衛星画像等の画像から、整備地域の植生判読に最適な判読画像を選定し入手する。立体視できない画像配信サービスを使用したり Google、Yahoo 等が提供する Web 画像等を参照する場合には、実施計画書に示した「判読画像の選定方針」に従い、判読の適否について十分に検討を行った上で、判読画像の使用の可否を決定する。ただし、山地の多い地域については空中写真の購入を必須とする。空中写真を購入する際は、60%のオーバーラップをもって立体視できる枚数を購入し、カラー空中写真はカラー現像とする(モノクロ焼きは不可)。

1.7.3 最小表示面積

本業務で作成される植生図は、植生の最小抽出単位概ね 1ha (1/2.5 万地形図上で 4mm× 4mm) で作成するものとし、植生図の区分線の位置精度や、不可とする事例を示した「全国レベルの精度基準 (資料 1)」に適合するものとする。

1.7.4 凡例

植生図で用いる凡例は、種組成を重視し植生区分の精度等を全国的な視点で統一した「環境 省統一凡例(以下「統一凡例」という)」を用いる。統一凡例は、植生区分一大区分(相観的 な区分) - 中区分(優占種的な区分) - 細区分(群集及び群集レベルの群落)の各段階に位 置づけられる(表 1.7.1)。

凡例名で略記する場合は、大・中・細区分の最下の区分名を用い、名称が重複する場合は凡例名の()に植生区分等を付記し凡例名だけで区別ができるようにする。

植生図には原則として、細区分(群集レベル)の凡例を用いるが、植生情報が少なく群集レベルの細分・修正が困難な場合は、中区分・大区分の凡例を用いてもよい。

統一凡例は、調査の結果判明した新凡例の追加登録等、植生情報の蓄積状況に応じて年度単位で更新する。最新の統一凡例一覧表(大・中・細区分)を資料3に示す。

凡例のうち、伐採跡地、農耕地、市街地等の凡例は「伐採跡地・土地利用等判読の手引き(資料 2)」に従って図化するものとする。

表 1.7.1 統一凡例の大・中・細区分等

区分	植生区分*1	大区分	中区分	細区分
主な基準	クラス域 自然・代償等	主として群系	群団または 優占種群落	群集または 群集レベルの群落
各段階のコード*2	IからX	大コード:01-58	中コード:00-	細コード:00-
凡例コード(略記)*2	IからX	大コード+中コー	-ド+細コード (例 26000	0、220500、220501)

*1. 植生区分は I から X までの 10 区分で全凡例に付加されている。※1/5 万植生図に準拠

I 高山帯自然植生域

VI ヤブツバキクラス域自然植生

Ⅱ コケモモートウヒクラス域自然植生

VII ヤブツバキクラス域代償植生

Ⅲ コケモモートウヒクラス域代償植生

WⅢ 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

IV ブナクラス域自然植生

IX 植林地、耕作地植生

V ブナクラス域代償植生

X その他

*2. 大・中・細の各段階は 2 桁のコードと大区分名・中区分名・細区分名で示される。凡例はコードを結合した 6 桁の凡例コードと大・中・細の最下位の区分名を示した凡例名で略記される。群落を区別するために群落の後の()に植生区分を示す場合がある。(表 1.7.2)。

表 1.7.2 凡例コードと凡例名 ____

植生区分	大コード	大区分		中区分	細コード	神区分		凡例コード	凡例名	区分レベル
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	01	オクチョウジザタラ ーコナラ群集	•	220501	オクチョウジザクラ ーコナラ群集	細
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落 -	_00		•	220500	コナラ群落 (V)	中
V	26	伐採跡地群落	- 00		00		•	260000	伐採跡地群落(V)	大

1.7.5 隣接植生図との調整

整備地域が過年度整備済み植生図と隣接する場合、表 1.7.2 に示しためやすに従って図化するものとする。

本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、該当ブロックと調整を図りながら図化を進めることになるため、幹事法人が情報提供等の支援を行う。

表 1.7.2 整備地域間の植生図不整合の内容と対応策

項目	内容	対応策			
経年変化	松枯れ、伐採、土地改変(道路)等	そのまま不整合とする			
図化精度	竹林など(1ha 前後の小パッチ)	くくりの細かさは基本的に 1/5 万植生図を 下回らないようにする			
	くくり全体の精粗の傾向	地域ごとの図化精度のモデルが必要			
	中区分一細区分	そのまま不整合とする			
凡例の考え方	クラス域	めやすとなる広域のクラス域区分図を整理 し、参考とする			
	移行帯(日本海-太平洋、クラス域、常緑-落葉)	ブロック調査会議等の協議により対応策を 検討する。			

1.7.6 GIS データの仕様

植生図の GIS データ及び出力図(紙地図、画像ファイル)の仕様は「植生図 GIS データ製品 仕様書」に、作成方法については「植生図 GIS データ作成ガイドライン」による。

1.8 植生図の図化指針

植生図化とは、<u>植生に関する基礎的な知見を持つ作業者が、現地調査結果を反映させながら画像判読を行い、植生と立地環境の関係を明らかにして、植生の配分を地形図上に図化していく作業</u>である。本業務では、植生学の基礎的な知見と現地調査結果に基づき、以下に示す指針に準じて図化を進めるものとする。図化精度は、植生図の区分線の位置精度や、不可とする事例を示した「全国レベルの精度基準(資料1)」に適合するものを基準とする。

- 1 植生の水平的、垂直的な分布パターンを正しく認識して図化を行う。
- 2 地形の構成や微地形の配列に基づく植生配分を正しく図化する。
- 3 自然植生と代償植生の区別を正しく行う。
- 4 特殊な立地における植生や希少な群落を漏れなく図化する。

1.	調了	査の概要	. 1
	1.1	目的	. 1
	1.2	経緯	. 1
	1.3	本要領の位置づけ	. 1
	1.4	調査対象地域	.2
	1.5	実施体制	.3
	1.6	業務管理サイト	.6
	1.7	植生図の基本的仕様	. 7
	1.	7.1 基図	. 7
	1.	7.2 判読画像	. 7
	1.	7.3 最小表示面積	. 7
		7.4 凡例	
	1.	7.5 隣接植生図との調整	.8
		7.6 GIS データの仕様	
		** * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	_

2. 植生図の作成方法

2.1 植生図の作成工程

植生調査業務の1ヵ年度整備における標準的な植生図の作成工程を表2.1.1に、作成フローを図2.1.1に示した。なお、2ヵ年度での整備が予定されているブロックについてもこれに準ずるが、詳細は別途協議の上検討する。

現地調査法人は、作成フロー及び表 2.1.2 に示した工程スケジュールに従って業務を実施する。オルソ画像、衛星画像等のデジタル画像をディスプレイ上に表示し、判読しながら GIS 入力する場合は、「植生判読」と「植生図 GIS データの作成」工程を並行して進めることとなり表 2.1.1の (2) に示した工程となるが、本要領では (1) の工程に沿って植生図作成方法を示す。

現地調査法人は、植生図の図化精度確保及び作業進捗状況の確認のために必要な資料(以下「管理資料」という。)を工程ごとに作成し、幹事法人及び環境省に提出する。幹事法人の確認及び環境省の承認が得られない場合には、その時点までの業務として業務を中断し、変更契約または契約を解除することがある。

表 2.1.1 植生図の作成工程

	(1)植生原図作成後に GIS 入	(2)植生判読しながら GIS 入
	力する場合	力する手法
1	計画・準備	計画・準備
2	植生判読及び現地調査	植生判読 <u>・GIS 入力</u> 及び現地調査
3	第1回ブロック調査会議	第1回ブロック調査会議
4	凡例検討部会	凡例検討部会
5	植生図 GIS データの作成	_
6	第2回ブロック調査会議	第2回ブロック調査会議
7	植生分科会	植生分科会
8	成果品の作成	成果品の作成
9	納品	納品

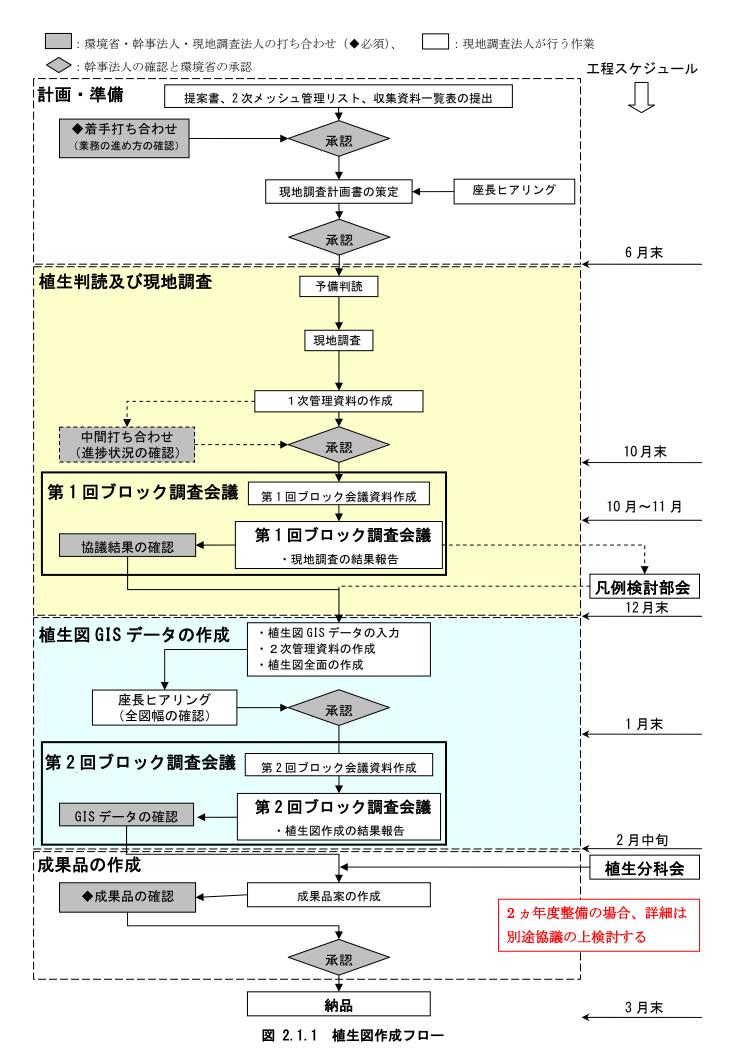


表 2.1.2 植生図工程スケジュールのめやす

項目					H25	5年					H26年		備考
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	佣石
0	打ち合わせ・協議		● 着手時			○ 進捗状況 確認	● 第1回ブ ロック調 査会議後			○ 進捗状況 確認	● 第2回ブ ロック調 査会議後	● 納品前	○:必要 に応じて 実施
1	計画・準備		○ ヒアリンク										
2	植生判読及び現 地調査	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·											
3	第1回ブロック調 査会議						•						
4	凡例検討部会								•				
5	植生図GISデータ の作成												
6	第2回ブロック調 査会議										•		
7	植生分科会											•	
8	成果品の作成												
9	納品											•	納期:3月 31日

※判読しながら GIS 入力を行う場合は、工程 2 と工程 5 が連続する。

2 ヵ年度整備の場合、詳細は 別途協議の上検討する

2.2 工程管理

2.2.1 管理資料の確認・承認手順

現地調査法人が作成・提出する管理資料を表 2.2.1 に示した。現地調査法人は、管理資料 (案)を作成し、環境省及び幹事法人に同時に提出する。管理資料の提出に際しては、本業 務用に運営されている「業務管理サイト」(1.6 参照)にアップロードし、アップロードしたことを環境省及び幹事法人に電話またはメールで連絡する。

幹事法人は、現地調査法人から提出された管理資料(案)について、全国レベルの精度基準等に照らして内容を確認し、環境省と調整の上、必要に応じて現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は管理資料(案)の修正を行い、管理資料の提出と同様の手順で、修正後の管理資料を環境省及び幹事法人に再提出する。修正が不要となった段階で、環境省が承認する。

それぞれの管理資料の確認・承認を受ける期日等の日程に関しては、原則として各打ち合わせ時に協議して定める。日程の変更が必要な場合には、環境省、幹事法人及び現地調査法人が協議し、日程を定める。

現地調査法人は、環境省の承認を受けた後に管理資料の内容を変更しようとする場合には、 環境省及び幹事法人に変更案を提出し、当初の管理資料の確認・承認と同様の手順により変 更案を確定させる。

表 2.2.1 工程ごとに作成・提示が必要となる資料

		管理資料	資料の提	出・承認	承認後に着手でき			
工程	資料名	資料の内容	提出のみ 確認・承認	備考	る工程			
計画・準備	2次メッシュ管理リスト	2次メッシュ別の管理者、作成者、判読画像等の情報をまとめたリスト	•					
	2次メッシュ工程表	2次メッシュ別の植生図作成工程をまとめた工程表	•	着手打ち合わせ				
	収集資料一覧表	整備地域の植生に関して収集した文献資料の一覧表	•	時に協議する				
	提案書(実施計画書)	業務の実施方針、実施体制、工程計画等をまとめた計画書	•		植生判読			
	着手打ち合わせ記録簿	環境省、現地調査法人および幹事法人による着手打 ち合わせの記録簿	•					
	ヒアリング調査票	ブロック統括委員、ブロック検討委員および学識経 験者等のヒアリング記録をまとめた調査票	•	ヒアリング対象 者に確認をいた				
	現地調査計画書	現地調査の重点地域、使用凡例案、調査スケジュール、調査の実施体制等をまとめた計画書	•	だく	現地調査			
植生判読および現地調	1次管理資料:使用凡例案	, ,,,=	•					
查	1次管理資料:図化基準案	 投資料:使用凡例案 整備地域の凡例(案)の一覧表 空中写真での特徴(判読キー)、凡例の決定方法、類似する群落との区別点、分布・立地などを凡例ご 						
	1次管理資料:1次確認用植 生図	とにまとめた一覧表 重点地域から選定した植生図の一部(植生図成果の 最終的な凡例適用を想定したもの)	•	第1回ブロック調 査会議の1ヶ月前 までに提出	第1回ブロック調 査会議の開催**			
	1次管理資料:1次確認用植 生図一覧表・一覧図	1次確認用権と認定してもの) 1次確認用権と国の各図面の管理者、作成者、判読 写真、判読上の問題点等の一覧表と1次確認用植生 図の一覧図	•					
第1回ブロック調査会議	第1回ブロック調査会議資料	第1回プロック調査会議の配付資料	•	会議の7目前まで に提出	第1回ブロック調 査会議の開催			
	作成中の植生図全図	作成途中の植生図全図	•	第1回ブロック調 査会議で提示す	_			
	中間打ち合わせ記録簿	第1回ブロック調査会議後に行う環境省、現地調査 法人および幹事法人による打ち合わせの記録簿	•	3 .				
	第1回ブロック調査会議議事 録および議事概要	第1回ブロック調査会議の議事録および議事概要	•		植生図の作成			
凡例検討部会	仮凡例検討資料 (仮凡例が あるブロックのみ)	仮凡例の内容、既存凡例との違い、組成調査票、調査地点位置図、既存資料等、仮凡例検討に必要な資料	•		-			
植生図の作成	2次管理資料:使用凡例案	第1回ブロック調査会議以降の検討結果を反映した 凡例(案)の一覧表	•					
	2次管理資料:図化基準案	第1回ブロック調査会議以降の検討結果を反映した 図化基準(案)	•					
	2次管理資料:2次確認用植 生図	1次確認用植生図の範囲を含む図面一面(整備地域 5 面あたり1面の頻度で作成)	•	第2回ブロック調査会議の1ヶ月前	第2回ブロック調 査会議の開催			
	2次管理資料:2次確認用植 生図一覧表・一覧図	2次確認用植生図の各図面の管理者、作成者、判読 写真、判読上の問題点等の一覧表と2次確認用植生 図の一覧図	•	までに提出				
	2次管理資料:1次確認用植 生図の反映結果図	幹事法人の1次確認用植生図確認結果に、指摘事項 の反映結果を記入した図	•					
第2回ブロック調査会議	第2回ブロック調査会議資料	第2回プロック調査会議の配付資料	•	会議の7日前まで に提出	第2回ブロック調 査会議の開催**			
	植生図全図	植生図案(GISデータ出力図)全図	•	第2回ブロック調 査会議で提示す る。				
	中間打ち合わせ記録簿	第2回プロック調査会議後に行う環境省、現地調査 法人および幹事法人による打ち合わせの記録簿	•		成果品の作成			
	第2回ブロック調査会議議事 録および議事概要	第2回プロック調査会議の議事録および議事概要	•					
植生分科会	植生分科会資料	植生図案から得られた知見等をまとめた資料および 植生図全図	•		_			
成果品の作成	成果品案:GISデータ出力図 及び接合部修正案	植生図GISデータ出力図全図、過年度植生図との接合部で修正が生じた場合の修正案	•					
	成果品案:電子ファイル	植生図GISデータ、報告書案ファイル、現地調査 データ	•					
	成果品案:報告書案	植生調査実施要領に準じてまとめた報告書案	•					
	2次確認用植生図の反映結果 図	幹事法人の2次確認用植生図確認結果に、指摘事項 の反映結果を記入した図	•	最終確認までに 提出	納品			
	最終打ち合わせ記録簿	環境省、現地調査法人および幹事法人による最終打 ち合わせの記録録	•					

[※]ブロック調査会議日程の調整は、管理資料の承認前に行ってよい。

2.2.2 打ち合わせ

着手、中間、最終の時点で現地調査法人、環境省及び幹事法人との3者等での打ち合わせ を持つ。必要に応じ、これ以外の時点にも3者での打ち合わせを行う。現地調査法人は、打 ち合わせにおいて協議した事項を「打ち合わせ記録簿」(表 2.2.2) にとりまとめ、打ち合わ せ後7日以内に環境省及び幹事法人に提出し、承認を得る。

表 2.2.2 打ち合わせ記録簿フォーム

打ち合わせ協議簿

No.	. 1	調査年	度	2013	ブ゜ロック								1/2頁
件	名	平成	25 年	度自然		全基礎調査権	直生調	査	記入	者名	Ē	斤属	記入日
	I				$\triangle\triangle\triangle$	Δ							
		日時			場	所	打	ち合	わせ方	法		留意事	項
	年時	月 日 ~ 時	()			面談	· 電	話・メ	ール			
	現地	也調査		所	属	代表者	f氏名 △/△		ą.	参加者氏名			
	沒	长人						Ð	村				
4.	環境往	倍化		所	属	代表者	氏名	Δ,	/Δ		- 7	参加者氏名	
参加	5R-	採売日						芽	認				
加者	松耳	幹事法人		所 属 代		代表者	表者氏名		_ [- 4	参加者氏名	
	41.4	TAK											
	2	の他		所	属	代表者	氏名		_		3	参加者氏名	
Ш							to mids . I	<u></u>					
						18	協議内	谷					

着手打ち合わせ事項

- 1. 作業方針
- ①植生情報の収集方針
- ②既存資料の活用方針
- ③主判読画像の選定方針
- ④図化手法及び GIS データ作成手法
- ⑤図幅ごとの精度管理手法 ⑥プロック統括委員等のヒアリング予定
- ⑦現地調査の進め方及びスケジュール
- 2. 実施体制
- 3. 工程計画

(1) 着手打ち合わせ

提供する。

判読画像、既存資料等を収集・整理し、業務全体の工程計画が策定された段階で実施する。 着手打ち合わせでは、提案書、2次メッシュ管理リスト(案)、2次メッシュ別工程表(案) 収集資料一覧表の内容について確認するとともに業務の進め方について協議し合意を図る。 現地調査法人は、提案書2次メッシュ管理リスト(案)、2次メッシュ別工程表(案)収 集資料一覧表を協議資料とする。幹事法人は、1/5 万植生図凡例一覧等協議に必要な資料を

協議の結果、協議資料の内容で合意された場合は、出席者の確認を得た打ち合わせ記録簿 の提出をもって、幹事法人の確認、環境省の承認とする。

打ち合わせ協議の結果、協議資料の修正が必要となった場合には、現地調査法人は、提案 書を修正し、環境省及び幹事法人に提出する。その後の確認・承認の手順は2.2.1 管理資 料の確認・承認手順に示すところによる。

(2) 中間打ち合わせ

原則として第1回ブロック調査会議及び第2回ブロック調査会議終了後(当日)に、ブロック統括委員等にも出席いただき実施する。打ち合わせの内容は、本章の2.5.4、2.8.4による。そのほか、必要に応じて、環境省、現地調査法人、幹事法人、ブロック統括委員等の委員と中間打ち合わせを行う。会議当日に打ち合わせを実施できない場合は、現地調査法人は、電話、メール等で環境省及び幹事法人、ブロック統括委員等と調整を行う。

現地調査法人は、中間打ち合わせ終了後に打ち合わせ記録簿を作成し、環境省及び幹事法人に提出する。

2.3 計画 • 準備

2.3.1 判読画像の入手及び確認

1.7.2 に示した判読画像の仕様に従い、判読画像を入手する。整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4も参照する。撮影年月日、画像の解像度、雲影・山影の状況等を精査し、図幅ごとに主判読画像および判読参照画像を選定し、図幅ごとの判読画像を2次メッシュ管理リストにとりまとめる。図幅ごとに使用した画像の履歴を記録できるよう作業体制を整える。同一図幅でも場所ごとに主判読画像が異なる場合は、複数の主判読画像について「左半分は○○、右半分は△△」等の説明を2次メッシュ管理リストの備考欄に記載する。作成工程の途中段階で主判読画像を変更する場合、判読参照画像を追加・不使用とした場合は、2次メッシュ管理リストを更新し、幹事法人に更新した2次メッシュ管理リストを提出する。

なお、空中写真を購入する際には、植生判読に適した焼付となるよう、購入元と交渉を図るとよい。

主判読画像

植生判読において、ポリゴンの区分線を入れる根拠とした判読画像を主判読画像とする。できるだけ撮影年月日が最新のものが望ましい。判読画像の解像度、撮影時期によって、図幅ごと、あるいは場所ごとに主判読画像が異なる場合もあるため、作成者は使用履歴を記録しておく。

判読参照画像

主判読画像以外に使用した判読画像を判読参照画像とする。各ポリゴンの凡例決定の際、 撮影時期の異なる複数の判読画像を比較すると、凡例決定が効率的となる。

2.3.2 既存資料の収集および活用方法の検討

(1) 既存資料の収集・整理

現地調査法人は、地域の植生に詳しい学識経験者や専門家等の協力を得ながら、地域の植生に関する情報や、地方自治体で作成した報告書や植生図などを収集し、次のような植生情報を整理する。情報収集は整備地域を中心とするが、該当する調査ブロック全体を対象とする。

収集した植生情報の位置情報等を整理することにより、植生分布の特徴について把握する。

植生分布に関する情報

- ▶ 特殊立地、自然植生に関する情報
- ▶ 島嶼部や高山地域のように現地調査実施が困難な地域の植生情報
- ▶ 分布が極めて限定される植生に関する情報
- ▶ 標高、地形・地質、気象・気候等の立地環境条件に関する情報

統一凡例の検討に関する情報

▶ 統一凡例の細分・修正等の検討の必要性が高い植生に関する植生情報

収集した資料は、位置情報をもとに整理し「収集資料一覧表(表 2.3.1 収集資料一覧 (例)」としてとりまとめる。幹事法人は現地調査法人から得た情報を「既存資料データベース」に追加・整理する。

表 2.3.1 収集資料一覧(例)

1) 既存文献情報は既存資料データベースの既存文献情報テーブルに、位置情報は位置情報テーブルへ組みこむ。 2) A学会誌、紀要等、B報告書等、C:環境影響評価書、D:その他

	既存	文献情	報1)											
文献ID	ブロッ ク文献 No	収集年度	文献区分	タイトル	著者	発行年	出典。名称	出典_巻_号数	出典_pp	出典.発行者	公開の可否	問合せ先	資料の有無	資料保管法人
	8	2010	В	遠音別岳原生自然環境保全地域の植生 系調査の概要と気象環境特性	甲山隆司·工藤岳·西村 貴司		遠音別岳原生自然環境保全地域調査 報告書		13-27	環境庁自然保護局	可		有	〇〇株式会社
	9	2010	D	北海道高山植生誌	佐藤謙	2007			210-225	北海道大学出版会	可		有	〇〇株式会社
	22	2010	Α	野付崎放牧草地の植生	西村格·安達篤	1975		第21巻 第3号 別刷		日本草地学会誌	可		有	〇〇株式会社

(2) 既存資料の活用方法

現地調査法人は、過年度までに作成された「既存資料データベース」と当該年度に新たに 収集した既存資料より、調査年度や植生の変化状況などを考慮し、活用方法を検討する。 以下に、既存資料の活用方法の留意点を示す。なお、既存資料活用の検討結果については、 後述するヒアリング調査結果も含め、図化の参考とするとともに報告書に記載する。

1) 整備地域に分布する群落・群集に関する資料

ブロック別凡例案の検討資料として活用する。

2) 位置情報の明らかな既存の植生調査資料

以下のような地域については、植生状況が既存資料の調査当時と変化していないことを 判読画像等によって確認した上で、現地調査を補完する植生調査資料として活用する。

- ▶ 離島島嶼部や高山地域のように現地調査を実施しにくい地域
- ▶ 分布がきわめて限定されている群落の分布する箇所

3) 1/5 万植生図等の既存の植生図

整備地域及びその周辺の自然植生、二次林、植林の分布状況を主体として、1/5 万植生 図等既存図面の引用方法・参照方法を決定する。自然植生、二次林、植林で大きな変化の ない箇所は、必要に応じて現地確認を行い、既存資料の凡例から統一凡例へのよみかえを 決定する。

4) 地形図情報、森林施業図等の地理情報

地形図に示された水田、農耕地、水域等の土地利用情報や、国有林・県有林・民有林の 施業履歴を植生図化に利用する場合、土地利用の現状や施業履歴データの内容を確認した 上で、それらの地理情報の活かし方を打ち合わせ又はブロック調査会議等で協議する。

2.3.3 2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ別工程表の作成

適切な工程管理を行うため、現地調査法人は、2次メッシュ別の管理者、作成者、現地調査者、判読画像等の情報をまとめた「2次メッシュ管理リスト (表 2.3.2)」および「2次メッシュ別工程表 (表 2.3.3)」を作成し、幹事法人及び環境省に提出する。なお、「2次メッシュ管理リスト (案)」は着手打ち合わせ時の資料とする。

2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ工程表は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である(確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照)。

同一図幅を複数の作成者で判読する場合は、主たる作成者を作成者欄に記載する。 2 次メッシュ別の工程表には、判読工程、現地調査工程、GIS 入力工程の予定を記入する。また、1 次確認用植生図の対象図幅を示す。

業務の途中で使用する判読画像、作成者等を変更する場合は、事前に環境省及び幹事法人 と協議する。また、判読作業の精度確保のため作成者が優占種調査等の現地調査者を兼ねる ことを基本とする。現地調査者は原則として2名以上を配置する。

業務管理者は、作業の進捗とともに2次メッシュ工程表に作業実績を記入して進捗管理を 行い、中間打ち合わせ時または必要に応じて環境省及び幹事法人に提出して進捗状況の報告 を行う。

		地形図情報							植生	主図作成	情報					空中3	真諸元												空中写真備考	
ブロックコート	フ ['] ロック 整理 番号	2次メッシュ コード	整備力法	図幅名 (1/2.5万地形図)	注1 1)	注2 1)	1/5万 地形図	都道府県	ブロック	植生図作成年度	作業単 位コー ド2)	植生図作成機関	植生図管理者	植生図作成者		撮影 主体 3)		白黒・ カラー4)	整理番号	他整理番号	撮影地区	写真縮尺	他縮尺	撮影年月	他季马	真 デジ 数 オル	ル その他補助的 いた空中写真 (植生図作成	に用 化の ・資料 有無	コース、写真	
1	1	654571	GIS	遠音別岳(2)	2		八木浜	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子	Г	3	環境省	3	PTH-42号		知床半島	20,000	Г	2004.11	П	5 使用	使用(環境省5 分の1植生図)	0000 1	1	2004.11
1	2	654570	GIS	遠音別岳	1	Г	八木浜	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子		3	環境省	3	PTH-42号		知床半島	20,000		2004.11	П	6 使用	使用(環境省5 分の1植生図)	0000 1		2004.11
1	3	654560	GIS	根室峯浜			八木浜	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子		2		1	04-24		第3知床・羅日	16,000		2004.7		23 未使	伊用(環境省5 分の1植生図)	0000 1	C12(16-21) C13(16-21) C14(17-21) C15(16-21)	2004.7.23
1	4	654550	GIS	薫別			薫別	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子		2		1	04-24		第3知床・羅臼	16,000		2004.7 2004.9		12 未使	使用(環境省5 分の1極生図)	0000 1	C16(17-20) C17A(4-7) C18A(4-7)	2004.7.23 2004.9.16
1	5	654541	GIS	伊茶仁②	2		薫別	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子		2		1	04-24		第3知床・羅臼	16,000		2004.7 2004.9		1 未使	使用(環境省5 分の1極生図)	0000 1	G22A(7)	2004.7.3 2004.7.23 2004.9.16
1	6	654540	GIS	伊茶仁①	1		薫別	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子		2		1	04-24		第3知床・羅臼	16,000		2004.7 2004.9		20 未使	使用(環境省5 分の1植生図)	0000 1	C19A(4-7) C20A(4-8) C21(16-21) C22A(1-6)	2004.7.3 2004.7.23 2004.9.16
1	7	654532	GIS	野付崎①	2		野付崎	北海道	北海道	2010	10	00(株)	植生太郎	植生花子		1			HO-2005- 5X		根室	30,000		2005.10		2 未使	使用(環境省5 分の1植生図)	0000 1	G2(21-22)	2005.10.7- 2005.10.27
						Γ																								

表 2.3.2 2次メッシュ管理リスト(例)

表 2.3.3 2次メッシュ別工程表フォーム

						予備	判読	*	現地調査		植生	判読	(植生	図案(の作り	或)·	◆管	理資	料の打	是出		GIS	デー	<u>タの</u>	作尽	戈・修	正	Щ	
NO	作成者	1次確 認用植	図幅管理 番号	図幅名	2次メッシュ番							H25												Н	126				備考
140		生図	番号	ET-W-FT	号	5月		6月	7月		8月		9月		10 F	1	11	月	1	2月		1月		2	2月		3月	ı	DH1.43
	(例)														П				П				П		Т		Т	П	
1	0000		01	$\Delta\Delta$	101010				*						*														
			05			\perp			*		\perp				*		_		Ш					4	4	4	丰	Ш	
		•	06	××		\dashv	_	\vdash	*		1	k	•		*					_ '	<u> </u>			4	4	4	+	Ш	
			08	00	•••	\dashv	-	₩	*		+	_	\vdash		*	H	_	_	Н		_	-		╬	4	_	+	\vdash	
2	ΔΔΔΔ		02			+	-		7	_	+	+		-	*	Н			Н	-	+			╢	+	+	+	\vdash	
		•	03			\dashv	+	\vdash		<u> </u>	 	k	•	+	╀	*			Н		•	\vdash		╢	+	+	+	\vdash	
			07			\dashv		\vdash	_	k	++		Ť		Н	}			П					┪	7	+	+	Н	
			10			\Box			_	k	\top		П		П	*			П					1			T	П	
3			11						*						*	П											I		
		•	12			$\perp \!\!\! \perp$			*		,	k	•		Щ	*				•)			_	Ц				
			13	•••		\dashv			*	_	$\perp \perp$		\perp		*	Ш								4	4	_	4	Ш	
			14	•••	•••	\dashv	_	-	*	-	+		\vdash	_	Н	*		+	+					4	4	4	+	₩	
			15			+	-		*	+	++	+		+	Н	*		+	Н					╬	4	4	┿	₩	
_															H		•	第1[回ブロ会議	ック				- ,	•	第2調子	回ブロ	 ロック 銭	

2.3.4 着手打ち合わせ

2.3.1~2.3.3 の工程で検討した結果を踏まえ、環境省、現地調査法人および幹事法人にて着手打ち合わせを行う。着手打ち合わせの詳細は、2.2.2 を参照する。

2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング

現地調査法人は、判読画像の整理、地域植生情報の収集、既存資料の活用方法を検討した後、仕様書に定めるブロック統括委員と整備地域に係わる都道府県のブロック検討委員等にヒアリングを行う。複数委員による合同ヒアリング(ワーキング形式)で実施してもよい。ヒアリング(ワーキング)の実施方法、時期については、環境省、幹事法人、ブロック統括委員等と調整を図る。

ヒアリングでは、提案書、現地調査計画書、既存資料等の資料を示して業務の進め方について説明を行い、以下の事項等について助言を得る。現地調査法人は、ヒアリング後1週間以内に協議結果を「ヒアリング調査票」にとりまとめ、環境省及び幹事法人の他、ヒアリング参加者に提出する。

(1) 重点地域の選定

自然植生等の重要な植生、植生判読の難しい地域、植生の分布境界が不明瞭な地域等、植生図化の精度管理、現地調査を重点的に行う地域(重点地域)を協議の上、選定する。なお、重点地域は、現地調査法人が、第1回ブロック調査会議前に提出する「1次確認用植生図」の対象範囲に対応させる。

(2) 現地調査の留意点

現地調査すべき群落とその調査方法等について教示いただく。必要に応じて、現地調査に 入る前に現地調査計画書をブロック統括委員に提出する。

(3) 隣接植生との接合

統一凡例に置換した 1/5 万植生図全体図、整備地域の隣接地域で過年度に作成された 1/2.5 万植生図を含めた全体図を作成し、クラス域の境界、隣接植生との不整合等、植生図を作成する上で予測される課題を協議する。

(4) 専門家等の紹介

ブロック統括委員およびブロック検討委員が整備地域の情勢や植生に詳しい専門家等を ご存じの場合は、紹介していただき、必要に応じてヒアリング等を行う。

(5) 既存資料(地域植生情報)

2.3.2 にて収集した資料等を提示し、既存調査結果を利用できる地域等の確認を行う。 また、提示した資料の他に整備地域に関わる植生情報について、未公表の植生情報を中心 に紹介していただく。

2.3.6 現地調査計画書の作成

現地調査法人は、表 2.3.4 に示した項目・内容を含む現地調査計画書(案)を作成し、幹事 法人及び環境省に提出する。

現地調査計画書は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である(確認及び 承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照)。

現地調査計画書(案)の作成にあたっては、ブロック統括委員等のヒアリング結果等を踏まえて現地調査を重点的に行う地域、凡例検討に多数の調査地点数を必要とする凡例、調査結果を引用できる既存資料等の確認を行う。整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4も参照する。また、現地調査計画書(案)の作成に際して、必要に応じて現地視察を行うこと。

組成調査の調査時期・地点等については、ブロック統括委員等と協議を行った上で現地調査計画書に反映させる。調査時期については、北海道ブロック・東北ブロック等の山岳地域については9月末までに、その他の地域については10月末までに終了することが望ましい。

表 2.3.4 現地調査計画書の項目

1. 現地調査のポイント:重点的に調査すべき地域や凡例等

2. 隣接植生図との調整:隣接部の重点調査地域、特に注意すべき植生・構成種等

3. 現地調査計画図 : 現地調査計画、主要な植生の位置等をまとめた全体図

4. 現地調査地点配分表:図幅別、凡例別に調査地点数の配分をまとめた一覧表

5. 使用凡例案:植生図での使用凡例の一覧表

6. 現地調査に係わる許認可事項:立ち入り許可、届出の必要な地域

7. 現地調査の実施体制:現地調査者一覧表、安全管理対策等

(1) 現地調査のポイント

下記等の特に重点的に調査すべき地域・凡例や、現地調査に関わる留意事項等、整備地域における現地調査の要点について記述する。

- ▶ 一次確認用植生図の対象図幅
- 特殊立地の植生
- ▶ 二次林等、群落境界が不明瞭と考えられる凡例
- ▶ 自然性の高い植生
- ▶ 特定植物群落
- ▶ 季節的に早く落葉・枯死してしまう植生(早く調査を実施すべき植生)
- ▶ ヒアリングで指摘された地域・凡例
- ▶ 新規凡例となる可能性がある凡例
- ▶ 隣接植生図と整合性を図る凡例 など

(2) 隣接植生図との調整

整備地域が、過年度整備済み植生図または本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、接合部調整に必要な現地調査の重点箇所、注意すべき凡例、調査時期等についてまとめる。 特に本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、環境省及び幹事法人と調整の上、必要に応じて隣接ブロックの担当現地調査法人と協議して効率的な現地調査計画を作成する。

(3) 現地調査計画図

1/2.5 万地形図、第 2 回~第 7 回植生図 GIS データ等を用いて、現地調査の重点地域、1 次確認用植生図の対象図幅、既存資料の活用地域または箇所(特定植物群落、自然公園地 域等)を記載した現地調査計画図を作成する。以下に、留意事項を示す。

- 図面類の体裁は、地形図等に手書き記入する程度でもよい。
- 調査対象地域全体の現地調査計画が確認できるよう、縮尺 1/20 万程度の地形図に書き込むとわかりやすい。対象地域が広い場合は、作業しやすい図郭に区切って作成してもよい。
- 特に重点的な現地調査を行うべき地域等は、必要に応じて、1/2.5 万~1/5 万程度の 地形図や 1/5 万植生図を基図とした現地調査計画図を作成してもよい。

(4) 調査地点配分表

既存資料の活用方針(既存資料による現地調査の補完等)を考慮して、「2.4.2 現地調査」に示す調査手法による組成調査及び優占種調査を行う地点配置(ばらつき)を検討する。

調査地域全体における植生分布の偏りの概要を把握するため、1/5 万植生図 GIS データ (凡例を統一凡例で置換したもの) を用いた2次メッシュ別の凡例面積集計表を作成した上で、組成調査及び優占種調査の地点配分表を作成する(表 2.3.5)。

図 幅 凡 例 自然林 ヤマボウシーブナ群集 判読対 $1\sim 2$ 象 I シキミーモミ群集 $1\sim2$ イロハモミジーケヤキ群 二次林 クリーミズナラ群集 $2\sim5$ クリーコナラ群集 $2 \sim 5$ スギ・ヒノキ・サワラ植 判読対 植林地 象Ⅱ カラマツ植林

表 2.3.5 調査地点配分表の例

(5) 使用凡例案

1/5 万植生図の凡例、既存資料及びブロック統括委員等のヒアリング結果より、植生図の使用凡例案(表 2.3.6 表 2.3.6)を作成する。凡例名、凡例コード等は巻末資料3に従う。過年度整備済み植生図または本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、隣接図幅の凡例も入れて凡例案を作成する。現地調査では、使用凡例案の各凡例について植生情報を収集する。

表 2.3.6 使用凡例案 (例)

クラス域重接:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモートウヒクラス域を含むF)ブナクラス域を含む C) ヤブツバキクラス域を含む

								364 1 20	十八八十尺丈制 いん・制/八円として豆体・	1047.54	D481C4	000	「更新状况 : 横)平原	久12年	こと受検討とし	、採留 饭	平成13年	度以降の	灰八例				
凡例番号		凡例名	植生区分	大コド	大区分	۴	中区分	۴		100	クス域重複	更新伏況	副 注記 凡 例	組調地(特)	現地調査	第5回 凡例 (津幡)	接合部 凡例 (石動)	接合部凡例(栗崎)	組成調査地点(青木)	現地調査番号	第5回 凡例 (青木)	接合部	接合部 凡例 (三日 市)
1	İ	ユキグニミツバツツジーコナラ群集	L	L	落葉広葉樹二次林		コナラ群落	L		細	С		辻の定義によ る	•	34,36		•						
3		ヤブコウジースダジイ群集			常緑広葉樹林		スダジイ群落	01	ヤブコウジースダジイ群集	細				•	25								
4		スギ群落			暖温帯針葉樹林		スギ群落	00		中	C								•	2			
5	320100	ヤナギ高木群落(VI)	VI	32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	00		中	ГΤ				T	Τ'''	T	Ι	•	4			
9	450100	ススキ群団(WII)	VI	45	二次草原	01	ススキ群団	00		中	П				T	Г	T	•	•	3,9	•		\Box
18	460000	伐採跡地群落(WI)	VII	46	伐採跡地群落	00		00		大	П			•	22	•	Т	Г					
8	490000	砂丘植生	VII	49	砂丘植生	00		00		X	\Box			•	14,17,19	T	1	T	•	6.7.8.8-2	•		
39	470400	ヨシクラス	VII	47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	00		中	П				T	•	Π	•	•	5,13			
40	470600	ヒルムシロクラス	VII	47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロクラス	00		中	ПΤ			•	28	•	Π	T					
12	540100	スギ・ヒノキ・サワラ植林	IX	54	植林地	01	スギ・ヒノキ・サワラ植林	00		中				•	31	•	•				•		
13	540300	クロマツ植林	IX	54	植林地	03	クロマツ植林	00		中	П					•	Π	•	•	11	•		
51	540902	ニセアカシア群落	IX	54	植林地	09	外国産樹種植林	02	ニセアカシア群落	細	ГΤ			•	20	Γ'''	T	•		T T			
52	541200	その他植林(落葉広葉樹)	IX	54	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	00		中	1	3		•	18	Γ	T	1					
16	550000	竹林	IX	55	竹林	00		00		大	П			•	29		•						
h	560100	ゴルフ場・芝地	IX	56	牧草地・ゴルフ場・芝地	01	ゴルフ場・芝地	00		中	П		判読区分h		T	•	•	•		1			
f	570100	路傍·空地雜草群落	IX	57	耕作地	01	路傍·空地雜草群落	00		中	П		判読区分f		1		1	i –			•		•
•	570101	放棄畑雑草群落	IX	57	耕作地	01	路傍·空地雑草群落	01	放棄畑雑草群落	細	1	坎	判読区分c				1						
е	570200				耕作地		果樹園	00		中			判読区分e			•							
а		烟雜草群落			耕作地		畑雑草群落	00		中	Li		判読区分a							I	•		
Ь		水田雑草群落			耕作地		水田雑草群落	00		中	Ш		判読区分b	L.		•	•	•			•	•	•
d		放棄水田雑草群落			耕作地		放棄水田雑草群落	00		中			判読区分d			<u> </u>		ļ		ļ		•	
k	580100				市街地等		市街地	00		中	-		判読区分k			•	•	•		ļ			•
<u> </u>		緑の多い住宅地			市街地等		市街地		緑の多い住宅地	細	\vdash		判読区分i	<u> </u>		•	ļ	•		ļ	•	•	•
L		工場地帯			市街地等		工場地帯	00		中	Щ.		判読区分L		ļ	ļ	ļ	ļ		ļ	•	•	
m	580400				市街地等		造成地	00		中	\sqcup		判読区分m	ļ				ļ		ļ		•	lacksquare
w		開放水域			市街地等		開放水域	00		中	Н		判読区分w	١	-	•	-	•	L	-	•		
r	580700	自然裸地	X	58	市街地等	07	自然裸地	00		仲	1 1		判読区分r	1		•	1	•			•		1 1

(6) 現地調査に係わる許認可事項

現地調査に際しては、表 2.3.7 に示す法令等を遵守し、必要な申請の有無について記載する。標本の採取等については、原則として申請が不要になるよう写真で種を判別する等、調査方法を考慮する。やむを得ず申請する場合、国立・国定公園、国有林等の各種許可申請(立ち入り、採集等)については、担当機関への申請は原則として現地調査法人が行う。詳細は担当機関に問い合わせ、所定の様式に調査日程、同行者、調査ルートなどを具体的に記載し、必要に応じて環境省に協力依頼状の発行等を依頼し、許可申請を行う。申請書類等は調査適期を逸しないよう早めに準備する。また、採集に係わる許可証を得た場合には、各調査者は現地調査に際し許可証(必要に応じて許可証の写し)を必ず携行する。

表 2.3.7 標本採集に際し留意すべき法令等

法令等	関連機関	備考
文化財保護法	文化庁	注 1
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保	環境省	注 2
存に関する法律		
自然公園法	環境省	注 3
特定外来生物による生態系等に係る被害	環境省等	
の防止に関する法律		
その他の都道府県・市町村の条例等	都道府県•市町村	

- 注1: 天然記念物を採集する可能性がある場合は、天然記念物の現状変更に該当するため、「文化 財保護法」に基づき、文化庁・都道府県等に申請し、許可を得る。
- 注 2:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種を採集 する場合又は採集の可能性のある場合は、あらかじめ環境大臣と協議を行う必要がある。
- 注3:「自然公園法」の特別地域、特別保護地区での指定植物を採集する場合には、国立公園にあっては環境大臣、国定公園・県立公園にあっては都道府県知事の許可を受けなければならない。また、指定期間中、立入りが規制される区域があるため留意する。

(7) 現地調査者一覧表

現地調査の場所、時期、現地調査者を一覧表にして記載する。現地調査のうち、優占種調査および判読結果の現地確認作業は、植生判読の作業者が加わることを原則とする。

(8) 安全管理対策等

現地調査に際しては、以下のとおり安全の確保に十分配慮し、事故防止に努める。現地調査計画書に安全管理対策を明記し、現地調査者に周知する。

現地調査実施前の安全確認事項

- (ア) 現地調査計画は日程に余裕を持って作成し、現地調査の実施前に調査者間で工程、 危険要素等について打ち合わせを行う。この結果、必要に応じて安全対策の追加や工 程の組替えを行う。
- (イ) 作成している緊急時の連絡体制(組織内、警察署、消防署、病院、労働基準監督署等) を確認しておくとともに、携帯電話が通じない場合もあるので確実な連絡の実施計画 を立てる。
- (ウ) 調査に適した服装、安全管理に必要な携行品を確認し、準備する(例:登山靴、ゴム 長靴、軍手、雨具、防寒具、非常食、ヘルメット、救急セット、連絡体制表、熊鈴、 通信機具(携帯電話・トランシーバー))。
- (エ) 野外に生息する危険な生物(ハチ、マムシ、クマ等)の被害を受けたときの対処(応急 手当等)をあらかじめ確認しておき、薬品・必要な器具等を装備に含める。

現地調査時の注意点

- (ア) 現地調査実施時は、単独での行動は行わず、原則として 2 名以上で行動する。
- (イ) 天気予報等により天候、気象状況等を事前に確認し、危険が予想されるような場合 には、適宜行程の見直しを行う。
- (ウ) ガレ場や崖地形、水域等、現地の地形に応じた危険への予知や想定を行い、十分な 装備を持つとともに無理な行動は行わない。
- (エ)降雨による急激な増水、急流や水域の深み、吹雪、猛獣・有毒生物との遭遇等、気象・水象の急変や生物的な危険が想定されることに十分留意しておく。
- (オ) 現地調査に入る前に調査に適した服装、安全管理に必要な携行品を再確認する。
- (カ) 水際の調査では、水没等の重大な事故に遭遇する可能性があるため、救命胴衣、安

全ロープ等の準備を十分に行う。

- (キ) 危険な生物(ハチ、マムシ、クマ等)に遭遇する危険を出来るだけ回避するよう心掛ける(ハチの巣に近づかない等)。
- (ク) 車輌の運用前点検、及び交通法規を遵守した安全運転、悪路走行時の安全確認に努める。また、地元車輌優先に心がける。

2.4 植生判読及び現地調査

2.4.1 予備判読

2.3 計画・準備で整理した空中写真及び既存資料をもとに、予備的な植生判読を行い、空中写真の色調、肌理、密度、樹高(群落高)、樹冠の大きさ等のパターンに着目して、空中写真での特徴(判読キー)を整理する。必要に応じ、1/2.5 万地形図上に判読線を記入する。この段階で、素判読図(樹冠大・小、草地等の大まかな相観区分図)を作成しても良いが、判読が難しい部分を無理に区分しないよう留意する(判読が難しい部分は必ず現地で確認して区分すること)。

2.4.2 現地調査

現地調査では、空中写真及び 1/2.5 万地形図 (予備判読結果、植生判読のキーとなる空中写真パターンの箇所や要確認箇所を記入したもの) を携行し、実際の植物群落の分布と空中写真とを現地で比較、照合することで判読キーを修正・再整理する。これらの作業と並行して、次に示した調査の目的に沿って組成調査と優占種調査を実施する。調査地点数の配分については、表 2.4.1 の判読対象区分も参考にする。なお、組成調査、優占種調査データを整理する際には、地域植物誌等の照合により誤同定のないようチェックを行う。

特に、整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4を参照して 効率的な調査を実施する。

表 2.4.1 判読対象区分

判読対象 I:自然林、特殊立地の植生

判読対象Ⅱ:植林地、低木林等 判読対象Ⅲ:農耕地、市街地など

(1) 組成調査

目的

植生図の凡例を決定するための調査。植物社会学的な植生調査手法に基づき、出現種や植生構造の調査を行う。凡例の根拠となる典型的な群落のデータを取得する。

地点

農耕地、市街地を除く全ての凡例及び、特定植物群落(地点位置が特定できない場合及び立ち入りが困難な場合を除く)において実施する。

地点数は、判読対象Ⅲを除く全ての凡例について、少なくとも1凡例につき2地点以上取得する。特に、判読対象 I、統一凡例に新たに追加する凡例については重点的に調査を行う。広範囲に分布する二次林の凡例については、1凡例につき1地形図あたり2地点以上取得する。二次林、自然林等の植生の境界域が不明瞭な場所については、想定される境界域の周辺において、調査地点数を多めに設定する。雪田など多種の小群落から成る複合体の凡例は、主たる群落のデータがあればよい。

調査地点の位置は、相観や立地条件が均質とみなされるような場所で、対象とする凡例の 典型的な植生データを取得できるように設定する。林縁部や、異質の群落が隣接する境界部 を含まないように留意する。

調査区の形と大きさは群落高と同等の長さを一片とする方形区を目安とする。調査区の大きさは調査面積を増しても出現種がほとんど増加しなくなるまでの最小面積が必要である。必要な面積があれば、調査区の形は方形区でも円形でもよく、群落の広がりに応じた不定形でもよい。

● 方法

階層別に出現種をリストアップし、被度・群度、立地環境等を組成調査票(表 2.4.2)に記録するとともに、記録写真撮影(外観、林内、林床)を行う。出現種の完全なリストであることと隣接群落の要素を含まないことが重要である。植生調査地点はGPS等により正確な緯度経度を記録する。

※組成調査票は植生現地調査データベースの「調査地点一覧テーブル (調査地点概況)」と「植物表テーブル (出現種データ)」に入力し、素表を作成してデータの内容、同種異名等を点検する。なお、種の誤同定を避けるために、地域植物誌等との照合によるチェックを行う。また、可能な場合はブロック検討委員(あるいは該当地域のフロラに詳しい学識経験者等)に出現種リストをチェックしていただくことが望ましい。

表 2.4.2 組成調査の調査票例

####################################									
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##				植生調査	票	組成調査		調査年度	2015
次タッシュ 553913 地形図名 男体山 一切村名 日光市湯元 30g 49		二次メッシュ	調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番	_	
次タッシュ 553913 地形図名 男体山 一切村名 日光市湯元 30g 49	地点コード	553913	02	013	001	100907	001	調査地点名	S09
7回ッグ名 関東 都道県県名 版本 南町村名 日光市遠元 出現種数 30 接接度 日謝地系 度 分 秒			地形図名	男体山	-1	"	調査年月日		
接度 日謝地系 度 分 秒					市町村名	日光市湯元			30
接接 10×10	緯 度			1000	1-1		36度 49分 19		
調査面積 10×10	経度	旧測地糸				一			
横斜 35° 地形 斜面中部 土壌 褐色森林土 通道		10 × 10	1/2 // //		2005m				
□当 強									
選科地 度占種 原裔									
際所	海山 海山Ma)X			1993		工 /业	<u> </u>	
勝層 仮占種 高さ 植被率 胸高直径 種数 高大型 オオシラビソ 13 70 38(max50) 4 4	<u>貝科(10.</u> み行在		公仁 字	具件口仰		司載された群落	;		
高木層 オオシラビソ 7 80 6 5 5 5 5 6 6 3 9 9 5 5 5 6 6 5 5 6 7 5 7 5	光17年		光17日			記載された話	t		
高木層 オオシラビソ 7 80 6 5 5 5 5 6 6 3 9 9 5 5 5 6 6 5 5 6 7 5 7 5	ル	冱	上採	Ŧ	5+	枯地変	いっぱん	古女	1年 米4
正高木層 シラピソ 7 80 6 5 5 低大層2 - 2.5 60 3 9 9 年本屋1 デシマザサ 1.2 100 - 24 1 1 1 1 100 - 24 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>		口俚		司 C			10000000000000000000000000000000000000	
低木層1 - 2.5 60 3 9 年 24 章 本展2 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	<u> </u>								
低木腐2 草本原2		シフログ							
本語		_		2.5		60	3		9
基本 1	低木層2								
植生区分 I	草本層1	チシマザサ		1.2		100	-		24
植生区分 I									
本の	コケ層								
本の									
本の	植生区分	П			凡例コード	050102	凡例名	シラビソーオ	オシラビソ群集
被度群度 種名 被度群度 種名 被度群度 種名 被度群度 種名 (高木暦)		亜高山帯針類	葉樹林 二	中区分	オオシラビン	/群団			
被度群度 種名 被度群度 種名 被度群度	<u>// </u>	オオシラビソ	群落	11 – //	1		1441-23	, , , ,	
(高木層)		,							
(高木層)	被度群度	和	名	被度群度	1	番名	被度群度	1 7	重名
3・3 オオシラビソ + タケシマラン 2・3 コメツガ		13	E H			<u> </u>	12/241/2	1	<u> </u>
2・3 コメツガ + ナナカマド 2・2 シラピソ + ミヤマアキノキリンソウ 1・1 ダケカンパ + ミヤマアキノキリンソウ 3・3 シラピソ 2・2 オオシラピソ 2・2 オオシラピソ 2・2 オオシラピ) 1・1 タカネザクラ 《(株 木腐 1) 2・2 オオかメナキ 1・1 アナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 テナカマド 1・1 フィグサンシャクナゲ 1・1 テシマザサ 1・2 コゼッタチバナ 1・2 コゼッタチバナ 1・2 コグラグト・グン 1・2 サラサドウダン 1・2 オカンオ 4・5 デシマザサ 1・2 コゼッタチバナ 1・1 コーニ コゼッタチバナ 1・2 コゼッタチバナ 1・2 コゲックドグン 1・2 オカッグマ 1・2 オカッグマ 1・2 オカッグマ 1・2 オカッグマ 1・2 オカッグマ 1・2 オカッグ・カー・ 1・2 オカッグ・カー・ 1・3 オカッグ・カー・ 1・4 カカメノキ 1・5 オカンデ 1・7 ズマジャクナゲ 1・7 ズマジャクナゲ 1・7 ズマジャクナゲ 1・1 オカメノキ 1・1 オカススト		オオシラビソ				,			
2・2 シラピソ + ミヤマアキノキリンソウ						•			
1-1 ダケカンバ						1+115.51 +			
(亜高木暦) + ミヤマワラビ 3・3・3 シラビソ 2・2 オオシラビソ 2・2 オオシラビソ 2・2 ナナカマド 2・2 ネコシデ 1・2 タカネザクラ (低木暦1) 2・2 オオシシビソ 2・2 ナナカメ/キ 2・2 オオシラビソ 1・2 サラサドウダン 1・2 サラサドウダン 1・1・1 シネカエデ + クロベ 4 ムラサキヤシオ (草本暦1) 4・5 チシマザサ 1・1・2 カマイザサ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウグン 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウグン 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウグン 1・2 フェイザサ 1・2 コミヤマカタがミ 1・2 サラサドウグン 1・2 コミヤマカタがマ 1・2 ソルツゲ 1・2 コミヤマオタグル 1・2 コミヤマカタがマ 1・2 シノブカグマ 1・2 ツルリンドウ 1・2 スグ属の一種 1・2 スグー 1・2 オカエデ 1・2 オカエデ 1・2 オカエデ 1・2 オーカメノキ 1・3 オオバスノキ 1・4 オオバスノキ 1・4 オオバスノキ 1・4 オオバスノキ 1・55913020130011009070010101.jpg		ンフロン							
3・3 シラビソ 2・2 オオシラビソ 2・2 オオシラデ 2・2 ネコシデ 1・2 タカネザクラ 《低木層1〉 2・2 オオカメノキ 2・2 オオシラビソ 2・2 シラビソ 1・2 サラサドウダン 1・1・1 ナナカマド 1・1 まネカエデ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 1・2 ガフキャシオ 〈草本層1〉 1・2 ガマ・ボーター・ベー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		タケカンハ							
2・2 オナカマド 2・2 オオシデア 1・2 タカネザクラ (低木層1) 2・2 オオカメ/キ 2・2 オオシジデソ 2・2 シラビソ 1・2 サラサドウダン 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ミネカエデ + カロベ + ムラサキャシオ (草本層1) 4・5 デシマザサ 1・2 コゼンタチパナ 1・1 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 オランガがマ +・2 シノブカゲマ +・2 スノキ +・2 スノキ +・2 スノキ +・2 スノキ +・2 スイキ +・3 オオカメノキ +・カオオカメノキ +・カオカメノキ +・カオカメノキ +・カスシー -・カスシー -・カス				+	ミヤマリフヒ				
2・2 ナナカマド 2・2 オコシデ 1・2 タカネザクラ (低木層1) 2・2 オオカメノキ 2・2 オオカシノキ 2・2 カオウラビソ 2・2 シラビソ 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 チナカマド 1・1 キカエデ + クロペ + ムラサキヤシオ (草本層1) 4・5 チシマザサ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 メブ属の一種 +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイブルソウ +・2 マイブルソウ +・2 マイブルソウ +・2 マイブルソウ +・2 マイブルソウ +・2 マイブルソウ +・3 オカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + コメツガ + カラビソ 調査法人名 ○○○○(株) 調査法人名 ○○○○(株) 調査法人名 ○○○○(株)									
1:2 タカネザクラ (低不層1) (2:2 オオカメノキ 2:2 オオシラビソ 2:2 シラビソ 1:2 サラサドウダン 1:2 ハクサンシャクナゲ 1:1 ナナカマド 1:1 ミネカエデ + クロベ + ムラサキヤシオ (草本層1) 4:5 チシマザサ 1:2 カマイザサ 1:2 ゴゼンタチバナ 1:2 コゼンタチバナ 1:2 リラサドウダン 1:2 ツルツゲ +・2 スグ属の一種 +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルフウ +・2 マイジルフウ +・3 オカメノキ +・4 オオカメノキ +・5 オカメノキ +・6 オオカメノキ +・7 ズマシャクナゲ +・7 オオカメノキ +・1 コメツガ +・1 コメツガ +・2 ラビソ (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	2·2								
1・2 タカネザクラ (《低木層1》 2・2 オオカメノキ 2・2 オオンラピソ 2・2 シラピソ 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 まネカエデ + クロペ + ムラサキヤシオ (草本層1) 4・5 チシマザサ 1・2 ワマイザサ 1・2 コゼンタチパナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スゲ属の一種 +・2 スゲ属の一種 +・2 マイツルソウ +・2 マイツルソウ +・2 マイツルソウ +・2 マイツルソウ +・2 マイツカメデ +・2 マイツカメデ +・3 オカメノキ +・4 オオカメノキ +・カオバスノキ +・カカバスノキ +・カオバスノキ +・カオバスノキ +・カオバスノキ +・カオバスノキ +・カオバスノキ +・カカバスノキ +・カオバスノキ +・カオバスノキ +・カオバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カガバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスノキ +・カカバスカー +・カカバスカー	2.2	ナナカマド							
《低木層1〉 2・2 オオカメノキ 2・2 オオカメノキ 2・2 シラピソ 1・2 サラサドウダン 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 シネカエデ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 ウマイザサ 1・2 コゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタ√に 1・2 サラサドウダン 1・2 サラサドウダン 1・2 ツノブカグマ +・2 スグ属の一種 +・2 スノキ +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カオバスノキ + カナバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオがスノキ + カオがスノキ + カカバスク百	2.2	ネコシデ							
《低木層1〉 2・2 オオカメノキ 2・2 オオカメノキ 2・2 シラピソ 1・2 サラサドウダン 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 シネカエデ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 ウマイザサ 1・2 コゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタ√に 1・2 サラサドウダン 1・2 サラサドウダン 1・2 ツノブカグマ +・2 スグ属の一種 +・2 スノキ +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カナバスノキ + カオバスノキ + カナバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオバスノキ + カオがスノキ + カオがスノキ + カオがスノキ + カカバスク百	1.2	タカネザクラ							
2・2 オオカメ/キ 2・2 オオシラビソ 2・2 シラビソ 1・2 サラサドウダン 1・1・1 ナナカマド 1・1 ミネカエデ + クロペ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + カオバスノキ + コメッガ + シラビソ 調査者 〇〇〇〇 (株) 調査者									
2・2 オオシラビソ 2・2 シラビソ 1・2 サラサドウダン 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 まネカエデ + クロベ + ムラサキヤシオ (草本層1) 4・5 チシマザサ 1・2 グマイザサ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スグ属の一種 +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルソウ +・2 マイジルソウ +・3 キカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + コメツガ + カラビソ 調査法人名 ○○○○ (株) 調査法人名 ○○○○ (株)		オオカメノキ							
2・2 シラビソ 1・2 サラサドウダン 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 ナナカマド 1・1 ミネカエデ + クロベ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 クマイザサ 1・2 コゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スグ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・3 トランマケーケゲ +・4 オオカメキ + オオバスノキ + コメツガ + オオバスノキ + コメツガ + カラビソ 調査法人名 ○○○○ (代表写真 55391302013001100907001011jpg					+				
1・2 サラサドウダン 1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 ミネカエデ + クロペ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 カマイザサ 1・2 コゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スケ属の一種 +・2 スノキ +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・3 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオがスノキ + コメツガ + オオがスノキ + コメツガ + カカメリオ + オオがスノキ + コメツガ + カカメリオ + オオがスノキ + コメツガ + カラビソ 調査法人名 ○○○○ (株务写真 55391302013001100907001011jpg					+				
1・2 ハクサンシャクナゲ 1・1 ナナカマド 1・1 ミネカエデ + クロペ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 クマイザサ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・4 オオカメノキ + オオカメノキ + オオバスノキ + オオバスノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 ○○○○ (株) 調査法人名 ○○○○ (株) 調査者 ○○○○○			٠,		+				
1・1 ナナカマド 1・1 ミネカエデ					+				
1・1 ミネカエデ + クロペ + ムラサキヤシオ 〈草本層1〉 4・5 チシマザサ 1・2 クマイザサ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 スノキ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + オオバスノキ + カオバスノキ + シラピソ 調査法人名 ○○○○(株) 調査法人名 ○○○○(株) 調査法人名 ○○○○○			7)7		+				
+ クロベ + ムラサキヤシオ (草本層1) 4.5 4.5 チシマザサ 1.2 クマイザサ 1.2 コミヤマカタバミ 1.2 サラサドウダン 1.2 ツルツゲ +:2 シノブカグマ +:2 スグ属の一種 +:2 スノキ +:2 スノキ +:2 マイジルソウ +:2 マイジルソウ +:2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + カラビソ 調査法人名 〇〇〇〇 (株長写真 553913020130011009070010101jpg									
+					+				
《草本層1》 4·5 チシマザサ 1·2 クマイザサ 1·2 ゴゼンタチバナ 1·2 コミヤマカタバミ 1·2 サラサドウダン 1·2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スケ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 マイヅルソウ +・2 マイヅルソウ +・4 オオカメノキ + オオカメノキ + オオカメノキ + カオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 ○○○○ 代表写真 553913020130011009070010101.jpg	+	700							
4·5		ムフサキヤシ	′ 才	_	 		1	1	
1・2 クマイザサ 1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ベビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101,jpg								1	
1・2 ゴゼンタチバナ 1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ベビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg									
1・2 コミヤマカタバミ 1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + カオパスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg									
1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオパスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg									
1・2 サラサドウダン 1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオパスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg	1 · 2								
1・2 ツルツゲ +・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ベビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg									
+・2 シノブカグマ +・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 マイゾルソウ +・2 マイゾルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオカメノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg									
+・2 スゲ属の一種 +・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg					1				
+・2 スノキ +・2 ツルリンドウ +・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg					1			1	
+・2 ツルリンドウ +・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg			-	1	1				
+・2 ヘビノネゴザ +・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg					+			1	
+・2 マイヅルソウ +・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg					+			1	
+・2 ミネカエデ + アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg				 	+				
+ アズマシャクナゲ + オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg				1	+		1	1	
+ オオカメノキ + オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg			+ <i>F</i>		+			1	
+ オオバスノキ + コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg			17	 	+		1		
+ コメツガ + シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg				-	+		1	1	
+ シラビソ 調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 553913020130011009070010101.jpg				_			1	1	
調査法人名 〇〇〇〇(株) 調査者 〇〇〇〇 代表写真 55391302013001100907001011.jpg									
調査者 OOOO 代表写真 55391302013001100907001011.jpg	+	シラビソ		1					
調査者 OOOO 代表写真 55391302013001100907001011.jpg									
調査者 OOOO 代表写真 55391302013001100907001011.jpg	調査法人名		:)					·	
代表写真 55391302013001100907001011,jpg	調査者								
<u> </u>	代表写真		001100907001	10101.jpg					
	備者			5, 5	_				

(2) 優占種調査

● 目的

組成調査ができない箇所等において、植生判読作業を補足するための調査であり、判読画像の見え方に対して、植生の区分線と区分内容(凡例)をあてはめるための判読キーを収集する調査である。組成調査の簡易なタイプとして優占種や林内の区分種数種をリストアップして凡例を決定する調査(優占種調査 1)と、判読画像の見え方の現地照合を行うために、判読キーとなる地点の景観写真の撮影及び区分方法を記録する調査(優占種調査 2)とがある。本調査は、原則として作成者(判読者)が行う。

地点

以下のような場所で、優占種調査を実施する。

- ▶ 植物群落(凡例)の分布パターンと判読画像との対応が典型的な場所(判読キーとして典型的な場所)
- ▶ 画像判読だけでは凡例を特定しにくい場所

判読対象 I に重点をおき、優占種調査 1・2 をあわせて 1 枚の地形図あたり 10~15 地点以上を目安として調査地点を設定する。判読対象 II のうち、凡例との対応が明瞭な地域については簡略化してもよい。判読対象 III は、原則として優占種調査は行わなくてもよいが、放棄耕作地等の遷移によって優占種の確認が必要な箇所は、必要に応じて調査地点を設定する。

なお、空中写真の見え方が鮮明でないために凡例が決定できない箇所等については、優占 種調査地点のほかに、同様の群落をできるだけ多く現地で確認する。

方法

1) 優占種調査 1

優占種調査地点の相観を把握できるよう、優占種調査地点を外観できる記録写真を撮影し、撮影地点と撮影方向、相観的な特徴、優占種、群集標徴種や群落区分種等の凡例決定の指標となる林内の構成種、立地、空中写真の見え方、想定される凡例等について優占種調査票 1 (表 2.4.3) に記録する。種の記載については、既存文献、過年度報告書等で事前に群落区分種、群集標徴種、立地、地域特性等の区分点を把握した上で、優占種以外の必要な種も含めなるべく階層別に 2 種まで記録する。

※ 優占種調査票1は植生DBの調査地点一覧テーブルに入力する。

2) 優占種調査2

画像判読の目安となるよう、見通しのよい地点から多種の群落の相観や立地の違い、群落相互の配分等が把握できる景観写真を撮影し、撮影地点と撮影方向、相観的な特徴、主たる凡例名、区分線の位置等について優占種調査票 2 (表 2.4.4) に記録する。主たる凡例以外の凡例については備考欄に詳細に記載する。

※優占種調査票2は植生DBの調査地点一覧テーブルに入力する。

表 2.4.3 優占種調査1の調査票例

							調査年度	2015
			植生調査界		優占種調査1			
	二次メッシュ	調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番		
地点コード	553903	01	013	002	100824	001	調査地点名	Y01
	553903	地形図名	中禅寺湖			調査年月日	2015年	8月24日
ブロック名	関東	都道府県名	栃木	市町村名	日光市中宮祠		出現種数	
緯度 経度	旧測地系	度 分 秒			新測地系	36度 44分 42	.8秒	
経度		度 分 秒			利烈地尔	139度 25分 0	.5秒	
調査面積	10 × 10		海抜	1270m		方位	1	
傾斜	0°		地形	平地		土壌	褐色森林土	
風当	中		日当	陽		土湿	土湿 適	
資料No.			資料名称					
発行年		発行者			記載された群落			
階層		占種		さ	植被率	胸高	直径	種数
高木層	ハルニレ		15		90	40max		
亜高木層	ハルニレ・ミス	<u> </u>	8		30	10		
低木層1	_		3		10	4		
低木層2								
草本層1	シロヨメナ		0.5		30	_		
草本層2								
コケ層								
植生区分	IV			凡例コード	160301	凡例名	ハルニレ群集	
大区分	渓畔林		中区分	ハルニレ群落	F	細区分	ハルニレ群集	[
群落名	ハルニレ群落	-						
調査法人名	0000(株)						
調査者	0000							
代表写真	553903010130021008240010101.jpg							
備考								

表 2.4.4 優占種調査2の調査票例

調査年度 2015 *は必須項目 植生調査票 優占種調査2 二次メッシュ 法人ID 年月日 連番 地点コード* 543857 013 002 100824 001 調査地点名* Y01 二次メッシュ^{*} 543857 伊香保 2012年11月3日 地形図名 調査年月日 都道府県名^{*} 度 分 秒 関東 群馬 市町村名 出現種数 36度 44分 42.8秒 緯度* 旧測地系 新測地系 経度^{*} 調査面積 傾斜 度 分 秒 139度 25分 0.5秒 海抜(撮影地点) 1270m 方位(撮影方向) S 調査区分を05とする。 地形 日当 風当 土湿 資料No. 発行年 資料名称 発行者 記載された群落 階層 優占種 高さ 胸高直径 植被率 種数 高木層 亜高木層 低木層1 低木層2 主たる凡例名を記入 草本層1 する。 草本層2コケ層 植生区分* 凡例コード^{*} 221103 凡例名 ミヤコザサーミズナラ群集 大区分群落名 落葉広葉樹二次林 中区分* ミズナラ群落 ミヤコザサーミズナラ群集 細区分* 備考は必須。写真で読み取 調査法人名* 〇〇〇〇(株) れる群落の説明を入れる。 0000 調査者* 543857050130021211030010101.jpg 代表写真 備考* 榛名富士から南方向に三峰山を望む。斜面はミズナラニ次林で広く占められるが、谷沿いにカラマツ植林がある。直下の沼ノ 原にはカシワニ次林がみられる。

景観写真



2.4.3 図化基準案の作成

現地調査計画にて作成した使用凡例案をもとに、現地調査結果及び収集した地域植生情報等を加え、使用凡例案を修正する。修正した凡例には凡例番号をふり、主要凡例について優占種、判読キー(判読画像上で他の植生から区分される特徴)、凡例の決定方法、類似する群落との区別点、分布・立地等を記載した「図化基準案」(表 2.4.5)を作成する。特に、整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の「山岳地調査の手引き」に従う。

現地調査法人の管理者は、図化基準案を作成者に周知することで、図化精度の均一化を図る。また、作成者への「資料 2 伐採跡地・土地利用区分等判読の手引き」の徹底を図る。 凡例区分の共通認識を得るために以下のような手法が有効である。

- ▶ 作成者全員が集まり、図化基準について協議し合意を図る会議を開く。
- ▶ 作成者全員で現地エクスカーションを実施し、自然性の高い植生や判定の難しい凡例について現地確認を行い、現場の植生を見て共通認識を図る。
- ▶ 自然植生を分布及び立地により配列した上でそれぞれに代償植生を対応させて、ブロック全体の凡例を把握する。

植生区分	群落名	優占種	判読の 難易度	空中写真上での特徴	凡例決定の方法 (空中写真以外)	分布·立地	類似群落との区別点
IV	スギーブナ群落	ブナ. スギ		丸い大きな樹冠の中に三角錐の樹冠 が林立している。		加瀬木図幅の標高1,000m付近に分布。 第2回・第3回植生図にも図示。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。
IV	クロモジーブナ群集	ブナ. チマキザサ		淡色で円形の大きな樹冠が、散在する 樹林。	回植生図	大背、加瀬木、郷原、岩屋堂、岩坪、若狭、扇ノ山等	中国山地に成立し、ブナの優占することで区分されるが、空中写真では樹高 の高いミズナラの優占林、ブナーミズナラ群落と類似するため、現地調査又は 第2回・第3回植生図を使用し確認する。
IV	チャボガヤーイヌブナ群集	イヌブナ		淡色。樹高が高く、円形のやや大きな 樹冠のまとまり。			イヌブナが優占することで区別される。空中写真ではクリーミズナラ群集と類似するため、現地調査により確認する。
IV	イヌシデーアカシデ群落	イヌシデ. アカシデ. ミズメ	А	樹冠はやや小さく、丸みを帯びる。			イヌシデ、アカシデ、ミズメが優占することで区分する。 現地確認及び立地条件 により区分する。
IV		サワグルミ、トチノキ、ジュウモンジ シダ、 リョウメンシダ等		淡色。樹高が高く、円形のやや大きな 樹冠のまとまり。		中国山地沿いの谷筋に分布する。 大背、坂根、加瀬木、智頭、岩屋堂、岩坪、扇ノ山等 の図幅で記録。	空中写真によるケヤキ群落との区分は困難。現地調査により確認。
IV	ケヤキ群落(Ⅳ)	ケヤキ	l A	多様。緩傾斜では樹冠が大きく、急傾 斜では樹冠が認識しにくい。早春の空 中写真では樹冠を認識しにくい。		大背、郷原、扇ノ山等の図幅で記録。	ケヤキ群落(VI)とは、標高により区分し、境界は標高約650m~700m。空中 写真によるジュウモンジンダーサワグルミ群集との区分は困難。現地調査に より確認。
IV	岩角地·風衝地低木群落	サラサドウダン、ツツジ類		樹冠は小さく、まばらである。色調は明 るい。			既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。 なだれ地自然低木群落とは、斜面方位により区分する。
IV	なだれ地自然低木群落	アセビ、リョウブ、ヤナギ属の一種、 チマキザサ		淡色。小さな樹冠がややまばらに分布 する。群落高は低い。			既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。 なだれ地自然低木群落とは、斜面方位により区分する。
v	ブナーミズナラ群落	ブナ. ミズナラ		淡色。樹高が高く、円形のやや大きな 樹冠のまとまり。		庞野、岩坪、加瀬木、美作加茂、智頭、大背、日本	地域によって異なるが、標高約700m以上に成立。林冠にブナが優占する林 分をクリーミズナラ群集と区分して整理。クリーミズナラ群集に比べ、高海抜地 に分布する。
v	クリーミズナラ群集	ミズナラ. クリ		淡色の、樹高の高く、不整形の小さな 樹冠のまとまり。		鹿野、岩坪、加瀬木、美作加茂、智頭、大背等の図 幅で記録。	地域によって異なるが、標高約650m以上に成立。ブナーミズナラ群落とはブ ナを欠くとにより区分する。ミズナラの優占することで区別されるが、空中写 真ではよく発達した林分が、ブナの優古林支援似する場合がある。現地調査 ならびに第2回・第3回植生図、ヒアリング結果を用いて確認する。

表 2.4.5 図化基準案 (例)

※図化基準がわかりにくい二次林、垂直分布や微地形の相違で凡例が分かれる場合等、作成者間の共通認識が必要な凡例のみ作成する。

2.4.4 植生図案の作成・提出

現地調査によって修正した使用凡例案及び図化基準案に準じて、判読画像を再判読し、区分線・区分内容を 1/2.5 万地形図等に移写して植生図案を作成する。不明な区分線・区分内容があった場合は、現地調査を補足的に実施し、植物群落の分布状況を再確認し、これらを決定する。土地利用凡例等の図化については、「資料 2 伐採跡地・土地利用区分等判読の手引き」を遵守する。

植生図案は、重点地域における現地調査→確認→修正→全体へ展開・標準化することにより図幅ごとの精度調整を行う。

植生図案の作成から納品までは図 2.4.1 に示したフローによる。現地調査法人は、工程に応じて1次確認用植生図(5面あたり1面で図幅の1/4~1面の範囲)、2次確認用植生図(5面あたり1面で図幅単位)、さらに植生図全図面を、植生図の精度確認のための資料として幹事法人に提出し、修正方法を協議しながら図化を進める。

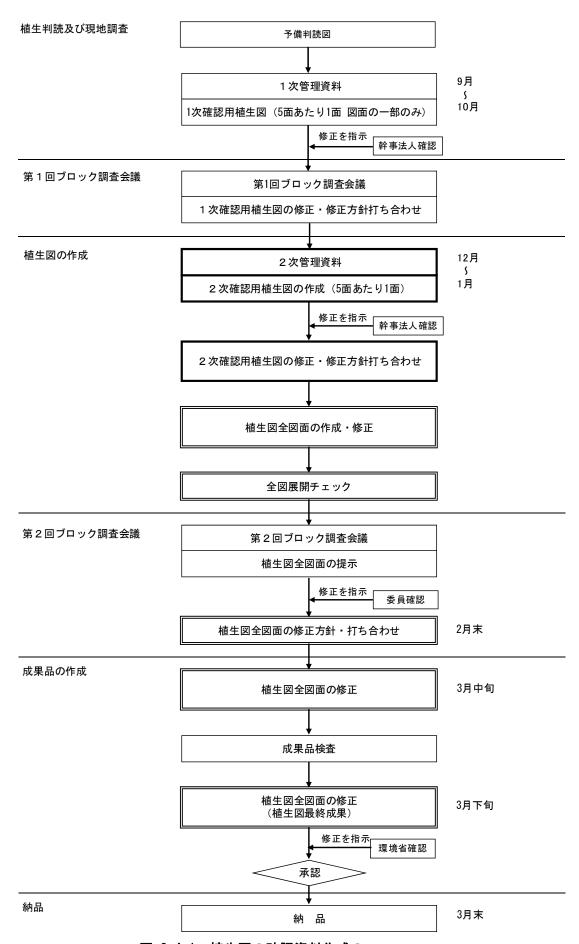


図 2.4.1 植生図の確認資料作成のフロー

(1) 予備判読図

現地調査法人の管理者は、各作成者の予備判読図を精査して、<u>①作成者間の図化精度に違いがないか、②作成者間の図化基準にずれがないか</u>、確認を行う。他作成者と比べて著しく精度の劣る判読図があった場合は、早急に技術指導を行う。また、図化精度の統一性、作業の遅れ等の問題があれば、幹事法人に報告し、対応策を協議する。

(2) 1次管理資料の提出と進捗状況の報告

現地調査法人は、第1回ブロック調査会議開催の1ヶ月以上前までに、植生調査業務の精度を示す管理資料として、次に示す1次管理資料((1)~(3))及び関連資料(4)をとりまとめ、環境省及び幹事法人に提出する。

1次管理資料は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である(確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照)。

提出する1次管理資料の精度は、本要領の資料に例示した全国レベルの図化精度基準に適合することを条件とする。

1 次管理資料の提出と進捗状況の報告(4.3.6 に示す)の目的は、現地調査法人が作成している植生図の標準的な精度を確かめ、必要に応じて精度の向上を図り、図化精度のレベルを確定することにある。

幹事法人は、必要に応じてブロック統括委員等の学識経験者から助言を得て1次管理資料の内容を確認し、確認結果を「1次確認用植生図の確認結果」にとりまとめ、第1回ブロック調査会議にて「1次確認用植生図の確認結果」を提出し、会議にて協議を行う。

現地調査法人は、幹事法人による確認と、第1回ブロック調査会議で得られる委員の助言を反映して、植生図 GIS データ入力前までに1次管理資料を修正し、その他の図幅の植生 図化の精度の目安とする。

1) 1次確認用植生図一覧表及び一覧図

現地調査法人は、1次確認用植生図について、各図面の管理者、作成者、使用した空中写真*、及び判読上の問題等を一覧表(表 2.4.6)にとりまとめ、位置を一覧図に示す。

デジタルオルソを使用した場合は、デジタルオルソの位置精度の確認結果も記入する。 また、整備地域が過年度及び本年度整備地域の植生図と接合している場合は、接合部分で の植生の整合性について確認しながら判読を進める必要があるため、接合部分の作成状況 を報告する。

*2次メッシュ管理リストに記載したもの

表 2.4.6 1次確認用植生図一覧表フォーム

				1 		3027	-
番号	標準判読図	撮影主体等	整理番号	撮影地区	管理者	作成者	管理者のコメント
1	厚床①		H0-2005-5X C12-5	根室	0044		
2	婦羅理		H0-2005-5X C17-2、C18-3	根室	0044	●●□□	

2) 使用凡例案及び図化基準案

現地調査法人は、使用する凡例の一覧表、図化基準案を整理し、その時点での最新の使用凡例案と主要凡例についての図化基準案を作成する。凡例の判断がつかず図化が難しい場合は、中途段階の凡例で代替する。その場合は凡例の細分の方針や目安を図化基準や配分摸式図に示す(例:図化基準にミズナラ群落とコナラ群落は標高 400mをめやすに区分することを記載しマークする)。

3) 1次確認用植生図

1次確認用植生図は、1/2.5 万地形図を基図とし、重点地域から現地調査法人が作成地域を選定して、画像判読及び現地調査から最終的な凡例適用を想定した植生図を作成する。作成する枚数は作成者ごとに1地域以上とし、作成地域の配置に偏りがないよう調整する。作成者1名あたりの作成範囲は、1/2.5 万地形図の1/4~1/5 以上とする。植生図1面全てを提出する場合には、特に確認すべき範囲に印をつけて提出する。現地調査法人の業務管理者は、提出前に1次管理資料の精度を確認し、必要に応じて修正方針等の指示を記入する。

4) 判読画像

1次確認用植生図の範囲が立体視できる空中写真、判読に使用した画像等の一式を提出する。空中写真のコピーは不可とし必ず原写真を提出する。幹事法人が1次管理資料の確認に1ヶ月程度の時間を費やすため、現地調査法人は、写真の提出が他の判読作業に支障のないように留意すること。

2.5 第1回ブロック調査会議

第1回ブロック調査会議の目的は、「植生図作成の進捗状況を確認して、整備地域における植生図作成上の課題について協議を行い、ブロック検討委員から助言を得る」ことにある。

出席者等は 1.5.3(3) 及び仕様書を参照する。ブロック検討委員が欠席した場合にはヒアリングを行い、ヒアリング調査票にとりまとめて環境省及び幹事法人に提出する。

2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載

現地調査法人は、必要に応じてブロック統括委員及び幹事法人と協議を行い、表 2.5.1 に示す会議資料を作成して会議開催1週間前までに環境省及び幹事法人に提出する。幹事法人及び環境省は提出後3日以内に資料の内容を確認・承認する。承認後、現地調査法人は、会議資料をブロック調査会議検討委員あてに事前送付するとともに、業務管理サイトに会議資料を掲載し、出席者に周知する。事前送付の日程がとれない場合には環境省及び幹事法人と調整する。

表 2.5.1 第1回ブロック調査会議の提出資料

No.	資料名	内容	報告書との対応						
0	議事次第	●議事次第、出席者	_						
1	整備地域	●整備地域の一覧図	1.整備地域						
		地形図を基図として、図郭の一覧図を示す。	図 1						
2	既存資料による整	●整備地域全体の 1/5 万植生図(縮小版)	5.検討結果						
	備地域の植生概況	1/20 万地形図、陰影等を基図とし、1/2.5 万植生図統一凡例で	図 5~						
		置換した 1/5 万植生図 GIS データで、整備地域全体の植生図を							
		作成する。整備地域に隣接する外側の図枠も含める。							
		自然植生分布図、植生区分別分布図等に分割して示してもよ							
		V v₀							
		●植生概況(文章)	5.検討結果						
		山地、海岸部等の植生区分、地域における重要な植生等につ							
		いて、ごく簡単にまとめる。							
		●その他の既存資料	5.検討結果						
		特定植物群落の分布、既存の植生図等を示す。植生配分が地							
		形、地質等の環境要素に強く影響を受けている整備地域では、							
		地質図、地形分類図等を示しても良い。	7.収集資料 表						
	THE THE THE	●収集資料一覧表	6						
3	現地調査計画及び	●現地調査計画の概要	3.現地調査結果						
	調査結果	重点地域・植生、調査区分等について図示する。調査地点配	概要 表 3.1						
		分表は不要。	図 3						
		●現地調査地点位置図 地形図等を基図として、地点位置を表示する。	5.検討結果						
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9.7天时和木						
		■ 国際の業といる場合■ 区分の難しい凡例や仮凡例については、組成表または個票を							
		示す。参考資料としてもよい。							
4	使用凡例案	●現地調査、既存資料及び 1/5 万植生図をもとに選定した凡例	2.凡例一覧 表						
1	(X/11/11/11 /)	案	2						
		^^ 隣接図の使用凡例、1/5 万植生図凡例のなかで使用しなかった	_						
		凡例とその理由を付記する。これらは別表としてもよい。							
5	植生図作成上の課		5.検討結果						
	題	クラス域の境界、隣接植生図との不整合、二次林の分布境界							
		等、植生図作成上の課題を 1/5 万植生図データ等を用いて図示							
		し、概要をまとめる。							
参	植生図の作成手法	●植生図作成方法、図化手法及び GIS データ作成手法に関する	1(2)作成手法						
考		フローチャート及び説明文							
資	ヒアリング調査票	●業務開始時のブロック統括委員の助言、ブロック検討委員の	資料 7						
料		助言等のヒアリング結果							
都道序	苻県提供資料	都道府県から資料提供があった場合、会議資料に追加する。	_						
規定	資料外の資料	上記資料のほかに検討すべき事項がある場合、任意に資料を作							
		成する。							

2.5.2 会議の開催

現地調査法人は、会議資料をもとに植生図の作成状況を報告し、作成中の植生図全図を並べて提示し、会議出席者の意見を収集する。会議では、以下の事項を優先して協議する。統一凡例にない新規凡例については、技術専門部会(凡例検討部会)での検討が必要であるため、ブロック調査会議での検討に必要な資料を準備し提示すること。

- 使用凡例案の適切性
- ▶ 重点地域として選定した地域の植生の図化方法
- ▶ 1/5 万植生図からの大きな変更点(使用しなかった 1/5 万植生図凡例と根拠等)
- ▶ その他植生図作成上の課題

現地調査法人は、植生図の精度向上のため、ブロック検討委員より専門的な立場からの助 言を受ける。

幹事法人は、1次管理資料の確認結果等を会議にて報告する。

環境省は、植生図の作成状況の報告と協議の内容について確認する。

2.5.3 議事録及び議事概要の作成

現地調査法人は、会議開催後 14 日以内に第1回ブロック調査会議の議事録及び議事概要を作成し、ブロック統括委員及び検討委員、環境省及び幹事法人に提出する。正確な議事録作成のために、会議中の発言を録音するか速記者を配置する。環境省及び幹事法人は、提出後1週間以内に議事録及び議事概要の内容を確認し、修正の必要があれば現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は、修正を終えた議事録及び議事概要をブロック統括委員、環境省及び幹事法人に提出する。

2.5.4 会議後の打ち合わせ(中間打ち合わせ)

原則として第1回ブロック調査会議終了後(当日)に、以下の事項について打ち合わせを 行う。必要に応じて、ブロック統括委員及びブロック検討委員に同席いただく。打ち合わせ の手順、記録簿の作成等については2.2.2 打ち合わせ を参照のこと。

- ▶ 第1回ブロック調査会議の協議結果に関する今後の対応
- ▶ 1次管理資料に修正の必要があった場合、修正内容と修正完了の期日
- ▶ 植生図作成の進捗状況の確認と今後の予定

2.6 凡例検討部会

2.6.1 仮凡例の検討

第1回ブロック調査会議で仮凡例 (新規凡例または検討を要する凡例) が挙げられた場合、 現地調査法人は、幹事法人が主催する凡例検討部会に出席し、仮凡例について報告を行う。 また、凡例検討部会の委員から、会議前に現地調査法人へ問い合わせがあった場合は回答を 行う。現地調査法人が事前に提出する仮凡例等の検討資料の項目を表 2.6.1 に示した。

幹事法人は、現地調査法人や凡例検討部会委員の意見を受けて、必要な資料を調整し仮凡 例検討資料として凡例検討部会に提出する。また、RL種の有無を確認し、RL種を含む場合 は公開用凡例案を提出する。

なお、凡例検討部会の検討を効率的に行うため、関連する既存凡例との違いが明確になるよう、現地調査結果に加え、既存資料の組成データや、過年度調査の組成データを組み入れた組成表を作成する。

表 2.6.1 仮凡例検討資料の項目

- 1. 大・中・細区分の位置づけ
- 2. 群落の内容
- 3. 関連する既存凡例とのちがい(新設する理由)
- 4. 関連するブロック凡例とのちがい
- 5. 別添資料組成調査票、組成表、現地写真、調査地点位置図、分布図、空中写真、既存資料、ブロック凡例案<以上、現地調査法人>
- 6. RL種の有無と公開用凡例案<幹事法人>

仮凡例の条件

仮凡例は次の要件の①と②を満たし、かつ③以下のいずれかにあてはまるものとする。

- ① <u>当該の群落の種組成を検討できる調査資料があり(原則として2地点以上、既存資料でもよい)、類似する既存の植生単位と明らかに区別できること。</u>ただし、組成的には明らかに区分できなくても均質な群落が広がりを示している場合は抽出して検討する。
- ② 1/25,000 の縮尺で図化可能な分布範囲・面積であること。
- ③ 局地的であっても希少性が高く、図化する必要性が高い群落であること。
- ④ シカ採食草原など野生動物による植生変化の観点から植生図化の必要性が高い群落であること。
- ⑤ 侵略的外来種が著しく広い範囲に優占していて、植生図化の必要性が高い群落であること。
- ⑥ 特定種等の希少な個体群の植分ではないこと。
- ⑦ 維管東植物を主要構成種とする群落であること。

※凡例の類推が困難な不明な箇所に対し、凡例として登録されていない既存凡例の大区分レベル、中区分レベル の凡例を適用することがある。その場合も仮凡例として凡例検討部会で検討する。

2.6.2 仮凡例の検討フロー

仮凡例の検討から新規凡例登録までのフローを図 2.6.1 に示す。

幹事法人は、凡例検討部会の仮凡例検討結果をまとめ、追加される凡例の色を設定する。

現地調査法人は、凡例検討部会の検討結果を第2回ブロック調査会議で報告する。また、 設定された色で植生図を出力し、仮凡例の色を確認する。修正案や仮凡例の追加がある場合 は幹事法人に提出し、凡例検討部会で再検討する。

凡例検討部会の仮凡例検討結果が第 2 回ブロック調査会議で承認されなかった場合、植生 分科会で仮凡例の最終確認を行う。

植生分科会の承認を受けて新凡例として決定した場合は、現地調査法人は新凡例コードと 凡例名及び凡例色を用いて植生図の図化を行う。

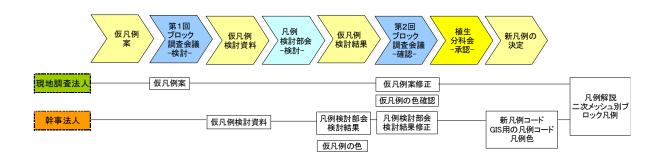


図 2.6.1 新規凡例登録までのフロー

2.7 植生図 GIS データの作成

2.7.1 植生図案の確定

(1) 使用凡例及び図化基準の確定

現地調査法人は、第1回ブロック調査会議の協議結果、現地調査結果及び収集した地域植生情報等をふまえ、使用凡例案の追加、変更の検討を行い最終的な使用凡例を確定する。 また、作成者間の図化精度を均一化するため、主要凡例について図化基準の調整を図る。

各凡例は、原則として統一凡例の細区分に位置づけられたものとし、中区分または大区分の追加、変更がある場合は検討課題として整理する。

確定した凡例には凡例番号をふり、各凡例について現地調査結果をもとに以下の項目等を 追加し、図化基準を確定する。

- ▶ 優占種
- ▶ 分布・立地
- ▶ 類似群落との区別点
- ▶ 優占種調査地点、組成調査地点
- ▶ 2次メッシュ (図幅) 単位での凡例の出現状況

(2) 区分線・区分内容の確定

現地調査法人は、承認を受けた1次確認用植生図(ブロック調査会議での助言を踏まえた 修正が求められた場合にはその修正を施したもの)と同程度の精度で担当図幅全体の植生 図案の区分内容・区分線を確定し、最終的な植生図作成に向けて作業を進める。現地調査 法人の業務管理者は、幹事法人の1次確認用植生図の確認結果及びブロック調査会議の指 摘事項を各作成者に周知し、図幅ごとの精度管理を徹底する。

2.7.2 植生図 GIS データの入力および修正

現地調査法人は、確定した植生図案の GIS 入力を行う。 GIS データの入力は「植生図 GIS データ作成ガイドライン」、 GIS データの仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書」に従う。

ディスプレイ上で画像を判読しながら GIS 入力を行う手法の場合は、区分線の屈曲が細かくなりすぎないように留意する。植生判読の際には画像の拡大表示と縮小表示を繰り返すことになるが、区分線を入力表示縮尺としては、標準的な山地植生で概ね 1/7,000~1/8,000 程度が望ましい。区分線を入力する表示縮尺は、整備地域の植生の細かさによって適切な縮尺を決めることとし、作成者間で表示縮尺の統一を図る。

GIS データ入力後、各図幅の作成者は GIS データの紙出力図 (1/2.5 万縮尺) を確認し、区分線の位置ずれ、凡例間違い、誤判読等をチェックし、データの修正を行う。これらの作業を繰り返し、植生図 GIS データを完成させる。

植生判読と GIS 入力を同時並行で行う作成手法においても、植生図 GIS データの紙出力図 (1/2.5 万縮尺) を確認し、GIS データの修正を行う。

2.7.3 2次管理資料の提出と進捗状況の報告

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議の1ヶ月前までに、植生調査業務の精度を示す管理資料として、次に示す2次管理資料((1)~(5))を環境省及び幹事法人に提出する。

2次管理資料は幹事事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である(確認及び承認の手順は「2.1 管理資料の確認・承認手順」参照)。

(1) 2次確認用植生図一覧表・一覧図

各図面の管理者、作成者、使用した写真、判読上の問題等を一覧表にとりまとめ、位置を一覧図に示す。 2 次確認用植生図の対象範囲は、 1 次確認用植生図の確認を行った部分を含む図面一面(5 面あたり 1 面)とする。

(2) 使用凡例及び図化基準

確定した使用凡例一覧、主要凡例についての図化基準を管理資料とする。

(3) 2次確認用植生図

2次確認用植生図は図面一面の GIS データ出力図 (縮尺 1/2.5 万) を単位とし、業務管理者が精査したものとする。現地調査法人の業務管理者は、2次確認用植生図を作成するにあたり、各作成者の作業内容を精査し、図化精度の均一化を図る。また、幹事法人の1次確認用植生図確認結果及び第1回ブロック調査会議の指摘事項が植生図に反映されているかの確認を行う。これまでの指摘事項が反映されていない場合は、業務管理者または作成者が修正を行い、2次確認用植生図を完成させる。

(4) 1次確認用植生図の反映結果図

現地調査法人の業務管理者は、幹事法人の1次確認用植生図の確認結果及び第1回ブロック調査会議の指摘事項についての反映結果を「1次確認用植生図の確認結果」に記入したもの(手描きでもよい)を管理資料とする。

(5) 植生図 GIS データ

植生図 GIS データの shp ファイルを管理資料とする。この後の工程で GIS データを修正 することがあるため、各種 GIS データ検査 (植生図 GIS データ作成ガイドライン P11 4.9 データの検査 参照) をクリアしていなくともよい。

2.7.4 植生図全図の確認

(1) GIS データの出力と確認

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議までに整備地域全域の植生図 GIS データ及び 出力図を作成し、会議で提示する。また、植生図の全体図(縮小版)を作成し、植生概況を 把握するとともに図面間の不連続等を確認する。

会議前に出力図により全図面の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておき、協議資料としてまとめる。

(2) 全図面の区分内容の確認(全図展開チェック)

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議の前に、出力図全面を並べて区分内容の確認を行う全図展開チェックを実施する(図 2.7.1 参照)。確認事項は、<u>植生学上の間違いがないか、</u>個別の図面では確認しにくい問題点がないか(図面間の隣接部分、作成者による著しい差等)、GIS データ入力時に発生する間違いがないか等とする(1.8 植生図の図化指針及び資料1参照)。この時点で図化基準の検討が必要な場合は、第2回ブロック調査会議での検討課題とする。

会議前に出力図全面の展開チェックにより全体の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておき、協議資料としてまとめる。

全図面の確認時には、図面一面一面の確認を同時に行うと効果的である。



図 2.7.1 植生図の全図展開チェック写真

(3) 過年度図幅との接合の確認

現地調査法人は、過年度作成図と接合する図幅について、接合エラーを調整する。ただし、 経年変化等の理由で接合できない場合は不整合とする。過年度の植生図の修正が必要な場合は整備地域の内部でポリゴンを無理に閉じず画像にしたがって図郭境界まで線引きし、 接合エラー修正図案をとりまとめる。植生図が Web-GIS でシームレスに表示されるように なったため、過年度の植生図の修正が必要な場合は、GIS データの修正を行うことが望ま しい。過年度植生図との不整合と対応策については、表 2.7.1 を参考にする。

表 2.7.1 植生図 (A図) と過年度植生図 (B図) の接合

接合図(B図) のデータ仕様	A図の接合方法	接合エラー	データ作成方法			
GISデータ	どについて図郭間で一致	①同じ凡例がない場合 A図にB図と類似する凡例を適 用しノードを一致させる。 ②古いB図に変化がある場合 Bの出力図に赤で修正内容を記 入する。	A GISデータ図面 a B GISデータ図面 B			

(4) GIS データの確認

現地調査法人は、GIS データの構造を確認する。以降の作業段階で図形の変更が発生する可能性があるため、納品検査用の論理検査プログラムではなく GIS ソフトで対応可能な確認でもよい。問題点があれば打ち合わせ等で協議する。

2.8 第2回ブロック調査会議

第2回ブロック調査会議の目的は、「調査成果を確認し、植生図としての精度が確保されているかを検討する」ことにある。

第2回ブロック調査会議は植生図の全面最終案が出来た段階で開催し、植生分科会開催前の2 月下旬までに終了することとする。会議の出席者等は1.5.3(3)を参照する。なお、整備地域に係わる都道府県のブロック検討委員が欠席した場合にはヒアリングを行い、ヒアリング調査票にとりまとめて環境省及び幹事法人に提出する。

2.8.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載

現地調査法人は、必要に応じてブロック統括委員及び幹事法人と協議を行い、表 2.8.1 に示す会議資料を作成して会議開催1週間前までに環境省及び幹事法人に提出する。幹事法人及び環境省は提出後3日以内に資料の内容を確認・承認する。承認後、現地調査法人は、会議資料をブロック調査会議検討委員あてに事前送付するとともに、業務管理サイトに会議資料を掲載し、出席者に周知する。事前送付の日程がとれない場合には、環境省及び幹事法人と調整する。

表 2.8.1 第2回ブロック調査会議の提出資料

No.	資料名	次 2.0.1 第 2 回 2 日 2 2 調査 五 議 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	報告書との対応
0	議事次第	●議事次第、出席者	
1	協議事項	●第2回ブロック調査会議の協議事項	_
	100 FEAT 1 7 1	第1回ブロック調査会議であげられた検討課題、第1回ブ	
		ロック調査会議以降に発生した問題点等から、当日の協議	
		事項をまとめる。	
2	整備地域	●整備地域の一覧図	1.整備地域 図1
		第1回ブロック会議資料と同じ	
3	使用凡例	●使用凡例表	2.凡例一覧
		│ │ 凡例検討部会の結果を反映する。現地写真、組成表、個票	表 2
		等で説明を補足してもよい。	
4	調査結果	●植生図案の全体図(縮小版)および植生概況(文章)	以下、5.検討結果
	1971	地形図または陰影図を基図とし、作成した 1/2.5 万植生図	3.1 (3.1)(4.7)(4.7)
		GIS データを用いて全体図を作成する。また、1/5 万植生	
		図との比較結果をまとめる。	
		●自然植生分布図等の主題図および植生の特徴(文章)	
		地形図または陰影図を基図とし、作成した 1/2.5 万植生図	
		GISデータを用いて、自然植生の分布図、クラス域別の植	
		生区分図を抽出して分布図を作成する。主題図の種類は、	
		会議の協議事項を踏まえて選定する。また、必要に応じて	
		1/5 万植生図との比較結果をまとめる*。1/5 万植生図の凡	
		例適用を大きく変えた場合は場所と理由を示す。(例:ブナ	
		林→ツガ林、岩角地・風衝地低木群落→なだれ地低木群落)	
		*1/.5 万植生図を2次メッシュに分割して拡大表示することは不要。	
		●重点地域の 1/2.5 万植生図および植生の特徴 (文章)	
		重点地域の植生について、図表や写真等を用いて調査結果	
		を簡単にとりまとめる。会場提示した植生図を用いて説明	
		してもよい。	
		●現地写真	 参考資料 4
		植生の状況をわかりやすく示すため、必要に応じて現地写	JAN 1
		真を資料に差し込む。	
5	検討結果	協議事項の検討結果について、必要に応じて主題図等に図	5.検討結果、植生
	100111111111	示し、現地調査法人の検討結果をとりまとめる。	分科会資料
		●特定植物群落等、重要な植物群落の確認結果を位置図と	6.特定植物群落等
		一覧表にまとめる。	0.117/2121/0411414
6	植生図出力図	●植生図出力図	
		1/2.5 万縮尺の出力図全面を会場に提示する。凡例色設定を	
		確認する。隣接図との接合に問題があれば協議する。	
参	第1回ブロック	●第1回ブロック調査会議議事録	資料 2
考	調査会議議事録	The state of the s	
資	現地調査結果の	●現地調査結果の概要	3.現地調査結果概
料	概要	調査地点位置については、組成調査地点と優占種調査地点	要表3.1、図3
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	を色分けする等、違いがわかるように図示する。	
	凡例解説案	●凡例解説(必須ではない)	表 4
都道	府県提供資料	該当県および任意の県から資料提供があった場合、会議資	_
그다시크/	14 / NAC / NEW TH	料に追加する。	
規定	 資料外の資料	上記資料のほか、検討すべき事項がある場合、任意に資料	_
/9L/L	東市バマスト	工品質性のはが、機関すべき事項がある場合、圧息に質性 を作成する。	
		CICHA) 'Oo	

2.8.2 会議の開催

現地調査法人は、会議資料をもとに最終成果から得られた知見等を報告し、整備地域全域 の植生図案を並べて提示する。会議では、以下の事項を優先して協議する。

- 植生図の精度
- ▶ 整備地域全体の植生配分(1/5 万植生図との比較等)
- ▶ 植生図作成上の課題の検討結果

現地調査法人は、ブロック検討委員による植生図の精度向上のための専門的な立場からの 助言を受ける。特に図幅ごとの植生図の精度について確認を受け、修正の必要な箇所の指摘 を踏まえ修正方法を協議する。(指摘を受けた修正内容については後の修正漏れがないよう付 箋等で記録しておく)。出席者が植生図を確認する時間を会議時間中に確保する。

幹事法人は、会議にて最終成果及び進捗状況の確認結果等を報告する。 環境省は、植生図の作成状況の報告と協議の内容について、確認する。

2.8.3 議事録及び議事概要の作成

現地調査法人は、会議開催後 14 日以内に第 2 回ブロック調査会議の議事録及び議事概要を作成し、ブロック統括委員及び検討委員、環境省及び幹事法人に提出する。正確な議事録作成のために、会議中の発言を録音するか速記者を配置する。幹事法人及び環境省は、提出後10 日以内に議事録及び議事概要の内容を確認し、修正の必要があれば現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は、修正を終えた議事録及び議事概要を環境省及び幹事法人に提出する。

2.8.4 会議後の打ち合わせ(中間打ち合わせ)

原則として第 2 回ブロック調査会議終了後(当日)に、以下の事項について打ち合わせ協議を行う。修正の必要が生じた場合には、ブロック統括委員等に同席いただき、植生図修正の確認工程について協議する。打ち合わせの手順、記録簿の作成等については、2.2.2 打ち合わせ を参照のこと。

- ▶ 第2回ブロック調査会議の協議結果に関する今後の対応
- ▶ 最終成果に修正の必要があった場合、修正内容と修正完了の期日
- ▶ 植生図作成の進捗状況の確認と今後の予定
- ▶ 植生分科会で報告するブロック別成果の内容

2.9 植生分科会

現地調査法人は、植生分科会に出席し、植生図案から得られた知見等について概要を報告する。 また、整備地域全域の植生図案を会場に提示し、植生分科会委員の確認を受ける。

幹事法人は、植生分科会の会議資料を作成し、各ブロックの植生図案化の精度管理結果等について報告を行う。また、技術専門部会やブロック調査会議であげられた課題のうち全国統一の必要性の高いものを整理し、対応策が示せるものは案をとりまとめる。

植生分科会委員は、現地調査法人及び幹事法人の報告結果について、専門的な立場から意見を述べる。また、植生図案を確認し、修正の必要があれば意見を述べる。

2.10 成果品の作成

現地調査法人は、成果品案を作成し、幹事法人及び環境省の確認を受ける。全ての成果品案について確認を行うものであり、幹事法人及び環境省からの指摘事項を踏まえた修正を実施し、成果品として環境省に納品する。

2.10.1 植生図の最終確認

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議以降に修正した植生図の最終確認を行う。現地調査法人は、幹事法人が作成した「2次確認用植生図の確認結果」、第2回ブロック調査会議議事録、及び植生分科会にて指摘を受けた場合は該当指摘事項と照合し、幹事法人等の指摘箇所が植生図出力図に反映されているかどうか確認する。2次確認用植生図の反映結果については、幹事法人が作成した「2次確認用植生図の確認結果」に書き込み、管理資料として成果品案とともに幹事法人に提出する(2.10.2 参照)。

2.10.2 成果品案等の提出

(1) 成果品案確認の提出物

現地調査法人は、表 2.10.1 に示した成果品案及び管理資料 (2次確認用植生図の反映結果図)を幹事法人に送付し、幹事法人による成果品案の確認を受ける。報告書案は、業務管理サイトにアップし、環境省、幹事法人の確認を受ける。

提出資料

成果品案

1 GIS データ出力図及び接合部修正案

2 電子ファイル (報告書案、GIS データ、現地調査 データベース)

3 2次確認用植生図の反映結果図

4 電子ファイル (GIS データ論理検査ログファイル、現地調査データベースエラーチェック結果)

表 2.10.1 成果品案確認のための提出物

1) GIS データ出力図及び接合部修正案

「植生図 GIS データ製品仕様書」、「植生図 GIS データガイドライン」により作成した植生図の GIS データ出力図。

過年度植生図と不整合がある場合は、接合部修正図案を添付する。

2) 電子ファイル

3. 調査成果とりまとめ($3.3\sim3.5$ 参照)により整理した報告書案、GIS データ、現地調査データベースの電子ファイル。

3) 2次確認用植生図の反映結果図

幹事法人の2次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図

(2) 確認結果の連絡

幹事法人及び環境省は、主に以下の事項について成果品案の確認を行い、必要に応じて植生分科会座長もしくはブロック統括委員に確認した上で環境省と調整し、指摘事項について現地調査法人へ連絡する。現地調査法人は連絡を受けた事項に対して対応方針を検討する。

- ▶ 中間打ち合わせで合意した修正事項について未修正の箇所
- ▶ 植生区分または入力方法に問題のある図幅(空中写真、現地写真による確認)
- ▶ 未決定凡例(仮凡例、二次林の適用等の決定方法)
- ▶ その他改善すべき事項(凡例色の変更等)

2.10.3 成果の確認

現地調査法人は、納期の 10 日前を目途に幹事法人及び環境省より、修正した成果品案について確認を受ける。確認は GIS データ出力図を中心に行う。現地調査法人は、植生図一面一面について具体的な修正内容も含め環境省もしくは幹事法人からの指示を受け、修正内容の協議を行うとともに、合意した修正を納期までに完了させる。

2.11 納品

現地調査法人は、修正事項を反映させた成果品一式を作成し、環境省に納品する。環境省は修正がなされていることを確認する。また、<u>現地調査法人は、承認後の報告書及び植生図 GIS 出力図をブロック調査会議関係者(ブロック統括委員、ブロック検討委員、整備地域に該当する都道府県の担当者)に送付する。</u>

3. 調査成果とりまとめ

3.1 成果品の概要

3.1.1 成果品の概要

- 成果品は植生図、報告書、及びそれらに対応する電子ファイルからなる。電子ファイル には内部管理資料として現地 DB、現地写真等の電子ファイルのみのものも含まれる。 また、判読に使用した空中写真は原則として全て納品する。本章は下記の項目に分けて 述べる。
 - ➤ GIS 植生図の出力図
 - ▶ ブロック版報告書
 - ▶ 現地調査データ
 - ▶ 電子ファイル (電子媒体)
 - ▶ 空中写真・判読参照画像等
- 植生図は、秘匿すべき環境省レッドリスト(以下、RL種)が含まれる凡例がある図面は 非公開の「確認用」植生図とし、別途環境省 RL 種が含まれない「公開用」植生図を作 成する。
- 報告書は、構成の異なる「公開用」報告書と「確認用」報告書の2種を作成する。「公開 用」報告書は秘匿すべき環境省 RL 種を除いて作成する。
- 成果品その他の概要を表 3.1.1~表 3.1.3 に示す。報告書(紙媒体)の部数は仕様書参照。
- 下記の点に留意する。

【成果品の留意点】

▶ ブロック版報告書

本編 1 の表題を調査概要に、表 1-1 の表題を 2 次メッシュ別管理リストに変更する。(表 3.1.1 参照)

➤ GIS 植生図出力図

出力図右下に管理番号のラベルを貼る。

▶ 現地調査データ

組成(資料)は表3.4.5に示す方法により入力する。

- ▶ 電子ファイル (電子媒体)
 - 内部管理用 CD に隣接図修正案を収録する。
- > 空中写真·参照画像等

空中写真は専用アルバムまたは適切なフォルダに収録する。

表 3.1.1 成果品一覧1(紙媒体)

区分	調査年度	ブロック (例)	該当電 子ファイル コード	内容	備考	詳細
報告書	H28	北海道	1-3	ブロック版報告書		公開用
拟口音	H28	北海道	4-5	ブロック版報告書(確認用)		確認用
	H28	北海道	6.7	植生図 GIS 出力図		計〇枚
植生図 GIS 出力図	H28	北海道	8-9	植生図 GIS 出力図(環境省 RL 情報あり) *		計〇枚(秘匿すべき環境 省RL情報がない場合はな し)
空中写真·	H28	北海道	-	空中写真アルバム		空中写真計〇枚
参照画像	H28	北海道	13	参照画像出力図		納品可能な場合のみ

- * 秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例がない場合は不要
- * この他、ブロック版報告書(確認用)、植生図出力図は、ブロック調査会議関係者(ブロック 統括委員、検討委員、該当する都道府県担当者)に送付する。

表 3.1.2 成果品一覧 2 (電子ファイル)

区分	調査 年度	ブロック (例)	電子ファ イルコード	内容	備考	数量	詳細
	H28	北海道	1–3	ブロック版報告書		3	公開用報告書の pdf・オリ ジナルファイル
報告書	H28	北海道	4–5	ブロック版報告書(確認用)		2	確認用報告書の pdf・オリジナルファイル、ブロック調査会議資料の pdf・オリジナルファイル
	H28	北海道	6	植生図 GIS データ	正	1	公開用 shp データ、色設定
植生図 GIS	H28	北海道	7	植生図 GIS データ	副	1	ファイル
データ	H28	北海道	8	植生図 GIS データ(環境省 RL あり)*	Œ	1	秘匿すべき環境省 RL あり
	H28	北海道	9	植生図 GIS データ (環境省 RL あり) *	副	1	版を含む shp データ、色設 定ファイル
	H28	北海道	10	内部管理用データ	正	1	現地データ・現地写真・そ の他の管理ファイル
内部管理用	H28	北海道	11	内部管理用データ	副	1	現地データ・現地写真・そ の他の管理ファイル
データ	H28	北海道	12	内部管理用データ(数値地図)		1	背景図の数値地図等
	H28	北海道	13	内部管理用データ(参照画像)		1	納品可能な場合のみ

^{*} 秘匿すべき環境省RL種を含む凡例がない場合は不要

表 3.1.3 成果品の概要

		公開用	確認用(非公開)	内部管理用(非公開)		
報告	報告書 (紙媒体)		ラベル あり/なし ※環境省配種の有無にかかわらず必ず作成する ※環境省配種が出現する場合は「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする複製をブロック統括委員、検討委員全員、行政担当官に送付。			
*	報告書 (電子ファイル)	上記に該当するファイル ORG.PDF	上記に該当するファイル ORG.PDF ラベル あり/なし ※環境省凡種が出現する場合 は「環境省凡情報あり 取扱注 意」とマークする	現地DB 現地写真 作業用Shp等 空中写真情報 過年度植生図修正案jpg		
植生	植生図 (紙媒体)	図面一式 図面 複製をブロック統括委員、担 当県委員、行政担当官に送 付。	図面 複製をブロック統括委員、担当県委員、行政担当官に送付。 ※「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする			
X	植生図 (電子ファイル)	Shp. Jpg. 凡例色設定Shp ログファイル 一式	ラベル Shp. Jpg一式 環境省RL情報 凡例色設定Shp ※「環境省RL情報あり 取扱注 意」とマークする	数値地図(背景図として加工したもの) 作業用Shp等		
空中写真・	空中写真・参照画像 (紙媒体)		※秘匿凡例のあるブロックのみが該当する。 他のブロックは不要。	空中写真アルバム 参照画像出力図 (ネットで公開されて いる画像は除く)		
参照画像	空中写真・参照画像 (電子ファイル)			判読に使用した画像・デジタルオルソ		

3.1.2 環境省 RL 種にかかわる情報

- 環境省 RL 種にかかわる情報とは、秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例、秘匿すべき環境 省 RL 種及びこれらの所在地等のうち、凡例検討部会等の協議により秘匿対象となった ものを指す。
- 公開用の成果品は、RL種にかかわる情報を抽出し凡例置換、削除等によって調整する(表 3.1.4)。

報告書

公開用報告書は、確認用報告書をもとにして、「新 RL 抽出マクロ」*等を用いて環境省 RL 種がないように文章や表を整える。変更内容は報告書の資料に示す。

*幹事法人から配布

植生図

公開用植生図は、秘匿すべき RL 種を含む凡例を凡例検討部会で設定した別凡例に置き換える。同じ凡例が隣接する場合はポリゴンを統合する(植生図 GIS データ作成ガイドライン第 2.2 版参照)。

表 3.1.4 環境省 RL 種にかかわる情報と公開用データ作成方法

	11.6	公開用デー	lik de		
	対象	タ作成方法	備考		
報告書	環境省 RL 種を含む凡例のうち、公開 561 種に該当せず凡例検討部会の協議により 秘匿対象になったもの	置換・統合	報告書用の新RL抽出マクロで抽出し置換する。		
	環境省 RL 種のうち、公開 561 種に該当 せず凡例検討部会等の協議により秘匿対 象になったもの	削除	報告書用の新RL抽出マクロで抽出し削除する。		
	環境省 RL 種を含む既存の群落名	削除	報告書用の新RL抽出マクロで抽出し別名に変更する。		
	"稀少""貴重種"等の語	削除	凡例解説、本文から検索し削除する。		
	秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例の位置が特定可能な表現	削除	位置情報を地域名等に変更する。		
植生図	秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例	置換/統合	属性の凡例コード、凡例名等を置換する。 凡例番号は以下を確認して記入する。 ①置換後の凡例がブロックの凡例にない。→凡例番号は変更しない。 ②置換後の凡例がブロックの凡例にすでにある。→凡例番号をすでにある凡例と同じにする。また、置換した結果同じ凡例のポリゴンが接する場合はポリゴンを統合する。		

^{*2011}年に公開種が408種から561種に変更されため、2012年度から561種とした。

3.2 GIS 植生図の出力図

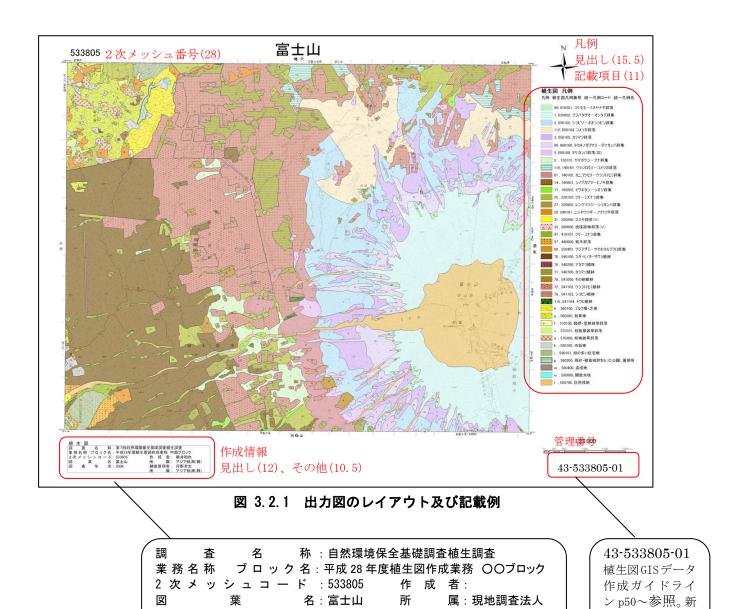
調

査

3.2.1 GIS データおよび植生図

植生図 GIS データおよび植生図の仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書(第 2.0 版)」「植生図 GIS データ作成ガイドライン(第 2.2 版)」に準ずるものとする。

植生図出力図(図 3.2.1) は各1部作成し納品する。また、植生図を複製し、ブロック調査会議関係者(ブロック統括委員、検討委員、該当する都道府県担当者)に送付する。



植生図GIS出力図は折らずに紙筒等に格納する(形態は任意)。図葉リストを必ず添付する。

業務管理者

属:現地調査法人

所

規作成図は後に

-01を付ける。

次:2013

3.3 ブロック版報告書

植生調査の結果は、植生調査報告書(ブロック版報告書)<u>公開用と確認用</u>にとりまとめる。 公開用報告書と確認用報告書との違いは次のとおりである。

- ・公開用報告書はRL種を削除または置き換える。
- ・<u>資料の構成が異なる</u>。公開用報告書の資料は議事概要のみであるが、確認用報告書の資料はその他に議事録、RL 種出現状況、図化基準等を含む。
- ・確認用報告書の方が作成上は重要であり、確認用報告書から公開用報告書を作成する。
- ・確認用報告書は納品するほかに、ブロック統括委員、検討委員全員、該当する都道府県担 当者に送付する。

ブロック版報告書は所定の「ブロック版報告書フォーム*」に従って作成する。

*「ブロック版報告書フォーム」のファイル(ワード、エクセル)は幹事法人から送付する。

3.3.1 ブロック版報告書の仕様

(1) 分冊方法

法人別ブロック別に分け「公開用」と「確認用」を作成する。

公開用報告書は、秘匿すべき環境省 RL 種等について、位置が特定できる表現や貴重種を 多く含むという表現を基本的に全て削除する。

確認用報告書は環境省 RL 種等の秘匿を行わないものとし、秘匿すべき環境省 RL 種等を含む場合は「環境省 RL 情報あり(取扱注意)」のマークを付ける。RL 種が無い場合は表紙のマークは不要であるが、必ず確認用(非公開)と記載する。

(2) 製本

- 公開用報告書の体裁は表紙にミント(レザック 66 175 kg)を用い、くるみ製本とする。
- 確認用報告書の体裁は表紙にミント(レザック 66 175 kg)を用い、くるみ製本とする。
- 用紙は可能な限り市中回収古紙を含む再生紙を使用する(図 3.3.1)。

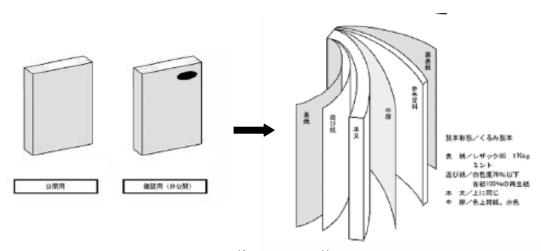


図 3.3.1 装丁・印刷形態

(3) ページのふり方

- ◆ 先頭に、遊び紙、はじめに、サマリー、まえがき、目次(ページ外)をおく。
- 中扉は水色紙とし参考資料目次、資料目次(確認用報告書のみ)を印刷する(ページ外)。
- 本文は"-1-"、参考資料は"-参1-"、確認用報告書の資料は"-資1-"からの連番と
- A4は原則として両面印刷とし、右側ページは奇数、左側ページは偶数とする。
- A3は片面印刷とし右下に奇数と偶数2ページを連続してふる(例:-1--2-)。
- A3をはさむと、その前のA4が奇数ページの場合はA4裏面を白紙とし1ページ分と ばす (図 3.3.2)。

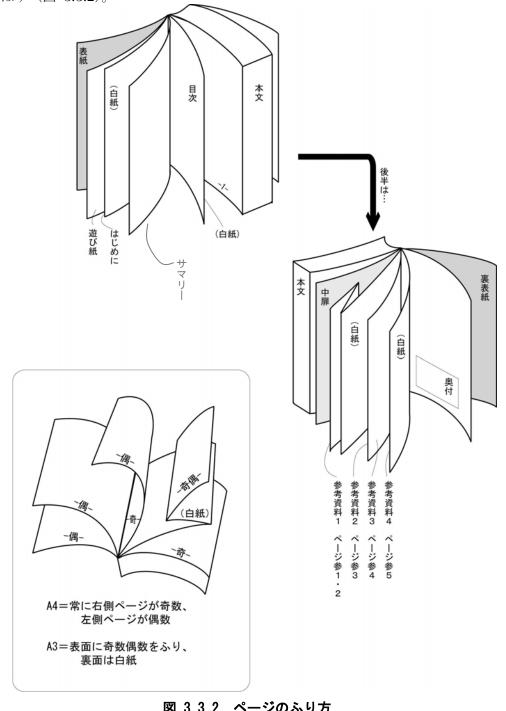


図 3.3.2 ページのふり方

3.3.2 ブロック版報告書の作成

(1) 目次·構成

ブロック版報告書は公開用・確認用ともに本編、資料編、参考資料の構成とする。目次・図表・資料一覧を表 3.3.1 に示す。

表 3.3.1 植生調査報告書くブロック版>の目次・図表・資料一覧

	報告書の構成	公開用	確認用	備考
	本文	•	0	
	1調査概要			
	2凡例一覧			
١.	3 現地調査結果概要			
本編	4ブロック別凡例解説			
1710	5 検討結果			
	6 特定植物群落等			
	7 収集資料			
	8検討委員・調査者			
	図1 整備地域	0	0	ブロック調査会議規定資料
	表 1-1 2次メッシュ別管理リスト	0	0	実施計画書
	表 1-2 判読情報_2016_〇〇	0	0	
	表 2 ブロック別凡例一覧表_2016_〇〇	•	0	ブロック調査会議規定資料
	表 3-1 現地調査概要	0	0	ブロック調査会議規定資料
本	表 3-2 調査地点一覧(組成調査)	•	0	ブロック調査会議規定資料
本編中図	表 3-3 調査地点一覧(優占種調査 1・2)	•	0	ブロック調査会議規定資料
図	図 3 調査地点位置図	0	0	ブロック調査会議規定資料
表	表 4 ブロック別凡例解説	•	0	
	表 5-1・図 5-1~	•	0	
	図 6 特定植物群落等位置図	0	0	ブロック調査会議規定資料
	表 6 特定植物群落等確認結果一覧表	0	0	ブロック調査会議規定資料
	表 7 収集資料一覧表	0	0	ブロック調査会議規定資料
	表8 〇〇ブロック検討委員・調査者名簿	0	0	
	資料 1 非公開の環境省 RL 種の掲載状況	-	0	
	資料 2−1 第1回○○ブロック調査会議議事概要	•	0	
	資料 2-2 第 2 回○○ブロック調査会議議事概要	•	0	
	資料 3−1 第 1 回○○ブロック調査会議議事録	-	0	ブロック調査会議規定資料
資	資料 3−2 第 2 回○○ブロック調査会議議事録	-	0	
資料編	資料4 〇〇ブロック検討事項一覧表	-	0	
初冊	資料 5 〇〇ブロック図化基準	-	0	ブロック調査会議規定資料
	資料 6 〇〇ブロック凡例	-	0	
	資料7 ヒアリング調査票	-	0	
	資料 8 空中写真・衛星画像の数量	_	0	
	資料9 植生図全体図(植生図一覧図)	-	0	ブロック調査会議規定資料
	参考資料 1 平成 28 年度整備地域一覧(全国)	0	0	
参	参考資料 2 組成調査票サンプル	•	0	
参考資料	参考資料 3 優占種調査票 1 サンプル	•	0	
料	参考資料 4 優占種調査票 2 サンプル	0	0	
	参考資料 5 現地写真サンプル	0	0	

●は秘匿すべき環境省 RL 種を削除する

報告書作成にあたり以下の点に留意する。

- 凡例解説(表4)は凡例の定義、地域的な特記事項(優占種、構造、生態的立地、他 凡例との関係、分布)の順に述べ、原則として254文字以下でまとめる。
- 特定植物群落や重要な植物群落の現地確認結果を位置図(図6)と一覧表(表6)に まとめる。
- ●議事概要、議事録の参加者所属・役職とブロック検討委員・調査者名簿(表8)のそれとを一致させる。
- 本編 5 の検討結果はブロック調査会議等の具体的な資料、図表を示し、検討結果と課題を明確にさせる。
- 環境省の著作物となるため、「環境省は・・・」等の表現は避ける。
- 共通の表記方法に準拠する (例:1/5 万植生図、○○-○○群集等)。
- 表 (エクセルファイル) は文字が隠れないように行幅、列幅を調整する。
- 下記の(2)共通の表記方法に準拠する。特に、<u>群集名に使用する「-」は全角マイナス</u>を用いる。

(2) 共通の表記方法

凡例解説、本文等の用語はすべて以下のように統一する。

1) 調査名等

- 調査地域、調査範囲、対象範囲、整備範囲、整備対象地域 → 整備地域
- 第2回第3回、第2回3回、第2回第3回調査 → 第2回・第3回基礎調査
- 第7回調査 → 第7回基礎調査 (平成22年度以後、第8回の語は不使用)
- 旧植生図 →1/5 万植生図 (平成 22 年度から変更)
- 第6回(平成12年度)以降の植生図→1/2.5万植生図(平成22年度から変更)
- 旧凡例 →1/5 万植生図凡例
- ブロック会議 → ブロック調査会議
- 現地法人 → 現地調査法人

2) 年号

- 文中では和暦 (例:平成27年度)
- DBデータは西暦(例:2015)
- 昨年→具体的な年を和暦で示す。

3) 漢字

など→等

4) 数字

- 2桁以上の数字は半角で統一する。なお、表題の平成2*年度のみ全角とする。
- 1桁の数字は文中では全角で統一し、表やファイル名の数字は原則として半角を用いる。

- 4 桁以上の数字には 3 桁区切りを入れる (例 2,300 m)。
- 植生区分を示すローマ数字 I ~ X は使用可とする。凡例名でローマ数字を使用する場合は半角アルファベット大文字(IV等)で表記してもよい(HTML変換で文字化けするため)。

5) 専門用語

● 群集名に使用する-は全角マイナスを用いる (○○-○○群集)。

(3) 公開用の環境省 RL 種の扱いについて

「3.1.2 環境省 RL 種にかかわる情報」参照。

(4) ブロック版報告書の確認

現地調査法人は報告書案をとりまとめ、環境省および幹事法人に送付する。環境省および 幹事法人によるチェックを受け修正を行い、環境省の承認を得て印刷する。

3.3.3 ファイル作成要領

オリジナルファイルから PDF ファイルを作成し、各フォルダに格納する。

(1) オリジナルファイル

- ファイル名は年度、ブロック、図表および資料番号を_で連結し示す。 (例: 20xx_北海道_表 3-1 組成調査一覧表. xls)
- ファイルから不要なシートは削除する。
- 本編、資料編、参考資料の各フォルダに格納する。

(2) PDF ファイル

- 公開用報告書は全部まとめて 200x_北海道ブロック報告書.pdf とする。
- 確認用報告書も同様に 200x_北海道ブロック報告書(確認用).pdf とする。

3.4 現地調査データ

3.4.1 現地調査データ入出力の概要

現地調査データは、データベースとして整理する。その後出力用ユーティリティーにより個 票や組成表に出力することができるので、組成検討に活用する(図 3.4.1)。

*H27 全国植生 Db, 入力フォーマット、植生データ出力マクロ等は幹事法人により配布す る。

(1) 入力

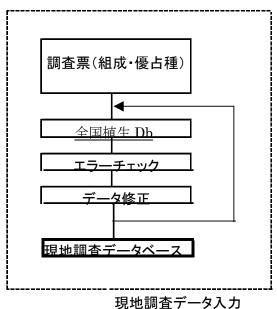
現地調査データの入力は、植生現地調査データベース"H27 植生 Db.mdb" (アクセスファ イル) によって行う (図 3.4.2)。

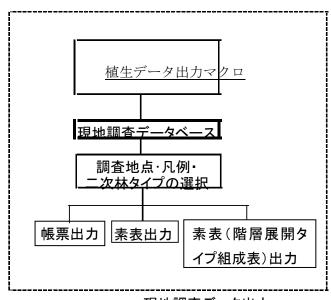
- H27 全国植生 Db.accdb はデータ入力、表示・編集、エラーチェック、データ出力、写真 ファイル名変換の機能をもつ。
- 入力には入力フォーマット (エクセルファイル) を使って Db にインポートすることもで きるが、現地調査地点コード(23桁)の間違いを避けるため、できるだけアクセスファ イルで入力する。

(2) 出力

植生データ出力マクロ"H27 植生出力.xlsm" (エクセルファイル) (図 3.4.3) で入力した 植生現地調査データベースを読み込むと、選択した調査地点について個票(帳票)や組成表 (素表) が出力できる。帳票出力例を表 3.4.1 に、素表出力例を表 3.4.2 に示した。

図 3.4.1 現地調査データ入出力の関連





現地調査データ出力

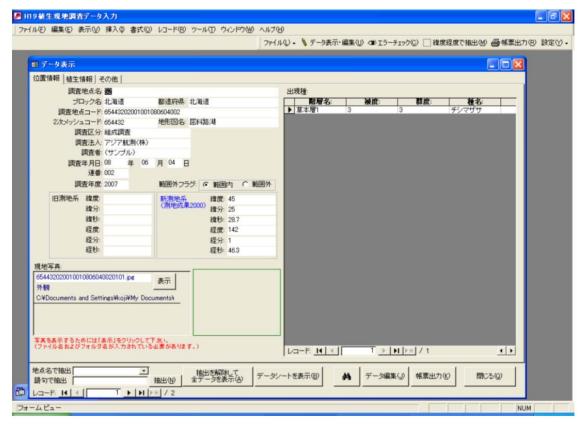


図 3.4.2 入力:現地調査 DB の編集画面



図 3.4.3 出力:全国植生データ出力マクロのメニュー画面

表 3.4.1 全国植生データ出力マクロによる帳票出力例(組成調査)

							調査年度	2009
			植生調査票	Ę	組成調査			
	二次メッシュ	調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番		
地点コード	533642	02	013	001	090728	003	調査地点名	S03
二次メッシュ	533642	地形図名	広野			調査年月日	09年07	月28日
	北陸	都道府県名	福井	市町村名	南条郡南越前	町広野	出現種数	87
緯度	旧測地系	35度 43分 30	砂		新測地系	35度 43分 42	秒	
緯度 経度	口则地尔	136度 17分 19	9秒		机则地尔	136度 17分 9	秒	
	10×10		海抜	400m		方位	S80W	
傾斜	20°		地形	斜面下部		土壌	褐森土	
風当	弱		日当	中陰		土湿	適	
資料No.			資料名称					
発行年		発行者			記載された群落			

階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数
高木層	ミズナラ	16	90	50	7
亜高木層	-	8	65	15	9
低木層1	-	4	50	5	8
低木層2					
草本層1	チシマザサ	2	80	_	11
草本層2	-	0.5	75	_	66
コケ層					

植生区分	∇ ブナクラ	ス域代償植生	凡例コード 220103	凡例名	オオバクロモジーミズナラ群集
大区分	落葉広葉樹二次林	中区分	ブナーミズナラ群落	細区分	オオバクロモジーミズナラ群集
群落名					

被度群度	種名	被度群度	種名	被度群度	種名
〈高木層〉		2.3	キバナアキギリ	+	ウワミズザクラ
3.3	ミズナラ	2.3	ツタウルシ	+	オオカメノキ
2.3	シナノキ	2.2	ハイイヌガヤ	+	オオバギボウシ
2.2	ミズメ	2 · 2	ミヤマカタバミ	+	クモキリソウ
1.2	ケヤキ	1 · 2	アカソ	+	サルナシ
1.2	ケンポナシ	1 · 2	イワガラミ	+	シシガシラ
1.1	コナラ	1 · 2	エゾアジサイ	+	ショウジョウバカマ
1.1	ネムノキ	1.2	オクノカンスゲ	+	チゴユリ
〈亜高木層〉		1 · 2	シロヨメナ	+	ナガバモミジイチゴ
2 · 2	ウワミズザクラ	1 · 2	タチシオデ	+	ナライシダ
2 · 2	サワシバ	1 · 2	チャボガヤ	+	ナルコユリ
2 · 2	ハクウンボク	1 · 1	ニワトコ	+	ノササゲ
2 · 2	ヤマモミジ	+-2	アキチョウジ	+	ハクウンボク
1 · 2	イタヤカエデ	+ · 2	アキノタムラソウ	+	ヒメアオキ
1 · 2	ウリハダカエデ	+-2	ウツギ	+	ホソバトウゲシバ
1 · 1	イヌブナ	+ · 2	ウリハダカエデ	+	マユミ
+-2	ツルアジサイ	+-2	オオカモメヅル	+	マルバアオダモ
+	ヤマボウシ	+ · 2	カエデドコロ	+	マルバマンサク
〈低木層1〉		+-2	キヅタ	+	ミズナラ
2 · 2	シナノキ	+-2	コチヂミザサ	+	ムラサキシキブ
2 · 2	ヤマモミジ	+ · 2	サカゲイノデ	+	ムラサキマユミ
1 · 2	サワシバ	+-2	ジュウモンジシダ	+	ヤマザクラ
1.2	ムラサキシキブ	+ · 2	スミレサイシン	+	ヤマジノホトトギス
1.1	ウリハダカエデ	+ · 2	ゼンマイ	+	ヤマハッカ
+	タカノツメ	+ · 2	タンナサワフタギ	+	ヤマブキショウマ
+	ヤマボウシ	+ · 2	ツルアリドオシ	+	ユクノキ
+	ユクノキ	+ · 2	トウゴクシダ		
〈草本層1〉		+ · 2	ハナイカダ		
3 · 4	チシマザサ	+ · 2	ハンショウヅル		
2.3	ユキツバキ	+ · 2	フジ		
2 · 2	オオバクロモジ	+ · 2	ミズヒキ		
2 · 2	コマユミ	+ · 2	ミゾソバ		
1.2	コアジサイ	+ · 2	ミツバアケビ		
1 · 2	タンナサワフタギ	+ · 2	ヤブコウジ		
1.2	ミヤマガマズミ	+ · 2	リョウメンシダ		
1 · 2	ヤブデマリ	+	アカシデ		
1.1	リョウブ	+	イタドリ		
+	ツノハシバミ	+	イヌシデ		
+	ナナカマド	+	イボタノキ		
〈草本層2〉	<u> </u>	+	ウリカエデ		J

調査法人名	〇〇株式会社	
調査者	植生太郎	
調査者 代表写真	533642020130010907280030101.jpg	
備考		-
1		

表 3.4.2 全国植生データ出力マクロによる素表出力例(組成調査)

プルス (1) では、		21豊徳SA 06 07 19 674154 豊徳① 北海道 宗谷支庁 120101	21豊徳SA 06 07 19 674154 豊徳① 北海道 『宗谷支庁 120101	A123豊幌SF 06 07 24 674157 豊幌 北海道 雲宗谷支庁 120101	R16夕来SM 06 07 19 674164 夕来 進程内市 120101	M16夕来SM 06 07 19 674164 夕来道 北内市 120101	M 19下豊別 06 07 20 674167 下豊別 北海道 宗谷支行 120101	S14曲淵SF 06 07 17 674177 曲淵 北海道 雅内市 120101	(15鬼志別: 06 07 22 674270 鬼志別 北海道 宗谷支庁 120101	515鬼志別 06 07 22 674270 鬼志道文 北海 支 庁 120101	507声問SA 06 07 17 684106 声問 北海市 3稚内市 120101	04宗谷SF 06 07 15 684117 宗谷① 北海道 稚内市 120101	北海道 (684117020 (604宗谷SR 06 09 07 684117 6840 120101 ドドマツー 81 S54E 15 20×20 19
亜高木層高さ(m) 亜高木層植被率(%) 低木層1高さ(m) 低木層1箱被率(%) 低木層2高さ(m)		8 30 2 10	7 30 2.5 10	8 20 4 15	5~10 70	6.0 25	8 40	8~10 70 1.5~2.0 20	10 20 3 30	7 30 2.5 20	9 20 3 10	6 95	10 10 5 5
低木層2植被率(%) 草本層1高さ(m) 草本層1植被率(%) 草本層2種さ(m) 草本層2種被率(%) コケ層高さ(m)		0.8 60	0.8 90	2.6 100 1.0 15	1.13 60	2.0 90	2.5 20 1 80	0.8~1.2 95	1.2 80	1 80	1 90	1.8 100	2.2 65 1.1 50
コカリング アンドラ アングラ アングラ アングラ アングラ アングラ アングラ アングラ アング	111 111 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	2 3 1 1 1 1 2 2 3 3 3 3 4 4 3 3 3 3 4 4 4 4 4 4 4 4	10 3 2 2 2 5 + 3 3 1	<1 32 2 1 3 1 5 1 1 + + + + + + + + + + + + + + + +	13 4 1 2 r 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<1 15 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	14 3 1 1 5 2 2	41 3 1 2 1 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	26 3 1 3 2 4 4 1 1 + + + + + + + + + + + + + + + +	14 3 2 3 1 1 1 2 1 + 2 2 2	21 4 1 1 2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	21 2 1 4 + 1 + 1 + + + 1 + + + 3	45 2 2 + 1 1 2 2 4 + + 2 2 + + + 1 1 + + + + + + + + + + +
エオシスト インカー インカ	1 1 1 1 1	1 + + + + + + + + + + + + + + + + + + +		1 + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	r	1 5 +	2 1 +	+ 1 1 1 + + + + + + + + + + + + + + + +	+	1 +	+	+ +	+ + + + + +

3.4.2 現地調査データの内容

現地調査データは、「調査地点一覧」、「植物表(階層別種リスト)」「全写真リスト」の3つ のテーブルとして整理する。調査地点一覧のフィールドを表 3.4.3 に、植物表のフィールド を表 3.4.4 に示した。また、組成(資料)の入力事例を表 3.4.5~3.4.6 に示した。

*ファイル(アクセス、エクセル)は幹事法人より送付する。

(1) 調査地点一覧

調査地点一覧には、1地点1 レコードとして以下の項目を記載する。優占種調査結果は、 「調査地点一覧」のみに格納する。

- 調査地点情報(調査地点コード*1、 2次メッシュ、 調査区分、ブロック、 都道府県、 市町村、 緯度・経度等)
- 調査実施情報(調査者、調査年月日等)
- 凡例(植生区分、凡例、付加情報等)
- 階層区分(高木層~コケ層の優占種名、植被率、高さ等)
- 立地情報 (海抜、方位、傾斜、地形、土壤等)
- 資料情報 (既存資料引用の場合)
- 現地写真ファイル名 *2

(2) 植物表 (階層別種リスト)

植物表には、組成調査結果の出現種1種を1レコードとして調査地点コード*1、階層区 **分、被度、群度、種名**を記載する。組成調査票の項目は「調査地点コード*1」をキーとして 「調査地点一覧」および「植物表」を組み合わせて表示される。

*1 調査地点コード

- 調査地点コードは、地点管理コードと地点識別コードの組み合わせにより設定(全て半角数字の 23 桁表示)。

- **簡理-ト** は、[二次パツュ+調査区分]の組み合わせで管理。<mark>優占種調査2は調査区分 05 とする。</mark> 地点識別**-ト** は、[法人 I D + 調査者 I D + 年月日 + 連番]の組み合わせで管理。 ※[法人 I D + 調査者 I D + 連番]で、地点の個別識別は可能であるが、調査実施時における誤設定を軽減させるため、 [年月日]単位に連番を振りなおすこととする。

例) **管理コード[二次メッシュ+調査区分]+地点識別コード[法人 ID+調査者 ID+年月日+連番]→** 53394501001001010801001

項目	コード設定	桁数	例
二次メッシュ	標準地域メッシュの第2次地域区画のコード	6	533945
調査区分	優占種調査 1;01、組成調査;02、組成(資料);03 優占種(資料);04、 <mark>優占種調査 2;05</mark>	2	01
法人 ID	全国単位に設定する、法人の ID	3	001
調査者 ID	法人単位に設定する、調査者の ID	3	001
年月日	年(2桁)+月(2桁)+日(2桁)	6	010801
連番	[法人 ID+調査者 ID+年月日]別に振られる、連続番号	3	001

*2 現地写真ファイル名(写真ファイル名のつけ方)

- 全て半角の英数字・記号の30桁表示。
- 写真ファイル名は、調査地点コード、写真区分、連番、7744形式 (拡張子) の組み合わせにより設定。 例) [調査地点コート] + [写真区分+連番] + [7744形式] → 5339450100100101010010101.jpg

項目	コード設定	桁数	事例
調査地点コード	上記に示す調査地点コード	23	上記参照
写真区分	外観;01、林内;02、林床;03	2	01
連番	調査地点コード別に振られる連続番号。	2	01
ファイル形式	画像ファイルの拡張子。	3	.jpg

表 3.4.3 調査地点一覧のフィールド

			3. 4. 3			りフィー	• • •			
	1	2		4	5		7	8	9	1
調査地	点コード	調査地点名	2次メッシュ コード	調査区分 コード	調査法人コード	調査者コード	調査年	調査月	調査日	連番
92705010040	04020128006	ok-y6	392705	01	004	004	02	01	28	006
11	12	13	14	15	16					
緯度	緯分	緯秒	経度	経分	経秒					
17	18	19	20	21	22					
緯度_NEW	緯分_NEW	緯秒_NEW	経度_NEW	経分_NEW	経秒_NEW	範囲外フラグ	秒は	小数第1位ま	で記入	
26	4	49.2	127	38	37.5	0				
24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	3
	都道府県	群落名称(相	最高階層	最高階層	最高階層	代表写真				
ブロックコード	コード	観区分的な 視点)	区分	優占種名	高さ	ファイル名	植生区分	凡例コード	凡例名	群落名
8	47		3	アダン	3.5	3927050100 4004020128	VI	390200	アダン群団	
			Ū	,,,-		0060101.jpg		555255	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
35	36	37	38	39						
高木層	高木層	高木層	高木層	高木層						
優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数						
亜高木層	<u>41</u> 亜高木層	42 亜高木層	43 亜高木層	垂高木層 亜高木層						
優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数						
45 低木層1	46 低木層1	47 低木層1	48 低木層1	49 低木層1						
優占種	ち高	植被率	胸高直径	種数						
アダン	3.5									
50										
低木層2 優占種	低木層2 高さ	低木層2 植被率	低木層2 胸高直径	低木層2 種数						
55	56	57	58	59						
草本層1 優占種	草本層1 高さ	草本層1 植被率	草本層1 胸高直径	草本層1 種数						
泛口性	ПC	但似午	胸间坦注	1王 文义						
60	24	-	60	64						
草本層2	草本層2	草本層2	草本層2	草本層2						
優占種	ち高	植被率	胸高直径	種数						
ļ										
65 コケ層	<u>66</u> コケ層	67 コケ層	68 コケ層	69 コケ層						
優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数						
70	71			74	75				1	
調査面積	出現種数	市町村名 糸満市	<u>海抜</u> 20	方位 S	<u>傾斜</u> 45	地形	土壌	風当		
			0			1	1	I	1	
79	80		82	83	84	85 記載され <i>た</i>	86 記載ページ			
日当	土湿	資料No	資料名称	発行者	発行年	群落名	等	備考	調査年度	
									2013	

表 3.4.4 植物表のフィールド

1	2	3	4	5	6
調査地点コード	階層	被度	群度	種名	備考
57401002001008001014007	1	1	1	オオヤマ ザクラ	

表 3.4.5 調査地点一覧における組成(資料)の入力事例

調査地		調査地点名	2次メッシュ	調査区分	調査法人	調査者	調査年	調査月	調査日連番
343 105030040	008020128006		コード 392705	コード 03	コード 004	コード 008	73	08	04 078
392703030040	000020120000	INAUU-11	392703	03	004	008			
11	12			15			2次メッシュ	コード からできるだ!	調査者コード け2 資料+Tabで1つの調
緯度	緯分	緯秒	経度	経分	経秒		次メッシュを	入れる。	者コードを設ける。
								しか確定でき 27-99とする。	
17				21	22	23 範囲外	調査地点名	<u> </u>	連番
緯度_NEW	緯分_NEW	緯秒_NEW	経度_NEW	経分_NEW	経秒_NEW	フラグ	資料、Tab都	番号、調査No	を 資料のTabのうち、該
0	0	0	0	0	0	0	やすい。	入するとわかり	調査番号を入れる。
24	25		27	28	29	30	31	32	33 3
ブロックコード	都道府県コード	群落名称(相 観区分的な 視点)	最高階層 区分	最高階層 優占種名	最高階層 高さ	代表写真 ファイル名	植生区分	凡例コード	
5	20						IV	140802	│ シャクナゲ ホソバシャ! │ ーヒノキ群 ナゲーヒノ │ 集 │ キ群集
0.5	00	0.7	20	20					
35 高木層	36 高木層	高木層	高木層	39 高木層					
優占種	高さ 13	<u>植被率</u> 80	胸高直径	種数					
					1				
40 亜高木層	41 亜高木層	42 亜高木層	43 亜高木層	44 亜高木層					
優占種	高さ 6	植被率	胸高直径	種数					
	0	10							
45 低木層1	46 低木層1	47 低木層1	48 低木層1	49 低木層1	1				
優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数					
	3	40							
50	51	52	53	54	•				
低木層2 優占種	低木層2 高さ	低木層2 植被率	低木層2 胸高直径	低木層2 種数					
55	56	57	58	59					
草本層1 優占種	草本層1 高さ	草本層1 植被率	草本層1 胸高直径	草本層1 種数					
及口注	0.4	20		1±20					
60	61	62	63	64					
草本層2	草本層2	草本層2	草本層2	草本層2					
優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数					
65 コケ層	66 コケ層	67 コケ層	68 コケ層	69 コケ層					
優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数					
					ı				
70 調査面積	71 出現種数	72 市町村名	73 海抜	74 方位	75 傾斜	76 地形	77 土壌	78	1
30×20		木曽郡木曽町							1
		開田 開田							J
79	80						86 記載ページ	87	
日当	土湿	資料No	資料名称	発行者	発行年	群落名	等	備考	調査年度
			長野県の現 存植生	長野県	1979	ホソバシャク ナゲーヒノ キ群集			2013

表 3.4.6 植物表の組成(資料)の入力事例

	1	2	3	4	5	6
調査地点コード	隆	層	被度	群度	種名	備考
39270503004008020128	3006	1	2	2	ヒノキ	

(3) 種名の表記

- 植物の種名は地域植物誌との照合等を行い誤同定のないようにチェックする。
- 植物の種名は基本的に「環境庁植物目録」に準じることとし、全角カタカナで表記する。
- 「一」は全角マイナスを用いる(例:ギーマ→ギイマ、ビロードイチゴ→ビロードイチゴ)。
- 不明種のうち、科または属レベルまでわかるものは、「○○科の一種」、「○○属の一種」 とする。学名の科名、属名を用いて「sp.」を付しても良い(例: Compositae sp. Angelica sp.)。同じ属で複数出現する場合は「○○属の一種1」「○○属の一種2」・・・とする。
- 不明種のうち、種レベルまでほぼわかるが同定に疑問の残るものは、種名の後に「sp.」を付ける。
- 種名の注記や備考等は、別フィールドに記入する。種名と同じフィールドには入れない。
- 「環境庁植物目録」に掲載されていない地域固有種等は、標準和名+学名を入力する。

3.5 電子ファイル (電子媒体)

3.5.1 格納媒体

格納媒体は、CD-R または DVD-R 等とする。

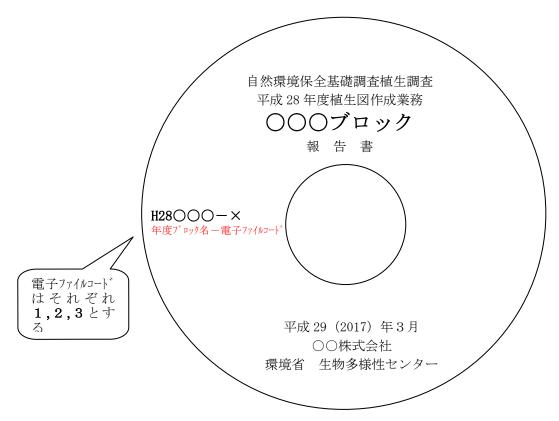
3.5.2 電子媒体の表題

格納媒体には電子ファイルコードを付け、以下の項目を印刷する。報告書、植生図 GIS データに秘匿すべき環境省 RL 種が含まれている場合は「環境省 RL 情報あり」という赤ラベルを付ける。

- 事業名称:自然環境保全基礎調査植生調査(例)
- 業務名称:平成28年度植生図作成業務(例)
- ブロック名:○○○ブロック
- 内容(項目):報告書・植生図 GIS データ・内部管理資料 ※項目が複数 CD にまたがる場合は、項目名の後に(通し番号/該当項目がまたがる枚数)を表記する。
- ID: ※H28○○○-電子ファイルコード (表 3.1.2)
- 事業年度(納品年月): 平成○ (20xx) 年3月
- 受注者名称:○○株式会社
- 発注者名称:環境省 生物多様性センター

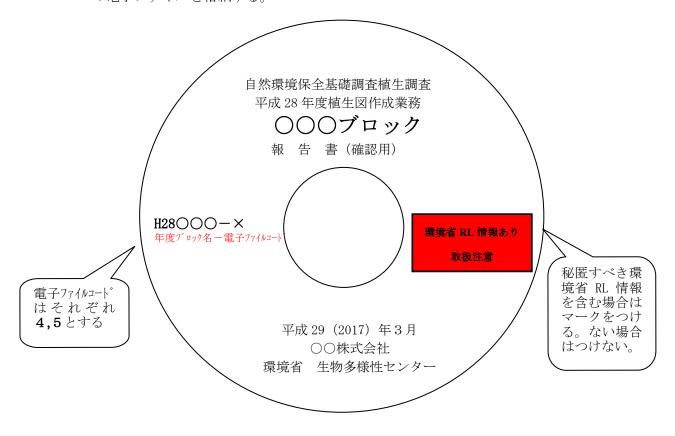
(1) 報告書(公開用)CD(納品部数3部)

秘匿すべき環境省 RL 情報を含まないブロック用報告書の電子ファイルを格納する。



(2) 報告書(確認用)CD(納品部数2部)

資料編や秘匿すべき環境省 RL 情報を含むブロック用報告書、及びブロック調査会議資料の電子ファイルを格納する。



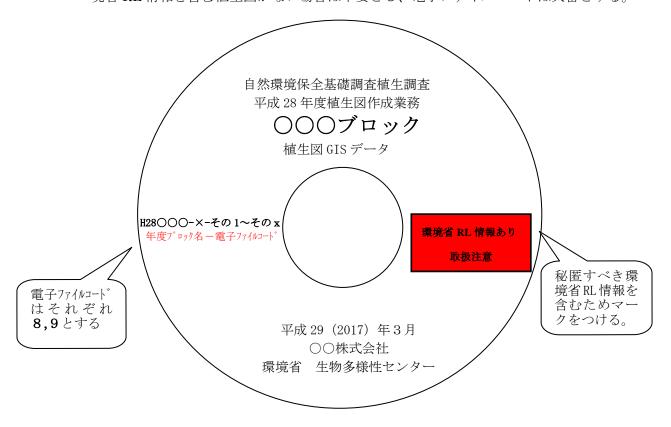
(3) 植生図 GIS データ (公開用) CD (納品部数 2 部)

秘匿すべき環境省 RL情報を含まない植生図 GIS データ・色設定ファイルー式を格納する。



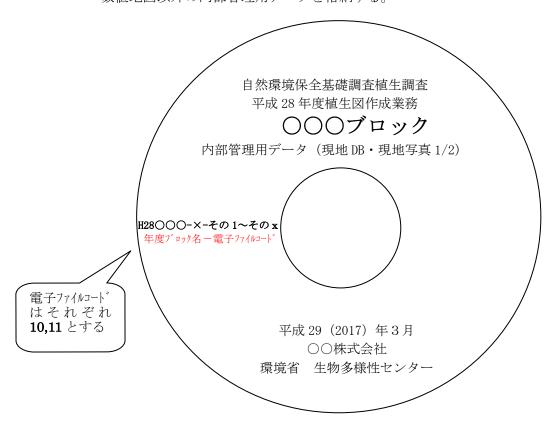
(4) 植生図 GIS データ (環境省 RL あり版) CD (納品部数 2 部)

秘匿すべき環境省 RL 情報を含む植生図 GIS データ・色設定ファイル一式を格納する。環境省 RL 情報を含む植生図がない場合は不要とし、電子ファイルコードは欠番とする。



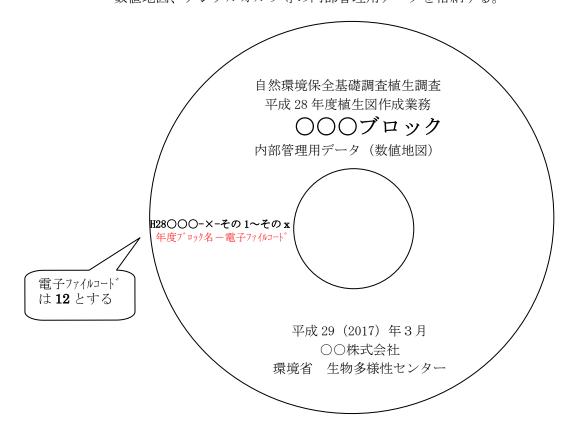
(5) 内部管理用データ (納品部数2部)

数値地図以外の内部管理用データを格納する。



(6) 内部管理用データ (納品部数1部)

数値地図、デジタルオルソ等の内部管理用データを格納する。



3.5.3 CD の内容

(1) CD の部数

納品する CD は表 3.1.2 に示す部数とする。

(2) フォルダ構成

以下のフォルダに該当ファイルを格納する。

<1-1. 報告書公開用>

01 ブロック版報告書

<1-2. 報告書確認用>

- 01ブロック版報告書
- 02 ブロック調査会議資料 ※以下のサブフォルダを設定して会議資料(ファイルのみ)を格納する。
 - 第1回ブロック調査会議 ※最終版、pdf またはオリジナルファイル(組成表は必ずオルジナルファイルを入れる。)

第2回ブロック調査会議 ※同上

<2-1. 植生図 GIS データ公開用>

- 04 植生図 GIS データ ※04 植生図 GIS データの下に以下のサブフォルダを設定して格納する。
 - JGD- shape, jpg ※LOG ファイルは shape のサブフォルダにそれぞれ格納する。
 - COLOR ※凡例色設定にかかわるレイヤーファイルまたはエクセルファイルを格納する。

<2-2. 植生図 GIS データ環境省 RL あり版>

04 植生図 GIS データ ※同上

<3-1. 内部管理用データ>

- 02 現地データ
- 03 現地写真 ※03 現地写真の下に以下のサブフォルダを設定して格納する。 2次メッシュコード(半角数字6桁)_(半角アンダーバー)図葉名
- 05 内部管理用データ ※ブロック調査会議議事録 (オリジナル)、空中写真台帳、その他作業用 shape ファイル
- 08 過年度植生図修正案 jpg、修正した過年度植生図 GIS データ

<3-2. 内部管理用データ(数値地図等)>

- 06数値地図 ※背景図として使用したファイルを格納する。
- **07** デジタルオルソ (任意) **※**空中写真コード、コース、番号等をファイル名または別添の対応表で示す。

(3) 電子ファイル 報告書ファイル等

ファイルは原則としてフィルタをとっても当該ブロックのみが表示されるものとする。ファイル名は原則として年度、ブロック名、図表番号、図表名を組み合わせて付ける。

ファイル名:年度(西暦年4桁半角数字)_(半角アンダーバー)ブロック名_図表名等.xls

- ・例:20xx_北海道_表 3-1 組成調査一覧表.xls
- ・例:20xx_北海道_現地写真リスト.xls

(4) 植生図 GIS データ

「04 植生図 GIS データ」に JGD, COLOR のサブフォルダを設定し、関連ファイル一式 を格納する。JGD には shape, jpg を設ける。

(5) 現地写真ファイル等

現地写真は、内部管理用のフォルダ「03 現地写真」に、サブフォルダとして2次メッシュコード_図葉名等を設け、該当する現地写真(jpgファイル)を格納する。

(6) クリアリングハウスメカニズムのメタデータ

クリアリングハウスメカニズム (CHM) のメタデータは全体が含まれる範囲 (右上-右下等の4点) を登録する。登録番号は未記入でよい。

<3-1.内部管理用データ>に 06 CHM のフォルダを設け、メタデータを格納する。

(7) 参照画像等

公開されていない画像を主判読画像とした場合は、納品可能な場合は電子ファイルまたは画像出力図を納める。参照画像出力図は、1面を左右に分けA3に1/2.5万で印刷し、冒頭に画像一覧図及び撮影時期一覧図をつけA3フォルダに収録する。

なお、Web で公開されている「<u>地図・空中写真閲覧サービス</u>」や Google, Yahoo, Bing Map の画像を参照した場合は納品の対象外とする。

3.6 空中写真等

使用した空中写真、標定図、収録アルバム別写真リスト等を空中写真アルバムに整理し納品す る。

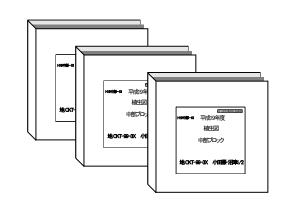
3.6.1 空中写真に関わる成果品の構成

(1) 空中写真に関わる成果品とは

空中写真アルバムに関わる成果品は、以下の2点で構成される(図 3.6.1)。これらの成果 品の構成の概要を図 3.6.2 に示し、以下に空中写真アルバムの内容についてまとめた。

① 空中写真アルバム

空中写真、アルバム別写真リスト、標定図を 収納した空中写真アルバム(空中写真収納ファ イル)。またはA3またはA4の2穴ファイル。



② 電子ファイル (電子データ)

アルバムラベル、アルバム別写真リスト、収 録アルバムリスト、標定図集の表紙・背表紙等 を所定のエクセルフォームでまとめた電子ファ イル。

なお、エクセルフォームは 2013 空中写真フ ォーム.xls を使用する。



図 3.6.1 成果品

空中写真アルバム

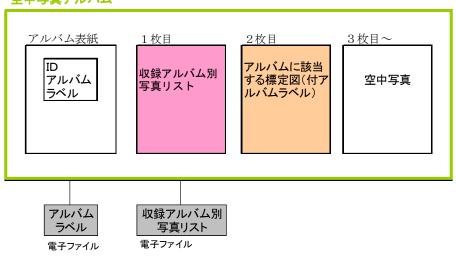
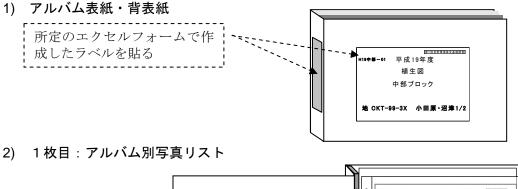
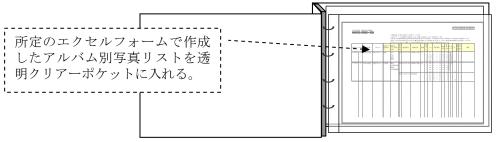


図 3.6.2 空中写真に関わる成果品構成の概要

(2) 空中写真アルバムの構成

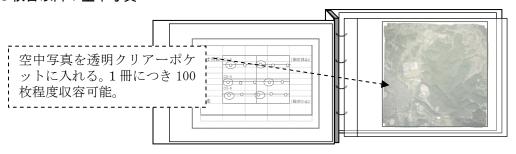
空中写真アルバムは、標定図と空中写真、およびアルバム別にまとめた空中写真リストを 収録したアルバムファイルである。





3) 2枚目:標定図+アルバムラベル
空中写真の標定図と、アルバム
ラベルをホチキス留めしたも
のを透明クリアーポケットに
入れる。
ホチキス留め
ホチキス留め
ホチキス留め
ホチキス留め
なる (表表の) (表

4) 3枚目以降:空中写真



3.6.2 空中写真アルバムの整理

(1) アルバム単位の決定

空中写真は原則として年度別法人別、ブロック別、撮影地区別にまとめ、コース、番号の若い順に整理する。

ブロックの撮影地区別の枚数によって、各アルバムに収録する撮影地区を決定し*、年度 ブロック単位で連番をふりアルバム ID を設定する。1 つの撮影地区が2 つ以上のアルバム に分かれる場合、また1 つのアルバムに2 つ以上の撮影地区を収録する場合は特に留意する。アルバム単位はアルバム一覧表にまとめる(表 3.6.1)。

表 3.6.1 アルバム一覧表 (例)

収録アルバ	۲ムID	作成年度	図の区別	ブロック	撮影 機関	整理番号	撮影地区	枝番
H24中部	01	平成24年度	植生図	中部ブロック(2/2)	地	CKT-99-3X	小田原・沼津	1/2
H24中部	02	平成24年度	植生図	中部ブロック(2/2)	地	CKT-99-3X, KT-2001-2Y	小田原・沼津2/2、大月地方	2/2

(2) アルバムへの収録

アルバムに収録する空中写真については、以下のことに留意する。

【空中写真収録の留意点】

- 空中写真はアルバム別(ブロック別、撮影地区別)にまとめ、コース、番号の若い順に並べる。
- アルバムの台紙には、写真を3枚以上入れない。
- コースごとに写真の上下を揃える。
- コースの変わるところにインデックスをつける。「C1 1~10」のように書く。
- 補助写真は撮影範囲の該当する写真の近くに入れる。枚数が多い場合はまとめて収 納してもよい。
- 補助的に使った写真の標定図は、その写真が収録されている直前に入れてもよい。

(3) アルバムラベルの作成

アルバムラベル(表紙、背表紙)は所定のエクセルフォームを用いて作成する。1部を表紙・背表紙として切り抜いて使用し、1部を標定図に添付する。

アルバムラベルには表 3.6.2 の諸元を記入する。年度別法人別の連番をふり、アルバム ID とする。アルバム名は収録写真の撮影地区とする。アルバムラベル例を図 3.6.3 に示す。

	衣 3.	0.2 アルハムノベルの記し
項目	例	注
収録アルバム ID	H25 中部一01	年度ブロックー連番(01 から)
作成年度	平成 27 年度	
図の区別	植生図	
ブロック	北海道	
撮影機関	地/林/そ	地:国土地理院 林:林野庁 そ:その他
整理番号	HO-02-1X	
撮影地区	岩見沢	″地区″は不要
枝番	1/4	1つの撮影地区が2つ以上のアルバムにわたる場合は、 "連番/全体の数"として示す。「その1」などは不可。
撮影機関	地/林/そ	1つのアルバムに2つ以上の撮影地区を収納する場合は、全ての撮影地区を示す。
整理番号	HO-02-2X	同上
撮影地区	帯広	同上

表 3.6.2 アルバムラベルの諸元

**留意点

- 表紙ラベルには撮影地区を原則として全て記入する。ただし、補助写真の枚数が少ない場合は除いてもよい。
- 背表紙ラベルに撮影地区が書ききれない場合は代表的なものにする。

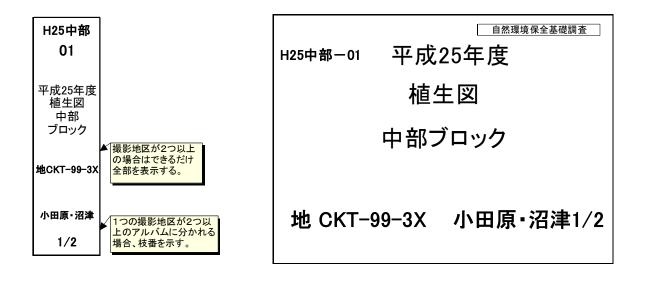


図 3.6.3 アルバムラベル(例)

(4) アルバム別写真リストの作成

アルバム別写真リストを所定のエクセルフォームを用いて作成する。作成例を表 3.6.3 に 示す。

表 3.6.3 アルバム別写真リスト (例)

																			自然	環境	保全基礎調査
		生図作成業務 限定図一覧			2) 白黒・カラー 3)前・後 Oは3 場合に、それぞ	1:E 実体 れ前	3黒原版の白黒焼 視可能な空中写 前と後を含むこと	・野庁 そ:その他 売き 2:カラー原版 真の番号を昇順に を示す。●は空中 いた場合は標定図	-业へ/:『 写真のコ	可、凶 一ス を	幅(1/2 子順に	並べ	た時、	焼気	1/2.5 場合は では 応する なが1/5	万地形下に追 いの 標定図 万地形	図との 加する で注意 図(1/5)	対応。 。同じ 。 万地形	行が テの: 図)(の対 かにわたる
収録アル	バムID	作成年度	ブロック	標定図(1/5 万地形図 名)	(1/2.5万地	撮影機関1)	整理番号	撮影地区	枝番	白黒/ カラー 2)	コース	写	真番	号		枚数 (値)			助	デタル オリ	備考
H25中部		平成25年度	中部ブロック	秦野	大山 山北 秦野			小田原・沼津		3 3 3 3	C1 C2 C3A C4 C5	2 2 2 2 2	~	13 14 15 12 12	12 13 14 11	13 14 11 11		61		1 1 1 1	
H25中部	02	平成25年度	中部ブロック	小田原	小田原北部 箱根 小田原南部			小田原・沼津	2/2	3 3 3 3	C6 C7 C8 C9 C10	2 2 2 2 2	~	12 13 11 10 10	11 12 10 9	11 12 10 9	Ō	51		1 1 1 1	
						地	KT-2001-2Y	大月地方		1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 21 20 21	~~	23 23 22 23	3 3 3	3 3 3		12		1 1 1	

3.6.3 標定図の整理

(1) 標定図への記入

標定図への記入例を図 3.6.4 に示す。

標定図はA4版とし、1/2.5 万地形図の図郭線と地形図名を記入する(手書きまたはシー ル貼り付け)。たとえば、標定図が 1/5 万の場合は4分割線を入れ、4 隅に 1/2.5 万地形図 名を入れる。標定図に記入した地形図名が整備地域に該当しない場合は、地形図名に () を付ける。

標定図上で、アルバムに収録した空中写真のコースごとに、番号の端と端を○で囲む。標 定図の○から○までの写真を収録したことを示す。

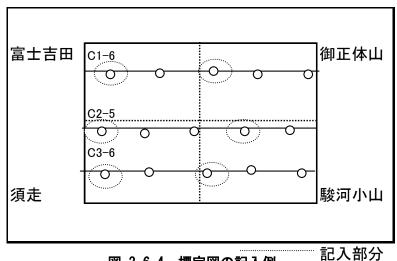


図 3.6.4 標定図の記入例

(2) アルバムへの収録

アルバムごとの標定図の先頭にアルバムラベルをつける。

左上をホチキス留めし、アルバムの巻頭2枚目に収録する。

なお、撮影地区が2つ以上のアルバムにわたる場合、原則としてアルバムごとに標定図を 添付する。

3.7 電子ファイル

ファイルは以下の一式をエクセルのシート別にまとめ、ファイル名を「20xx_北海道_空中写真.xls」のようにつけ、ブロック別に内部管理用データとして格納する。

- (1) アルバムラベル
- (2) 収録アルバム別写真リスト
- (3) 収録アルバムリスト:アルバム1冊につき1行のアルバム名のリスト

資料編

- 資料1 全国レベルの精度基準
- 資料2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き
- 資料3 環境省統一凡例一覧
- 資料4 山岳地調査の手引き

全国レベルの精度基準

◆植生図の精度を向上させるポイント

1. 植生学の基礎的な知見と現地調査結果の反映に関する事項

- ▶ 植生の水平的、垂直的な分布パターンを正しく認識し、図化が行われているか。
- ▶ 地形の構成や微地形の配列に基づく植生配分を正しく図化しているか。
- ▶ 自然植生と代償植生の区別が正しく行われているか。
- ▶ 特殊な立地における植生や希少な群落が漏れなく図化されているか。
- ▶ 伐採地など、土地利用に従った凡例を正しく適用しているか。

2. 画像判読と図化技術に関する事項

- ▶ 判読画像から正しく植生の内容を判読して図化しているか。
- ▶ 植生の区分線の位置精度が正確か。
- ▶ 植生ポリゴンの粗密さに偏りがなく、適切な抽出面積が保たれているか。
- ➤ GIS 入力線と地形図にずれがないか (判読結果を地形図に移写する際に移写ずれがないか)

◆位置精度

地形図の位置を正、尾根・谷・海岸のズレの許容度は25m未満とする(図1)。特に、オルソ画像上等で判読した判読線を地形図と重ね合わせる作業がある場合は、細部にわたって精査し、ズレが生じていた場合は修正入力する。

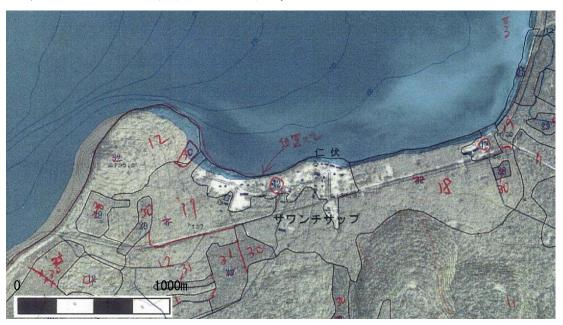


図1 地形図と海岸線がずれている例

◆群落の最小取得面積:

群落の最小取得面積は、1 ha とする。ただし自然植生は必要に応じて 1 ha より細かいものも抽出してよい。(図 2)

原則として最小取得面積は 1 ha(縮尺 1/2.5 万万地形図上で 4 mm× 4 mm)とする。ただし、写真判読時点で既存資料などから稀少な植生等と判断できる場合は、 1 ha 未満であっても、625 m²(縮尺 1/2.5 万地形図上で 1 mm× 1 mm)を限度として、空中写真および地形図上に表示する。

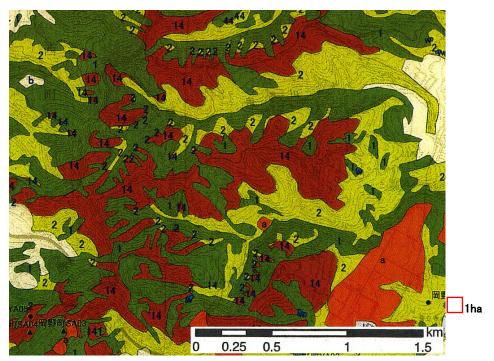


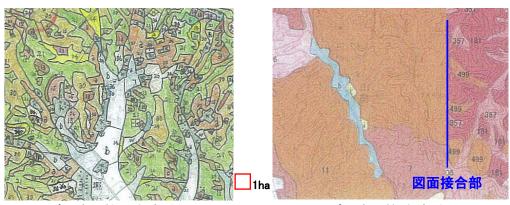
図2 最小取得面積が小さい例

◆精度が低いと判断する基準

- ●ポリゴンが細かすぎる・粗すぎる(写真によって異なる場合はブロックで検討)、作成者により精粗の差が著しいもの(図3)
- ●特殊立地の植生で地形との対応がまちがっているもの(図4)
- 植生パタンが全くわからないもの(図 5)
- 判別しやすい凡例がまちがっているもの(図6、7)
- GIS データが粗いもの(図 8)
- ポリゴンの凹凸が細かすぎるもの(図9)
- 雲影、山影を植生と見誤っているもの
- 地形形状や植生学の知見が生かされていないもの(図 10)

その他

● 小面積混在型のパッチを代表させる方法(図 11)



ポ**リゴンが細かすぎる例** 代償植生 1ha 未満のポリゴンを抽出 しすぎている。

ポリゴンが粗すぎる例 1ha ポリゴンの抽出が粗く(青ライン左 側)隣接図と不整合が起きている。

図3ポリゴンが細かすぎる・粗すぎる例

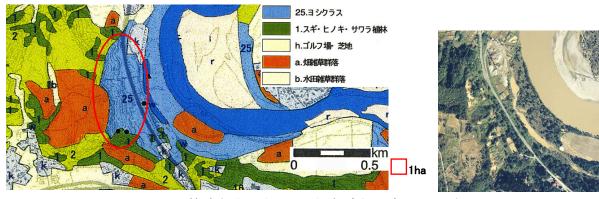


図 4 特殊立地と地形との対応がまちがっている例

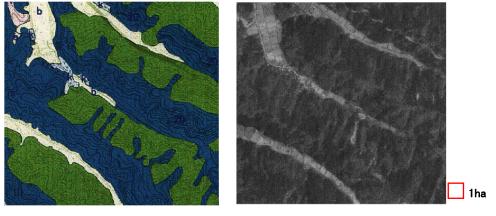


図 5 抽出精度が粗く、空中写真で見える植生パタンが反映されていない例





図6 判別しやすい凡例がまちがっている例



図7 誤った凡例が記入されている例

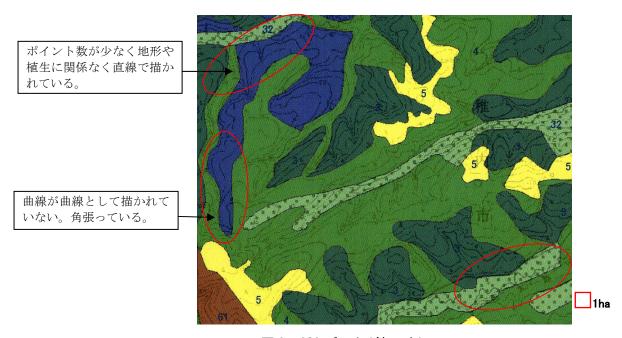


図8 GISデータが粗い例



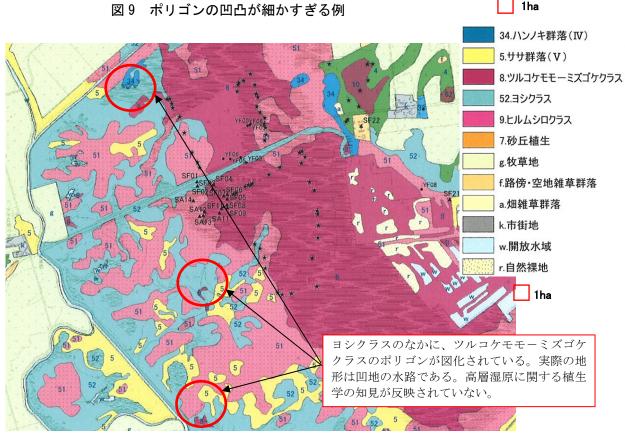
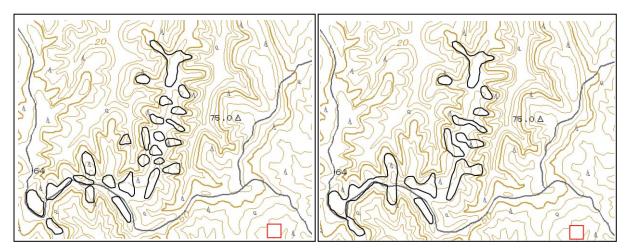


図 10 地形形状や植生学の知見が生かされていない例

小面積混在型のパッチを代表させる方法(全体として地域の植生パタンが示されればよい) (図 11)



実際のポリゴン配置

空中写真または地形図上への表記

図 11 小面積混在型のパッチを代表させる方法

資料 2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き

(伐採跡地・土地利用等判読に共通する事項)

写真への区分線・区分番	(判読対象 I:)
号の記入	・ w (水域):必要に応じて写真上に記入する。中州のある河川の水域等。
	・ r (自然裸地):区分記号を写真上に記入する。区分線は必要に応じて記入する。裸地に植物がわずかに
	侵入している場合等(自然裸地と提議する範囲を記入する)。
	(判読対象Ⅱ・Ⅲ)
	・ 原則として、区分線と区分記号は写真上に記入しなくてよい。
	・ 現地確認できた箇所、判読キーとなる箇所は記入してよい。
区分線と地形図の照合	・ 原則として、判読の区分線と地形図上の区分線は一致させる。
	・ 写真上で、区分線と地形図が明らかに一致しない場合は、判読による区分線を優先して記入する。
	(例) 写真撮影後に建設された高速道路、区画整理により直線的に整備された水田、河川改修により整
	備された新たな堤防、河川構造物等
	・ 凡例の特性によって、区分線と地形図の照合方法に注意が必要な場合は、各凡例の判読手引きに従う。
	(例) 水位変動のあるため池

(判読対象 I **)

※判読対象「とは、自然林、二次林、特殊立地の植生(雪田、河辺、海浜等に成立する植生)、二次草原、水域、自然裸地を指す

※判読対象 1 とは、目然	林、二次林、特殊立地の植生(雪田、河辺、海浜等に成立する植生)、二次草原、水域、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	日然裸地を指す
区分記号 (凡例)	凡例の内容	備考
580600 w(水域)	(概要) ・河川、湖、ため池、海等の水域。河川では、水面のみを抽出する。 (相観) ・やや暗く黒っぽい単一な色調が平坦に一面を覆う。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等) ・水域のうち、比較的水深が浅く、止水域または流の緩やかな箇所には、浮葉・沈水	・区分線と区分記号は 必要に応じて写真に表 示する・河川は、地形図の二
	植物等の群落が分布する場合がある。写真情報と既存資料等により、明瞭に識別できる場合は、「特殊立地の植生」(例:ヒルムシロクラス)として区分する。 ・ため池や湖の縁には、ヨシ、マコモ等の挺水植物群落が分布する箇所がある。これも既存資料と写真情報から、明瞭に識別できる場合は、「特殊立地の植生」(例:ヨシクラス)として区分する。 (立地) ・上記(概要)と同じ。	条河川を対象として表示可能な範囲で区分線 を入れる。地形図と写真が著しく違いがなければ、地形図の水際線を区分線とみなしてよい。
		・写真上で水位変動に よる水際線の変化が認 められても無視する。
	河川 ため池	・埋め立て、河川改修 等により、水域が地形 図と著しく異なる場合 は写真判読結果を地形 図に記入する。水位変 動によって水際線が地 形図と異なっていても
	【北側の地形図】	地形図線を優先する。 ・原則として溜池等については地形図の区分線(水際線)を入れる。 但し、1 ha 未満であっても植被が認められる
		溜池は「特殊立地の植生」として区分線と区分記号を入れる。
	【南側の地形図】 南側の水域区分線と連続するように水域の区分線を入れる	・一本の河川が隣接する複数図面にかけて分布する場合は、区分線の入れ方に相違が生じないよう注意する。

r (自然裸地)

(概要)

- ・露岩地、崩壊地、河原、砂浜等の、自然的条件によって植被で覆われていない土地。 (相観)
- ・岩石、砂礫等が一面を覆い、写真上では、明るい白色を呈する。
- ・「特殊立地の植生」(砂丘植生、海岸断崖地植生、河川敷砂礫地植生等)を含む場合があるが、写真情報ではわかりにくい。

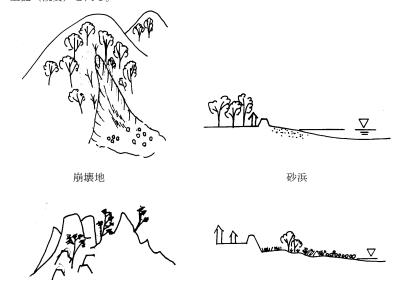
(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

露岩地

- ・荒廃裸地等で緑化のための植栽が行われている場合は、植被率、植生高にかかわらず植林地として区分する。
- ・人工的に切り崩された不自然な地形を有する採石場と区別する。
- ・地形や周辺の土地利用状況等から判断する。

(立地)

・上記 (概要) と同じ。



河原

- ・写真上には区分記号 を記入する。区分線は 必要に応じて表記す る。
- ・写真情報および既存 資料から、1 ha 未満で あっても、特殊立地の 植生を含む可能性があ る箇所は写真上に注記 する。

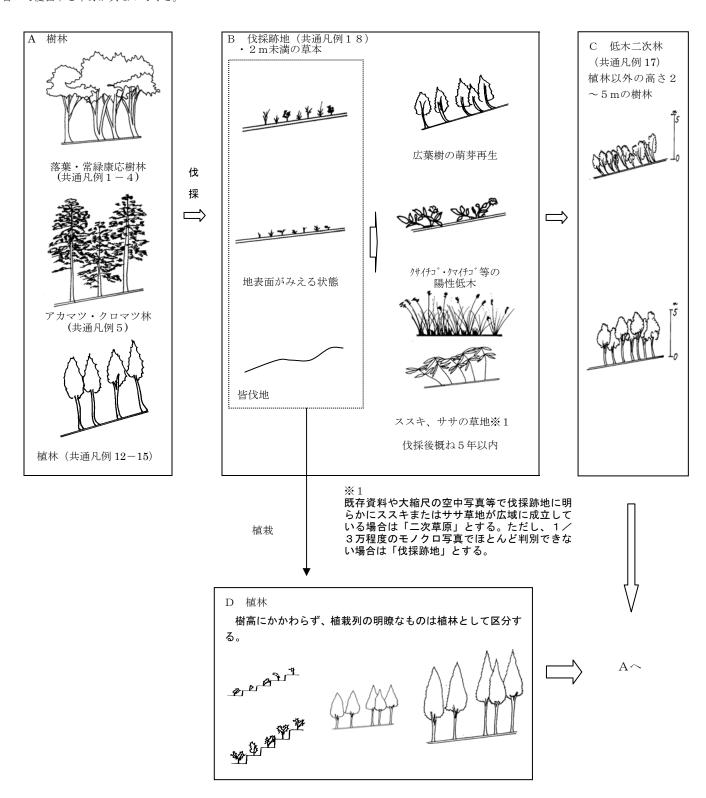
(判読対象Ⅱ)

※判読対象Ⅱとは、植林、竹林、低木二次林、伐採跡地を指す

区分記号 (凡例)	内 容	備考
100000, 260000, 460000 伐採跡地	(概要) ・森林の伐採後、概ね5年以内に形成される草本群落または高さ1~2m程度の低木群落。 ・伐採跡地で植栽列が識別できないもの。皆伐地。 (相観) ・ 高さ2m未満の草地または広葉樹低木林。 ・ 空中写真上では、周りを植林に囲まれ、地表面が全面または部分的に露出しているか、または肌理の細かな背の低い植生が地表を覆っている。 ・ 山地の斜面で、樹木がなく周辺の樹林地より明るい感じがする。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等) ※別紙-2	・必要に応じて区分記号と区分線を写真に表記する。
	・ 植生高約2m以上(5m未満)の低木群落は、「低木二次林」として区分する。 ・ 写真判読で、ススキ等の禾本科草本類またはササ類が識別できる優占する場合は「二 次草原として区分してもよいが、小縮尺の写真情報では判別が困難である。 ・ 原則として、写真上で明らかに植栽列が識別できる場合は、それらの高さ、植被率 にかかわらず「植林地」とする。例えば、新植後、下草刈り等の手入れがされておらず、 陽性低木あるいはススキ等が優占的に覆っていても、植栽列が認められるのであれば植 林地とする。 ・ 樹高にかかわらず、植栽列が明瞭に識別できる場合は植林として区分する。 (立地)	
	・山地、丘陵地の植林地に隣接することが多く、平地では少ない。 地表面が露出	
	伐採直後 草本類 陽性木本類 萌芽再生 (皆伐地) ※次ページ参照	

■ 伐採に関わる判読区分の相互関係

これらの区分は、遷移系列上で時間的に近接しており、実際の群落の中身は交錯している。また、伐採跡地や新植地は、時間差や管理の度 合いで優占する中身が異なってくる。



区分記号 (凡例)	内容	備考
570300 a (畑)	 (概要) ・陸稲、麦、野菜等の畑作物を栽培している耕作地。(相観) ・不整形の区画が明瞭で、栽培作物の緻密な筋、列を有する高さ2m未満の栽培草地。 ・区画は平坦または緩やかな傾斜を有し、区画の規模は小さい場合が多い。(類似凡例の区別点、区分のポイント等) ・不整形の「水田」は、季節によっては、畑と似た相観を示すが、畦や用水路の有無、地形状況等から判断する。 ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「放棄畑」と区別する。 ・地形図記号(荒れ地等)を参考にして「放棄畑」等と区分する。ただし、写真の撮影時期と地形図の作製・修正年次に留意すること。 ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。 ・畑地は、住宅地や水田等と混在する場合が多いが、1~3haの小規模なものは隣接する区分に含める。 ・ビニールハウス、温室等は、地図記号を参考にして畑とする。 ・沖縄の「サトウキビ畑」「パイナップル畑」もここに含める。(立地) ・平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。 ・平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。 ・平地部に多いが、山地〜丘陵地の谷底底地や山腹斜面にも分布する。 	・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
570400 b (水田)	畑 (野菜、麦等) ビニールハウス (概要) ・ 水稲、い草、蓮等を栽培している耕作地。 (相観)	・原則として区分記号と区分線は、
	・縦断に走る水路や畦で区画され、区画内は水平、均一な色調を示す。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等) ・「畑」は、水田と似た相観を示すが、畦や用水路の有無、地形状況等から判断する。 ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「放棄畑」と区別する。 ・写真情報のほか、地形図記号(荒れ地等)を参考にして「放棄畑」等と区分する。ただし、写真の撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。 ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。 ・水田は、住宅地や畑等と混在する場合もあるが、1~3haの小規模なものは隣接する区分に含める。 (立地) ・沖積平地に広く分布する。丘陵地~山地においても、谷底平地や山腹斜面(棚田)に分布する。	正安と区の稼は、写真上へは表言しない。
	- 11/1/1/1/ Par WWW WWW WWW WWW WWW WWW WWW WWW WWW W	

c (放棄畑)

(概要)

・ 畑の放棄後に成立する植生高2m未満の草本群落。

(相観)

- ・畑の形状を残した高さ2m未満の草地。
- ・空中写真上では、不整形の区画が明瞭で、作物を栽培している筋が明瞭にみえない。
- ・周辺の利用されている畑よりも荒れた感じがする。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・一面に草本類がやや不均一に覆っている。
- ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「畑」と区別する。
- ・地形図記号(荒れ地等)を参考にして「畑」等と区分する。写真の撮影年度と地形図の作製・ 修正年次に留意すること。
- ・放棄畑は、作物が栽培されている畑に隣接する場合が多い。写真上で、明らかに利用されている畑との被覆状況を比較すると区別しやすい。
- ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。
- 「放棄水田」は、写真上で似た相観を示すが、用水路の有無や周囲の土地利用状況から判断する。
- ・畑の放棄後、一時的にススキ草地が成立する場合がある。既存資料や現地確認等によって耕作 地跡に明らかにススキ草地が成立していると判断された場合は「二次草原」とする。
- ・放棄後の年数が長いと、「低木二次林」へと遷移する。

(立地)

- ・平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。
- 畑と隣接することが多い。



570500

d (放棄水田)

(概要)

・ 水田の放棄後に成立する植生高2m未満の草本群落。

(相観)

- ・水田の形状を残した高さ2m未満の草地。
- ・空中写真上では、畦や水路で囲まれた区画が明瞭で、稲作、稲刈り跡の均一な筋が明瞭にみえない。一面に草本類がやや不均一に覆っている。
- ・利用されている周辺の水田より荒れた感じがする。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・一面に草本類がやや不均一に覆っている。
- ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「水田」と区別する。
- ・地形図記号(荒れ地等)を参考にして「水田」等と区分する。写真の撮影年度と地形図の作製・ 修正年次に留意すること。
- ・放棄水田は、稲作を行っている水田に隣接する場合が多い。写真上で、明らかに利用されている水田との被覆状況を比較すると区別しやすい。
- ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。
- 「放棄畑」は、写真上で似た相観を示すが、用水路・畦の有無や周囲の土地利用状況から判断する。
- ・水田の放棄後、ヨシ群落が成立する場合がある。既存資料や現地確認等によって水田跡地に明らかにヨシが優占すると判断された場合はヨシクラスとする。
- ・放棄後の年数が長いとハンノキ等の湿地性の木本類が侵入し、「低木二次林」、「落葉広葉樹林・樹冠小」へと遷移する。

(立地)

- ・沖積平地に多いが、山地、丘陵地の谷底低地の山際等にも小面積で分布する。
- 水田と隣接することが多い。



沖積平地の放棄水田

谷地の放棄水田

斜面の放棄水田

・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。

・原則として区分

記号と区分線は、

しない。

写真上へは表記

e (果樹園・茶畑)

(概要)

・ 概ね2m以上の果樹 (林檎、梨、葡萄、桃、蜜柑等) が栽培されている樹園地、または茶畑。 そのほか、桑畑、苗木畑もここに含める。

(相観)

- ・空中写真上では、区画の形状が明瞭で、果樹または茶畑の規則的な配列が明瞭である。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等)
- ・山地斜面等には長期間放棄され、低木類が入っている場合がある。栽培種以外の低木類が50%以上で優占する箇所は「低木二次林」とする。
- ・植栽され管理下にある栗園は果樹園とする。
- ・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。

(立地)

・ 地域によって果樹の種類や規模、立地は様々である。

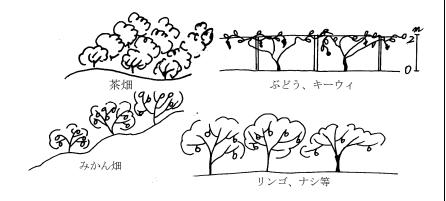
地場 (細分)

・地域によって茶畑、常緑果樹園を細分する。

570201 e 1 (茶畑)

570202

e 2 (常緑果樹園)



570100

f (路傍・空地雑草 群落)

(概要)

・都市とその周辺域の空地や造成地に成立する高さ概ね1m未満の草地。

(相観)

- ・空中写真上では、住宅地や建物、コンクリート構造物に隣接して区画の形状が明瞭であること が多い。
- ・部分的に地表面も露出し、やや肌理の不均一な草地が用地を覆う。地表面と草地が斑状に混在することが多い。
- ・比較的、明るい感じであるが、一様でなく牧草地よりもやや粗い感じがする。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・草地としては類似した相観を示す「放棄畑」「放棄水田」「二次草原」等とは、地形や隣接するまたは周囲の土地利用状況から判断する。住宅地に分布する草地はここに含める。
- ・ $1 \sim 3$ ha 程度のまとまった区画において、「造成地」と混在する場合は、優占率の高い方で区分する。
- ・面積が概ね1haに満たない場合は、市街地等隣接する区分に含める。
- ・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。

(立地)

・住宅地の造成地、工場の資材置場、一度造成された高水敷等、主として都市域に多い。

・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。

・原則として区分

記号と区分線は、

しない。

写真上へは表記



市街地の空地

資材置き場

造成後の高水敷

g (牧草地、採草地)

(概要)

- ・播種等の植栽後、刈り取り等によって管理されている植生高 0.5~1.5m程度の牧場等の人工 草地。
- ・牧場、採草地ではイネ科の外来牧草が播種され定期的に耕起されることが多い。
- ・牧場、飛行場(草地の滑走路)等の人為管理下にある草地もここに含める。

(相観)

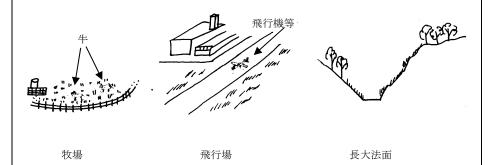
- ・空中写真上では、肌理が細かく平滑な草地が平地または緩やかな傾斜の地表を一面に覆う。
- ・区画は、畑に較べて大きい。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・踏みつけや刈り取りによって維持されているシバ草地 (「二次草原」) や管理下にある「ゴルフ場・芝地」とは、植生高の高さ、周囲の土地利用状況等から区別する。
- ・高速道路沿いの大規模法面(概ね1ha 以上)のうち、均一な人工草地がまとまっている場合は、ここに含める。1ha 未満の場合は、道路(「市街地等」)に含める。
- ・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。
- ・牧場に付随する $1\sim 2$ ha 未満のサイロ、畜舎等の構造物は、「牧草地、採草地」に含める。構造物が $2\sim 3$ ha 以上の場合は、「市街地等」として区分する。

(立地)

- ・ 牧場、牧草地は、丘陵地の山頂、緩やかな斜面、台地等に大規模にまとまっていることが多い。
- ・平地部の都市とその周辺地域では、飛行場、牧場等。



560100

h (ゴルフ場・芝地)

(概要)

・頻繁な刈り取りによって維持されている植生高 10 cm未満のゴルフ場や公園のシバ草地。

(相観)

- ・空中写真上では、樹林または人工構造物に囲まれた不整形の区画に、肌理が極めて細かく均一な草地が一面に地表を覆う。
- ・頻繁に刈り取りされるため、刈り跡が帯状の列としてみえることがある。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・「ゴルフ場・芝地」は、土地利用的な区分ではなく植被の質で区分する。
- ・ゴルフ場内の1ha未満の樹林地は、隣接する区分に含める。
- ・半自然状態にある放牧地のシバ草地 (二次草原) とは、周囲の地形や土地利用状況から判断する。
- ・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。

(立地)

- ・ ゴルフ場は、都市周辺の起伏の緩やかな丘陵地、河川敷等に多い。
- ・その他、大規模な公園、インターチェンジ盛土法面等にまとまって分布する。



ゴルフ場

公園・グランド

インター・チェンジ

・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。

・原則として区分

記号と区分線は、

しない。

写真上へは表記

580101

i (緑の多い住宅地)

(概要)

・都市域または集落において、公園的な樹林、植え込み、農地等の緑被が概ね30%以上で住宅 地等と混在する区域。

(相観)

同上

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・都市域では、道路、河川・水路、地形線等によって括られる概ね3~5 ha 程度のまとまりの ある区画を単位として緑被率を判断する。ただし、その中に 1ha 以上の樹林地、農地、草地が ある場合は緑の多い住宅地に含めずに抽出する。
- ・都市域では、全体的な緑被の分布と住宅地のまとまり具合いを考慮し、「緑の多い住宅地」と 「住宅地等」を区分する。
- ・第2回・第3回植生図では、同一基準で区分されていない場合が多いので注意する。
- ・都市域の1ha以上の残存樹林は、「落葉・常緑広葉樹林」として区分する。
- ・地形図上で表現されている"樹林に囲まれた居住地"は、ほぼこれに該当する。

(立地)

- ・ 都市とその周辺地域において、公園や並木等の多く含む住宅地。
- ・水田または畑が優占する平地部の屋敷林等を含む集落。



公園木、並木等と混在

小規模の樹林、農地と混在

屋敷林の多い集落

580100

k (市街地等)

(概要)

- ・緑被率30%未満の市街地等。
- ・大規模な植被はほとんどみられず、住宅地、ビル、道路、コンクリート・アスファルト等の人工構造物が卓越する区域。

(相観)

・同上

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・都市域では、道路、河川・水路、地形線等によって括られる概ね $3\sim5$ ha 程度のまとまりの ある区画を単位として緑被率を判断する。
- ・都市域では、全体的な緑被の分布と住宅地のまとまり具合いを考慮し、「緑の多い住宅地」と 「住宅地等」を区分する。
- ・第2回・第3回植生図では、同一基準で区分されていない場合が多いので注意する。
- ・植被のない運動場、グランド、学校敷地等はここに含める。
- ・ 「養豚場」「養鶏場、鶏舎」はここに含める。 ※小規模のサイロ等は「牧草地、採草地」に含める。
- ・緑被のない「墓地」「霊園」はここに含める。
- ・水田等の耕作地が優占する地域に分布する住宅地は、地形図の界線で括られる住宅地のまとまりを対象として、1 ha 以上のものを抽出する。
- 「公園」は緑被がなければ「市街地等」に含める。まとまった面積(1 ha 以上)でシバが覆 う場合は「ゴルフ場・芝地」とする。

(立地)

・ 都市とその周辺地域のまとまった住宅地、市街地。



建物・道路



駐車場



住宅地



コンクリート構造物

・原則として区分

記号と区分線は、

写真上へは表記

しない。

- ・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。
- ・原則として、幅 1.5 mm未満(縮尺 1 /2.5 万地形図) の道路は隣接す る植生区分に含 める。
- ・大規模な高速道 路、有料道路等概 ね幅 1.5 mm以上 (縮尺 1/2.5 万 地形図)の道路に ついては、「市街 地等」として道路 の両側に区分線 を入れる。これ以 外の小規模な道 路は、周辺の凡例 に含める。
- ・一本の道路が隣接する複数図のでは、区分には、区分には、区分には、区分には、区分には、の入れたにはは、注意する。

580300 L (工場地帯)

(概要)

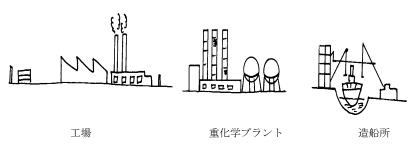
- 工場(製造工場、化学工場、造船所、中小工場等)を主とする地区。
- ・工場の敷地面積が、1 ha 以上のまとまった区画において 50%以上を占める区域。 (相観)

・資材置き場等に隣接して工場、倉庫等の細長い建造物が規則的に並んでいる。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・地図記号を参考に、建物の配列具合、敷地のまとまり等から「市街地等」と区分する。
- ・土地の履歴が干拓地であっても、工場等が建設されている場合は、「工場地帯」等の該当する 凡例を適用する。

(立地)

・ 臨海部の重化学プラントや造船所、都市周辺では自動車工場、まとまった町工場等が該当する。



・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。

580400

m (造成地)

(概要)

・採石場、ボタ山、造成中の宅地等の人工的な土地改変により、植被がみられない裸地。 (相観)

- ・地形が改変され、まとまって地肌が露出している。
- ・宅地造成の場合、地形が平坦にならされ整形な区画となる。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

- ・長期間放置された採石場や造成裸地等は、時間の経過につれて「路傍・空地雑草群落」、「低木二次林」へと変化する。これらの区分は、地表を覆う緑被の状態や周辺の土地利用状況から判断した上で、該当する凡例を適用する。
- ・採石場は、地形図記号を参考に、写真撮影時点の範囲を判読・移写する。
- ・資材置き場、学校敷地等、造成後に何らかの土地利用がされている裸地は、ここに含めない。 資材置き場は、植被の状況により「路傍・空地雑草群落」等に、学校敷地は「市街地等」に含める。
- ・林道等の道路脇で、材木置き場、車両待避所等として一時的に造成されている土地は、ここに 含める。

(立地)

- ・都市の周辺域では、大規模な宅地造成がみられる。
- ・丘陵地~山地には、様々な規模の採石場が分布する。

(細分)

銅精錬所周辺の裸地を「煙害跡裸地」として細分する。山地や島嶼の斜面にまとまって地肌 が露出している。過去に煙害によって裸地化され表土が変質したために植被の回復が進まない。

580402

580401

m2 (泥炭採掘跡)

m1 (煙害跡裸地)

(細分)

・北海道のサロベツ湿原の泥炭採掘跡地にみられる、肥料として活用されずに戻された浮遊泥 炭粒子の集まり。植被はほとんどない。



採石場 宅地造成

・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。

	/ Interest	
580500 n (干拓地)	 (概要) ・頻水地形や水面を干して陸地化した区域。 (相観) ・海域に隣接し、かつての海底面がみえ、植被はみられない。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等) ・干拓後に、工場や住宅地等が建設されている場合は、「工場地帯」、「市街地等」等、該当する凡例を適用する。 (立地) ・海域または河口に隣接している。 干拓地	・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。
580200 p (残存・植栽樹群 をもった公園・墓地 等)	(概要) ・比較的新しく形成された残存・植栽樹群をもつ大面積の都市公園等。(相観) ・並木、樹群地、草地、芝地、グランド、駐車場、人工構造物、池等が混在する。(類似凡例の区別点、区分のポイント等) ・まとまった面積(1 ha 以上)でシバが覆う場合は「ゴルフ場・芝地」として区分する。 ・1 ha 以上のカランド、駐車場、人工構造物は「住宅地」として区分する。 ・1 ha 以上の面積でさまざまな植生・土地利用が混在しているが、単独で 1ha を越える並木、樹群地、草地、芝地、グランド、駐車場、人工構造物、池が存在しない場合はまとめて括る。(立地) ・ 都市とその周辺地域。	・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
580800 s (残存・植栽樹群 地)	(概要) ・50~100 年生の雑多な残存樹・植栽樹からなる樹群地。 ・屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林等。 (相観) ・優占種がはっきりせず、群集名や群落名がはっきりしない。 (類似凡例の区別点、区分のポイント等) ・林床が管理されていたり、欠如していても、高木層から群集名・群落名が類推できるものは「s」とはしない。 ・1 ha 以上の面積でさまざまな植生・土地利用が混在しているが、樹群の面積が 1ha を越える場合はまとめて括る。 (立地) ・都市域または集落における屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林。	・原則として区分 記号と区分線は、 写真上へは表記 しない。

更新履歴

2000.3.15 判読情報資料図作成指針の資料2「全国共通判読指針」として新規作成

2004.6.25 植生原図作成指針の別紙1「伐採跡地・土地利用等判読指針」として該当部分を抜粋

- 2007.6.5 細分凡例 e-1, e-2, p, s,, m-1 を追加

2008.6.4 表題の「指針」を「手引き」に変更、判読対象 I , II の説明を追加、「備考(写真表記等)」の列名を修正 区分記号の L を大文字に変更、区分記号のハイフンを削除

「特殊立地の植生」等の判読区分名に凡例名(例)を付記、w, m等の内容を修正

凡例名: 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(III)コケモモートウヒクラス域 代價植生 (IV)ブナクラス域自然植生 (VI)フナクラス域代價植生 (VII)ヤブツバキクラス域代價植生 (VIII)和ブルバキクラス域代價植生 (VIII)和ブルバキクラス域大價植生 (VIII)和ブルバキクラス域を含む F)フナクラス域を含む F)フナクラス域を含む F)マンバキクラス域を含む 新規凡例作成年: 最初に登録された年度。GIS化でさかのぼって適用された場合は、もとの作成年度を記載した。

	植生区分	大区分	中ロード	中区分コード	細区分	凡例コード	凡例名		ス或	更 新 注記 沢	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例 ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	ìř	シカ等食害
1	I 01	1 高山低木群落	00	00		010000	高山低木群落	大				13				9		
2	I 01	1 高山低木群落	01	ハイマツ群落 00		010100	ハイマツ群落	中				4	2007	1 1	比海道	9		
3	I 01	1 高山低木群落	01	ハイマツ群落 01	コケモモーハイマツ群集	010101	コケモモーハイマツ群集	細				101				9		
4	I 01	1 高山低木群落	01	ハイマツ群落 02	イソツツジーハイマツ群集	010102	イソツツジーハイマツ群集	細				2	2004	1 1	比海道	9		
		1 高山低木群落			コケモモーミネヤナギ群落			細						5 4		9		+
		2 高山ハイデ及び風衝草原	00	00				大	+			71				10		+
Į.		2 高山ハイデ及び風衝草原			コメバツガザクラーミネズオウ群集			細				5				10		+-1
		2 高山ハイデ及び風衝草原			ウラシマツツジークロマメノキ群集			細	+			_		5 4	b ≙ R	10		+
a		2 高山ハイデ及び風衝草原			エゾマメヤナギーエゾオヤマノエンドウ群集		エゾマメヤナギーエゾオヤマノエンドウ群集	,	_			0		J 7	L Nb	10		+
10		2 高山ハイデ及び風衝草原			オヤマノエンドウーヒゲハリスゲ群集			細	_			0				10		+
		2 高山ハイデ及び風衝草原			イワオウギータイツリオウギ群集			細	-		-	0				10		+
ļ.								細細		(10444 61	- Tu	0	0010		⊢ ☆ ₽			+
		2 高山ハイデ及び風衝草原			キタダケソウ群落					(イワオウギータイ ツリオウギ群集)	副		2013	5 4	では	10		
		2 高山ハイデ及び風衝草原		コマクサーイワツメクサクラス 00				中	[L I	44		\perp		10		<u> </u>
14	I 02	2 高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス 01	ミヤマクロスゲーチシマクモマグサ群集	020601	ミヤマクロスゲーチシマクモマグサ群集	細	T			0				10		
15	I 02	2 高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス 02	フジハタザオーオンタデ群集	020602	フジハタザオーオンタデ群集	細				4				10		П
16	I 02	2 高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス 03	イワツメクサ群落	020603	イワツメクサ群落	細	T			0	未			10	-	\Box
		2 高山ハイデ及び風衝草原			タカネビランジーミヤマミミナグサ群集			細	1					5 4	中部	10		$\overline{}$
		2 高山ハイデ及び風衝草原		蛇紋岩地植生 00				中	2	牧		0		2 月		10		+
		2 高山ハイデ及び風衝草原		高山ハイデ及び風衝草原(蛇紋岩地植生 00			高山ハイデ及び風衝草原(蛇紋岩地植生を	中		-				2 頁		10		П
				を含む)			含む)	4m							1. 14 14			_
,		2 高山ハイデ及び風衝草原			タカネノガリヤス群落(北海道)			細						1 1	[[海迫	10		•
21		3 雪田草原	00	00				大				52				10		
		3 雪田草原		アオノツガザクラ群団 00				中				0				10		
		3 雪田草原			エゾコザクラ群落			細				0				10		
		3 雪田草原			エゾツガザクラーアオノツガザクラ群落			細				0				10		
25	I 03	3 雪田草原	02	アオノツガザクラ群団 03	タカネヤハズハハコーアオノツガザクラ群集	030203	タカネヤハズハハコーアオノツガザクラ群集	細				0				10		
26	I 03	3 雪田草原	02	アオノツガザクラ群団 04	エゾツガザクラーチングルマ群落	030204	エゾツガザクラーチングルマ群落	細				0				10		
27	I 03	3 雪田草原	03	ショウジョウスゲ群落 01	イワイチョウーショウジョウスゲ群集	030301	イワイチョウーショウジョウスゲ群集	細				0				10		
28	II 04	4 亜高山帯針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群団 01	エゾマツートドマツ群集	040101	エゾマツートドマツ群集	細				75				9	-	
29	II 04	4 亜高山帯針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群団 02	アカエゾマツ群集	040102	アカエゾマツ群集	細				23				9		
30	II 04	4 亜高山帯針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群団 03	イチイートドマツ群集			細				3				9		
		4 亜高山帯針葉樹林(北海道)			ダケカンバーエゾマツ群落			細	\dashv		\Box	58		1 1		9		+
L		4 亜高山帯針葉樹林(北海道)			アカエゾマツーキタゴヨウ群落			細	1	(アカエゾマツ群集)	副			1 1	比海道	9		+
		5 亜高山帯針葉樹林		オオシラビソ群団 00				中	-			2				9		+
ļ.		5 亜高山帯針葉樹林			オオシラビソ群集			細	\dashv		\vdash	57				9		+
		5 亜高山帯針葉樹林			シラビソーオオシラビソ群集			細	\dashv		+	36				9		+
		5 亜高山帯針葉樹林			シコクシラベ群集			細	+			0				9		+
		5 亜高山帯針葉樹林			コメツガ群落			細	\dashv		+	42		+ +		9		+
		5 亜高山帯針葉樹林			カラマツ群落			細	\dashv		\vdash	27		+ +		9		+-
		5 亜高山帯針葉樹林			シラビソ群集			細	+		\vdash			6 i	F.樂	9		+
		5 亜高山帯針葉樹林			イトスゲートウヒ群落			細	+	シカ食害地				6 i		9		
		5 亜高山帯針葉樹林						細細	+	ノル及古地	H		2008			9		-
					キタゴヨウーアカエゾマツ群落				-		+							+
		5 亜高山帯針葉樹林			マイヅルソウーコメツガ群集			細	_	(マムバッハナ - *			2009			9		+
		5 亜高山帯針葉樹林			イラモミ群落			細		(マイヅルソウーコメ ツガ群集)	田リ			3 月	10年	9		
		6 亜高山帯広葉樹林		ミドリユキザサーダケカンバ群団 00				中				56				9		
		6 亜高山帯広葉樹林			ミヤマハンノキ群落			細				22				9		
		6 亜高山帯広葉樹林			ダケカンバ群集			細						2 月	東北	9		$oldsymbol{ol{ol}}}}}}}}}}}}}}} $
47	II 06	6 亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキザサーダケカンバ群団 07	ササーダケカンバ群落	060107	ササーダケカンバ群落	細	1	多		42				9		
48	II 06	6 亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキザサーダケカンバ群団 08	タカネノガリヤスーダケカンバ群集	060108	タカネノガリヤスーダケカンバ群集	細	\perp			3	2004	5 🖪	中部	9		

□ 正 0	シカ等食害 注 注 植生自然度2.5万	新規凡例ブロック 新規凡例 プロックコード	作成年	2次メッシュ 数	注記	クラス域重複	フリンドレフ球重視	区分レベル	凡室的		細コード	中区方	中コード	植 大 生 E C 大 大 C 分
3 目 6 画		7 中国・四国												
2 日 (1) 第34世所立接接体	9													
3 日 (0	9													
5 I I O	9													
95 目 (1) 日本の一部の主義機体	9	1 北海道	2005											
95 王 1	9													
□ 日 回 通流山底広奏解林 の ロ ピング・グーウング・学程目 の 5 サナーダケルン(将名	9													
9 II の 高点山地元芸師林 の 1 2-7カエ子辞落 の 1 アナカイト - 2ネカエ子辞落 個	9													
9 II の 医角性系数 医角性 医素性 医角性 医素性 日本 10 10 10 10 10 10 10 1	9	1 北海道	2000			移								
□ II の 高素素の高久が展標業別	9							-						
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □														
82 II の	10	5 中部	2011											
83 II 0	10													
8日 II の 演奏型原及に風暴無限 の 1 シナナネンバーミヤマナバハウ辞図 の 1 バイケイソウニギマイ斜条 の 1 の 2 大き変異及と(風暴無限 の 1 シナナネンバーミヤマナバウ辞図 の 1 シナナネンバーミマヤマ・バウ辞図 の 2 ドマイ音楽 知	10	\longrightarrow						-						
85 II の「高速展及び低海環線 01 シナイキンパイ-岩やマキンがウが間目 08 ヤマイ将集 070105 ヤンダーサンド・ショウ・ディー・マ・マ・マ・シー・ショウ・ディー・マ・マ・マ・シー・ア・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・マ・	10													
68 I 07 演奏を展及の反角類解 01 シナイキンパイニヤマキンボウが替出 05 センジョウザラミニヤマシンウド酵素 日 10 10 10 10 10 10 10	0 10	0 0	未				_							
87 Ⅱ 07 高菱電原及び無層車原 02 サザ酵落 00 ドランザ酵落 00 ドランザ酵落 07020 サナ野茶(B) 中	10													
88 Ⅱ 07 高差年度及び風煙草原 02 ササ母系 01 チンマザサ野系 070201 チンマザサ野系	10	5 中部	2014				_							
98 Ⅱ 07 高速電源及び風雨湿原 02 ササ南落 02 オケ/かンスゲーチシマザサ朝集 07 10 7 高速電源及び風雨湿原 03 トゲーダス料落 00 07:500 トゲーダス料落 中 中 10 25 25 25 25 25 25 25 2	10													
70 Ta	10													
71 10 17 高速電源及の風軽電隙	0 10													
20 1 大きな原数の投稿者原序 05 大き者音像 00 00 00 00 10 10 10 1	10 注1 ●				シカ食害地	検								
73														
4 回 08 重商山平二次林 02 アカエゾマツ群落 01 アカエゾマツ群落(保快林) 680201 アカエゾマツ群落(保快林) 細 4 2007 1 北海道 13 15 10 10 2次草原 10 ササ群落 10 10 2次草原 10 10 20 2次草原 10 20 20 20 20 20 20 20	4	5 中部	2014					_						
75 1 00 二次産原	8													
76	7	1 北海道	2007											
77 17 17 19 二次草原	5													
78	5							-						
79	5													
80 Ⅲ 10 (技探跡地群落 100 0	5													
81 V 11 落葉広葉樹林(日本海型) 01 デシマザサーブナ群団 00 デンマザサーブナ群団 01 ドンアオキーブナ群集 110100 デンマザサーブナ群風 110100 デンマザサーブナ群集 110100 ビメアオキーブナ群集 110100 エジーブナ群集 110100 エジーブナ群集 110100 エジーブナ群集 110100 エジーブナ群集 110100 エジーブ・エジーブナイ群集 110100 エジーグタヤーシナンキ群集 110100 エジーグタヤーシナンキ群集 110100 エジーグタヤーシナンキ群集 110100 エジーグタヤーシナンキ群集 110100 エジーグタヤーシャンキ群集 110100 エジーグタヤーシャンキ球集 110100 エジーグタヤーシャンオイ群集 110100 エジーグタヤーシャンオイギ 110100 エジーグタヤーシャンオイギ 110100 エジーグタヤーシャンオ 110100 エジーグタヤーシャンオ 110100 エジーグタヤーシャンオ 110100 エジーグタヤーシャンオ 110100 エジーグタヤーシャンオ 110100 エジーグターカシロ 110100 エジーグター 11010	4	1 北海道	2009		シカ食害地									
28 V 11 落葉広葉樹林(日本海型) 01 チンマザサーブナ群団 01 ヒメアオキーブナ群集 110101 ヒメアオキーブナ群集 110102 マルバマンサクーブナ群集 4個 20 3 3 20 3 3 7 1 3 3 7 1 3 3 7 1 3 3 7 3 3 7 3 3 7 3 3	4													
88 V 11 落葉広葉樹林(日本海型) 01 チシマザサーブナ群団 02 マルバマンサクーブナ群集 110102 マルバマンサクーブナ群集 110103 スギーブナ群落 110103 スギーブナ群落 110104 カロモジーブナ群集 110104 カンワ森木 110104 スギーブシア群集 110104 カンワ森木 110104 スボーカシワ群集 110104 スボーカシワ群条 110104 スボーカシワ群条 110104 スボーカシワ群集 110104 スボーカシワ群集 110104 スボーカシワ群集 110104 スボーカシワ群集 110104 スボーカシロ群集 110104 スボーカンロボーカシワ群条 110104 スボーカンロボーカシワボーカシロ群条 110104 スボーカンロボーカシロボーカシロボーカシロボーカシロボーカシロボーカシロボーカシロボーカシ	9													
84 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 01 チシマザサーブナ群団 03 スギーブナ群集 110103 スギーブナ群集 110104 クロモジーブナ群集 細 52 1 52 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	9													
85 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 01 チンマザサーブナ群団 04 クロモジーブナ群集 110104 クロモジーブナ群集 細 52 32 87 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 03 エゾイタヤーシナノキ群団 01 エゾイタヤーシナノキ群集 110302 エゾイタヤーシナノキ群集 細 C 117 落葉広葉樹林(日本海型) 03 エゾイタヤーシナノキ群団 02 エゾイタヤーケヤキ群集 110302 エゾイタヤーシナノキ群集 細 C 117 落葉広葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 01 かシワ群落 110401 かシワ群落(N) 細 (4)仮 79 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 02 ヤマカモジグサーカンワ群集 110402 ヤマカモジグサーカシワ群集 細 9 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 03 本ムノキーカンワ群集 110402 ヤマカモジグサーカシワ群集 細 9 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 03 本ムノキーカンア群集 110403 ネムノキーカンア群集 110404 ドネエス葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 03 本ムノキーカンア群集 110404 ドネエス業樹林(日本海型) 04 かシワ群団 03 本ムノキーカンア群集 110404 ドネエス業樹林(日本海型) 11 落葉広葉樹林(日本海型) 05 ミズナラ群落 110404 ドネエス業樹林(日本海型) 11 落葉広葉樹林(日本海型) 05 ミズナラ群落 110404 ドネアージーのド 第 N 11 落葉広葉樹林(日本海型) 11 落葉広葉樹林(日本海型) 11 落葉広葉樹林(日本海型) 11 落葉広葉樹林(日本海型) 11 不同動士広混交林 11 サワシバーミズナラ群団 11 ドネリー・ディントラギス 120101 ドネリー・ディントラ群落 120101 ドネリー・ディントラ群落 120101 ドネリー・ディントラ群落 120101 ドネリー・ディントラ群落 120102 ドスナラ群落 120102 ボスナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120104 ドネリー・ディントラ N 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 03 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120104 ドネリー・ディントラ N 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 04 ドネリー・ディントラ N 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 04 ドネリー・ディントラ N 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 04 ドネリー・ディントラ N 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 05 ドロノキ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 120104 ドネリー・ディントラ N 13 落葉広葉樹林(ス字半型) 01 スズタケーブナ群団 05 ドロノキ群落 120105 ドロノキ球落 120105 ドロノキ球茶 120105 ドロノキ球落 120105 ドロノキ球茶 120105 ドロスター・アンロスター・アンロスター・アンロスター・アンロスター・アンロスター・アンロスター・アン	9													
86 IV 11 落葉広葉樹林(日本海型) 03 エゾイタヤーシナノキ群団 01 エゾイタヤーシナノキ群集 110301 エゾイタヤーシナノキ群集 細 0 117 2000 4 北陸 117 2000 1 北陸 117 20	9													
87 IV 11 落葉広葉樹林日本海型) 03 エゾイタヤーシナノキ群団 02 エゾイタヤーケヤキ群集 110302 エゾイタヤーケヤキ群集 細 C 117 2000 4 北陸 117 2000 4 北陸 117 2000 4 北陸 117 2000 1 カシワ群団 01 カシワ群落 110401 カシワ群落 110401 カシワ群落 110402 ヤマカモジグサーカシワ群集 細 9 IV 11 落葉広葉樹林日本海型) 04 カシワ群団 02 ヤマカモジグサーカシワ群集 110402 ヤマカモジグサーカシワ群集 細 9 IV 11 落葉広葉樹林日本海型) 04 カシワ群団 03 ネムノキーカシワ群集 110403 ネムノキーカシワ群集 細 9 IV 11 落葉広葉樹林日本海型) 04 カシワ群団 04 ミズナラ群落(海岸風衝型) 110404 ミズナラ群落(海岸風衝型) 細 9 IV 11 落葉広葉樹林日本海型) 05 ミズナラ群落 00 IT 110500 ミズナラ群落(日本海型) 中 新 2016 2 東北 110403 北海道 110404 IT	9													
88 IV 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 01 かシワ群落 110401 かシワ群落(IV) 細 @仮 79 31 2000 2 東北 79 11 2 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 02 ミズナラ群落 120101 ドマツキ系(誘導林) 120104 ドマツ群落(誘導林) 120104 ドマツ群落(誘導林) 120104 ドマツ群落(誘導林) 120104 ドマツ群落(誘導林) 4 120104 ドマツ非素 細 79 31 2000 2 東北 79 31 2000	9	4 Jb 0±	0000				_	,						
88 IV 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 カシワ群団 02 ヤマカモジグサーカシワ群集 110402 ヤマカモジグサーカシワ群集 細	9	4 北陸	2000		⊕ /⊑	,								
90 IV 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 かシワ群団 03 ネム/キーカシワ群集 110403 ネム/キーカシワ群集 細	9	0 = 16	0000		41収			-						
9日 IV 11 落葉広葉樹林(日本海型) 04 カシワ群団 04 ミズナラ群落(海岸風衝型) 110404 ミズナラ群落(海岸風衝型) 細	9													
92 IV 11 落葉広葉樹林(日本海型) 05 ミズナラ群落 00 10 トドマツーミズナラ群落 110500 ミズナラ群落(日本海型) 中 新 2015 2 東北 10500 ミズナラ群落 120101 トドマツーミズナラ群落 細 120101 トドマツーミズナラ群落 細 120101 トドマツーミズナラ群落 細 120102 ミズナラ群落 120102 ミズナラ群落(北海道) 細 2 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 02 ミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 細 2 2007 1 北海道 177 2 178 187 187 187 187 187 187 187 187 187														
33 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 01 トドマツーミズナラ群落 120101 トドマツーミズナラ群落 細 177 179 170	9					der								
94 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 02 ミズナラ群落 120102 ミズナラ群落(北海道) 細 95 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 03 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 細 8 (トドマツーミズナラ 副 7 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 04 トドマツ群落(誘導林) 120104 トドマツ群落(誘導林) 細 8 (トドマツーミズナラ 副 7 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 05 ドロノキ群落 120105 ドロノキ群落 細 8 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群団 00 130100 スズタケーブナ群団 中 5 5	9	2 東北	2015			新		-						
95 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 03 エゾイタヤーミズナラ群落 120103 エゾイタヤーミズナラ群落 細 192 1 96 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 04 トドマツ群落(誘導林) 120104 トドマツ群落(誘導林) 細 移 (トドマツーミズナラ 副 群落) 97 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 05 ドロノキ群落 120105 ドロノキ群落 細 日本 98 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群団 00 日本 130100 スズタケーブナ群団 ロー コンパタケーブナ群団	9	4 11,15	0007											
96 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 04 トドマツ群落(誘導林) 120104 トドマツ群落(誘導林) 細 移 (トドマツーミズナラ 副	9	1	2007					-						
97 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 05 ドロノキ群落 120105 ドロノキ群落 細 2008 1 北海道 98 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群団 00 130100 スズタケーブナ群団 中 5	9	1 11/25/*	0001		/L L' ¬ > , ¬ ¬ ¬ + = 1	16								
97 IV 12 下部針広混交林 01 サワシバーミズナラ群団 05 ドロノキ群落 120105 ドロノキ群落 細 2008 1 北海道 98 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群団 00 130100 スズタケーブナ群団 中 5 5	9	1 北海坦	2001	J 64		移	#	絀	PF イソ群洛(誘導杯)	04 トトマツ群洛(誘導杯) 120104	04	ザソンハーミ人ナフ群団	01	17 12 下部針仏従父杯
98 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群団 00 130100 スズタケーブナ群団 中 5	9	1 北海道	2008	\dashv	9T/11/		•	細	ドロノキ群落	05 ドロノキ群落 120105	05	サワシバーミズナラ群団	01	IV 12 下部針広混交林
	9													
99 IV 13 洛美広美懷林(太平注望) UI (人人ダケーノナ群団 UI ヤマホワンーノナ群集 130101 ヤマホワンーノナ群集	9	+		31				細	ヤマボウシーブナ群集			スズタケーブナ群団		Ⅳ 13 落葉広葉樹林(太平洋型)
00 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型)	9		-	_										
01 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケープナ群頃 04 オオモミジガサーブナ群集 130104 オオモミジガサーブナ群集 細 7	9	+												
02 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群頃 05 スズタケーブナ群集 130105 スズタケーブナ群集 2	9	+		2										
03 IV 13 落葉広葉樹林(太平洋型) 01 スズタケーブナ群団 06 シラキーブナ群集 130106 シラキーブナ群集 細 74	9	+												

植生区分	7. — L	大区分 コード	1	中区分	細コー 細区分	凡例コード	л	ういべ レンス域 重複	更 新 状 況	副凡例	2次メッシュ数	\Rightarrow	新規凡例ブロック 新規凡例 プロックコード	植生目然度2.5万		シカ等食害
					07 ツクシシャクナゲーブナ群集		ツクシシャクナゲーブナ群集		(+++>>>+>)	70	2	0000			9	
105 IV	13	落葉広葉樹林(太平洋型) 01	1 3	ズタケーブナ群団	08 クワガタソウーブナ群落	130108	クワガタソウーブナ群落	#	(オオモミジガサー ブナ群集)	副	2	2002	5 中部		9	
106 IV	13	落葉広葉樹林(太平洋型) 01	1 ス	ズタケーブナ群団	09 ウラジロモミーブナ群集	130109	ウラジロモミーブナ群集	H	7 1 4T XX 7		6	2006	6 近畿		9	
107 IV	13	落葉広葉樹林(太平洋型) 01	1 ス	ズタケーブナ群団	10 コアジサイーブナ群集	130110	コアジサイーブナ群集 細	Ħ	(ヤマボウシーブナ	副	5	2008	5 中部		9	
100 π/	12	落葉広葉樹林(太平洋型) 01	1 7	ズタケーブナ群団	11 ブナーイヌブナ群集	120111	プナーイヌブナ群集 細		群集) 検		0	2010	3 関東		9	
					12 ツガーブナ群落		ツガーブナ群落		(シラキーブナ群	副	0		7 中国・四	围	9	-
					13 オオイタヤメイゲツ群落		オオイタヤメイゲツ群落		新	ш.			5 中部	_	9	
					00		イヌブナ群落中		321		25		- 1.4		9	
			2 イ:	ヌブナ群落	01 チャボガヤーイヌブナ群集	130201	チャボガヤーイヌブナ群集	Ħ			18				9	
					02 コハクウンボクーイヌブナ群集		コハクウンボクーイヌブナ群集				5				9	
					03 モミーイヌブナ群集		モミーイヌブナ群集						2 東北		9	
					04 アカシデーモミ群落		アカシデーモミ群落		(モミーイヌブナ群集)	副			2 東北		9	
					05 アブラツツジーイヌブナ群集		アブラツツジーイヌブナ群集				\vdash	2010	3 関東		9	
					00		ミズナラ群落(太平洋型) 中				0				9	
					01 リョウブーミズナラ群集 02 ツクシコウモリソウーミズナラ群集		リョウブーミズナラ群集 細 ツクシコウモリソウーミズナラ群集 細		₩	+	36	2010	0 + 44 - 34	4里	9	
					03 ミヤコザサーミズナラ群集(自然林)		マンショウモリアアーミステラ杆条 福		検		0		8 九州·沖 3 関東	神电	9	-
					01 イヌシデーアカシデ群落		イヌシデーアカシデ群落				76	2011	U IXIX		9	
					02 アカシデ群落		アカシデ群落				10				9	-
123 IV	13	落葉広葉樹林(太平洋型) 05	5 🗆	ハウチワカエデ群落	00	130500	コハウチワカエデ群落 中	-			0	2010	8 九州・沖	縄	9	
					01 ケクロモジーコハウチワカエデ群落		ケクロモジーコハウチワカエデ群落 細	_			4				9	
/ш/3	13	落葉広葉樹林(太平洋型) 05	5 🗆	ハウチワカエデ群落	02 ツクシコウモリソウーキリシマミツバツツジ群落	130502	ックショウモリソウーキリシマミッバッツジ群 ែ 落	Ħ				2010	8 九州・沖	縄	9	
					01 クリーコナラ群集(自然林)		クリーコナラ群集(自然林) 細					2011	3 関東		9	
127 IV			_		00		ウラジロモミ群落中				25				9	
			_		01 ウラジロモミーコメツガ群落		ウラジロモミーコメツガ群落				3	0004			9	
					02 カニコウモリーウラジロモミ群集 03 サワダツーウラジロモミ群集		カニコウモリーウラジロモミ群集 細 サワダツーウラジロモミ群集 細						5 中部 3 関東		9	
					00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00		トレノキアスナロ群落(IV) 中			+	37	2014	3		9	-+
					01 ブナーヒノキアスナロ群落		ブナーヒノキアスナロ群落			+ +		2000	2 東北		9	
					00		クロベーキタゴヨウ群落中				36		- 514.15		9	-
134 IV	14	冷温帯針葉樹林 03	3 ク	ロベーキタゴヨウ群落	01 アカミノイヌツゲークロベ群集	140301	アカミノイヌツゲークロベ群集	H			61				9	
135 IV	14	冷温帯針葉樹林 04	4 クロ	ロベーヒメコマツ群落	00	140400	クロベーヒメコマツ群落 中	-			12				9	
					00			□ C			3				9	
					00			□ C				2000	7 中国•四	国	9	
			_		01 コカンスゲーツガ群集 02 ハイノキーツガ群集			E C		+	81 17				9	-
					02 /ハイノヤーツガ 群集			∄ C	檢	+		2004	8 九州・沖	組	9	
					04 キリシマミツバツツジーツガ群落		キリシマミツバツツジーツガ群落		<u> </u>	+			8 九州・沖		9	-+
					00			- C			3			-	9	
143 IV	14	冷温帯針葉樹林 08	8 E.	ノキ群落	00	140800	ヒノキ群落中	¬ С			69				9	
					01 シノブカグマーヒノキ群集		シノブカグマーヒノキ群集				3				9	
					02 シャクナゲーヒノキ群集		シャクナゲーヒノキ群集		IA.		29			A.W	9	
			_		03 ツクシシャクナゲーヒノキ群集		ツクシシャクナゲーヒノキ群集		検	+			8 九州・沖	縋	9	
					04 マルバノキーヒノキ群集 00		マルバノキーヒノキ群集 細コウヤマキ群落 中	≝ □ C		+	3	2010	5 中部		9	-
					01 ブナーコウヤマキ群落		ブナーコウヤマキ群落 細		検	+		2004	8 九州・沖	縕	9	+
					00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00			- C	∽	+	3	_004	3 767H 7T	7-6	9	-
			_		01 ヒメヒサカキースギ群集		ヒメヒサカキースギ群集					2008	8 九州・沖	縄	9	-
			_		00		モミ群落			+			5 中部	-	9	
153 IV	14	冷温帯針葉樹林 11	1 E	ミ群落	01 アオハダーモミ群落	141101	アオハダーモミ群落	H	(モミーイヌブナ群 集)	副	30	2000	2 東北		9	
154 IV	14	冷温帯針葉樹林 13	3 /1	リモミ群落	00	141300	ハリモミ群落中	-			3	2004	5 中部		9	

植生区分	大区分	中コード	中区分 コード	細区分	凡例コード	凡卿名	区分レベル・	クラス域重複	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	往	新規凡例	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	¥	シカ等食害
	14 冷温帯針葉樹林		サワラ群落 00			サワラ群落	中						2011			9		\perp
	14 冷温帯針葉樹林		トドマツーキタゴヨウ群落 00			トドマツーキタゴヨウ群落	中						2011	1 1	化海道	9		
	15 岩角地針葉樹林		アカマツ群落 00			アカマツ群落(IV)	中					88				9		
	15 岩角地針葉樹林			ヒメコマツーアカマツ群落	150101	_		С	検			16				9		
	15 岩角地針葉樹林			ミヤマキリシマーアカマツ群集	150102		細						2010	8 7	九州・沖縄	9		
	15 岩角地針葉樹林		ヒメコマツ群落 00			ヒメコマツ群落	中					6				9		
	15 岩角地針葉樹林			オキシャクナゲークロベ群落	150201		細	С					2013	7 -	中国・四国	9		
	16 渓畔林			ジュウモンジシダーサワグルミ群集	160101		細					227				9		
	16 渓畔林			ヤハズアジサイーサワグルミ群集	160103		細					20				9		
	16 渓畔林			ヤマタイミンガサーサワグルミ群集	160104		細						2006			9		
	16 渓畔林	01	サワグルミ群落 05	テツカエデータカネミズキ群集	160105	テツカエデータカネミズキ群集	細					1	2013			9		
	16 渓畔林		シオジ群落 00	I .	160200		中							7 -	中国•四国	9		
	16 渓畔林			ミヤマクマワラビーシオジ群集	160201		細					16				9		
168 IV	16 渓畔林	02	シオジ群落 02	イワボタンーシオジ群集	160202	イワボタンーシオジ群集	細					16	2002	5	中部	9		
169 IV	16 渓畔林	03	ハルニレ群落 00		160300	ハルニレ群落	中					220				9		
170 IV	16 渓畔林	03	ハルニレ群落 01	ハルニレ群集	160301	ハルニレ群集	細					42				9		
171 IV	16 渓畔林	03	ハルニレ群落 02	オニヒョウタンボクーハルニレ群集	160302	オニヒョウタンボクーハルニレ群集	細						2011	5 -	中部	9		
172 IV	16 渓畔林	04	ケヤキ群落 00		160400	ケヤキ群落(IV)	中					85				9		
173 IV	16 渓畔林	04	ケヤキ群落 01	チャボガヤーケヤキ群集	160401	チャボガヤーケヤキ群集	細	С				171				9		
174 IV	16 渓畔林	04	ケヤキ群落 02	ヒメウワバミソウーケヤキ群集	160402	ヒメウワバミソウーケヤキ群集	細					7				9		
175 IV	16 渓畔林	04	ケヤキ群落 03	オオモミジーケヤキ群集	160403	オオモミジーケヤキ群集	細					31	2000	2 5	東北	9		
176 IV	16 渓畔林	04	ケヤキ群落 04	タマブキーケヤキ群集	160404	タマブキーケヤキ群集	細					25	2003	2 3	東北	9		
177 IV	16 渓畔林	05	アサガラ群落 01	コクサギーアサガラ群落	160501	コクサギーアサガラ群落	細	С				2				9		
178 IV	16 渓畔林	06	オオバアサガラ群落 00		160600	オオバアサガラ群落	中					1	2002	5 -	中部	9		
179 IV	16 渓畔林	07	カツラ群落 00		160700	カツラ群落	中		検				2002			9		
180 IV	16 渓畔林	08	ヤチダモ群落 01	ハシドイーヤチダモ群集	160801	ハシドイーヤチダモ群集	細		移			27				9		
181 IV	16 渓畔林	08	ヤチダモ群落 02	エゾマツーヤチダモ群落	160802	エゾマツーヤチダモ群落	細					1	2007	1 1	化海道	9		
	17 沼沢林		ヤチダモ群落 00		170100		中					9				9	-	
	17 沼沢林			ハンノキーヤチダモ群集	170102	ハンノキーヤチダモ群集	細					201				9	-	
	17 沼沢林		ハンノキ群落 00			ハンノキ群落(IV)	中					226				9	-	
185 IV	17 沼沢林	03	ズミ群落 01	レンゲツツジーズミ群集	170301	レンゲツツジーズミ群集	細					0	2010	3	関東	9	-	
	17 沼沢林	04	ミヤマウメモドキ群落 01	ミヤマウメモドキーハイイヌツゲ群集	170401	ミヤマウメモドキーハイイヌツゲ群集	細		新			1	2015			9		
	18 河辺林		ヤナギ高木群落 00		180100		中					471		-		9		\vdash
	18 河辺林			オオバヤナギードロノキ群集	180101	オオバヤナギードロノキ群集	細	V				40				9		\vdash
	18 河辺林			ケショウヤナギ群落	180102	ケショウヤナギ群落	細					19				9		\vdash
	18 河辺林			シロヤナギ群集		シロヤナギ群集	細					0				9		\vdash
	18 河辺林			ユビソヤナギ群落		ユビソヤナギ群落	細					t	2011	3	関東	9		\vdash
	18 河辺林		ヤナギ低木群落 00			ヤナギ低木群落(IV)	中					311				9		\vdash
193 IV	18 河辺林		オニグルミ群落 00		180300	オニグルミ群落(IV)	中					4				8		\Box
	18 河辺林		ヤマハンノキ群落 00			ヤマハンノキ群落	中					159				9		\forall
	18 河辺林		河辺ヤシャブシ群落 00		180500		中						2001	5 -	中部	9		\forall
	18 河辺林		河辺アカマツ群落 00			河辺アカマツ群落	中		_			t 🗂	2014			9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落	00		I .	190000		大	V	_			197		112		9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラクーミヤマナラ群団 00			ウラジロヨウラクーミヤマナラ群団	中					37				9		
	19 岩角地・風衝地低木群落			ミヤマナラ群落	190101		細		-+			36				9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落			ミネヤナギ群落	190103		細		-			14				9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落			キャラボク群落		キャラボク群落	細		-			2				9		+
	19 岩角地・風衝地低木群落		ヤシャブシ群落 00		190200		中				+	5				9		\forall
	19 岩角地・風衝地低木群落			ミヤマキリシマーヤシャブシ群落	190201		細				+	0				9		\forall
	19 岩角地・風衝地低木群落			ミヤマカタバミーオオイタヤメイゲツ群集	190301		細		\dashv		_	0		+		9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落			サイゴクイボターオオヒメツゲ群集	190401		細		-+		_	0		-		9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落		イワシデ群落 00		190500		中		改			9		-		9		+
	19 岩角地・風衝地低木群落			イワツクバネウツギーイワシデ群集	190501		細		~			0		-		9		+
	19 岩角地・風衝地低木群落		ヤマボウシ群落 00			ヤマボウシ群落	中		-+		_	0		-		9		\vdash
	19 岩角地・風衝地低木群落			コミネカエデーナナカマド群集		コミネカエデーナナカマド群集	細		\dashv			6		-		9		+
200 10	12 但月地 四月地區小併滑	37	/ / // TI ST/E	ーニ・カー ノノカスト 併木	130701	コンコのナノ ノノの 1 一付木	小田					ا ا				9		ш

植生区分			中 コ コ 中 を 2		細区分	凡例二一片	<u>室</u> 名	区分レベル	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロック 新規凡例 プロックコード	植生自然度2.5万	シカ等食害
		岩角地•風衝地低木群落	09 ホンシャクナゲ群落		0			中					2000	7 中国・四国	9	
		岩角地•風衝地低木群落	10 イワヒバ群落		0			中					未		10	
		岩角地·風衝地低木群落	10 イワヒバ群落		1 イブキシモツケーイワヒバ群落			細						8 九州・沖縄	10	
		岩角地·風衝地低木群落	10 イワヒバ群落		2 ダンギクーイワヒバ群集			細					2000		10	
		岩角地·風衝地低木群落	11 シロヤシオ群落		0			無					2006	6 近畿	9	
		岩角地·風衝地低木群落	12 ミヤマビャクシン群落		1 ヤクシマシャクナゲーミヤマビャクシン群集			細					2008	8 九州・沖縄	9	
		岩角地·風衝地低木群落	13 ミヤマハンノキ群落		0			中						7 中国・四国	9	
		岩角地・風衝地低木群落	14 ニシキウツギ群落		1 キリシマヒゴタイーニシキウツギ群落				検				2010	8 九州・沖縄	9	
		なだれ地自然低木群落	00		0			大				77	_		9	
		なだれ地自然低木群落	01 タニウツギ群落	-	0			日					未		9	
		なだれ地自然低木群落	01 タニウツギ群落		1 ヒメヤシャブシータニウツギ群落			細				112			9	
		なだれ地自然低木群落	01 タニウツギ群落		2 ダイセンヤナギータニウツギ群落			細				2	0010	o = 11.	9	
		なだれ地自然低木群落	02 ミヤマカワラハンノキ群		1 ウワバミソウーミヤマカワラハンノキ群集			細					2013	2 東北	9	
		自然草原	00 *****		0			大				59	2002	o 효과	10	-
		自然草原	01 ササ群落					中無				0		2 東北	10	-
		自然草原	01 ササ群落		1 ミクラザサ群落 2 チシマザサ群落			細細						o 효과		-
		自然草原	01 ササ群落					細						2 東北 1 北海道	10 10	-
		自然草原	01 ササ群落		3			細						8 九州・沖縄	10	-
		自然草原	01 ササ群落 01 ササ群落		4 マクンマダク 辞条 5 イワノガリヤスーチシマザサ群落			細		(チシマザサ群落)	211			1 北海道	10	_
										(Ⅳ))。シカ食害地	BIJ			1 北海坦		
		自然草原	02 シモツケソウ群落		0			中				7	未		10	
		自然草原	02 シモツケソウ群落		1 フジアカショウマーシモツケソウ群集 0			細中					0010	2 関市	10	-
			03 シマノガリヤス群落					細						3 関東	10	-
		自然草原	03 シマノガリヤス群落 04 オオヨモギーオオイタド		1 シマキンレイカーシマノガリヤス群集			中				55			10	-
					0			_			_					÷o
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落					中 細				203 32			8 2	£Z
		落葉広葉樹二次林 落葉広葉樹二次林	01ブナーミズナラ群落01ブナーミズナラ群落		1 スギーミズナラ群落 2 クリーミズナラ群集			細				269			7	$\overline{}$
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		2 プリーミステラ群集 3 オオバクロモジーミズナラ群集			細					2000	2 東北	7	$\overline{}$
			01 ブナーミズナラ群落		3 オオバシロモンーミステラ研集 4 ブナニ次林			細						2 東北	8	
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		5 シロモジ群集			細		(クリーミズナラ群	āll	5	2000	2 240	7	-
210		万米四米區———————————————————————————————————	01 77 2777			220100) — C) 417.9K	ηш		集)	23				<i>'</i>	
241 V	22	落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		6 キタコブシーミズナラ群集			細						2 東北	7	
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		7 キンキマメザクラーミズナラ群集			細				7	2000	6 近畿	7	
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		8 カイナンサラサドウダンーミズナラ群落			細					未		7	
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		9 クリーミズナラ群集(中国山地)			細					未		7	
		落葉広葉樹二次林	01 ブナーミズナラ群落		0 フクオウソウーミズナラ群集			細					2010	3 関東	7	
		落葉広葉樹二次林	02 カシワ群落		0			中				94			7	
		落葉広葉樹二次林	03 ウダイカンバ群落		0		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	中				22			7	
		落葉広葉樹二次林	04 リョウブ群落		0			中		/bil >	Ed.	0	00	0 15 66	7	\perp
249 V	22	落葉広葉樹二次林	04 リョウブ群落	C	1 リョウブーミズナラ群落	220401	リョウブーミズナラ群落	無	検	(クリーミズナラ群 集)	副	10	2000	6 近畿	7	
		落葉広葉樹二次林	05 コナラ群落		0			中	検			48			7	
251 V	22	落葉広葉樹二次林	05 コナラ群落	C	1 オクチョウジザクラーコナラ群集	220501		細				164	2000		7	
		落葉広葉樹二次林	05 コナラ群落		2 カスミザクラーコナラ群落				検			33			7	
		落葉広葉樹二次林	05 コナラ群落		3 ユキグニミツバツツジーコナラ群集			細 C		辻の定義による				4 北陸	7	
		落葉広葉樹二次林	05 コナラ群落		4 イヌザクラーコナラ群集			細 C		辻の定義による				4 北陸	7	
		落葉広葉樹二次林	05 コナラ群落		5 ホソバヒカゲスゲーコナラ群集			細					2000	2 東北	7	
		落葉広葉樹二次林	07 アカシデーイヌシデ群落		0			中				268			7	
		落葉広葉樹二次林	08 クマシデ群落		0			中			_	20			7	\longrightarrow
		落葉広葉樹二次林	08 クマシデ群落		1 コガクウツギークマシデ群集			細				18			7	\longrightarrow
		落葉広葉樹二次林	09 シラカンバ群落		0			中				34			7	\longrightarrow
		落葉広葉樹二次林	09 シラカンバ群落		1 ササーシラカンバ群落			細				131			7	-
		落葉広葉樹二次林	09 シラカンバ群落		2 レンゲツツジーシラカンバ群集			細細				3	2007	1 北海洋	7	+
202 V	22	落葉広葉樹二次林	09 シラカンバ群落	U	3 エゾヤマナラシ群落	220903	エゾヤマナラシ群落	和田				- 1	2007	1 北海道	/	

灣3-5

植生区分	-	大区分	中コード	中区分・コード	細区分	凡例コード	之 必 允	区分レベル	クラス域重複	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例 プロックコード	新規凡例プロック	植生自然度2.5万	シカ等食害注
		22 落葉広葉樹二次林		ハシドイ群落 00		221000		中				0				7	
		22 落葉広葉樹二次林 22 落葉広葉樹二次林		ミズナラ群落 00 ミズナラ群落 01	シラカンバーミズナラ群落	221100 221101) ミズナラ群落(V) シラカンバーミズナラ群落	中細	検			6 255	2000	1 3	北海道	7	-
266 V	2	22 落葉広葉樹二次林	11	ミズナラ群落 02	コナラーミズナラ群落	221102	2 コナラーミズナラ群落	細		ナラ群落二次林 北海道		19				7	
		22 落葉広葉樹二次林			ミヤコザサーミズナラ群集		3 ミヤコザサーミズナラ群集	細		70/時/旦			2009	2 E	事 业	7	
					エゾムラサキツツジーミズナラ群落		, こ、、	細					2014			7	
		22 落葉広葉樹二次林		オニグルミ群落 00) オニグルミ群落(V)	中					2000			7	
		22 落葉広葉樹二次林		ケヤキ群落 00) ケヤキニ次林	中	検				2001			7	
		22 落葉広葉樹二次林		ダケカンバ群落 00) ダケカンバ群落(V)	中	12				2005			7	
		22 落葉広葉樹二次林		イヌブナニ次林 00) イヌブナニ次林	中		(モミーイヌブナ群 集)	副	32				7	
273 V	2	23 常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落 00		230100) アカマツ群落(V)	中					2013	2 5	東北	7	
				ヒノキアスナロ群落 00) ヒノキアスナロ群落(V)	中					2003			7	
			00) 落葉広葉低木群落	大					2000			6	
				ノリウツギ群落 00)ノリウツギ群落	中				14	-	_		5	
					ニシキウツギーノリウツギ群落	240101		細				34		_		5	
					タニウツギーノリウツギ群落		2 タニウツギーノリウツギ群落	細				90				5	
					ヤマカモジグサーノリウツギ群集		3 ヤマカモジグサーノリウツギ群集	細				8				5	_
					ツクシウツギーノリウツギ群落		1 ツクシウツギーノリウツギ群落	細					未	0	0	5	_
					ススキーダイセンミツバツツジ群落		ススキーダイセンミツバツツジ群落	細				0	×1×	•	· ·	5	
				アセビ群落 00) アセビ群落	中	検				2003	7 0	中国・四国	5	
					ツシマママコナーアセビ群集	240301		細	移						九州・沖縄	5	
					レンゲツツジ群落	240401		細細	13	シカ食害地	-		2010			5	•
	_				アワノミツバツツジ群落		2 アワノミツバツツジ群落	細細		ノガ及古地	-				中国・四国	5	
					オンツツジ群落		3 オンツツジ群落	細細			-				中国・四国	5	
					ヤマツツジ群落	240404		細細					2013			5	-+
					オオマルバノテンニンソウーコバノクロヅル	240501		1 - 1		シカ食害地	-				九州・沖縄	5	_
				ササ群落 00	群落	250100	群落	中		フガ及音地		346	2010	0 /	76711 - 7千 神电	5	
								細細								5	
					チシマザサークマイザサ群落 チマキザサ群落		チシマザサークマイザサ群落 チマキザサ群落(V)	細細			-	83					
								細細			-					5	
					スズタケ群落		スズタケ群落	-				2				5	
					ミヤコザサ群落	250104	*****	細				60				5	
					ハコネダケ群落	250105		細	10				0000		L 12= 12	5	
					ナガボノシロワレモコウーエゾミヤコザサ群落	250106	落		杉	· 上 소 中!!!					比海道 - ***	5	
					ミヤコザサ矮生群落	250107		細中		シカ食害地		_	2006	0 1		4	
				707 (41 🖽) ススキ群団(V)	細細			_	613				5	
					エゾヤマハギーススキ群落		エゾヤマハギーススキ群落		_		_	0				5	-
		25 二次草原			ノハナショウブーススキ群集		2 ノハナショウブーススキ群集	細				0				5	
					カワラマツバーススキ群落		カワラマツバーススキ群落	細				1		_		5	
					ヤマトラノオーススキ群落		ヤマトラノオーススキ群落	細				1				5	
					ホクチアザミーススキ群落		5 木クチアザミーススキ群落	細				0				5	
					ミヤマキリシマーススキ群落	250207		細		\		8	2000	_	L +n	5	
		25 二次草原			ヤマアワーマルバダケブキ群落	250208	1 17 7 1711 7 7 7 1 1 1 1 1 1	細		シカ食害地			2009			4	•
					ツルキジムシローヤマヌカボ群落	250209		細		シカ食害地			2010	8 7	九州・沖縄	4	•
				シバ群団 00) シバ群団(V)	中		> L A ch //		14			- 44	4	
					ミヤマヌカボシソウーイ群落	250301		細		シカ食害地			2006	6 i	上畿	4	•
				ヘビノネゴザ群落 00		250400		中				0				4	
				オオヨモギ群落 00			オオヨモギ群落	中					2000			4	
					ハンゴンソウ群落	250501		細					2007			4	
					イケマーハンゴンソウ群落	250502		細	検	シカ食害地			2008			4	•
					オオアワダチソウ群落	250503		細					2012			2	
					ヤマカモジグサーマルバダケブキ群落	250601		細		シカ食害地			2009			4	•
314 V	2	25 二次草原	07	イワヒメワラビ群落 01	バイケイソウーイワヒメワラビ群落	250701	バイケイソウーイワヒメワラビ群落	細	T	シカ食害地	Ī	0	2010	8 7	九州・沖縄	4	•

分	ドード	大区分	中ロード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	更新状況	注記	1 5		新規凡例作成年	新規凡例プロック 新規凡例 プロックコード	注植生自然度2.5万	シカ等食害
315 V				シカ食害草原	00			シカ食害草原	中		シカ食害地			012	6 近畿	4	•
		伐採跡地群落	00		00			伐採跡地群落(V)	大			76				4	
		伐採跡地群落	00			風倒跡地植生		風倒跡地植生	細					800	1 北海道	5	
		常緑広葉樹林			00			シラカシ群落	中				42			9	
		常緑広葉樹林				シラカシ群集		シラカシ群集	細				26			9	
		常緑広葉樹林				ツクバネガシーシラカシ群集		ツクバネガシーシラカシ群集	細				8			9	
		常緑広葉樹林			00			アラカシ群落	中		二次林を含む	21				9	
		常緑広葉樹林				ジャノヒゲーアラカシ群集		ジャノヒゲーアラカシ群集	細				0			9	
		常緑広葉樹林				ナンテンーアラカシ群集		ナンテンーアラカシ群集	細				11			9	
		常緑広葉樹林		, ,,,,,	00	- L L X 78 dt		アカガシ群落	中				59			9	
		常緑広葉樹林				ミヤマシキミーアカガシ群集		ミヤマシキミーアカガシ群集	細				14			9	
		常緑広葉樹林			00			ツクバネガシ群落	中				50			9	
		常緑広葉樹林常緑広葉樹林			00	ヒメアオキーウラジロガシ群集		ウラジロガシ群落 ヒメアオキーウラジロガシ群集	中細				01			9	+
													31				-
		常緑広葉樹林常緑広葉樹林			00	イスノキーウラジロガシ群集		イスノキーウラジロガシ群集 イチイガシ群落	細中	-			71			9	+
						エロンフナー フェフギン 発生		******	細				3			9	-
		常緑広葉樹林常緑広葉樹林			00	ルリミノキーイチイガシ群集		ルリミノキーイチイガシ群集 ハナガガシ群落	中				70 1			9	-
		常緑広葉樹林			00			シリブカガシ群落	中				-			9	-
		常緑広葉樹林				シイモチーシリブカガシ群集			細				9			9	-
		常緑広葉樹林				ハイノキーイヌツゲ群落		シイモチーシリブカガシ群集 ハイノキーイヌツゲ群落	細細			+ -	1			9	-
		常緑広葉樹林				トカゲツツジーヤマグルマ群落		ヒカゲツツジーヤマグルマ群落	細			+ -	2 2	003	8 九州・沖縄	9	-
		常緑広葉樹林				ユズリハーヤマグルマ群集		ユズリハーヤマグルマ群集	細				0	003	0 プログロ・7千 小田	9	_
		常緑広葉樹林				イワナンテンーヤマグルマ群集		イワナンテンーヤマグルマ群集	細					010	5 中部	9	_
		常緑広葉樹林			00	イブブラブラードマブルマ研末		コジイ群落	中				18	010	2 TB	9	-
		常緑広葉樹林				サカキーコジイ群集		サカキーコジイ群集	細				22			9	-
		常緑広葉樹林				カナメモチーコジイ群集		カナメモチーコジイ群集	細				60			9	-
		常緑広葉樹林				クロバイーコジイ群集		クロバイーコジイ群集	細				0			9	-
		常緑広葉樹林			00) - / · - - /		スダジイ群落	中				55			9	-
		常緑広葉樹林				ヤブコウジースダジイ群集		ヤブコウジースダジイ群集	細			30				9	-
		常緑広葉樹林				ホソバカナワラビースダジイ群集		ホソバカナワラビースダジイ群集	細				92			9	-
		常緑広葉樹林				オオシマカンスゲースダジイ群集		オオシマカンスゲースダジイ群集	細				0			9	-
		常緑広葉樹林				ミミズバイースダジイ群集		ミミズバイースダジイ群集	細				76			9	-
		常緑広葉樹林				ヤクシマアジサイースダジイ群集		ヤクシマアジサイースダジイ群集	細				10			9	
		常緑広葉樹林			00	TO TO THE PARTY OF		マテバシイ群落	中				0			9	
		常緑広葉樹林			00			ホソバタブ群落	中				0			9	
351 VI	27	常緑広葉樹林	15	ヤブツバキ群落	00		271500	ヤブツバキ群落	中			7	14			9	
		常緑広葉樹林			00			タブノキ群落	中				42			9	
353 VI	27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	01	イノデータブノキ群集	271601	イノデータブノキ群集	細			16	60			9	
354 VI	27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	02	ヤブニッケイータブノキ群落	271602	ヤブニッケイータブノキ群落	細			T	0			9	
		常緑広葉樹林	16			ムサシアブミータブノキ群集		ムサシアブミータブノキ群集	細			2	26			9	
356 VI	27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	04	ハクサンボクータブノキ群落	271604	ハクサンボクータブノキ群落	細			T	5 20	000	8 九州·沖縄	9	
		常緑広葉樹林			05	アコウータブノキ群落		アコウータブノキ群落	細			_ [[1			8 九州・沖縄	9	
		常緑広葉樹林				ハドノキータブノキ群落		ハドノキータブノキ群落	細		伊豆				3 関東	9	
		常緑広葉樹林				ラセイタタマアジサイータブノキ群落		ラセイタタマアジサイータブノキ群落	細		伊豆		20	013	3 関東	9	
		常緑広葉樹林			00			ホルトノキ群落	中				12			9	
		常緑広葉樹林			00			カゴノキ群落	中				0			9	
		常緑広葉樹林			00			ウバメガシ群落(常緑広葉樹林)	中						5 中部	9	
		常緑広葉樹林			00			クロバイ群落	中	検		1 🗀			7 中国・四国	9	
		常緑広葉樹林			00			イスノキ群落	中			╛┕			7 中国・四国	9	$\perp \!\!\!\perp \!\!\!\perp \!\!\!\perp$
					00			ハチジョウイヌツゲ群落	中		伊豆	╛┕			3 関東	9	$\perp \!\!\!\perp \!\!\!\perp \!\!\!\perp$
		暖温帯針葉樹林			00			モミ群落(VI)	中					000	7 中国・四国	9	
		暖温帯針葉樹林				シキミーモミ群集		シキミーモミ群集	細			23	_			9	\perp
		暖温帯針葉樹林				コガクウツギーモミ群集		コガクウツギーモミ群集	細			↓	0			9	\perp
369 VI	28	暖温帯針葉樹林	02	ナギ群落	00		280200	ナギ群落	中			╛┕	1			6	

植生区分	Ī	大区分	中コード	中区分コード	細区分	凡例コード	凡瘦名	区分レベル	クラス域重複	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	ブロックコード 新規凡例作成年	新規凡例	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	シカ等食害
370 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	03	イヌマキ群落 00		280300		中					1 2	008	5 4	部	9	
371 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	03	イヌマキ群落 01	ヒトツバーイヌマキ群落	280301	ヒトツバーイヌマキ群落	細					0				9	
		28 暖温帯針葉樹林	04	ビャクシン群落 00		280400	ビャクシン群落	中					1 2	001 5	5 🕇	部	9	
373 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	05	スギ群落 00	スギ群落	280500	スギ群落(VI)	中					2	012	7 4	国-四国	9	
374 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	05	スギ群落 01	タカサゴシダースギ群集	280501	タカサゴシダースギ群集	細					7 2	800	8 カ	ι州・沖縄	9	
375 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	05	スギ群落 02	イソノキースギ群落	280502	イソノキースギ群落	細					1 2	009	4 기	上陸	9	
376 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	06	ヒノキ群落 00		280600	ヒノキ群落(VI)	中					2	011 6	6 近	í畿	9	
377 VI	2	28 暖温帯針葉樹林	07	トガサワラ群落 00		280700	トガサワラ群落(VI)	中					2	012	7 4	国・四国	9	
378 VI	2	29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落 00		290100	アカマツ群落(VI)	中					94				9	
		29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落 02	コバノミツバツツジーアカマツ群集(自然林)	290102	コバノミツバツツジーアカマツ群集(自然林)	細					3 2	000	B カ	L州·沖縄	9	
380 VI	2	29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落 03	オンツツジーアカマツ群集(自然林)	290103	オンツツジーアカマツ群集(自然林)	細					26 2	000	8 カ	ι州・沖縄	9	
381 VI	2	29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落 04	ヤマツツジーアカマツ群集(自然林)	290104	ヤマツツジーアカマツ群集(自然林)	細	F				24 2	004 5	5 4	部	9	
382 VI	2	29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落 05	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集(自然 林)	290105	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集(自然 林)	細					0	未 (0 訓	1整	9	
		29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落 06	モチツツジーアカマツ群集(自然林)	290106	モチツツジーアカマツ群集(自然林)	細					0	未 (0 訓	調整	9	
384 VI	2	29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	02	クロマツ群落 00		290200	クロマツ群落(VI)	中					71				9	
385 VI	2	29 岩角地・海岸断崖地針葉樹林	02	クロマツ群落 01	イタドリークロマツ群落	290201	イタドリークロマツ群落	細					2 2	000	8 カ	L州·沖縄	9	
386 VI	3	30 落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落 00		300100	ケヤキ群落(VI)	中		(4	④仮		175				9	
387 VI	3	30 落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落 01	コクサギーケヤキ群集	300101	コクサギーケヤキ群集	細					4				9	
388 VI	3	30 落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落 02	イロハモミジーケヤキ群集	300102	イロハモミジーケヤキ群集	細	F				215				9	
389 VI	3	30 落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落 03	コウヤワラビーケヤキ群集	300103	コウヤワラビーケヤキ群集	細					0				9	
390 VI	3	30 落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落 04	ケヤキームクノキ群集	300104	ケヤキームクノキ群集	細					94				9	
391 VI	3	30 落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落 05	ツワブキーケヤキ群落	300105	ツワブキーケヤキ群落	細					3 2	008	7 🗗	国-四国	9	
392 VI	3	30 落葉広葉樹林	02	ムクノキーエノキ群落 00		300200	ムクノキーエノキ群落	中					85				9	
393 VI	3	30 落葉広葉樹林	02	ムクノキーエノキ群落 01	ムクノキーエノキ群集	300201	ムクノキーエノキ群集	細					32				9	
394 VI	3	30 落葉広葉樹林	03	ミズキ群落 00		300300	ミズキ群落(VI)	中	i	改			0 2	009	7 4	国-四国	9	
395 VI	3	30 落葉広葉樹林	03	ミズキ群落 01	ウリノキーミズキ群落	300301	ウリノキーミズキ群落	細					28				9	
396 VI	3	30 落葉広葉樹林	04	イヌシデーアカシデ群落 01	イヌシデーアカシデ群落	300401	イヌシデーアカシデ群落(VI)	細	,	検			13 2	001	7 🗗	国-四国	9	
397 VI	3	30 落葉広葉樹林	05	シマサルスベリ群落 01	ハドノキーシマサルスベリ群落	300501	ハドノキーシマサルスベリ群落	細					2 2	009 8	B カ	L州·沖縄	9	
398 VI	3	31 沼沢林	01	ハンノキ群落 00		310100	ハンノキ群落(VI)	中					158				9	
399 VI	3	31 沼沢林	01	ハンノキ群落 01	サクラバハンノキ群落	310101	サクラバハンノキ群落	細					3 2	003	7 4	国・四国	9	
400 VI	3	31 沼沢林	02	クヌギ群落 00		310200	クヌギ群落(VI)	中					12				9	
401 VI	3	32 河辺林	01	ヤナギ高木群落 00		320100	ヤナギ高木群落(VI)	中					345 2	000	3 関	東	9	
402 VI	3	32 河辺林	01	ヤナギ高木群落 01	ジャヤナギ群落	320101	ジャヤナギ群落	細					8 2	001	7 4	国・四国	9	
403 VI	3	32 河辺林	01	ヤナギ高木群落 02	アカメヤナギ群落	320102	アカメヤナギ群落	細					4 2	001	7 4	国・四国	9	
404 VI	3	32 河辺林	01	ヤナギ高木群落 03	コゴメヤナギ群集	320103	コゴメヤナギ群集	細					1 2	004 5	5 4	部	9	
405 VI	3	32 河辺林	02	ヤナギ低木群落 00		320200	ヤナギ低木群落(VI)	中					350				9	
		32 河辺林	02	ヤナギ低木群落 01	ネコヤナギ群落	320201		細				T	0				9	
		32 河辺林			ドクウツギーアキグミ群集	320203		細						000			9	
		32 河辺林			タチヤナギ群集		タチヤナギ群集	細					3 2	002 5	5 4	部	9	
		32 河辺林	03	カワラハンノキ群落 00		320300	カワラハンノキ群落	中					7				9	
		32 河辺林		フサザクラ群落 00			フサザクラ群落	中					18		$oxed{oxed}$		9	
		32 河辺林			タマアジサイーフサザクラ群集		タマアジサイーフサザクラ群集	細	F				80		$oxed{oxed}$		9	
412 VI	3	32 河辺林		アキニレ群落 00			アキニレ群落	中					0		$oxed{oxed}$		9	
		32 河辺林		河辺ヤシャブシ群落 00			河辺ヤシャブシ群落(VI)	中						002			9	
		32 河辺林		アキグミ群落 00			アキグミ群落	中					23 2	002	7 🗗	国・四国	9	
		33 自然低木群落		ヤマヤナギーツクシヤブウツギ群団 00			ヤマヤナギーツクシヤブウツギ群団	中					4		$oxed{\Box}$		7	
		33 自然低木群落		オオバヤシャブシ群落 00			オオバヤシャブシ群落(VI)	中		f	尹豆	[[2	013 3	3 関	東	9	
		33 自然低木群落			ニオイウツギーオオバヤシャブシ群集	330201		細				[0				9	
		33 自然低木群落	02	オオバヤシャブシ群落 02	ラセイタタマアジサイーオオバヤシャブシ群 落	330202	ラセイタタマアジサイーオオバヤシャブシ群 落	細					0				9	
		33 自然低木群落	02	オオバヤシャブシ群落 03	ハチジョウススキーオオバヤシャブシ群落	330203	ハチジョウススキーオオバヤシャブシ群落	細					0				9	
420 VI	3	33 自然低木群落	03	ハドノキーウラジロエノキ群団(自然林) 01	ガクアジサイーラセイタタマアジサイ群集	330301	ガクアジサイーラセイタタマアジサイ群集	細					0				9	
421 VI	3	33 自然低木群落	03	ハドノキーウラジロエノキ群団(自然林) 02	カニクサーアカメガシワ群落	330302	カニクサーアカメガシワ群落	細					0				9	
		33 自然低木群落	04	ハマボウ群落 00		330400	ハマボウ群落	中					52				9	

植生区分	= 	大区分	中コード	中区分 コード	細区分	凡例コード	元 室 ൻ	区分レベル	ス域	注 注記 万	[1] [1]		新規凡例作成年	新規凡例 ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	Ή	シカ等食害
		33 自然低木群落		ハマクサギ群落 00		330500		中			_ L				中国・四国	10	<u> </u>	
		33 自然低木群落	07			330700		中			_ _				九州・沖縄	9	L	
		33 自然低木群落			ツシママンネングサーイワシデ群集	330701		細	科		_ _				九州・沖縄	10	L	
		33 自然低木群落		イブキシモツケ群落 00		330800		中			_ L		2001		中国・四国	10	<u> </u>	
		33 自然低木群落		ハマナツメ群落 00		330900		中			⊒ L		2007			10	<u> </u>	
		33 自然低木群落		イワガサ群落 00		331000		中		W (7 L	⊒ L		2009		中国・四国	10	<u> </u>	
429 VI	3	33 自然低木群落	11	カシワ群落 01	ネムノキーカシワ群集	331101	ネムノキーカシワ群集(VI)	細		110403の常緑広葉			2012	8 .	九州・沖縄	9		
430 VI	3	34 海岸風衝低木群落	00	00		340000	海岸風衝低木群落	大		樹混生タイプ	\dashv \vdash	0	未			9	\vdash	+
		34 海岸風衝低木群落			マサキートベラ群集		マサキートベラ群集	細			- -	177	×1×			9	\vdash	+
		34 海岸風衝低木群落		ウバメガシ群落 00			ウバメガシ群落	中				0				9	—	+
		34 海岸風衝低木群落			トベラーウバメガシ群集	340201		細			-	176				9		+
		34 海岸風衝低木群落			オニヤブソテツーハマビワ群集	340301	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	細			+ -	94				9		+ 1
		34 海岸風衝低木群落			アカテツーハマビワ群集	340302	アカテツーハマビワ群集	細			- -	72				9		1
		34 海岸風衝低木群落	04	マルバニッケイ群落 00		340400	マルバニッケイ群落	中			٦F	5				9		1
437 VI	[3	34 海岸風衝低木群落	05	モクタチバナ群落 00		340500	モクタチバナ群落	中			7	0				9		
		34 海岸風衝低木群落	06	ビャクシン群落 01	ハマヒサカキービャクシン群落	340601	ハマヒサカキービャクシン群落	細	和	トベラーウバメガシ 副		2	2003	6 :	近畿	9		
		AL III - 22 12 1 2 4						1		群集)	_					<u> </u>	<u> </u>	
		34 海岸風衝低木群落		オキナワハイネズ群落 00		340700		中			→		2008		九州・沖縄	9	Ь	\perp
		34 海岸風衝低木群落			シラタマカズラーハマヒサカキ群落	340801		細		/n =	→				九州・沖縄	9	<u> </u>	
		34 海岸風衝低木群落		マルバアキグミ群落 00			マルバアキグミ群落	中		伊豆	→			3	到果	9	 	+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		ボチョウジースダジイ群団 00			ボチョウジースダジイ群団	中			→		未			9	<u> </u>	_
		35 亜熱帯常緑広葉樹林 35 亜熱帯常緑広葉樹林			アマミテンナンショウースダジイ群集ケハダルリミノキースダジイ群集	350101	アマミテンナンショウースダジイ群集 ケハダルリミノキースダジイ群集	細細			 -	3	2000	0	→ 払↓ ∴ ☆ ∳ 甲	9		+
444 VI		35 亜熱帯常緑広葉樹林			アオバナハイノキースダジイ群集	350102		細細				9 .	2009	8 .	九州・沖縄	9		+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林			オキナワウラジロガシ群集	1	オキナワウラジロガシ群集	細細			\dashv \vdash	12				9	\vdash	+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林			オキナワシキミースダジイ群集		オキナワシキミースダジイ群集	細細				18				9		+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林			ケナガエサカキースダジイ群集	350107		細			\dashv \vdash	15				9	\vdash	+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林			ヤワラケガキースダジイ群落	350108		細			- -	0				9		+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林			オキナワテイショウソウーマテバシイ群集	350109		細			- -	4	2000	8	九州·沖縄	9		+
		35 亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースダジイ群団 10	ボチョウジータブノキ群落	350110	ボチョウジータブノキ群落	細			1				九州·沖縄	9		1
452 VI	[3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースダジイ群団 11	フクギースダジイ群落	350111	フクギースダジイ群落	細			7	1	2006	8 .	九州·沖縄	9		
453 VI	[3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースダジイ群団 12	タイミンタチバナーミヤマシロバイ群落	350112	タイミンタチバナーミヤマシロバイ群落	細				2	2009	8 .	九州·沖縄	9		
454 VI	[3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	02	ビロウ群落 00		350200	ビロウ群落	中				23				9		
455 VI	[3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	02	ビロウ群落 01	ビロウ群落・ヤエヤマヤシ群落	350201	ビロウ群落・ヤエヤマヤシ群落	細				3				9		
		35 亜熱帯常緑広葉樹林	03	ハスノハギリ群落 01	ハスノハギリ群集	350301	ハスノハギリ群集	細				15				9		
457 VI	3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	04	モモタマナ群落 00		350400	モモタマナ群落	中		小笠原落葉広葉樹 林		0	2013	3	関東	9		
458 VI	3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	04	モモタマナ群落 02	モモタマナーハスノハギリ群集	350402	モモタマナーハスノハギリ群集	細			╗┌	0				9		
		35 亜熱帯常緑広葉樹林			マルハチ群集	350601		細	강		\Box \sqcap			3		9		
460 VI	3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	07	オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 11	ヤロードーモクタチバナ群落	350711	ヤロードーモクタチバナ群落	細		(テリハコブガシー 副			2013	3	関東	9		
461 37	1 2	35 亜熱帯常緑広葉樹林	07	木林) オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 12	ノーン・ノマグマーエクタチ バナ群落	350712	ムニンイヌグスーモクタチバナ群落	細		モクタチバナ群集) (テリハコブガシー 副			2012	3	明古	9		+
401 VI	3	35	07	オオハシロテクーテリハコノカシ辞団(高 12	ムーンイメグスーモグタテバ)杆洛	350/12	ムーンイメグスーモグダデバリ研洛	和田		モクタチバナ群集)	'		2013	3		9		
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 13 木林)		350713	ムニンヤツデーモクタチバナ群落	細		(テリハコブガシー 副 モクタチバナ群集)	I			3		9		
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 14 木林)			モクタチバナームニンヒメツバキ群落	細		(テリハコブガシー 副 モクタチバナ群集)				3		9		
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 15 木林)			コブガシームニンヒメツバキ群集	細		小笠原				3		9	<u></u>	
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 16 木林)		350716		細	_	小笠原	$\perp \mid \perp$			3		7	<u> </u>	
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 17 木林)		350717		細	라					3		9		
		35 亜熱帯常緑広葉樹林		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 18 木林)		350718		細	라					3		9		
468 VI	3	35 亜熱帯常緑広葉樹林	07	オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 19 木林)	オオバシロテツーチギ群集	350719	オオバシロテツーチギ群集	細	改	小笠原		0	2013	3	関東	9	<u> </u>	

植生区分	ī	大区分	中コード	中区分・コード		凡例コード	凡例名	区分レベル	ス域	更 所 注記 兄	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例 ブロックコード	新規凡例プロック	植生自然度2.5万	シガ寺良吉注
469 VI	35	亜熱帯常緑広葉樹林	07	オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 20 木林)	コクモウクジャクーコブガシ群落	350720	コクモウクジャクーコブガシ群落	細	라	小笠原		0	2013	3 3	関東	9	
470 VI	35	亜熱帯常緑広葉樹林	07	木体/ オオバシロテツーテリハコブガシ群団(高 21	オガサワラビロウータコノキ群集	350721	オガサワラビロウータコノキ群集	細	改	7 小笠原		0	2013	3 3	関東	9	
		TT \$4. \$1. \$1. \$4. \$2. \$4. \$1. \$1. \$1. \$1. \$1. \$1. \$1. \$1. \$1. \$1		木林)			77 44 444 44 42 44 44 14 (70 42 42 42 77 14 1 1)						_				
4/1 VI	36	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩 ト)	00	00	1	360000	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩上)	大				0	未	0	(9	1
472 VI	36	<u>一</u> 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	01	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団 00		360100	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団	中				0	未			9	
473 VI	36	五/ 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	01	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団 02	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群落	360102	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群落	細				44		+ 1		9	
474 VI	36	<u>工)</u> 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	01	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団 03	ガジュマルークロヨナ群集	360103	ガジュマルークロヨナ群集	細				56		+ +		9	
475 VI	36	上) 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	01	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団 04	アマミアラカシ群落	360104	アマミアラカシ群落	細				4		+		9	
476 VI	36	上) 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	01	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団 05	i リュウキュウクロウメモドキーイスノキ群集	360105	リュウキュウクロウメモドキーイスノキ群集	細				8	2000) 8	九州・沖縄	9	
477 VI	36	上) 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	01	ナガミボチョウジーリュウキュウガキ群団 06	ダイトウセイシボクーダイトウビロウ群集	360106	ダイトウセイシボクーダイトウビロウ群集	細				5	2008	3 8	九州・沖縄	9	
478 VI	36	上) 亜熱帯常緑広葉樹林(隆起石灰岩	06	アコウーガジュマル群落 00		360600	アコウーガジュマル群落	中							九州・沖縄	9	
470 17		上)	01			070100	ムラベンマーナザカ	_					0000		土山 沖縄	10	
		亜熱帯湿生林(マングローブ林)		ハマジンチョウ群落 00 マングローブ群落 00			ハマジンチョウ群落 マングローブ群落	中中				36		, 8	九州・沖縄	10	
		亜熱帯湿生林(マングローブ林) 亜熱帯湿生林(マングローブ林)		サガリバナーサキシマスオウノキ群落 00		370200		中				30		+		9	
		亜熱帝湿生林(マングローブ林)			' サガリバナ群集	370300		細細				1	2000	\perp	十 4月 5年4里	9	
								細細							九州・沖縄	_	
		亜熱帯湿生林(マングローブ林)			リーサキシマスオウノキ群集	370302	サキシマスオウノキ群集								九州・沖縄	9	
		亜熱帯湿生林(マングローブ林)			ハマボウーサキシマスオウノキ群落			細中				50		, 8	九州・沖縄	9	
		亜熱帯低木群落 亜熱帯低木群落		ソテツ群落 00 アダン群団 00		390100	アダン群団	中				115		$+$ $ \!$		9	
		<u> </u>			' オオハマボウ群集	390200		細細				29		$+\!-\!\!\!\!-$		9	
		<u> </u>			オオハマボウ群落	390201		細細		小笠原		23		3 3	朗市	9	
		<u> </u>			モンパノキークサトベラ群集	390301		細細		小亚床		20			九州·沖縄	9	
		<u> </u>			! クサトベラ群落	390301		細細				0		, 0	ノレグココ・ノヤ・平电	9	
		<u> </u>			モンパノキ群落		モンパノキ群落	細細				0		$+\!-\!\!\!\!-$		9	
						390507		-				_		$+$ $ \!$			
		亜熱帯低木群落 			トゲミウドノキ群落			細				0			●田 本行	10	
		亜熱帯低木群落 		イボタクサギーシイノキカズラ群団 00		390600		細						8 0		9	
		亜熱帯低木群落 			ニッパヤシ群落	390601		細							九州・沖縄	9	
		亜熱帯低木群落 			ダイトウワダンーガジュマル群集	390701		細		.l. ## (#					九州・沖縄	9	
		亜熱帯低木群落 			! シラゲテンノウメ群集 ワダンノキ群集	390702		細細		小笠原			2013		関東	10	
		亜熱帯低木群落		霖林)		390801							2013		関東	9	
		亜熱帯低木群落 		霖林)	ヒサカキーガクアジサイ群落	390802		細	_					3 3		9	
		亜熱帯低木群落		オオバシロテツーテリハコブガシ群団(雲 03 露林)		390803	オオトキワイヌビワ群落	細	G)	小笠原				3 3		9	
500 VI	39	亜熱帯低木群落	09	オオバシロテツーテリハコブガシ群団(乾 01 性低木林)	シマイスノキーコバノアカテツ群集	390901	シマイスノキーコバノアカテツ群集	細		小笠原		0	2013	3 3	関東	9	
501 VI	39	亜熱帯低木群落	09	オオバシロテツーテリハコブガシ群団(乾 02 性低木林)	ムニンアオガンピーコバノアカテツ群集	390902	ムニンアオガンピーコバノアカテツ群集	細		小笠原		0	2013	3 3	関東	9	
502 VI	39	亜熱帯低木群落	09	オオバシロテツーテリハコブガシ群団(乾 04 性低木林)	アカテツ群落	390904	アカテツ群落	細				0	2013	3 3	関東	9	
503 VI	39	亜熱帯低木群落	10	タコノキ群落の0		391000	タコノキ群落	細	강	ζ		0	2013	3 3	関東	9	
504 VI	39	亜熱帯低木群落	11	ハドノキーウラジロエノキ群団(自然林) 02	オガサワラグワ群落	391102	オガサワラグワ群落	細		高木林			2011	1 3	関東	9	
		亜熱帯低木群落			センダン群落		センダン群落	細				0		1 3		9	
		常緑広葉樹二次林		シイ・カシニ次林 00			シイ・カシニ次林	中				893		+		8	注3
		常緑広葉樹二次林			ケヤキーシラカシ群落		ケヤキーシラカシ群落	細				37		\top		7	
		常緑広葉樹二次林			アカガシ二次林		アカガシ二次林	細				71		+		8	注4
		常緑広葉樹二次林			スダジイニ次林		スダジイニ次林	細				0		+		8	
		常緑広葉樹二次林			シラカシ屋敷林		シラカシ屋敷林	細				43		+		8	
		常緑広葉樹二次林			ウラジロガシニ次林		ウラジロガシニ次林	細						0	調整	8	注6
512 VI	40	常緑広葉樹二次林			ツクバネガシニ次林	400106	ツクバネガシニ次林	細				0	未	0	調整	8	注7
513 VI	40	常緑広葉樹二次林	01	シイ・カシニ次林 07	アラカシニ次林	400107	アラカシニ次林	細				0	未	0	調整	8	注8

植生区分		大区分	中コー・中区分	細コー 細区分	凡例コード	(2) 三ノ均重社	更新状況	注記 凡	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例プロック 新規凡例 プロックコード	シカ等食害 注 植生自然度2.5万	
514 VI	40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ次林	08 シラカシニ次林	400108	シラカシニ次林細			0	未	0 調整	8 注9	
		常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ次林	09 コジイニ次林		コジイ二次林細			0		0 調整	8 注10	
		常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ次林	10 シリブカガシニ次林		シリブカガシニ次林 細			4	2004	7 中国・四国	8 注11	
		常緑広葉樹二次林	02 タブノキーヤブニッケイニ次林	00		タブノキーヤブニッケイニ次林中			237			8 注12	
		常緑広葉樹二次林	02 タブノキーヤブニッケイニ次林	01 ヤマヤブソテツーヤブニッケイ群集		ヤマヤブソテツーヤブニッケイ群集細			0			8 注13	
		常緑広葉樹二次林	03 ヒサカキニ次林	00		ヒサカキ二次林中			0			6	
		常緑広葉樹二次林	04 マテバシイニ次林	00		マテバシイ二次林中					7 中国・四国	7	
		常緑広葉樹二次林	04 マテバシイニ次林	01 ハクサンボクーマテバシイ群落		ハクサンボクーマテバシイ群落 細			50			7	
		常緑広葉樹二次林	05 マサキートベラニ次林	00		マサキートベラニ次林中			0			8 注14	_
		常緑広葉樹二次林	06 ウバメガシニ次林	00		ウバメガシニ次林中			98		a 1 111 3 ± 489	8	4
		常緑広葉樹二次林	07 亜熱帯常緑広葉樹二次林	01 ギョクシンカースダジイ群集		ギョクシンカースダジイ群集					8 九州・沖縄	8 注15	4
		常緑広葉樹二次林	07	02 ボチョウジーイジュ群落		ボチョウジーイジュ群落	_				8 九州・沖縄	8	4
		常緑広葉樹二次林	07	03 ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落		ナガミボチョウジーヤブニッケイ群落細					8 九州・沖縄	8	4
		常緑広葉樹二次林	07 亜熱帯常緑広葉樹二次林 08 アカテツーハマビワ群集二次林 108 アカテツーハマビワ群集二次林 109	04 ケナガエサカキースダジイ群集二次林		ケナガエサカキースダジイ群集二次林細				2006		8 注16	4
		常緑広葉樹二次林	08 アガテケーハマピケ群業二次杯 09 ヤブツバキニ次林	00		アカテツーハマビワ群集二次林 中 ヤブツバキニ次林 中	-			2008	8 九州·沖縄 8 九州·沖縄	7	-
	_	落葉広葉樹二次林	09 ドランパイニス杯 01 コナラ群落	00		コナラ群落(VII) 中			450		0 /6/11 7 / 平和	7	4
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落 01 コナラ群落	01 クリーコナラ群集		クリーコナラ群集 細 F			219			7	-
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	02 クヌギーコナラ群集		クヌギーコナラ群集	+		228			7	-
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	03 オニシバリーコナラ群集		オニシバリーコナラ群集			86			7	4
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	04 ノグルミーコナラ群集		ノグルミーコナラ群集					8 九州・沖縄	7	+
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	05 アベマキーコナラ群集		アベマキーコナラ群集	-				5 中部	7	-
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	06 ケネザサーコナラ群集		ケネザサーコナラ群集					5 中部	7	-
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	07 ケクロモジーコナラ群集		ケクロモジーコナラ群集 細 F					8 九州	7	-
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	08 ボロボロノキーコナラ群集		ボロボロノキーコナラ群集 細 F				未		7	1
		落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	09 ヒトツバタゴ群落		ヒトツバタゴ群落細		(ノグルミーコナラ群 副	1			7	1
540 VII	41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	10 クロキーコナラ群落	410110	クロキーコナラ群落細		未/	0	未	0 調整	7	+
541 VI	41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	11 フモトミズナラ群落	410111	フモトミズナラ群落		(ケネザサーコナラ 副	0	2009	5 中部	7	1
	١					L = 1278 + 1 (1 m)		群集)			- 1 11 14 4	_	_
		落葉広葉樹二次林 落葉広葉樹二次林	02 クヌギ群落 02 クヌギ群落	00 01 ニシノホンモンジスゲークヌギ群落		クヌギ群落(VII)	-	(アベマキーコナラ 副		2009		7	-
								群集)			0 近歳		
		落葉広葉樹二次林	03 アベマキ群落	00		アベマキ群落中			0			7	4
	_	落葉広葉樹二次林	04 アカシデーイヌシデ群落	00		アカシデーイヌシデ群落(VII) 中			112			7	_
		落葉広葉樹二次林	05 オオシマザクラ群落	01 オオバエゴノキーオオシマザクラ群集		オオバエゴノキーオオシマザクラ群集細	76		0			8	_
		落葉広葉樹二次林	06 オオバヤシャブシ群落	00		オオバヤシャブシ群落(VII) 中	改		0			7	4
548 VII	41	落葉広葉樹二次林	06 オオバヤシャブシ群落	01 ニオイウツギーオオバヤシャブシ群集(二次 林)	410601	ニオイウツギーオオバヤシャブシ群集(二次 細 林)			0			7	
		落葉広葉樹二次林	07 アカメガシワーカラスザンショウ群落	00		アカメガシワーカラスザンショウ群落中			423			6	
		落葉広葉樹二次林	07 アカメガシワーカラスザンショウ群落	01 センダンーハマセンダン群集		センダンーハマセンダン群集					8 九州·沖縄	7	
		落葉広葉樹二次林	08 ケヤキ群落	00		ケヤキ群落(VII) 中					5 中部	7	_
		落葉広葉樹二次林	08 ケヤキ群落	01 ハゼノキーケヤキ群落		ハゼノキーケヤキ群落細				2000		7	1
		落葉広葉樹二次林	08 ケヤキ群落	02 ケヤキ屋敷林		ケヤキ屋敷林					5 中部	7	_
		落葉広葉樹二次林	09 ミズキ群落	00		ミズキ群落	検	ケヤキ以外の渓谷 二次林		2000		7	
		落葉広葉樹二次林	10 エノキ群落	00		エノキ群落中					4 北陸	7	_
		落葉広葉樹二次林	10 エノキ群落	01 アカメガシワーエノキ群落		アカメガシワーエノキ群落細	検				7 中国・四国	7	_
		落葉広葉樹二次林	10 エノキ群落	02 アキニレーエノキ群落		アキニレーエノキ群落細					8 九州・沖縄	7	4
		落葉広葉樹二次林	12 ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林)	00		ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林) 中				2000		6	4
		落葉広葉樹二次林	12 ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林)	01 カギカズラーシマサルスベリ群落		カギカズラーシマサルスベリ群落	+			2008		7	4
		落葉広葉樹二次林	12 ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林)	02 シマタゴ群落		シマタゴ群落 細	ah-		2	2008	8 九州・沖縄	7	4
		落葉広葉樹二次林	12 ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林)	03 ウラジロエノキ群落		ウラジロエノキ群落(VII) 細	改	小ケ百	-	2011		7	4
		落葉広葉樹二次林 落葉広葉樹二次林	12 ハドノキーウラジロエノキ群団(二次林) 13 ムクノキ群落	04 シマグワ群落 00		シマグワ群落 細 ムクノキ群落 中	検	小笠原	-	2013	3 関東 8 九州·沖縄	7	4
		落葉広葉樹二次林	13 ムクノヤ杆洛 14 クサギーアカメガシワ群落	00		クサギーアカメガシワ群落中	1火			未	0 調整	6	+
		落葉広葉樹二次林	15 ヒメシャラ群落	01 カナクギノキーヒメシャラ群落		カナクギノキーヒメシャラ群落	+				8 九州・沖縄	7	4
220 VII	1	·ロンマーン In.	> > > > > > > > > > > > > > > >					1			- / / / / / mg	•	

植生区分	大コード	大区分	中コー・中区分ド	細コード	細区分	凡例コード	凡愈名	区分レベル	クラス域重複	更新状況	注記	1 5	新規凡例作成年	新規凡例 ブロックコード	新規凡例ブロック	注植生自然度2.5万	シカ等食害
		落葉広葉樹二次林	16 カンコノキ群落	00			カンコノキ群落	中			シカ食害地			8 九		5	•
		落葉広葉樹二次林	17 センダン二次林	00			センダン二次林	中			シカ食害地			8 九		5	•
		落葉広葉樹二次林	18 サキシマフヨウ群落	00			サキシマフヨウ群落	中						8 九	州·沖縄	5	
		常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落	00			アカマツ群落(VII)	中				494				7	
		常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落		ヤマツツジーアカマツ群集		ヤマツツジーアカマツ群集	細	F			84				7	
		常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落		モチツツジーアカマツ群集		モチツツジーアカマツ群集	細			/*> *	229				7	
5/2 VII	42	常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落	03	コバノミツバツツジーアカマツ群集	420103	コバノミツバツツジーアカマツ群集	細			アラゲミツバツツジーアカマツ群集を含	2				7	
573 VII	42	常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落	04	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集	420104	ユキグニミツバツツジーアカマツ群集	細	F		サイゴクミツバツツジーアカマツ群集	183				7	
574 VII	42	常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落	05	オンツツジーアカマツ群集	420105	オンツツジーアカマツ群集	細			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	20)			7	
		常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落		アカガシーアカマツ群落		アカガシーアカマツ群落	細				(7	
		常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落		ネズーアカマツ群落		ネズーアカマツ群落	細						7 中		7	
		常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落		ウバメガシーアカマツ群落		ウバメガシーアカマツ群落	細						7 中	国・四国	7	
		常緑針葉樹二次林	02 クロマツ群落	00			クロマツ群落(VII)	中				99				7	
		常緑針葉樹二次林	03 リュウキュウマツ群落	00			リュウキュウマツ群落(VII)	中				9				7	
		常緑針葉樹二次林	04 モミ群落	00			モミ群落(VII)	中				10				7	\perp
		タケ・ササ群落	00	00			タケ・ササ群落	大				97				5	
		タケ・ササ群落 タケ・ササ群落	01 ヤダケ群落	00			ヤダケ群落 メダケ群落	中中				40				5	_
		タケ・ササ群落	02 メダケ群落 03 リュウキュウチク群落	00			リュウキュウチク群落	中				29 ⁴				5	-
		タケ・ササ群落	04 アズマネザサ群落	00			アズマネザサ群落	中						2 東	٠	5	-
		タケ・ササ群落	05 ネザサ群落	00			ネザサ群落	中						5 中		5	+
		タケ・ササ群落	06 カンザンチク群落	00			カンザンチク群落	中						8 九		3	-
588 VII			00	00			低木群落	大				445		1	711 7114-6	6	_
589 VII			02 クズ群落	00			クズ群落	中				488				5	_
590 VII			03 ツルダコ群落	00			ツルダコ群落	中			小笠原					7	
591 VI	44	低木群落	04 マルハチ群落	01	マルハチ群集	440401	マルハチ群集(VII)	細			小笠原	()			7	
592 VII	44	低木群落	10 モリヘゴ群落	00		441000	モリヘゴ群落	中					2000	8 九	州・沖縄	6	
593 VI			11 ソテツ群落	01	キダチハマグルマーソテツ群落		キダチハマグルマーソテツ群落	細						8 九		5	
594 VII			12 ハマゴウ群落	00			ハマゴウ群落(VII)	中			シカ食害地		2009		州·沖縄	5	•
595 VII			13 外来種低木二次林		シチヘンゲ群落		シチヘンゲ群落	細		改	小笠原	(2013	1		3	
596 VII			14 外来種つる植物群落	00			外来種つる植物群落	中			小笠原	_	2013	1		3	
597 VII			15 ガクアジサイ群落	00			ガクアジサイ群落	中			伊豆	41	2013	3 関	東	6	
598 VII			01 ススキ群団	00			ススキ群団(VII)	中								5	_
599 VII			01 ススキ群団		アズマネザサーススキ群集		アズマネザサーススキ群集	細				39				5	_
600 VII 601 VII			01 ススキ群団 01 ススキ群団		ネザサーススキ群集 チガヤーススキ群落		ネザサーススキ群集 チガヤーススキ群落	細細				126		-		5	+
602 VII			01 スペキ杆団 01 ススキ群団		メガルカヤーススキ群集		メガルカヤーススキ群集	細細						8 九	州•沖縄	5	+
603 VII			02 シバ群団	00	TOTAL STATE		シバ群団(VII)	中				+	2000		711 71 ques	4	+
604 VII			02 シバ群団	01	コウライシバ群落		コウライシバ群落(VII)	細					2008	8 九	州・沖縄	4	+
605 VII			03 ウラジローコシダ群落	00			ウラジローコシダ群落	中				84				5	\neg
606 VII			04 ダンチク群落	00			ダンチク群落	中				78				5	
607 VII	45	二次草原	05 ハチジョウアザミ群落	00		450500	ハチジョウアザミ群落	中				()			5	
		二次草原	06 ハイキビ群落	00			ハイキビ群落	中				(4	
		二次草原	10 スズメノコビエ群落		シマスズメノヒエースズメノコビエ群落		シマスズメノヒエースズメノコビエ群落	細				(1			4	•
		二次草原	11 ナガバカニクサーススキ群団	00			ナガバカニクサーススキ群団	中						8 九		5	
611 VII			12 ニオウヤブマオ群落	00			ニオウヤブマオ群落	中						8 九		5	
		二次草原	13 タイワンカモノハシ群落	00			タイワンカモノハシ群落	中			N I A COM		2008		州・沖縄	5	4
		二次草原	14 イワヒメワラビ群落		マツカゼソウーイワヒメワラビ群落		マツカゼソウーイワヒメワラビ群落	細			シカ食害地	$\dashv\vdash$	2010		州・沖縄	4	•
614 VII			15 シダ草原		ワラビータマシダ群落		ワラビータマシダ群落	細				_	2011			5	
		二次草原	15 シダ草原		ユノミネシダ群落		ユノミネシダ群落	細中			小佐店	_	2011			5	
616 VII 617 VII			16 外来種二次草原 16 外来種二次草原	00	 アオノリュウゼツラン群落		外来種二次草原 アオノリュウゼツラン群落	細細			小笠原 小笠原	+	2013	1		3	+
			16 外来種二次草原		ナイザルアサ群落		サイザルアサ群落	細細			小笠原	+		3 関		3	+
618 VII	45																

植生区分	 	大区分	中コー中区分ド	細コード	細区分	凡例二一片	凡臺的	区分レベル	ス域素	更 新 伏 元	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロック 新規凡例 ブロックコード	シカ等食書 注 植生自然度2.5万
620 VI	I 4	5 二次草原	16 外来種二次草原	14	ホナガソウ群落	451614	ホナガソウ群落	細	利	3		(2011	3 関東	2
621 VI	I 4	5 二次草原	16 外来種二次草原	15	バラアサガオ群落	451615	バラアサガオ群落	細		小笠原		11	2013	3 関東	2
622 VI	I 4	5 二次草原	16 外来種二次草原	16	クサトケイソウ群落	451616	クサトケイソウ群落	細		小笠原			2013	3 関東	2
623 VI	I 4	5 二次草原	16 外来種二次草原	17	ハリケンススキ群落	451617	ハリケンススキ群落	細	利	小笠原			2013	3 関東	2
		5 二次草原	16 外来種二次草原	18	ホクチガヤ群落	451618	ホクチガヤ群落	細	利	小笠原			2013	3 関東	2
		5 二次草原	16 外来種二次草原		ハタガヤーキバナヒメフウチョウソウ群落		ハタガヤーキバナヒメフウチョウソウ群落	細	利				2013		2
		5 二次草原	16 外来種二次草原		オニチカラシバ群落		オニチカラシバ群落	細	利	小笠原			2013		2
		5 二次草原	17 ハチジョウススキ群落	00			ハチジョウススキ群落(VII)	中		伊豆		1 L	2013	3 関東	5
		6 伐採跡地群落	00	00			伐採跡地群落(VII)	中				1 —			4
		6 伐採跡地群落	01 山火事跡地群落	00			山火事跡地群落	中						7 中国・四国	5
		6 伐採跡地群落	01 山火事跡地群落		ワラビ群落		ワラビ群落	細				- 4		7 中国・四国	5
		7 湿原・河川・池沼植生	00	00			湿原・河川・池沼植生	大				10	2012	1 H20北海道	10
		7 湿原·河川·池沼植生 7 湿原·河川·池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス 01 ツルコケモモーミズゴケクラス	00	ツルコケモモーミズゴケクラス(代償植生)		ツルコケモモーミズゴケクラス ツルコケモモーミズゴケクラス(代償植生)	中細			副	107	2006	1 北海道	5
										剑吸汩 盾 插 井 図 に					
034 VII	4	7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス	03	カラフトイソツツジーヤチツツジ群落	4/0103	カラフトイソツツジーヤチツツジ群落	細		釧路湿原植生図に よる			2007	1 北海道	10
		7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス		カラフトイソツツジーチャミズゴケ群落		カラフトイソツツジーチャミズゴケ群落	細		36.0 釧路湿原植生図に よる			2007	1 北海道	10
636 VI	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス	05	ニッコウシダークシノハミズゴケ群落	470105	ニッコウシダークシノハミズゴケ群落	細		釧路湿原植生図に よる	副	3	2007	1 北海道	10
637 VI	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス	06	ヒメワタスゲーワラミズゴケ群落	470106	ヒメワタスゲーワラミズゴケ群落	細		釧路湿原植生図に よる			2007	1 北海道	10
		7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス		ブルテ・シュレンケ複合体群落		ブルテ・シュレンケ複合体群落	細		釧路湿原植生図に よる	副		2007		10
		7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス		ムジナスゲーチャミズゴケ群落		ムジナスゲーチャミズゴケ群落	細				2	2009		10
		7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス		ヤチカンバ群落		ヤチカンバ群落	細				↓		1 北海道	9
		7 湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモーミズゴケクラス	00	ヤマドリゼンマイートマリスゲ群落		ヤマドリゼンマイートマリスゲ群落	細中				00/	2013	1 北海道	10
		7 湿原·河川·池沼植生 7 湿原·河川·池沼植生	02 ヌマガヤオーダー 02 ヌマガヤオーダー		オオミズゴケ群落		ヌマガヤオーダー オオミズゴケ群落	細細				208		8 九州・沖縄	10
		7 湿原•河川•池沼植生	02 ヌマガヤオーダー		チマキザサーヌマガヤ群落		チマキザサーヌマガヤ群落	細細			副			1 北海道	10
		7 湿原・河川・池沼植生	03 貧養地小型植物群落	00) (()) / () () () () () () ()		貧養地小型植物群落	中			ш.)	27		1 70/14/2	10
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	00			ヨシクラス	中				1232			10 注17
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	01	ミゾソバーヨシ群落		ミゾソバーヨシ群落	細		水辺、湿地の二次 草原		136			5
648 VI	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	02	ヒライーカモノハシ群集	470402	ヒライーカモノハシ群集	細						2 東北	10
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス		セイタカヨシ群落		セイタカヨシ群落	細	利	3				7 中国・四国	10 注18
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス		チマキザサーヨシ群落		チマキザサーヨシ群落	細			副		2006		10
		7 湿原·河川·池沼植生 7 湿原·河川·池沼植生	04 ヨシクラス 04 ヨシクラス		ヨシーヤラメスゲ群落 ツルスゲーヌマドジョウツナギ群落		ヨシーヤラメスゲ群落 ツルスゲーヌマドジョウツナギ群落	細細		釧路湿原植生図に よる 釧路湿原植生図に			2003	1 北海道 1 北海道	10
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス		ヨシーイワノガリヤス群落		ヨシーイワノガリヤス群落	細細		よる 釧路湿原植生図に	副	 	2003		10
654 VI	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	09	イワノガリヤスーカブスゲ群落	470409	イワノガリヤスーカブスゲ群落	細		よる 釧路湿原植生図に			2007	1 北海道	10
655 VI	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	10	ツルスゲームジナスゲ群落	470410	ツルスゲームジナスゲ群落	細		<u>よる</u> 釧路湿原植生図に よる	副	7	2003	1 北海道	10
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス		ツルスゲーミツガシワ群落		ツルスゲーミツガシワ群落	細		釧路湿原植生図に よる		↓	2007	1 北海道	10
		7 湿原·河川·池沼植生	04 ヨシクラス		ヤチヤナギームジナスゲ群落		ヤチヤナギームジナスゲ群落	細	1	釧路湿原植生図に よる	副		2003	1 北海道	10
		7 湿原·河川·池沼植生 7 湿原·河川·池沼植生	04 ヨシクラス 044 ヨシクラス		ホザキシモツケ群落 ナガボノシロワレモコウーヒメシダ群落		ホザキシモツケ群落 ナガボノシロワレモコウーヒメシダ群落	細細		(ナガボノシロワレ モコウーエゾミヤコ ザサ群落)	副			1 北海道 1 北海道	5
660 VI	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	15	イワノガリヤスーツルスゲ群落	470415	イワノガリヤスーツルスゲ群落	細		ソリ研浴)	1	†	2012	1 北海道	10
		8 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス		ムジナスゲーヤチスゲ群落		ムジナスゲーヤチスゲ群落	細			1	t		1 北海道	10
		7 湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス		オオサンカクイ群落		オオサンカクイ群落	細		小笠原	1	1 🗀		3 関東	10
	_	7 湿原・河川・池沼植生	05 河川敷砂礫地植生	00			河川敷砂礫地植生	中				26			10
		7 湿原・河川・池沼植生	05 河川敷砂礫地植生	01	ツルヨシ群集		ツルヨシ群集	細				726			10 注19
665 VII	I 4	7 湿原・河川・池沼植生	05 河川敷砂礫地植生	02	オギ群集	470502	オギ群集	細				401			10 注20

							1						1				
4de	_			細		_		区	クラス域重複			2%	新規		新規凡例ブ	i 在	\"
植生	大		中	41.004		凡例二-	77	分	フィ	更新	副	1 \$	2	Ē	Γ規凡例ブロ 新規凡例	<u>iii</u>	力等
生区	7	大区分	中区分	\sqcap	細区分	Ī	凡例名	レベ	域	新状	注記 月	ا ا ک	91	2		第 详	4版
分	١		F	۴		7,	PA	ル	重	況	191	2次メッシュ数	新規凡例作成年	Ţ	· 回 回	注生自然度2.5万	甽
									稷			~	併	· ′	, 9	ы	
666 VIII	47	湿原•河川•池沼植生	05 河川敷砂礫地植生	03	ホッスガヤ群落	470503	ホッスガヤ群落	細					0			10	+
		湿原・河川・池沼植生	05 河川敷砂礫地植生		カワラハハコーヨモギ群団		カワラハハコーヨモギ群団	細				12	0 200	00	5 中部	10	+
		湿原・河川・池沼植生	05 河川敷砂礫地植生		カワラヨモギ群落		カワラヨモギ群落	細					4 200		7 中国・四国	10	+
		湿原•河川•池沼植生	05 河川敷砂礫地植生		河川砂礫地外来草本群落			細					2 200		7 中国・四国	2	+
670 VIII	47	湿原•河川•池沼植生	05 河川敷砂礫地植生		河川砂礫地外来低木群落	470508	河川砂礫地外来低木群落	細					20	13	5 中部	3	+
671 VIII	47	湿原•河川•池沼植生	05 河川敷砂礫地植生	09	フサフジウツギ群落	470509	フサフジウツギ群落	細					20	13	5 中部	3	1
672 VIII	47	湿原•河川•池沼植生	06 ヒルムシロクラス	00		470600	ヒルムシロクラス	中								10	
		湿原•河川•池沼植生	06 ヒルムシロクラス	01	オニバス群落	470601	オニバス群落	細							8 九州·沖縄	10	
		湿原·河川·池沼植生	06 ヒルムシロクラス	02	外来水草群落	470602	外来水草群落	細							3 関東	2	T
		湿原·河川·池沼植生	08 渓流辺植生	00				中							6 近畿	10	
676 VIII	47	湿原・河川・池沼植生	08 渓流辺植生		リュウキュウツワブキーサイゴクホングウシ	470801	リュウキュウツワブキーサイゴクホングウシ	細					1 200	00	8 九州・沖縄	10	
677 VIII	47	湿原・河川・池沼植生	08 渓流辺植生		<u>ダ群団</u> サツキ群集	470000	ダ群団 サツキ群集	細					0 200	12	6 近畿	10	+
		湿原・河川・池沼植生	08 渓流辺植生		キシツツジ群集		キシツツジ群集	細細		移			6 200		7 中国・四国	10	+
		湿原・河川・池沼植生	08 渓流辺植生		インノノン研末 ホソバハグマーサツキ群集			細細		·12/			2 200		8 九州・沖縄	10	+
		湿原・河川・池沼植生	08 渓流辺植生		ユキヤナギ群集			細							3 関東	10	+
		湿原・河川・池沼植生	09 河辺一年生草本群落	00	一 ((/ () () () ()			中		改					3 関東	5	+
		湿原・河川・池沼植生	09 河辺一年生草本群落		ヤナギタデ群落			細		移					8 九州·沖縄	5	+
		湿原・河川・池沼植生	10 マアザミーチゴザサ群団	00				中		12					8 九州·沖縄	10	+
		湿原・河川・池沼植生	11 カワゴケソウクラス	00				中							8 九州·沖縄	10	+
		塩沼地植生	00	00				大				11				10	+-
		塩沼地植生	01 ヒトモトススキ群落	00				中					6			10	+
687 VIII	48	塩沼地植生	02 シオクグ群落	00				中					0 未	ŧ		10	1
688 VIII	48	塩沼地植生	02 シオクグ群落	01	シオクグ群集	480201	シオクグ群集	細				1:	3 200	00	8 九州·沖縄	10	
689 VIII	48	塩沼地植生	03 ウラギククラス		ハママツナーハマサジ群落		ハママツナーハマサジ群落	細					4			10	
		塩沼地植生	03 ウラギククラス		ナガミノオニシバ群集		ナガミノオニシバ群集	細							8 九州·沖縄	10	
		塩沼地植生	03 ウラギククラス		シバナ群集		シバナ群集	細						00	8 九州・沖縄	10	
		塩沼地植生	04 アマモクラス	00				中				4				10	_
		塩沼地植生	04 アマモクラス		コアマモ群集			細							2 東北	10	_
		塩沼地植生 塩沼地枝生	05 マリティマイクラス		ドロイ群集		ドロイ群集	細細							2 東北	10	_
		塩沼地植生 塩沼地植生	05 マリティマイクラス 06 1年生アッケシソウクラス		イセウキヤガラ群落 アッケシソウ群落		イセウキヤガラ群落 アッケシソウ群落	細細				1 1	2 200		7 中国·四国 7 中国·四国	10 10	_
		塩石地程工 塩沼地植生	00 「千里」 グランプランス	00	ナップンプリー			神				1 1			4 北陸	10	-
		塩沼地植生 塩沼地植生	07 ウミミドリ群落		ツルヒキノカサーウミミドリ群集		ツルヒキノカサーウミミドリ群集	細細							2 東北	10	+
		塩沼地植生	08 オオクグ群落	00	プルロー(アガラー プスト) 伊子来			中					3 200		7 中国・四国	10	+
		塩沼地植生 塩沼地植生	09 汽水域沈水植物群落		カワツルモーリュウノヒゲモ群落		カワツルモーリュウノヒゲモ群落	細					5 200		7 中国・四国	10	+
		塩沼地植生 塩沼地植生	10 ミミモチシダ群落	00	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			中					1 200		8 九州・沖縄	10	_
		塩沼地植生	11 アイアシ群落	01	アイアシ群集			細							8 九州·沖縄	10	
		砂丘植生	00	00				大				43				10	+
704 VIII	49	砂丘植生	01 ハマナス群落	00		490100	ハマナス群落	中				4	1			10	
705 VIII	49	砂丘植生	02 ハマゴウ群落	00		490200	ハマゴウ群落	中					0			10	
		砂丘植生	02 ハマゴウ群落		ハマグルマーハマゴウ群集			細					5			10	
		砂丘植生	02 ハマゴウ群落		クロイワザサーハマゴウ群集		クロイワザサーハマゴウ群集	細							8 九州・沖縄	10	
		砂丘植生	02 ハマゴウ群落		ウンランーハマゴウ群集			細					0 200		8 九州·沖縄	10	
		砂丘植生	02 ハマゴウ群落		チガヤーハマゴウ群集		チガヤーハマゴウ群集	細				1 1	1 200		8 九州・沖縄	10	_
		砂丘植生	02 ハマゴウ群落		ハマゴウーハイネズ群集		ハマゴウーハイネズ群集	細中					200	19	8 九州·沖縄	10	_
		砂丘植生 砂丘植生	03 ハイビャクシン群落 04 ハマベンケイソウ群落	00	オカヒジキーハマベンケイソウ群落		ハイビャクシン群落 オカヒジキーハマベンケイソウ群落	田細				+	0	-		10 10	+-
		砂丘植生	05 コウボウムギ群落		ハマニンニクーコウボウムギ群集			細細				6	~	+		10	+
		砂丘植生	05 コウボウムギ群落		ハマグルマーコウボウムギ群集			細細				1:		-		10	+
		砂丘植生	06 グンバイヒルガオ群落	00	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			中				1		+		10	+
		砂丘植生	07 ハマニガナークロイワザサ群団	00				中				2		+		10	+
717 VII			07 ハマニガナークロイワザサ群団		ツキイゲ群落		ツキイゲ群落	細						ŧ	0 0	10	+
		砂丘植生	09 原生花園草原		ハマハタザオーエゾノスカシユリ群落			細		移					1 北海道	10	+
719 VIII	49	砂丘植生	09 原生花園草原		イワツツジーガンコウラン群落	490902	イワツツジーガンコウラン群落	細		新			20	15	1 北海道	10 要修]	Ξ
720 VIII	49	砂丘植生	10 磯浜植生	00		491000	磯浜植生	中					20	12	8 九州・沖縄	10	

植生区	大コー	大区分	中コー	中区分	細 コー	細区分	凡例二-	凡變名	区分レベ	更	注記	副凡	2次メッシュ	新規凡例作成年	新規凡例プロ 新規凡例 プロックコー	植生自然原	ンルサル
分	7.		۴		۴		7,	104	ベル場番	況		例	`ユ数	作成年	グロック	然度2.5万	THE THE
21 VIII	49	砂丘植生	10	磯浜植生	01	エゾオグルマ群落	491001	エゾオグルマ群落	細				10	2005	1 北海道	10	
22 VIII	49	砂丘植生	10	礫浜植生	02	イワタイゲキ群集	491002	イワタイゲキ群集	細				0	2009	8 九州·沖縄	10	
23 VIII	49	砂丘植生	11	外来種草本群落	01	オオハマガヤ群落	491101	オオハマガヤ群落	細					2014	3 関東	2	
		海岸断崖地植生	00		00			海岸断崖地植生	大				88			10	
25 VIII	50	海岸断崖地植生	01	エゾノカワラナデシコーホロマンノコギリソウ群団	01	コハマギク群落	500101	コハマギク群落	細				22			10	
26 VII	50	海岸断崖地植生	01	エゾノカワラナデシコーホロマンノコギリソ ウ群団	02	ハマオトコヨモギーコハマギク群集	500102	ハマオトコヨモギーコハマギク群集	細				28	2000	2 東北	10	
27 VIII	50	海岸断崖地植生	01	エゾノカワラナデシコーホロマンノコギリソ ウ群団	03	エゾニュウーススキ群落	500103	エゾニュウーススキ群落	細	検			12	2000	2 東北	10	
28 VIII	50	海岸断崖地植生	02	イブキボウフウ群団	03	ラセイタソウーハマギク群集	500203	ラセイタソウーハマギク群集	細				29	2000	2 東北	10	
29 VIII	50	海岸断崖地植生	02	イブキボウフウ群団	04	ハマボッスーキリンソウ群集	500204	ハマボッスーキリンソウ群集	細				14	2001	2 東北	10	
		海岸断崖地植生		ボタンボウフウ群団	00			ボタンボウフウ群団	中	1				未		10	
		海岸断崖地植生		ボタンボウフウ群団	01	ハチジョウススキ群落	500301	ハチジョウススキ群落	細				41			10	
32 VIII	50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウフウ群団	02	イソギクーハチジョウススキ群集	500302	イソギクーハチジョウススキ群集	細				60			10	
33 VIII	50	海岸断崖地植生		ボタンボウフウ群団	03	ノジギク群落	500303	ノジギク群落	細				0			10	
34 VIII	50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウフウ群団	04	オキナワギクーハチジョウススキ群集	500304	オキナワギクーハチジョウススキ群集	細				11			10	
35 VIII	50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウフウ群団	05	オガサワラススキ群集	500305	オガサワラススキ群集	細				0			10	
36 VIII	50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウフウ群団	06	ラセイタソウーイソギク群落	500306	ラセイタソウーイソギク群落	中		伊豆			2013	3 関東	10	
37 VIII	50	海岸断崖地植生	05	海鳥営巣地植物群落	01	オヒシバースベリヒユ群落	500501	オヒシバースベリヒユ群落	細	改			0			10	
38 VIII	50	海岸断崖地植生	05	海鳥営巣地植物群落	02	フタマタメヒシバ群落	500502	フタマタメヒシバ群落	細				0	未		10	
39 VIII	50	海岸断崖地植生	06	海岸草本群落	00		500600	海岸草本群落	中	検			69	2000	4 北陸	10	
		海岸断崖地植生	07	オオイタドリ群落	00		500700	オオイタドリ群落	中						2 東北	10	
41 VIII	50	海岸断崖地植生	08	カワラナデシコーウシノケグサ群団	01	ダルマギクーホソバワダン群集	500801	ダルマギクーホソバワダン群集	細	移			19	2002	8 九州・沖縄	10	
42 VIII	50	海岸断崖地植生	09	ナガバカニクサーススキ群団	01	ナンヨウカモジグサーススキ群集	500901	ナンヨウカモジグサーススキ群集	細					2011	3 関東	10	
43 VIII	50	海岸断崖地植生	10	ナンバンカラムシ群落	00		501000	ナンバンカラムシ群落	中		小笠原			2013	3 関東	10	
44 VIII	50	海岸断崖地植生	11	モクビャッコウ群落	00		501100	モクビャッコウ群落	中		小笠原			2013	3 関東	10	
45 VIII	51	岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生	01	石灰岩地植生	00		510100	石灰岩地植生	中				9			10	
46 VIII	51	岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生	01	石灰岩地植生	01	コイブキアザミーアカソ群集	510101	コイブキアザミーアカソ群集	細					2012	6 近畿	10	
47 VIII	51	岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生	03	岩壁植生	00		510300	岩壁植生	中				20			10	
48 VIII	51	岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	00		510400	蛇紋岩地植生	中				5	2005	8 九州・沖縄	10	
		岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生			01	アカマツ群落	510401	アカマツ群落(VIII)	細				0	2009	7 中国・四国	9	
50 VIII	51	岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	02	ヒロハドウダンツツジーアカマツ群落	510402	ヒロハドウダンツツジーアカマツ群落	細				35	2000	5 中部	9	
51 VIII	51	岩角地•石灰岩地•蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	03	ケスゲーアラカシ群落	510403	ケスゲーアラカシ群落	細					2012	8 九州・沖縄	9	
52 VIII	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	05	風穴植生	00		510500	風穴植生	中				0	2009	2 東北	9	
53 VIII	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	05	風穴植生	01	コキンバイーレンゲツツジ群落	510501	コキンバイーレンゲツツジ群落	細				20	2000	2 東北	9	
54 VIII	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	05	風穴植生	02	コケモモーエゾムラサキツツジ群落	510502	コケモモーエゾムラサキツツジ群落	細					2014	1 北海道	9	
55 VII	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	00			岩角地植生	中					2011	0 調整	10	
56 Ⅷ	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	01	コメツツジ群落	510601	コメツツジ群落	細	移	510200から移動			2011	0 調整	10	
		岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生				オノエランーハコネコメツツジ群集		オノエランーハコネコメツツジ群集	細		1				3 関東	10	
		岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生				チョウジコメツツジ群集		チョウジコメツツジ群集	細		1			2011	5 中部	10	
59 Ⅷ	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	06	岩角地植生		アレノノギクーアイノコマツ群落		アレノノギクーアイノコマツ群落	細		1			2012	8 九州·沖縄	9	
		岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	06	オオシマツツジーリョウブ群落	510606	オオシマツツジーリョウブ群落	細		伊豆			2013	3 関東	10	
61 VIII	52	火山荒原植生 硫気孔原植生	01	火山荒原植生	00				中				16			10	
		火山荒原植生·硫気孔原植生		硫気孔原植生	00			硫気孔原植生	中				26			10	
		火山荒原植生·硫気孔原植生		硫気孔原植生	01	イガガヤツリ群落		イガガヤツリ群落	細		小笠原			2013	3 関東	10	
		火山荒原植生 · 硫気孔原植生		ミヤマキリシマ群落	00			ミヤマキリシマ群落	中				2			10	
		火山荒原植生·硫気孔原植生				マイヅルソウーミヤマキリシマ群集		マイヅルソウーミヤマキリシマ群集	細				7			10	
		火山荒原植生 · 硫気孔原植生		ミヤマキリシマ群落		キリシマアザミ群落		キリシマアザミ群落	細		シカ食害地		0	2010	8 九州・沖縄	4	•
		火山荒原植生 · 硫気孔原植生				フジアザミーヤマホタルブクロ群集		フジアザミーヤマホタルブクロ群集	細		1		13			10	
68 VIII	52	火山荒原植生·硫気孔原植生	05	コメススキ群落	01	イタドリーコメススキ群落	520501	イタドリーコメススキ群落	細				0			10	
69 VIII	52	火山荒原植生·硫気孔原植生	06	ハチジョウイタドリ群落	00		520600	ハチジョウイタドリ群落	中				0			10	
70 VIII	52	火山荒原植生·硫気孔原植生	06	ハチジョウイタドリ群落	01	シマタヌキランーハチジョウイタドリ群集	520601	シマタヌキランーハチジョウイタドリ群集	細				0			10	
71 VIII	52	火山荒原植生·硫気孔原植生	07	タマシダ群落	00		520700	タマシダ群落	中				0			10	
	EO	火山荒原植生 硫気孔原植生	07	タマシダ群落	01	イタドリータマシダ群落	520701	イタドリータマシダ群落	細				0	未	0 0	10	
72 VIII	52	A TOWNER WINDS															

	生区分	大コード	大区分	中コー・中区分ド	細コード	細区分	凡例二一ド	凡物名	区分レベル	更新状況	注記	レッシュ数	- III		75	注植生自然度2.5万	シカ等食害
_			火山荒原植生 硫気孔原植生	09 マルバサツキーハチジョウススキ群落	00			マルバサツキーハチジョウススキ群落	中			_	0 200		0 調整	10	
_			火山荒原植生 硫気孔原植生	09 マルバサツキーハチジョウススキ群落		イタドリーハチジョウススキ群落		イタドリーハチジョウススキ群落	細				1 200		8 九州・沖縄	10	
			火山荒原植生·硫気孔原植生	09 マルバサツキーハチジョウススキ群落		マルバサツキーシャシャンボ群落		マルバサツキーシャシャンボ群落	細				1 200		8 九州・沖縄	9	
			火山荒原植生·硫気孔原植生	10 シャシャンボ群落		ハマヒサカキーシャシャンボ群落		ハマヒサカキーシャシャンボ群落	細				1 200		8 九州・沖縄	9	
778	VIII	52	火山荒原植生·硫気孔原植生	10 シャシャンボ群落		ヒカゲノカズラーシャシャンボ群落	521002	ヒカゲノカズラーシャシャンボ群落	細				0 20		8 九州・沖縄	9	
			火山荒原植生·硫気孔原植生	11 イソツツジ群落		ススキーイソツツジ群落		ススキーイソツツジ群落	點				0 200		1 北海道	10	
_			火山荒原植生•硫気孔原植生	12 イヌコリヤナギ群落		アキグミーイヌコリヤナギ群落		アキグミーイヌコリヤナギ群落	細				0 200		1 北海道	10	
			火山荒原植生·硫気孔原植生	13 ミネヤナギ群落	00			ミネヤナギ群落(VIII)	中				20		1 北海道	10	
782	VIII	52	火山荒原植生•硫気孔原植生	13 ミネヤナギ群落	01	ミネヤナギーカラマツ群落	521301	ミネヤナギーカラマツ群落	細		(ミネヤナギ群落)カ 副		20	10	1 北海道	8	
702	VIIII	52	火山荒原植生・硫気孔原植生	14 ヒサカキ群落	01	ハチジョウススキーヒサカキ群落	521401	ハチジョウススキーヒサカキ群落	細		ラマツ逸出 伊豆	+	30.	12	3 関東	10	+
			火山坑凉恒生,领式九凉恒生 隆起珊瑚礁植生	14 とり万千群洛	00	ハノフコノヘヘマ ヒッカイ付冷			大		D. <u>T</u>	- 5	_	10	0 対不	10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	01 ソナレシバ群落	00			アンプログラス アンプログラス アンプログラス アンプログラス アンプログラス アンプログラス アンファイン アンアン アンファイン アンファイン アンアン アンファイン アンファイ	中			- 3		+		10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	02 ハイシバ群落	00			ハイシバ群落	中			_	0			10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	02 パインバ研済 03 モクビャッコウ群落	00			モクビャッコウ群落	中			+				10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	03 モクビャツコウ群落		イソマツーモクビャッコウ群集		イソマツーモクビャッコウ群集	細細			+	1 200	16	8 九州・沖縄	10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	03 モクビャツコウ群落		イソマツ群落		イソマツ群落	細細			+			3 関東	10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	04 コウライシバ群落	00	1 / · / HT/F		コウライシバ群落	中			2		• •	- IXA	10	+
L			隆起珊瑚礁植生	05 コハマジンチョウ群集	00			コハマジンチョウ群集	+				0			10	_
			隆起珊瑚礁植生	07 ミズガンピ群落	00			ミズガンピ群落	中				9 200	16	8 九州・沖縄	10	+
			隆起珊瑚礁植生 隆起珊瑚礁植生	08 トゲイボタ群落	00			トゲイボタ群落	中						8 九州・沖縄	10	+
			隆起珊瑚礁植生	09 テンノウメ群落		ハリツルマサキーテンノウメ群集		ハリツルマサキーテンノウメ群集	細						8 九州・沖縄	10	+-
			植林地	01 スギ・ヒノキ・サワラ植林	00	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		スギ・ヒノキ・サワラ植林	中			156		-	0 20711 71 11/102	6	+
			植林地	01 スギ・ヒノキ・サワラ植林		スギ巨木林		スギ巨木林	細		発達した林分			20	8 九州・沖縄	8 注21	1
797			植林地	02 アカマツ植林	00	X (Exemp		アカマツ植林	中		元是のだがり	46		-	0 20711 71 11/102	6	+
			植林地	03 クロマツ植林	00			クロマツ植林	<u>н</u>			57				6	
			植林地	04 エゾマツ植林	00			エゾマツ植林	中			6				6	+
			植林地	05 トドマツ植林	00			トドマツ植林	中			24				6	
			植林地	06 アカエゾマツ植林	00			アカエゾマツ植林	中			16				6	+
			植林地	07 カラマツ植林	00			カラマツ植林	中			56				6	+
			植林地	08 リュウキュウマツ植林	00			リュウキュウマツ植林	中				9			6	_
				09 外国産樹種植林	00			外国産樹種植林	中			23	4			3	+
				09 外国産樹種植林		ギンネム群落		ギンネム群落	細			7				3	+
806	IX	54	植林地	09 外国産樹種植林		ニセアカシア群落		ニセアカシア群落	細			33	0			3	_
807	IX	54	植林地	09 外国産樹種植林		テーダマツ植林		テーダマツ植林	細		副	3	9 200	00	5 中部	3	_
808	IX	54	植林地	09 外国産樹種植林	04	モクマオウ類植林	540904	モクマオウ類植林	細		副	11	1 200	00	8 九州・沖縄	3	_
			植林地	09 外国産樹種植林		ソウシジュ植林		ソウシジュ植林	細		副				8 九州・沖縄	3	\top
810			植林地	09 外国産樹種植林		ストローブマツ植林		ストローブマツ植林	細		副		4 200		1 北海道	3	1
811	IX	54	植林地	09 外国産樹種植林	07	ニセアカシア植林	540907	ニセアカシア植林	細	追	副		0		調整	3	
812	IX	54	植林地	09 外国産樹種植林	08	インドゴムノキ植林	540908	インドゴムノキ植林	細		小笠原副		20	13	3 関東	3	
813			植林地	10 その他植林	00		541000	その他植林	中			53	3			6	
			植林地	11 その他植林(常緑針葉樹)	00		541100	その他植林(常緑針葉樹)	中			3	1			6	
			植林地	11 その他植林(常緑針葉樹)		モミ植林	541101	モミ植林	細		副				2 東北	6	
			植林地	11 その他植林(常緑針葉樹)		ウラジロモミ植林		ウラジロモミ植林	細		副				2 東北	6	
			植林地	11 その他植林(常緑針葉樹)		シラビソ植林		シラビソ植林	細		副				5 中部	6	
			植林地	11 その他植林(常緑針葉樹)	04	トウヒ植林		トウヒ植林	細		副	T	2 200	04	5 中部	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	00			その他植林(落葉広葉樹)	中	移		10				6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		ヤチダモ植林		ヤチダモ植林	細		副				2 東北	6	
821			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		クヌギ植林		クヌギ植林	細		副				8 九州・沖縄	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		オオバヤシャブシ植林	541203	オオバヤシャブシ植林	細		副				7 中国・四国	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		ハンノキ群落		ハンノキ群落(IX)	細		副				8 九州・沖縄	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		オオシマザクラ植林		オオシマザクラ植林	細		副		5 200		5 中部	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		アキグミ植林		アキグミ植林	細		副		3 200		4 北陸	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		ハマナス植栽地	541207	ハマナス植栽地	細		副		0 未		0 調整	6	
			植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)		シラカンバ植林		シラカンバ植林	細		副				1 北海道	6	
000	IX	54	植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	09	ヤシャブシ植林	541209	ヤシャブシ植林	細		副		0 20	10	3 関東	6	

	植生区分		大区分	中ロー・中区分ド	細コード	細区分	凡例コード	凡瘦名	区分レベル		3	f規凡例作成年	が扱い物	↑規凡例ブロック	重生自然度2.5万	¥	シカ等食害
82	X	54	4 植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	10	ケヤキ植林	541210	ケヤキ植林	細	副	0	2010) 8	九州・沖縄	6		_
83	X	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	00		541300	その他植林(常緑広葉樹)	中		3				6		
83	1 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	01	クスノキ植林	541301	クスノキ植林	細	副	87				3		
83	2 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	02	クスノキ巨木林	541302	クスノキ巨木林	細	発達した林分副	6	2000) 8	九州・沖縄	3		
83	3 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	03	クスノキ群落	541303	クスノキ群落	細	瀬戸内少雨地の二 副 次林	33	2000) 7	中国・四国	3		
83	4 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	04	マテバシイ植林	541304	マテバシイ植林	細	副	40	2000) 5	中部	6		
83	5 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	05	イスノキ植林	541305	イスノキ植林	細	副	0	未			6		
83	3 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	06	テリハボク植林	541306	テリハボク植林	細	副	26	2006	3 8	九州・沖縄	6		
83	7 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	07	アカギ群落	541307	アカギ群落	細	小笠原副		2011	3	関東	6		
83	3 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	08	オオハマボウ植林	541308	オオハマボウ植林	細	小笠原副		2013	3 3	関東	6		
83) IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	09	ガジュマル群落	541309	ガジュマル群落	細	小笠原副		2013	3 3	関東	6		
84	X	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	10	オガサワラビロウ植林	541310	オガサワラビロウ植林	細	小笠原 副		2013	3 3	関東	6		
84	1 IX	54	4 植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	13	ヤブツバキ植林	541313	ヤブツバキ植林	細	伊豆 副		2013	3 3	関東	6		
84	2 IX	54	4 植林地	14 外国産樹種吹付地	01	イタチハギ吹付地	541401	イタチハギ吹付地	細	追副	20	2005	5 2	東北	3		
84	3 IX	54	4 植林地	14 外国産樹種吹付地	02	イタチハギ群落	541402	イタチハギ群落	細	副	12	2003	3 2	東北	3		
84	4 IX	55	5 竹林	00	00		550000	竹林	大		1245				3		
84	5 IX	55	5 竹林	01 モウソウチク林	00		550100	モウソウチク林	中		147				3		
84	3 IX	55	5 竹林	02 マダケ・ハチク林	00		550200	マダケ・ハチク林	中		45				3		
84	7 IX	55	5 竹林	03 ホウライチク・ホテイチク林	00		550300	ホウライチク・ホテイチク林	中		9				3		
84	3 IX	55	5 竹林	04 ダイサンチク林	00		550400	ダイサンチク林	中			2011	1 3	関東	3		
84) IX	56	6 牧草地・ゴルフ場・芝地	01 ゴルフ場・芝地	00		560100	ゴルフ場・芝地	中	判読区分h	1276				4		
85) IX	56	6 牧草地・ゴルフ場・芝地	02 牧草地	00		560200	牧草地	中	判読区分g	1324				2		
m % 85	1 IX	57	7 耕作地	01 路傍·空地雑草群落	00		570100	路傍·空地雑草群落	中	判読区分f	1714				4	注22	
四 は 85	2 IX	57	7 耕作地	01 路傍·空地雑草群落	01	放棄畑雑草群落	570101	放棄畑雑草群落	細	改 判読区分c	1023				4	注23	
F 85	3 IX	57	7 耕作地	01 路傍・空地雑草群落	02	クサイーミノボロスゲ群集	570102	クサイーミノボロスゲ群集	細		1	2008	3 5	中部	4		
35	4 IX	57	7 耕作地	02 果樹園	00		570200	果樹園	中	判読区分e	1363				3		
85	5 IX	57	7 耕作地	02 果樹園	01	茶畑	570201	茶畑	細	判読区分e1 副	211				3		
85	3 IX	57	7 耕作地	02 果樹園	02	常緑果樹園	570202	常緑果樹園	細	判読区分e2 副	86				3		
85	7 IX	57	7 耕作地	02 果樹園	03	苗圃	570203	苗圃	細	判読区分e3 伊豆 副	1 -	2013	3 3	関東	3		
85	3 IX	57	7 耕作地	03 畑雑草群落	00		570300	畑雑草群落	中	改 判読区分a	1888				2		
85) IX	57	7 耕作地	04 水田雑草群落	00		570400	水田雑草群落	中	判読区分b	1625				2		
86	XI	57	7 耕作地	04 水田雑草群落	01	ワサビ田	570401	ワサビ田	細	判読区分b1	2	2008	3 5	中部	2		
86	1 IX	57	7 耕作地	05 放棄水田雑草群落	00		570500	放棄水田雑草群落	中	改 判読区分d	1263				4		
86	2 X	58	8 市街地等	01 市街地	00		580100	市街地	中	判読区分k	1914				1		
			8 市街地等	01 市街地	01	緑の多い住宅地		緑の多い住宅地	細	判読区分i	1794				2		
			8 市街地等	02 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	00		580200	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	中	判読区分p	502		+		3		
			8 市街地等	03 工場地帯	00		580300	工場地帯	中	判読区分L	1248		+		. 1		
		_	8 市街地等	04 造成地	00		580400		中	判読区分m	1806		+		1		
		_	8 市街地等	04 造成地		煙害跡裸地		煙害跡裸地	細	判読区分m1	1	2004	4 7	中国・四国	1		-
			8 市街地等	04 造成地		泥炭採掘跡裸地		泥炭採掘跡裸地	細	判読区分m2	1	2006	_	北海道	1		-
		_	8 市街地等	05 干拓地	00		580500		中	判読区分n	65		+		1		\dashv
			8 市街地等	06 開放水域	00			開放水域	中	判読区分w	2106		+		99		-
			8 市街地等	07 自然裸地	00			自然裸地	中	判読区分r	1651		+		98		\exists
			8 市街地等	08 残存·植栽樹群地	00			残存·植栽樹群地	中	判読区分s、雑多な 屋敷林等		2000) 5	中部	3		

注1 現地で確認し、シカの食害の影響が強く不嗜好植物が優占し、元 注2-16 現地で確認し、繰り返し伐採されて樹冠が小さく自然林の

屋敷林等

注17 都市河川や埋立地等の人工的な立地 注18 水田放棄地に成立するものは自然度5 注18 都市河川の人工的な立地に成立するも

注20 都市河川の人工的な立地に成立するも 注21 現地で確認し、繰り返し伐採されて樹冠が小さく自然林の 注22-23 現地で確認し、外来種の多い群落は自 然度2とする。

山岳地調査の手引き

目 次

はじ	. めに · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	資	4–2
Ι.	計画 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	資	4-2
1.	既存資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-2
2.	既存画像データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-2
3.	現地調査計画・判読素図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-5
4.	標本採取許可申請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4–5
Ⅱ.	現地調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-6
1.	現地調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-6
2.	植生図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4–6
Ⅲ.	凡例適用と図化の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-7
1.	山岳地の凡例適用の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-7
)日本の山岳地の植物社会学的な位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	?)凡例·····		
	3)図化 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	山岳地の統一凡例と群集との対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
)全国 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	?)北海道 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	地形との関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
(1)山岳地の一般的な植生配分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-18
(2	?)各地の研究例と図化事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-18
(3	:)ヨーロッパの事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-28
4.	標準的なくくり方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-31
(1	1)地形をわかりやすくする工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-31
(2	2)月山「植生図」の判読・図化にあたっての		
	判別点や工夫ー偽高山の低木群落の細分・・・・・・・・・・・・・・	資	4-31
5.	その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-34
(1) シカ食害による変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資	4-34
\$	考文献·····	咨	1_ 25
**	7 / II/	貝	7 00

はじめに

本手引きは、平成24年度技術手法検討部会の検討結果をふまえ、高山帯・亜高山帯の植生図について、一定精度を確保するための作業工程や作成手法におけるポイントをまとめたものである。 事例として作成したモデル地域(芦別岳、月山、木曽駒ヶ岳)の資料や山岳地既存調査地点DBを業務管理サイトに示すので参考にされたい。

I. 計画

現地調査の困難な山岳地では、周到な準備と行けるところでの現地確認が重要である。以下に 山岳地の調査計画策定時のポイントを示す。

1. 既存資料

- ・ 研究者にも協力していただき調査地域に関連する学術的な研究事例や植生情報を発掘する。
- ・ 新しい組成データが少ないため、植生変化のほとんどないところは既存の組成データも活用 する。
- ・ 山岳地の主要文献の調査地点データを整理した「山岳地既存調査地点 DB」を調査地域の植生情報の抽出や課題設定に活用する(業務管理サイトに掲載)。

2. 既存画像データ

事前に高解像度のオルソ画像を確認するとよい。調査の準備期間が短縮できるばかりでなく、同じ種類の画像を判読に用いることにより判読の標準化が図れる。これまでの検討によると、空中写真であっても1種類で判読が可能といえる良好な画像はなかった。ベース画像だけでなく各画像の特徴を生かして組み合わせて利用する。

(1) 高解像度衛星画像

下記の画像情報がベース画像として活用しやすい。

· GEOSPACE 航空写真 (NTT 空間情報)



・J-IMAGE50 (日本スペースイメージング)

衛星画像ベースマップ画像配信サービス

解像度:50cm、範囲:日本全国、使用衛星:Geoeye-1



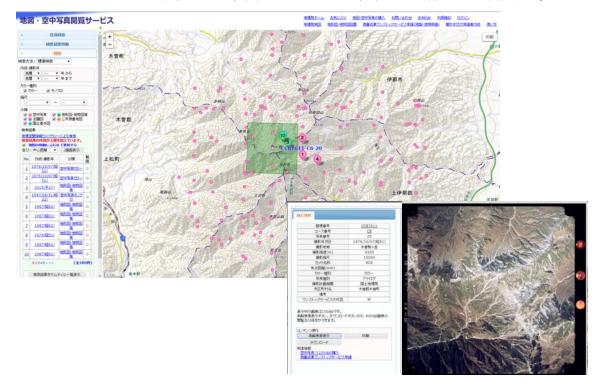
(2) 1970 年代カラー空中写真

秋のカラー写真が多く縮尺が 1/15,000 程度と大きく高山帯の植生判読がやりやすい。

国土地理院の運営する「地理院地図*1」または「地図・空中写真閲覧サービス*2」で閲覧する。後者は高解像度画像をダウンロードし連続写真を印刷すると実体視ができる。

- *1 http://maps.gsi.go.jp/
- *2 http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1

亜高山帯以下は撮影後の経年変化があるため、最近の画像による確認を行う。高山帯でもサ サ群落はダケカンバ林への変化が広い範囲でみられるため、最近の画像により確認する。



(3) Web サイトの画像

Yahoo!航空写真、Googlemap、Bingmaps など判読しやすい画像は活用する。

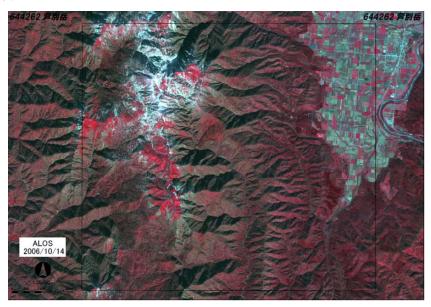
(4) ALOS パンシャープン画像

常緑と落葉、森林と草原の区別が容易な場合がある。概観の把握にも有効と考えられる。必要な場合は環境省生物多様性センターに申し出る。

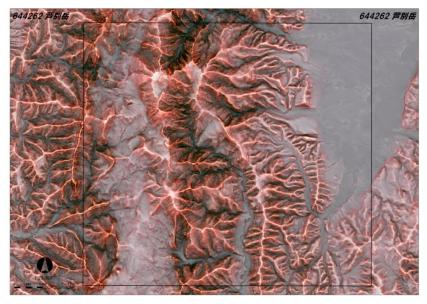
整備範囲:全国

観測時期: 2006年7月2日~2009年12月31日

解像度:2.5m



(5) 赤色立体地図 (Red Relief Image Map) *地形の概況把握に適する。 *アジア航測特許の地形表現図 (特許第 3670274 号)



(基盤地図情報 (10mメッシュ (標高)) より作成)

(6) 森林 GIS

森林GISのなかでも国有林の植林は信頼度が比較的高いため、活用する。

北海道はトドマツが自然林の主要構成種でもあるため、施業経緯が自然林か植林かの区別の根拠となる。山岳地に限らず北海道全域における必須資料として、国有林と民有林の両方の森林 GIS を活用することが望ましい。

林班界の形状、2段林や植林後の変化は、現行では上層木の見え方を重視し森林 GIS のデータを修正している。方針を変更する場合は協議する。

3. 現地調査計画・判読素図

現地調査を実施するにあたり、画像全体を事前にみておき不明な箇所を抽出し、ルート沿いで同じように見える箇所など現地確認を行う地点と内容を地形図や画像に抽出し、周到な現地調査計画をたてる。(例:陰、不明箇所、相観が類似し細分できない凡例、画像で典型的と思われる箇所、ダケカンバの下限上限の標高、植生と立地との対応、特殊立地)

◆現地踏査のポイント(例)

- 明瞭な線と見え方-稜線のハイマツ
 - →画像や立体図の組み合わせにより明瞭に区分できる凡例を整理する
- 不明域-日陰で見えないところ
- 現地確認の必要性が高いポリゴン・凡例
 - ・ 相観が同じで凡例へ細分する基準がわからないもの
 - ・ 凡例候補が1つに絞り込めないもの
 - わずかな色調の違いがあるが内容がわからないもの
 - ・ 針葉樹の量とか傾斜などから区分基準の設定が必要なもの (渓畔林とすべきかな ど)
 - ・ 面積狭小でも強調して図示したほうがよい凡例候補 (なだれ地の低木群落や草本 群落)
- 特殊岩地等の分布域が限られる凡例
- この地方ならばこの標高でこの立地には○凡例という対応
- 地域別の課題の検討

4. 標本採取許可申請

・ 自然公園や国有林では標本採取許可や入林許可の申請に2ヶ月程度かかるため、設計時に 手続きの工数を考慮する。できるだけ早く申請を行う。

Ⅱ. 現地調査

1. 現地調査

(1)調査地点の配置

- ・ 現地調査しないと区分できない凡例は、できるだけ現地で確認する。
- ・ 植生の相観の均一なところの中心部で組成調査を行う。組成データはたくさんでなくてよい。残った時間を相観写真(配分を示す写真)の収集に充てる。
- ・ 向かいの斜面はできる限り写真を撮る。登り下りでルートを変え広範囲の写真を撮るとよい。
- ・ 組成調査・優占種調査1の際に、同定困難なイネ科やスゲ属植物は標本を採取する。
- ・ 現地調査は好天時が望ましい。概況把握には紅葉の色によって樹種が区別できる秋の調査 が適する。
- ・ 雪田の調査は融雪後が適当である。主要な群落で調査を行う。

(2)調査範囲

・ 経路沿いで参考となる範囲外のデータは資料として残す。(標高による分布、画像の見え方と 植生など)

(3)調査員補助・予備日

- 必要な場合は、ガイドやポーターを同行する。
- ・ 長期の登山になる場合は天候障害に備え予備日を設ける。

(4)調査の担い手の育成

大学の植生学講座が減少し若い調査者が育ちにくくなっているため、業務のなかでも研究機関など外部協力を含め若い調査者の増加と育成を図る。

2. 植生図

- 現地を踏査した人で写真や現地の植生情報を共有して再判読を行う。判読→現地確認→判 読→現地確認→判読と繰り返して図化するのが理想的である。現地確認に1回しか行けない場合は、ほかで同じような見え方をするところを探して類推する。
- ・ 特に類推が難しい不明箇所等は、記録に残す。コメントを付け公開すると利用者が理解し やすい。
- ・ 植生図作成途中で大縮尺の図を作った場合は、微細な植生変化の履歴として重要なため、 可能な限り作業段階の大縮尺図を残す。

Ⅲ. 凡例適用と図化の基本方針

1. 山岳地の凡例適用の基本方針

(1) 日本の高山帯の植物社会学的な位置づけ

日本の山岳地はヨーロッパアルプス等にみられる草原主体の高山帯ではなく、ハイマツの低木 群落が優勢であり、植生体系上はコケモモートウヒクラス域上部に含まれる。

しかし、常緑針葉樹林の優占する亜高山帯とは景観上明瞭に区別できるため、一般的にはいわゆる高山帯の植生域として分けられている。統一凡例では植生区分Iの「高山帯自然植生域」として扱っている。

北海道北部では低地からみられ、南にいくほど高度を上げ、本州中部山岳で 2,400m以上が相当する。

(2) 凡例

山岳地の主要な凡例

- ・ 山岳地の植生はおおむね<u>風衝側のハイマツ群落、風衝草原、高山荒原</u>、<u>風背側の雪田、</u> 広葉草原、ダケカンバ等の落葉広葉樹林に大別できる。
- ・ 植生図(1/25,000)では面積を重視し基本的に上記に対応する凡例に区分する。

山岳地では風衝側と風背側で異なる多種の植生がみられるが大面積で広がる群落は少ない。そのため、植生図 (1/25,000) は高山帯自然植生域の3つの大区分相当の凡例、すなわち、「コケモモーハイマツ群集」、「高山ハイデ及び風衝草原」、「雪田草原」に区分し図化することが多かった。

今後は、大区分の「高山ハイデ及び風衝草原」に含められている高山荒原「コマクサーイワツメクサクラス」を1つの大区分相当の単位として独立させ、山岳地の風衝側の植生をハイマツ群落、風衝草原、高山荒原に区分し、これに風背側の雪田を加えた4つに分ける。さらに山岳地の風背側のなだれ地に、亜高山帯を中心に分布する広葉草原やダケカンバ等の落葉広葉樹林を分ける。

表 1-1 に山岳地の主要凡例を示す。

表 1-1 山岳地の主要凡例

植生区分	相観	現在の一般的な区分	今後の基本的な区分
I	ハイマツ群落	010101コケモモーハイマツ群集	010101コケモモーハイマツ群集
	風衝草原	020000高山ハイデ及び風衝草原	020000高山ハイデ及び風衝草原
	高山荒原		020600コマクサーイワツメクサクラス
	雪田	030000雪田草原	030000雪田草原
п	広葉草原	070100シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団	070100シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団
	ダケカンバ林等	060100ミドリユキザサーダケカンバ群団	060100ミドリユキザサーダケカンバ群団
		060300エゾメシダーウコンウツギ群団	060300エゾメシダーウコンウツギ群団

植生区分

Ⅰ高山帯自然植生域 Ⅱコケモモートウヒクラス域自然植生

※高山荒原

さまざまな物理的、化学的要因のために、植被が乏しく、砂礫の裸出面積の大きな場所を荒原と呼ぶこととする。 荒原は重力による崩落地、雪田底砂礫地、周氷河作用による構造土性の礫地、火山砂礫地、特殊岩地、硫気孔原 に区分できる(大場 1968-69)

なお、統一凡例には高山荒原という凡例名はなく、植物社会学的単位であるコマクサーイワツメクサクラスが該当する。<u>コマクサーイワツメクサクラス</u>は大区分の高山ハイデ及び風衝草原に所属させているが、凡例コードや凡例名の変更は行わず、<u>大区分と同等の区分として分ける。</u>

地域の特徴を示す山岳地の凡例

・ 主要凡例以外に地域の特徴を示す植生が区分される場合は、図化可能な面積 (1 ha 以上) があれば群集名等で細分してもよい。

現地調査が困難で類推も難しい場合は、<u>中区分または大区分の凡例</u>を用いる。その例として 470000 湿原・河辺・池沼植生、070000 高茎草原及び風衝草原が適用された。しかしこれらの凡例 を安易に用いるのは避ける。

(3) 図化

山岳地の図化方針

- ・ 山岳地では稜線を境に<u>風衝側にハイマツ群落、風衝草原、高山荒原、風背側に雪田、</u> 広葉草原、ダケカンバ等の落葉樹林が分布する傾向がみられる。現地確認と画像に基 づきこのような配分がわかるように図示する。
- ・ 立地の異なる植生がモザイク状に配分する場合は、縮尺 1/25,000 で図示可能な形状に変えてできるだけモザイクであることを示す。
- ・ 面積が小さくても、地形と対応する植生や地域的な特徴を示す植生は強調して図示してもよい。
- ・ 稜線や谷筋などの細長い形のポリゴンは幅 1mm 程度になるものを示す。

群集複合体

風衝側斜面と風背側斜面で多種の群集が小パッチで接するため、群集複合体としてでないと表現できない場合もある。群集の組み合わせには景観単位に応じたパターンがみられる。複合体凡例ではなく代表的な群落でまとめて図示する。

疎らな植生

火山などで自然裸地から荒原に推移し明瞭な境界がない場合、おおむね植被率 5%以上をめやす に荒原とする。

2. 山岳地の統一凡例と群集との対応

統一凡例と山岳地の植生体系(中村1986)との対応を表2-1に示す。

表 2-1 統一凡例と山岳地の植生体系との対応

Ц	山岳地の群系(例) (山岳	地既	存調査地点DBによる)	立地	クラス(群団)(中村1987)			統一凡例](例)
01	風衝矮性低木群落	00		•	エイランタイーミネズオウクラス	02	高山ハイデ及び風衝草原	020101	コメバツガザクラーミネズオウ群集
02	風衝草原	00		•	カラフトイワスゲーヒゲハリスゲクラス			020301	オヤマノエンドウーヒゲハリスゲ群集
03	高山荒原群落	01	周氷河土砂礫地草原	•	コマクサーイワツメクサクラス (イワツメクサ群団)			020600	コマクサーイワツメクサクラス
		04	雪田荒原草本群落	∇	コマクサーイワツメクサクラス (ミヤマクロスゲーチシマクモマグサ群			020601	ミヤマクロスゲーチシマクモマグサ群集
		07	蛇紋岩崩壊荒原草本群 落	•	コマクサーイワツメクサクラス (ナンブイヌナズナーカトウハコベ群団)			020700	蛇紋岩地植生(I)
04	雪田植生	01	雪田草原	∇	アオノツガザクラージムカデクラス (イワイチョウ群団)	03	雪田草原	030201	エゾコザクラ群落
		02	雪田矮低木群落	∇	アオノツガザクラージムカデクラス (アオノツガザクラ群団)			030203	タカネヤハズハハコーアオノツガザクラ! 集
05	雪崩地·崩壊地高茎· 広葉草原	00	亜高山帯高茎·広葉草本 群落	∇	ダケカンバーミヤマキンポウゲクラス (シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群	07	高茎草原及び風衝草原		シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団
06	積雪地低木群落	00	亜高山帯低木群落	∇	ダケカンバーミヤマキンポウゲクラス (ミドリユキザサーダケカンバ群団)	06	亜高山帯広葉樹林		ミドリユキザサーダケカンバ群団
								060105	ミヤマハンノキ群落
07	少雪地針葉低木群落	00		•	コケモモートウヒクラス (コケモモーハイマツ群団)	01	高山低木群落	010101	コケモモーハイマツ群集
12	常緑針葉樹高木林	00		•	コケモモートウヒクラス (エゾマツ群団)	04	亜高山帯針葉樹林(北海道)	040101	エゾマツートドマツ群集
				•	コケモモートウヒクラス (オオシラビソ群団)	05	亜高山帯針葉樹林	050101	オオシラビソ群集
11	湿原	01	高層湿原(ブルトの群落)	∇	ツルコケモモーミズゴケクラス	47	湿原•河川•池沼植生	470100	ツルコケモモーミズゴケクラス
		03	中間湿原	∇	ヌマガヤオーダー ※クラス未決定			470200	ヌマガヤオーダー
09	岩隙·岩壁·岩礫地植 生	01	岩隙低木群落	A	コメツツジーハコネコメツツジクラス	51	岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地 植生	510603	チョウジコメツツジ群集
		00	岩隙草本群落	A	アオチャセンシダクラス	-	-	-	(未定)
10	その他の群落	02	流水辺、湧水辺草本群落	∇	ヌマハコベータネツケバナクラス	-	-	-	(未定)

立地:▲風衝側・尾根、▽:風背側・谷。両方に出現する場合もある。

(1)全国

山岳地の植生体系(群集レベル)と統一凡例との対応を付表1に示す。

地域固有で図化可能な群集については分布地を付記した。該当地域の調査時には留意して群 集適用を検討する。

例: ナエバキスミレ群集(白山・三国)、オゼソウ群集(至仏)、ヒダカミセバヤ群集(日 高南部)、ヒゲハリスゲーオヤマノエンドウ群集(北アルプス)、エゾマメヤナギーエゾ オヤマノエンドウ群集(大雪北部)、タカネヒメスゲ群集(夕張)

(2) 北海道

北海道の主要山系に分布する高山植物群落(佐藤謙 2007)を付表2に示す。

番高山帯および高山帯の植生体系 中村(1986)、日本植生誌閲覧・東北、北海道、日本植生体系ウェブサービス http://www.jise.jp/top1.html公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センターから作成	海地域 中部山岳太平 洋地域 四国·紀伊山	関東(日植 誌) 中部山岳日本	誌) 東北(日植 誌)	北海道(付表 2) 北海道(日植	##	一凡例太区分	統一凡匈群集	群集で図化 可能な高山	報
コケモモートウとクラス Vaccinio-Piceetea BrBl. 1939 シラビソートウヒオーダーAbieti-Piceetalia Miyawaki et al. 1968					1 1		11		
		-			101	高山帯針葉樹林	1		
ンプレントイインプレン辞来Abietetum veitcho-manesiiMaeda 1938 オオシラビン群集Abietetum mariesiiSuz-Tok 1954	• I		1 •	i i	88	E 电工作时架 由外 E 配 工 带 針 葉 樹 林	•		
	1	1	ı	i	ш	高山帯針葉樹林	T		
コメツカ群集 Maiantho-Tsugetum diversifoliae SuzTok. 1949 em. Nakamura 1986	•	1	1	1	н	阿二那幹潔樹林	•		
・4. * Caric Tricetum Hondoensis Nahamura 1900	1		•		H PU	国工产型米包华斯二种学供技术			
	1	•	1	ĩ	1		1		
	100	•	i	i i		1	ı		
		-	- 1		H	· 第二帯針葉樹林(北海道)			
	1	1	ı	9 (H H	¥ 1	•		
中来 Proceo-Abietetum sachalinensis Ohba ex Nakamura 1988	1	1			# #	¥			
コントモーハスペンイーター Vaccinio-Vinteralia Purines Out Time 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		+			E (4	日初个年谷	1 1		
a et Shimazaki 1951	•	•	•	080	10	日前大学為	•		
		1	1		10	山低木群落	•		
クロマメノキーミヤマネズ群落	Î	1	•	1		高山低木群落	Ť		
		+		_	Я	李持七章二年			
*** TA 73 A Betulo ermanır Hanunculetea acris Japonici Onba 1968		+	İ	-	EH H	回日 他 \/>> 从	1		
ムム・パケック・ボイス・ハーノー・イン・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー		+			H H	国工部分米包育二种子供益			
	Ŧ.		•		HH	国工 5月 7 天 2 阿二 4 千 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	•		
mater: 1963 am Ohba 1973			1	1	H	国工 多元 米四 阿二 華 八 華 拉	•		
CIER ISIS		1	1		H	国王 1977 米国阿二 497 中央	•		
waki 1982	1	1		1	1 10	阿二部氏聚起)		
300	1	1	1		H PE	阿耳巴斯氏療	1		
	1	1	1	i	H	阿田市の大学の第二十年の一番の一番の一番の一番の一番の一番の一種を	ı		
	1	100	100	Ŷ	90	1回1年7月米四年1日時日報広報益林	i		
1973	1	1	1	î	1 1111	高山帯広葉樹	1		追加可能か
	I	1	•	ï	ш	高山帯広葉樹	1		
***	1	•	Ť	ī			i.		
	1	•	1	1			1		
エゾメシダーウコンウツギ群団Athyrio brevifrondis-Weigelion middendorffianae Ohba 1973					# 9	高山帯広薬樹林	•		ダケカン、帯のミヤマハンノキ以外の低木群落に適用。ミヤマハンノキ戦率主勢を
	ı	l à	1	•	HH	5高山帯広葉樹林	î		ON THE CITY OF THE
pa 1973	1	1	1	•	冊 90	高山帯広葉樹林	í		
	ı	1	100	1	HH.	高山帯広葉樹林	1	礼文	
トドマツーダケカン、群落	1	1	1	•	Н		1		
マキンポウゲオーダー Trollio-Ranunculetalia acris japoniciOhba 1973						頁及び風衝草	1		
シナノキンパイーミヤマキンポウゲ群団 Trollio-Ranunculion acris japoniciOhba 1969					何 70	高茎草原及び風衝草原	•		
	1	1	ì	í		頁及び風衝草	1		72,000
Nakano 1965	I	70.0	100	ï		頁及び風衝草		立山	木曽駒ヶ岳
ウラジロカガノアザミークロトウヒレン群集 Cirsio furusei-Saussureetum sessiiiflorae Ohba 1974						京及び風衝草	ı	中甲	★部間クロトウトファー・ボケトッツ イごま会/m 町直、マキュアレ会セ
トントン・コート はまま Circum Control		1	1			西及70国維苗	1	144	ソト杆素(技野派)と対応可能が
トレンシン・フェーバ・ペンツ・アキ米 Lists Selfolesiss - Appleaceum Pubescentus massumare Cura 1914 トレンシン・フェーバ・ペンツ・アキ米 E Circly valouatablesis - Calmanarations massumare 2014 オンナイケードニームナメノナニナン 非常 E Circly valouatablesis - Calmanarations and plumate (Ohter 1974	• 1		ı		回向	ボスクロ国国子 百み75国係替	1	14×1/	
	1	-	17	1		おび () () () () () () () () () (H	
1974	1	1	1	i	10	南及76風衛 草	1		
	1	1	100	i		るび風衝草	ì		
ハクサンボウフゥーモミジカラマツ群隼 Peucadano multivitati - Trautvetteristum ianonicae Ohba 1974	1	1	1	1		及び風衝草	i		
1974	1	1	1	620	07	及び風衝草	í		
	1	1	•	1	07	及び風衝草	1	北ア朝日岳の稜線	
9/	1	•	•	1		及び風衝草	1		
	1	1	1	•		及び風衝草	1		
		1	1	•		及び風衝草	í		北海道に広く分布
	12	1	1	•		及び風衝草	t		
in Miyawaki 1988	1	1	1	•		及び風衝草	ľ		
vicioidis Nakamura in Miyawaki 1987	L	1	•	î	何 20	高茎草原及び風衝草原	ľ		
ニヤマイ群業 Juncetum beringensis Miyawaki, Ohba et Okuda 1969	1	1	1	1		及び風衝草	•		
					The same	A COUNTY OF THE REAL PROPERTY AND THE PERSON NAMED IN			The same of the sa

路研究機関 国際生態学センターから存成	6太平 伊山	岳日本	日植 日植	(付表	新一儿倒 大区 分	例群集	可能な適口	華
アンボンスゲーイロオウギ群集Carici brevisquamae-Hedysaretum vicioidis Ohba 1974 アゲノエンシューニセンヘアプスエギ群権 Calana associatio fornicata additivisatum voloscensis africal Otha 1973					07 高差草原及び風衝草原07 高装葺盾みが岡衛茸盾	1 1		
* Violetum brevistipulatae kishidae Miyawaki et al. 1968					高茎草原及び風衝草	1	白山、三国	雪蝕裸地
オゼソウ群集 Japonolirionetum osensis Nakamura in Miyawaki 1986	1	•	1	1	高茎草原及び風衝草	1		蛇紋岩地
€.	1	1	1	1	国本年 近次の国領中	1		
ンコンキのファーフィンクーンン)中華 Hosto shikoklanae-Angelicetum ubatakensis Okuda in Miyawaki 1982	1	1	1	1	両番中原及の風信中を甘葉の中が関係する	1		
コカネキシーインカンケス年齢		•	1 (南部中京及の国首中	1		
レンスペーレング・カンマン・イギが			•		両坐早所及の風面早	1 1		
コントロンカンスプントが発達したな子グルスーナンプンモン群落	1	1	1			1		
エイランタイーミネスオウクラス Cetrario Loiseleurietee Suz - Tok. et Umezu 1964					02 南山ハイデ及び風衝草原	1		
コメバツガザクラオーターArcterietalia Suz. Tok. et Umezu 1964		+			高山ハイア及び風衝草	ľ		
F 6	•	•	i		応用ハイト及び風衝車が、ノードが呼ばれ	1		
ok. 1964)		•	34	電田ハイナ及の 回面に インスト を を に インスト を を に 	•		
0001	1	1	1	1	回口ハイナ及 C 型 国 国 中 二 、 ノ 川 中 が 巨 将 相	1		
	•			22	国ヨハンノダの祖宮中	1		
サキノハハ・コンコ								
アオチャセンシダクラス Asplenietea rupestria Br. – Bl. 1934		ŀ	l	ľ	1	1		精で
イワキンパイオーダーPotentilletalis dickinsiiOhba 1973				ľ	1	ı		面積で
イワキンパイ群団 Potentillion dickinsii Ohba 1973					1	1		面積で
イブキシモツケーイワキンパイ群集 Spiraeo nervosae-Potentilletum dickinsii Nakamura in Miyawaki 1981	1	1	1	1		1		面積で
カンサイイワスゲーオオ=ネコザクラ群集 Carici-Primuletum okamotoi Nakamura in Miyawaki 1984	1	1	1	•	1 1	1		積で
286		1	•			1		面積で
1988	1	1	1	•		ŀ		面積で
ヒトンパンョウマーコイワザクラ群集 Astilbo simplicifoliae — Primuletum reinii Nakamura in Miyawaki 1985	1	1	1	ĺ		ı		面積で
ムカデラン 幹集 Sarcanthetum scolopendrifolij Chichifu 1980	1	ľ	1	İ	П	1		面積で
ユキクラヌカボーイワキンパイ群集Agrostio hideoi-Potentilletum dickinsii Ohba 1973	1	1	1	1	1	1		面積で
Miyawaki 1970	-1		1	1		ļ		面積で
コイワカンスゲーイシゾチボウフウ群集 Carici chrysolepidis-Angelicetum saxicolae Nakamura in Miyawaki 1982	1	1	1		1 1	1		小面積で図示できない
ra a	1				1	I		面積で図示できない
「アタルセンイ 井巻 Section Cauticol/Other et Sugarara 1980	1		ŀ	1	1	1	治匪咆 耳	国旗で
			1			1		資本
ール・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー		1	1			1		国徒に
	1	1	1			1		
	1	1	1			1		
コウナットジン群格	100	-	1			1		
イオーダーJuncetalia maximowicziiOhba 1973					1	Ŀ		横で図
イドイ群団 Juncion maximowicziiOhba 1973					t.	ı		情で図
ellae-Juncetum maximowicziiOhba 1973	•	-	1		1	ı		情で区
		•	1		1	1		小面積で図示できない
98	1	1	1		1	1		強な記
		1	1			1		
カラフトイワスゲーヒゲハリスゲクラス Carici rupestris-Kobresietea bellardii Ohba 1974	ŀ	ł	ļ		02 高山ハイデ及び風衝草原	1		
オノエスゲオーダー Caricetalia tenuiformis Ohba 1968					高山ハイデ及び風衝草	1		
ンドウ群団 Oxytropidion japonicae Ohba 1967					山ハイデ及び風衝	1		
iizu 1969	1		1	1	高山ハイデ及び風衝草	•	北ア	
1981	1	•	1	4	高山ハイデ及び風衝草	1		
	•		1	1	高山ハイデ及び風衝草	ł		
	•	1	1	ı	高山ハイデ及び風衝草	ı		
	1		•	T	高山ハイデ及び風衝草	I.		
					高山ハイデ及び風衝草	1		
o, Tsujii et Tohyama 1971	1		1	938	山ハイデ及び風衝草	•	大雪北部	
		1	1	42	周山ハイナ及び風衝車 一・ バル・ アーバー		ク張	7.11
	2	-	1		ロハイナ及び風衝車		大平山、准岳	石灰岩地
	200		1		高田ハイト及び風密車		看寒別	
			1	• 44	高山ハイデ及び風衝草		ク張ガマ岩	禁色片指
	1	L	1	•	高山ハイデ及び風衝草		アポイ	
	1	1	1	•	高山ハイテ及び風衝草		礼文	
ツクモク サーリンリケンゲ 群集 Pulsatillo nipponicae - Oxytropidetum rishiriensis Ohba 1974			1		02 両山ハイナ及び風衝車原	1	知尻	
ハヤチネウスユキソウ群団 Leontopodion hayachinensis Ohba 1974					原ニン/イトル/正海原	1		日本語生涯「木鞋中」ナジー
					1			AS STATE OF THE PARTY IN

亜高山帯および高山帯の植生体系 中村(1986)、日本植生誌関東・東北、北海道、日本植生体系ウェブサービス http://www.jise.jp/top1.htm/公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センターから作成	地域 国·紀伊山 影響	地域 部山岳太平	東(日植) 部山岳日本) 北(日植)	海道(日植	海道(付表	統一凡例大区分	統一凡例群集	群集で図化 可能な高山	垂
2				H	H	02	高山ハイデ及び風衝草原	İ		
コハノンメクナオーターMinuartietalia vernae japonicae Ohba 1968 スロンメカキ難由 Syallariian ninonicae Ohba 1969		+			+	02	両コンイナ及び風衝車原連コンイナ及び風衝車原	1 1		
ニヤファン・イエリンド Art Manager Art Manager Art Manager Art Manager	1	1	1	1	1	02	高山ハイデ及び風衝草原	1		
タカネピランジーミヤマミミナグサ群集Melandrio-Cerastietum schizopetaliOhba 1969	1	•	1		1	05	高山ハイデ及び風衝草原	ì		
ウメハタザオーミヤマミテナグサ群集Arabido-Cerastietum schizopetali Ohba, Miyawaki et Okuda 1969	1	•	1	1	1	02	配口ハイド及び風衝車原	1		
インヘケイ・フレダンプロ 特集 Sedo rose: Saxifragetum bronchials fundamura 1986	1	1	1		1	02	個田ハイナ及 で 両 は に 、 、 が に の に が に に に に に に に に に に に に に	İ		
ノンペケイ オーメンダイギ 帯 Alabido-Polygonetum Weynchii alpinae Unba 1959	1		1	ı		20 02	同田ハイナ及の両面中所有に、メデルが、同僚権所	1		
コンペントーン・ソンドン・年来してSectionがSection information information invigament of Oktob 1909 ルナンケビボケー モルジアケル非常 チンテップ・アード・ファイン・アード・ファイン・アード・ファイン・ファイン・ファイン・アード・ファイン・アード・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン	1 1		1			20 00	国コントノスク 可コンノルカン 田神和 一神二、ノルカン 田神和 一神一	i		
ニペ・ベンンター・ングファイヤ学 VeronicoーFolygonetum Weynchii Onoa 1909 しト・ユ・ノナー カナル しょしまま サール・エルー 開発	1 1			•		3 8	国田バムノダウ西国中京 中二バイルなだ田将本品			
レトノフェン・中がコード・ロード・コード・ファー・コード・ファー・コード・ファー・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コード・コー	1			1	1 1	20	送井面間のダイスの間中送	1 1		
しょうしょうということを記しまる。	1	1	•	•	1	02	福山ハイド及び風徳草原	1		
カンド・コアメークル 第日 ディン・コング			•	•		00	ロングルはいに回	1		
シンチャイルフード・ケーン・ケーン できる できました こうしゅうしゅう アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	1	•	1	•	0		回日パー/ 父の祖国中原神二十八十万元 原衛神面	1	大事に由中小日	
レン・ノン・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス	1		1				両五、こ、父の祖四十年	1	エくくトヨーく	
・ コンシーノス・年来(Fernanda Harris Strategrams) ・ コンシーノン・コンシーノス・インス・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・	1	H	1		•	+	直17、一次の項面井京村二、大小など四海市石	ı		
トレニッグ・シー 「アイ・ン・) 年来(Spinato Forting apricings) Object 1999 ナナメニシュケナー イロムケロ 野舎 Cyallyin Dandamonature (Table Spinato	1	1	1		113	+	直上、 一次の項医中兵制二、 イルカル 回発車 原	ı	対や	
シュー・ハノ・ハ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	1	1	1			近江: 一、次の減速十形	1	\	
インコーソー・フェート 大米 inspect of general agreement that the second in Minawaki 1988 オイナンナンパイー メイナンコス ク製作 のために持っている in Minawaki 1988	1	1	1	ı	010	-	ニンイドやが暦	i	四第 年中	
	1	H	•	1				1		
ナンブイヌナズナーカトウィコス群団 Drabo-Arenarion katoanae Ohba 1968		F		H		02	高山ハイデ及び風衝草原	1		
ユキバヒゴタイ群集 Saussuretum chionophyllae Ohba 1968	1	É	1	1	•	02	高山ハイデ及び風衝草原	1	夕張	
シンパキスミレ群集 Violetum yubarianae Ohba 1969	1	1	I	1	- 028	02	高山ハイデ及び風衝草原	1	夕張	
アポインメクサ群集 Arenarietum lanceolatae Ohba 1968	1		1	1	•	02	高山ハイデ及び風衝草原	1	アポイ	
ナンプトウウチンウーコズノンメクサ群集 Sanguisorbo-Minuartietum vernae japonicae Ohba 1968	1		1	•	1	05	南山ハイド及び風衝草原	1		
	1	1	•	1	1	02	高山ハイデ及び風衝草原	1		
シンパキスミレーキクパクワガタ群落	1		1	1	_			1		
クモマミミナグサーコパノツメクサ群団 Cerastio-Minuartion vernae japonicae Ohba 1968						02	高山ハイデ及び風衝草原	Ĭ		
Cerastio-Minuartietum vernae japonicae Ohba 196	ı	•	1		13	05	高山ハイデ及び風衝草原	ľ		
チシマクモマグ サーミヤマタネツケバナオーダー Saxifrago - Cardaminetalia nipponicae Ohba 1969	1	1	1	1	1	05	高山ハイド及び風衝草原	ï		
チンマクモマクサーミヤマタネツケハナ群団 Saxifrago-Cardaminion nipponicae Ohba 1969	1		1		- 1		昭日ハイド及び風衝車原	ı		
ライマのネッケハナ群集 Cardaminetum ripponicae Ohba 1969	1	1	1		- 621		応回バイナ及び風衝車原	1	0.5	小国横で図示できない
クモマケザ 株果 Saxiragetum mercei Obba 1969	1		1	1		-	順山ハイナ及び風衝車原 ガー・・・/ 「中ずの関係基底	1	1年	
ペイロインペーナンスクーナスクロースの Carcing Setum merckii Onda 1909	ı		ı	i	070		同日ハイナタ で国 コントイトタ で 国 に カンド に 対 対 所	•	三 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	obe title side
リンパピインと 非子のaveretum fauret Ohba 1969	1		ı	1			原田//イナ及 で国//イナ及 で が が に が が に に に が に に に に に に に に に に に に に	ı	利历	開張地
タンネイートマイベント・シング 特米 Junco-Saxifragetum Jaciniatae Onba 1969	t		1	Î	- 23	3 02	同田ハイナダの風筒早原	î		
ナンゴギカニージルナギカニフ Dhillodoca-HarrimanallatesKano 1954		ł	I	t	ł	03	衛田華岡	ì		
ジュナディーターHarimanelletaik Knapo 1954		ŀ		t	H	03	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	i		
アナハガザクラ群団 Phullodorion aleuticae Ohba 1967		ŀ	L	ŀ	ŀ	03	哲	•		
インファン・ターローションのことのことである。ことでは、アンファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン・ファン	ı	1	1	1		03	は一世代	•		
タカネヤハズ/ハコーアオノルボザクラ禁集 Ananhaildo Phyllodocetum aleuticae Ohba 1975	1	•	1	1	1	03	車車	•		
イワノガリヤスーアオノツガザクラ群集 Calamatrostio-Phyllodocetum aleuticae Suz-Tok. et al. 1956	1	1	1		1	03	車田	1		
	1	1	1	•	1	03	中田	1		
モングルマオーダー Geetalla pentapetal/Miyawaki et al. 1968					H			1		
イワイチョウ群団 Faurion cristargall/SuzTok. 1964						93		- 1		雪田にイワイチョウーショウジスゲ群集(ヌマガヤオーダー) 50 電エナインス 参加トラブ
										イーダーの区別
ハクサンコギクコーショウスイ群集 Primulo-Caricatum blenbaricamae Mivawaki et al. 1968	1	-	- 1	1	- 1	93		1		雪田にイワイチョウーショウ: スゲ群集(ヌマガヤオーダー
i)								所属させている。 当日とヌマン オーダーの区別
ヒナザクラーショウジョウスケ群集Primulo nipponicae-Caricetum blepharicarpae SuzTok. et al. 1956	L	I I	1	•	1	2 8		1		雪田にイワイチョウーショウジスゲ群集(ヌマガヤオーダー) 所属させている。雪田とヌマナーダーの日間
イワイチョウ-ヌマガヤ群集 <i>Faurio-Moliniopsietum</i> Maeda 1952	1	1	•	•	- 1	9.0		1		雪田にイワイチョウ・ショウジョウスが群集(ヌマガヤオーダー)を 所属させている。雪田とヌマガヤ
キンスゲーエゾコザクラ群落	ï	1	1			-		1		オーターの区別
イワイチョウ群落	î	1	ı	E	•			1		

亜高山帯および高山帯の橋生体系 中村(1986)、日本橋生誌関東・東北、 略研究機関 国際生態学センターから作成	亜高山帯および高山帯の植生体系 中村(1986)、日本植生誌関東・東北、北海道、日本植生体系ウェブサービス http://www.jise.jo/top1.html公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センターから作成	洋地域 四国·紀伊山 地	中部山岳日本 海地域 中部山岳太平	誌) 関東(日植 誌)	北海道(日植 誌) 東北(日植	北海道(付表	統一凡例大区分	統一凡例群集	群集で図化可能な高山	無
	コメツツジーハコネコメツツジオーダーRhododendretalia tschonoskii-tsusiophyliiOhba 1973							í		
ち シスキンアイカーシャンガリ A シスキンレイカーシャンガリヤス	ハコチュアンンギロKnogodendrion tsusiopnyllimiyawaki, Onba et Murase 1959 シマキンレイカーシマノガリケス群集 <i>Patrinio-Calamagrostietum insularis</i> Onba 1970	1	1	1	1	F	1	1 1		100 may 100 ma
	オノエランーハコネコメツツジ群集 Orchido-Rhododendretum tsusiophylliMiyawaki, Ohba et Murase 1969	1	1	•	1	5	1 岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地 植生	•		日本植生誌東北では群団がコメッツジー、ハコネコメッツが群田
ッガザクラ群団Phyllodocion nipponicaeMiyawaki et al. 1968	onicaeMiyawaki et al. 1968							ı		I I I I I I I I I I I I I I I I I I I
チョウジコメツツジ群集 Rhodode	チョウジコメツツジ群集 Rhododendretum tschonoskii tetrameriOhba 1973	1	1	1	1	51	 岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地 植生 	•		
コメツツジーツガザクラ群集 Rho	コメツッジーツガザクラ群集 Rhododendro-Phyllodocetum nipponicae Miyawaki et al. 1968 corr. Ohba 1973	1	•	1	1	5	1 岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地 植牛	Î		
タカネオトギリーコメッツジ群集	タカネオトギリーコメンシン群集 Hyperico sikokumontani-Rhododendretum tschonoskii Ohba 1973	1	1	1	1	51	1 岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地 補件	1		
コガネギクーコメンツジ群落		1	I	•	1	19	1 岩角地·石灰岩地·蛇紋岩地 植生	1		日本植生誌東北では群団がコメッツジーハコネコメッツジ群団
	M									
は ノイハフソフムKosetea mutunorae Unba 木 トコロークズオーダーDioscoreo-Pue	oa, Miyawaki et Tx. 1973 eranietalia lobatae Ohba 1973			+				1 1		
	ミヤママタケビーヤマプドウ群団 Actinidio-Vition coignetiae Miyawaki et al. 1968	\vdash	Н					į		
キクバドコローヤマブドウ群戦し クロジョー バーセンジ 群集 Triote	Dioscoreo-Vitietum coignetiae Miyawaki et al. 1968 erusio-Hurrangaanm caniculatae Obba et Susawara 1980		I I	•	•			1 1		
ホザキナナカマドーノリウツギ型 シナノキイチゴートガスグリ群集	トライン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	1 1		1 1	• 1			11		
フンチシンジーズ=群集 Rhodod	フンゲシンシーズミ群集 Rhododendro-Maletum Miyawaki, Okuda et K. Fujiwara 1971	1	1	•	•	-	17 沼沢林	•		ノイパラクラスの自然植生は大区公にたけた 勝歩する 群落に
はインナージャーは群様		1	•	1	1			1		100 CX 12 CX 100
イケマーカラナハンウ群落		1	1	•				1		
クロイチゴークマイチゴ群落			1	•	i			L		
カラハナソウーサルナン群落		1	1	1	1			•		
高 ツルコケモモーミズゴケクラス Oxycocco-Sphagnetea BrBl. et Tx. 1943	co-Sphagnetea BrBl. et Tx. 1943			H		47	温原・河川・池沼植	1		
	fuscit x., Miyawaki et K. Fujiwara 1972 Amino tomostoceae Schaming fuscit > Minouski et K. Enjimara 1972					47	湖原·河川·泊沿省 地面·河川·光沿結	1 1		
390	Ledo diversipilosi-Sphagnetum fusci Miyawaki et Ohba 1970	50	Ĥ	J.	į.	4	47 湿原·河川·池沼植生	1		
ヌマガヤーチャミズゴケ群集Mo	oliniopsio-Sphagnetum fusci'H. Suzuki, N. Yano, Y. Matsuda et Y. Hada 1981			•	1	4	過原·河川·池沼植	ı		
ホロムイイチコーイボミスコケ影アメルクト	ホロムイイナコーイホミスコケ群製 Kubo chamaemoris-Sphagnetum papillosi Miyawaki et Ohba 1970 アメントコケギャーチャミズゴケ群機	1 1	1 1	1 1	•	4	10	1 1		
ワタスゲーイボミズゴケオーダー Eric	iophoro vaginati-Sphagnetalia papillosi Tx. 1970	Н	Н	H		47	10.00	1		
ヌマガヤーイボミズゴケ群団 Molin	niopsio-Sphagnion papillosiTx, Miyawaki et K. Fujiwara 1970	-	•		- 1	4 4	nc n	1		
メマカヤーイホミヘコケ 軒果 Mo キダチミズゴケオーダー Sohaenetalia	oliniopsio-Sphagnetum papillosi Lx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970 Ta compacti Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970	1	•	•	•	47	2 172	1 1		
イワイチョウーキダチミズゴケ群団	I Faurio crista-galli-Sphagnion compact/Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1972					47	ne	ı		
ヤチカワズスゲーキダチミズゴ・	イ群集 Carici-Sphagnetum compacti/Miyawaki, Itow et Okuba 1967	2	•	•	•	47	ne n	1		
ニャベニヘコソ 年来 Spragnetum ニヤマイヌノハナヒゲーワタミズニ	ニンストンク 発来らpragnetum rooustrmiyawaki, Onba et Okuba 1906 ミヤマイヌノハナビゲーワタに入立ケ群集 Rhynchosporo yasudanae-Sphagnetum tenelliTx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970	1 1	1 1		•	47	0.00	i		
スギバミズゴケ群落		91		•	•			1		
クンノハミスコケ幹洛ワラミズゴケ群落					1 1	+		t t		
アオモリミズゴケ群落		ı	1	i				i		
サンカクミズゴケ群落		-		1	-	t		i		
木口ムイソウクラス Scheuchzerietea pa	ホロムイソウクラス Scheuchzerietes palustris Den Held, Barkman et Westhoff 1969. em. Tx., H. Suzuki et K. Fujiwara 1970					47	湿原・河川・池沼楠	1		
ホロムインウオーダーScheuchzeriet	- Scheuchzerietalia palustris Nordhagen 1936			+	1	47	過過·河三·港沿橋 6回·河三·华沿楼	i		
××ガヤーニガンナンサ 辞国 Molli: ヌマガヤーウックシミズゴケ群体	メネントーニンスナンで作りMolimopsio-Fraynchosporton aloae 1x., T., Suzuki et K. Fujiwara 1970 ヌマガケーひらかシップイ軒集 Molimiosio-Sohaenetum pulchriMisawaki et K. Fujiwara 1970	- 10	÷	•	i	1 4	御屋・河川・河沿信 御屋・河川・河沿 高	1 1		
ュキイヌノヒゲ群集Eriocauletun	ユキイヌノヒゲ群集 Eriocauletum dimorphoelytri Miyawaki et K. Fujiwara 1970	1	1	•	1	47		ì		
オオイヌノハナヒゲーヤチスゲミ	K. Fujiwara		1	•	1	47	過速·河三·光沿橋 品屋·河三·光沿橋	1		
ニガンナンサーニヤマイメノハナ サギスゲーヤチスゲ群隼 Frionh	ケーニペくイメノハナロイ特米がnchosporetum albo-yasudanae Miyawaki et K. Fujiwara 1970 ケチスが群権 Friochoro aracilis-Caricetum limosae Miyawaki et K. Fujiwara 1970) I		47	· 阿里· 河三· 岩沼香河画 · 河三· 岩沼香	1 1		
ダケスゲ群集 Carisetum pauper	ダケスゲ群集 Carisetum pauperculae Miyawaki, Ohba et Okuba 1969	8	•	1	į.	47	温原·河川·池沼植	Í		
ヤチスギランーナガバンモウセン	ンゴケ群塔			1	•			Ŀ		
ヤナスケーホロムイソワ群落ヤチスゲ群落		-	1 1	1 1	•			1 1		
選 ヌマハコペータネッケパナクラス Montic ** **パナンキュウータネッケパナナー	ヌマハコペータネツケバナクラス <i>Montio-Cardaminetea</i> BrBl. et Tx. 1943 オナパセンホュウータネッケパナオーダー Anaelico connilovae—Cardaminetalia Ohha 1975					1 1	1 1	1 1		小面積で図示できない
						1	t	ì		小面積で図示できない
	€ Caltho-Lysichitonetum camtschatcensis Miyawaki et K. Fujiwara 1970	1	1	1		1	1	1		小面積で図示できない

, m; mil	西高山帯および高山帯の植生体系 中村(1986)、日本植生誌関東・東北、北海道、日本植生体系ウェブサービス http://www.jise.jp/top1.htm/公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センターから作成	中部山岳太平 作地域 日国・紀伊山	中部山岳日本 事地域	ま) 退東(日植 ま)	志) 東北(日植	比海道(付表) 比海道(日植		統一凡例大区分	統一凡例群集	群集で図化可能な高山	華
20	チョウジギクータヌキラン群集 Amico-Caricetum podogynae Miyawaki et al. 1977	1	1	1	1	12	1		i		小面積で図示できない
押		1	•	1	1		1		Í		小面積で図示できない
	1975	Į.	1	1	i		1		1		小面積で図示できない
	1975	1	1	1	1		1		1		小面積で図示できない
-	タカチホガラシーシルネコノメンウ群集 Cardamiro kiusianae - Chrysosolenietum flaselifferi Nakamura in Mivawaki 1982	•	1	1	1		1		1		小国籍で図示できない
-		1	1	1	1				1		小面積で図示できない
-	Nakamura in Miyawaki 1982	1	1	•	1	1.0			í		小面籍で図示できない
-		1	1	1	1		l		Į		小面積で図示できない
+	オクヤマガラン群集 Cardaminetum yezoensis torrentis Ohba 1982	•	•	1	T.		20		í		小面積で図示できない
- "	クラスは未定 (中間湿原) Unknown								1		
	ヌマガヤオーダーMoliniopsietalia japonicae Miyawaki et K. Fujiwara 1970						47	湿原·河川·池沼植生	1		
	ヌマガケ群団 <i>Moliniopsion japonicae</i> Miyawaki <i>et K.</i> Fujiwara 1970				-		47 3	湿原·河川·池沼植生	1		
	a 1967	1	1	•	1		2.715	显原・河川・池沼植生	1		
		1	1	•	1	er.		温原·河川·池沼植生	ļ		
Н	waki, Okuda et K. Fujiwara 1971	1	1	•	1	20	100	温原·河川·池沼植生	ı		
		L	L	1	1		-85	原·河川·池沼植	ľ		
	1964 em. Miyawaki et K. Fujiwara 1970	1	1	•	1		47 3	温原·河川·池沼植生	•		雪田に扱ってきた
	オオアゼスゲーヌマガヤ群落	1	1	•	1				1		
-	ムジナスゲーヌマガヤ群落	1	1	1	1				1		
+	クマイザサーヌマガヤ群落	1	ı	1	1				i		
111	ヨシクラス Phragmitetea Tx. et Prsg. 1942			t	+	-	47	湿原·河川·池沼植生	ľ		
	ヨシオーダーPhraemitetalia eurosibiricae Tx. et Prsg. 1942							邊原·河川·池沿植生	i		
Н	ミヤマオタルイ群団 Scirpion hondoensis Ohba 1973			H	H		47	湿原·河川·池沼植生	1		
	ミヤマホタルイ群集Scirpetum hondoensis Miyawaki et al. 1968	1	•	1	1		100	国原・河川・池沼植生	1		
44	チシマザサ群落	1	i	1	1		İ		1		
	インシシが群落	t t	1	1	-				t		
-71	シラタマノキークロウスゴ群落	1	ī	i	,				E		
**	キンスゲータカネスギゴケ群落	1	t	i.	• •				ı		
-17	チングルマーウックシミズゴケ群落	1	1	1	1				1		
* 7	フサバミズゴケ群落	1	i	1	1				1		
	ミヤマイヌノハナヒゲーュガミミズゴケ群落	1	i	1	,				1		
-	カワズスゲーミタケスゲ群落	1	ī	1	,				1		
	ミネハリイーカワズスゲ群落	1	í	+	1				ı		
. 1	エゾホンイ群落	t.	1	ŀ	-				1		
	クロヌマハリイ群落	t.	ı	ı	•				ı		

-	付表2 北海道の主要山系に分布する高山植物群落					(在膝諜200/1-4の)	意题		5	6	
X		知床23 大雪37	日高34	夕張31	狩場山	積丹山系ニセコ山系	暑寒別岳	崕山	大平山	利尻岳	本州
Section 1		*				3 5					9
7 0	コペケー・タカイ人に了件来 Dicentro-Violetum crassae Onba 1969 ノコゴトコギギ				1				1	1	0
2	インノンコギン・ファフロが開発者の「デュニュン」を通ります。	2 (י י	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	(
1	イン・ハン・・ TYT - マーキ米 Cremars Toyorietta Agricus 1909	0 0				+		н)
2 0	アントン マン・コン 単粋 アン・ファー・ 単粋	+	+					9			a
ם ר	「アメーシンテストアなる	-			1				1	1	1
- a	しつくて、エンヘンは一番がしています。	+	+	1	1		-	-	1	1	1
0		-	+	1	-1		-	-	1	1	ा
0 0	盆			1	1	1		1	1	1	1
2 =	イン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン			1	1	,	+		1	1	1
12	/ フーコミン・ター・メアナンコスマ 群隼 Potentillo misabei - Arenarietum merckipidis Nakamura in Misawaki 1988		י מ	1	1	ı	1	H.	1	1	C
13		1	O	1	1	1	1	1	1	1	0
14	ケエゾキスミル群落		0		1	1	1	1	1	1	1
12	ウスユキトウヒレン群落	1	er ı	E	1	1	1	1	1	1	1
16	77	1	ar ı	L	1	1	1	1	ī	ï	E
17	サマニヨモギーフタマタタンポポ群落	1	ar ı		1	1	1	1	1	ī	E
18	ニヤマハタザオーオオイワンメクサ群落	1	1	œ	E	1	1	1	1	ï	D
91	キクハクフカタ群落		1	L	1	1	0	1	1	1 (t
92	リンソにアケン群系 リニニュー・アンゴボー・フェー・カーボーを注				1	15		77	Ĺ	00	I .
200	ソントインシンンターに、大くスターはが、レイン・ノンターに、大く、単体				1	1	1		ı	00	10
94	レンシンにし、トアン・トントンなが アメンロケー・メル・ジェーレンとは難談		1 1	1 1	1		1 1	1	1	oc	1
	#8	-	-88		1	-80	-	۱			
	Eヤマクロスゲーチシマクモマグサ群集 Canci-Saxifagetum merckii Ohba 1969	-	2	1	1	ŕ	-	1	1	1	0
21	ミヤマタネツケパナ群集 Cardaminetum nipponicae Ohba 1969	0	<u>.</u>	1	1	1	1	1	1	1	0
22	エゾルリンウ群落	0	er ı	œ	1	1	1	1	1	ī	1
23	タカネイードメヤマハナソウ群集Junco-Saxifragetum laciniatae Ohba 1969				1	2		-	1	1	0
24	タナヤマキンハイ群落		100		1	X1	-		1	1	ī
	オントコマングを用浴	-1	2	1	ı	1	1	1	Ī	1	1
	ш.	B-	B-	п-	ŀ	H	B-	B-		ŀ	
17	十十八二十十十八十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	1 1	וו		1 1	, ,	1 1	1 1	1 1	1 1	0
200	トン・ストアギギ Wordin yoursale Oliva 1909 トンプスマナズ 井鉄	+	-		1		-	-	1	1) 1
30	ンノノ・マン・キーファン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン・コン	-	+	۵ ک	1	-	-	+	1	1	1
3 5	1、シー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	+	1		1	-	-	-	1	1	1
32 国	画衝地矮低大群落	-88	-88	-88	۱	-88	-	-88		1	
33	ウラシマシッシークロマメノキ群集 Arctoo japonici-Vaccinietum uliginosi (Yamazaki et Nagai 1961) Ohba et al 1980	ပ	S	O	1	1	1	1	1	1	0
34	コメバツガザクラーミネズオウ群集Arcterico-Loiseleurietum procumbentis Ohba ex SuzTok. 1964	ပ	S	1	1	1	1	1	i	1	0
32	ニヤマハンノキーウラシマジング群落		1	1	L		1	1	Į.	1	E
36	5	į.	CZ I	L	1	-7-1	1	I	1	1	f
96	コンパングカゲクラーイフとケ群落	-					1	1	i.	í.	1
60	t	1			10		1 (7	1	1	I i
98	(第一年) アンペンシー インハヤナ 中洋 (数) アンペンシー インハイナギ (数) アルカー 東京 (数) アルカー (数) (数) (数) (数) (数) (数) (数) (数) (数) (数)	-8	1	1	Ľ		1		1		D
	3	c	1	1	1	i	1	1	1	1	C
39	換	œ	1	1	1	1	1	1	1	1	1
40	ヒダカゲンゲ群集	1	O I	1	1	1	1	1	1	ī	T
41	ナツスゲンが群落		ı		1	1	1	27	L	ī	E
45	ヒタカミヤマノエンドウ群落	1	CC I	1	1	1	1		ï	î	E
43	ナシマギギョウ群後			((

45 タカキドメスが群様 45 タカキドメスが群様 100 インケング群様 100 オオピラマスユキ・ 102 ソクケング オオピラマスコキ・ 46 国 最低木群落 (雪上 アン・カイナ サラボ 48 エゾッガザクラボ 49 エゾッガザクラボ 51 エゾッガザクラボ 51 エゾッガザクラボ 52 キャイナ 井 53 キャイナ 井 54 エゾッガザクラボ 55 エゾッガゲー 56 イワイチョウーエンコ イワイチョウーエンコ カフィング 57 エグッカ・アンド 58 ボマイドンョウッケ 59 エヤマドンゴウーイト 50 カネトウテッケ 60 タカキトウケッケ 60 タカキトウケッケ 60 カキトウケッケ 61 エヤマインボウゲ 62 エヤス・ボウゲ 63 エヤマキンボイー 64 エンバッケ 65 エヤマキンボイー 66 エンバッケ 70 ファン・オータが 67 エア・オータが 68 エヤマキンボイイ 69 エクス・エータが 60 カカキングイー 60 エクス・エータが 61 エクス・エータが 62 エクス・エータが 63 エヤマキンボウゲ 64 エンバッケ 65 エクス・エータが 66 エンボーケ 67 エフバーケ 67 エフバーケ 67 エア・バイー 68 エクス・エーター 69 エクス・エーター 60 エクス・エーター 60 エクス・エーター 61 エクス・ボーク 62 エクス・ボーク 63 エクス・ボーク 64 エア・バイン・ 65 エクス・ボーケ 66 エクス・ボーケ 67 エア・バーケ 67 エア・バーケ 67 エア・バーケー 67 エア・バーケー 67 エア・バーケー 67 エア・バーケー 67 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー 77 エア・バーケー	マグサ群集 Savifiagetum nishidae Ohba 1974 Aゲ群集 Caricetum melanocarpae Nakamura in Miyawaki 1988 グ群類 (Aricetum melanocarpae Nakamura in Miyawaki 1988) グ群類 (A コギリナリギル (A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	
マケイケング イナョウング車 イナーウングー イナーウングー アナーツガル・ エブインガル・ エブインガル・ エンオンプーエ キャクイナー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンインー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンインー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンインー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンボンイー エンバンカサー オークイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー イロイキョウー エンバンクサンボ ストラインボン エンバンクサンボ ファフィャンボ ファフィャンボ ファフィャンボ ファフィャンボ エンバーフィャン エンバーフィャン エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンバーフィー エンボー エンバー エンボー エンボー エンボー エンボー エンボー エンボー エンボー エンボ	70年 年	
4チョウング書 4ケロバナング 4ケロバナング 7ケロバナル 1 フィングガウ 1 フィングガウ 1 エンゲンガウ 1 エンゲンイー 1 オマクナイギ弾 1 オマクケーエ オママナンボ 1 オマスケーエ 1 オマスケーエ 1 オマスケーエ 1 オマスケーエ 1 オマスナンボ 1 オーカンボー 1 オーカー 1 キ		
サロバナボイ サオトワウス サイトプウス サイトプリオ エンバッガオ・ エンバッガオ・ エンバッガオ・ エンバッガオ・ エンバッガオ・ エンバッガイ・ エンバッガイ・ エンバッガイー エンバッガー エンバッガー エンバッガイー エンバッカー エンバッカー エンバッカー エンイケー エンイナ・ エンイナ・ エンイナ・ エンイナ・ エンイ・ エー エー エー エー エー エー エー エー エー エー	フ ウ サ サ サ サ サ サ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ ナ	
画田及大学が大学 カオアロクス カオアロクス カイトングガザー エゾングガザー エゾンバガザー エゾンバガザー エゾンバクサー エゾンバクサー エゾンバクナー イワイチョウー オママナンボー ボヤマキンボー ボャマ・オンボー ボャマ・オンボー オンバーケー オンバーケー オンバーケー オンバーケー オンバーケー オンバーケー オンバーケー オンバーケー オンボー マー オンボー マー オンボー オンボー マー マー マー マー マー マー マー マー マー マ	パン併群集	
■ なんような	#	
■	#	C C C C C C C C C C C C C C C C C C C
■	手ングルマ群 指 田草原) クロスゲ群集 ザクラ群落 ザクラ群落 ギクラ群落 キンスゲ群落 キンスゲ群落 キンスゲ群落 マーボヤマガイ ギンイが ボーニャマイ群 ボーニャマイ群 グー・ディマイア ウー・ディマイア ヴー・ディマイア ボー・ディマイ群 ボー・ディマイア ボー・ディマイ群 ボー・ディマイ群 ボー・ディマイ群 ボー・ディマイア ボー・ディア ボー・ディー ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディー ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディー ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディア ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディ ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディ ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ボー・ディー ディー ボー・ディー ボー・ディー ディー ディー ディー ディー ディー ディー ディー	
## *** ## *** ## ## ## ## ## ## ## ## ##	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	
■	接着 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
■	カーエンノバン カースが サクラ群落 ザクラ群落 ザクラ群落 ザクラ群落 ザクラ群落 ボーズケマアケ ドング ボーズケマスケ ボースケマスケ ボースケマス ボースケアマス ボースケアケアケア ボースケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケアケア	
■	和草原 グロスゲ群集 ザクラ群落 デザクラ群落 フーミヤマアケ キンスゲ群落 バレイ群落 バレイ群落 エーミヤマイ群 ギーオクヤマ ディックロスゲ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
# *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	グロスグ群集 サウラ群落 アーデャマプケ キンスゲ群落 リノイ群落 エーマケイ群 ギーオウヤマ ドーデヤマイ群 アーデャマイア	
インスケート インイケョウ インイケョウ インイナンド アンインニュ アケスケンニュ アケスケンニャ ドヤマイナンボー ドヤマイナンボー ドヤマイナンボー ドナマイナンボー ドナマイナンボー ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド ドナンインド インインフサー インインフサー インインケチャ インインフサー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインテー インインド インド	14クラ群洛 フーミヤマケケ キンスゲ群落 ルリイ群落 エーギンオイ群 エーギンケイ群 ローミヤマイ群 ローテンマア	
## ***********************************	ケーデャマアケ キンスゲ群落 リノ群落 ニヤマイ群落 ギーオクヤマ ドーボヤマイ群が ガーニャマイ群 フクーチンマア ドーマクロスゲ	
調	キンスが群落 リノ群落 ニヤマイ群潜 ギーオクヤマ ドーボヤスイ群 バーニヤマイ群 フレーチンマア フレーチンマア フレーチンマア バークーチンマア バークロスゲ	
細	NJ/群落 	
制	- 三ヤマイ群落 ボーオクヤマ - 三ヤマイ群 パウーチシマア - タカネトウウ :ヤマクロスゲ	
細	ギーオクヤマ ーミヤマイ群 パウーチシマア ータカネトウウ ミヤマクロスゲ	
細	ーミヤマイ群 パウーチシマア - タカネトウウ マクロスゲ 雑変	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
制	ンパイソウーチシマプザミ群落 ボウゲータカネトウウチソウ群落 パイーニヤマクロスゲ群落 連れた戦略	
細	ボウゲータカネトウウナンウ群落 ・パイーニャマクロスゲ群落 土井・大群な	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
鮰	ハイーミヤマクロスケ群浴・ボード群落	
細	111.1 177 0+ 02.	
細	イン・学術していません。これは、世界のでは、一方子が、これには、これのでは、一方子が、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	
細	ノンストコンノコンストロイン	1 1 1 C
	高茎草本群落(高茎草原, 広葉草原)	
	シストン ウ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ	ď
	サンイチゲ群落	1
		- C R - O O O - 1 - 1 - 1 - 1
	ギーウラジロタデ群落	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	ストンク群絡	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0 0 1
	ンボボーイワオワキ群集	1 1 1 1 1 1 1 O 1 1 1 1
	ウーカノコソウ群落	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	つ群場	
	サンイナケーンナノインと中部・イ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
エンカントイと辞		
110 ナガバキタア	メアザミーリシリスケ群落	1 1 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1
112 ンナノナソスイン	ハインフ群洛・土野井	
ころとしていた。	突歩で	1
	「な」と、「ここ」「一人士事件	
116 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **		
	ントン・ハヤン・ハギ・カー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オン・オーナー・オーナー	1 1 1 1 1 1
118 ミヤマハルガヤー	ガヤーリシリスが群体	C
	ジスンの群権	00
	ノコギリソウーイブキトラノオ群落	

区分	植物群落	知床23 大雪37	日高34	夕張31	ニセコ山系 狩場山	積丹山系	暑寒別岳	崕山	利尻岳 大平山		本州
75	5	0	O	O	0	0	ï	1	0		r
9/	#	2	O	O	1	0	1	1	1		1
77	+	0	O	1	1	1	1	1	1		ï
78	78 ダケカンパータカネノガリヤス群落	I.	O	1	1	1	1	1	1		i
121	罗	1	1	1	1	1	1	1	0		1
79 嫌	松世										
80	コケモモーハイマツ群集 Vaccinio-Pinetum pumilae Maeda et Shimazaki 1951	0	O	O	0000	0	0	_	0		0
81 4	01年 01年 2月 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日										
82	チンマザサ群落	0	1	O	0	0	0	1	0		ï
83	イワノガリヤスーヒメスが群落	1	œ	1	1	1	1	1	1	7.	i
84	ムカゴトラノオーナンブソモソモ群落	1	O	œ	1	1	1	1	1		1
82	土	1	1	1	1	1	1	1	1		î
98	7	1	O	1	1	1	1	1	1		1
87	アポイタスキラン群落	1	O	1	1	1	1	1	1		î
88	4	1	1	œ	1	1	1	1	1		1
88	11	1	1		1	1	1	1	1		1
122	ダケカンバ低木群落	1	1	1	0	0	i	1	1		1
123	1	1	1	1	1	1	1	0	1		1
124	トロハヘビノボラズーキンロバイ群落	1	1	1	1	1	1	0	1		1
125	キツネヤナギータニウンギ群落	1	1	1	1	1	1	0	1		1
126	ダケカンバーナガバキタアザミ群落	I.	1	1	1	1	1	0	1		1
127	アオノイワレンゲ群落	I.	L	1	1	1	1	1	0		1
128	トスオウァブシータニウンギ群落	T E	1	1	1	1	ī	1	0	1	1
90 吨	高山湿原**2	R	1	œ	1	1	1	1	1		1
									Н		
* *	※C:山系内の複数の地域に分布する場合、R:山系内の一地域に限られる場合。 ※**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				H						
	*** 高山湿原全体を植物群落に相当するものとした。										

3. 地形との関連

(1) 高山帯の一般的な植生配分

高山帯の植生は地形との関連が密接にみられる。中部の高山帯の地形と植生モデルを図 3-1 に示す。

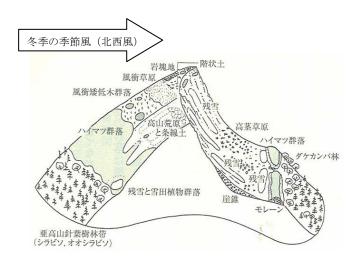


図 3-1 中部の高山帯の地形と植生モデルの例 日本の山と高山植物 (2009 小泉武栄)

- ・雪田は主として風背側に立地するが風衝側にもみられる。雪田の立地には3つのタイプがある。 1つ目は雪庇に由来するもので稜線直下に稜線に並行に延びるタイプである。2つ目は谷頭部 など緩やかな凹地にみられるタイプ、3つ目は風背側の斜面下部の急な谷筋にみられるタイプ である。
- ・風背側にも風衝側に主に分布する植生がみられることがある。カール底のモレーンや岩石氷河のハイマツ群落、風穴や強風の通り道の風衝草原など。

(2) 各地の研究例と図化事例

既存資料があり詳細な群落分布がわかっている場合は、細分して図示してもよい。 しかし、基本的には<u>風衝側のハイマツ群落、風衝草原、高山荒原</u>、<u>風背側の雪田、広葉草原、</u> ダケカンバ等の落葉樹林に大別する。

以下に、地形と植生の対応についての研究事例を示す。

① 斜面方位による積雪と植生の違い(八甲田山)

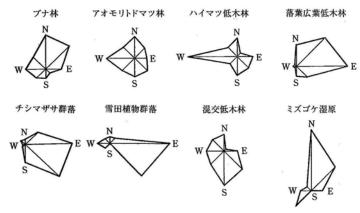


図 3-2 八甲田山の植物群落における斜面方位別出現頻度 (Yoshioka and Kaneko 1963)

② 雪田の雪融けの時期と植生(大雪山)

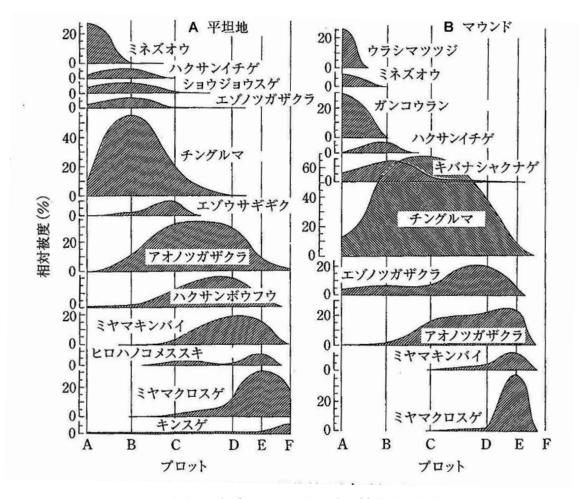


図 3-3 雪融けの傾度に沿った主要高山植物種の分布パターン 積雪は例年、プロットAからプロットFに向かってきえていく。北海道大雪山。(Kudo, 1996)

③ カールの地形と植生(北アルプス 野口五郎岳カール)

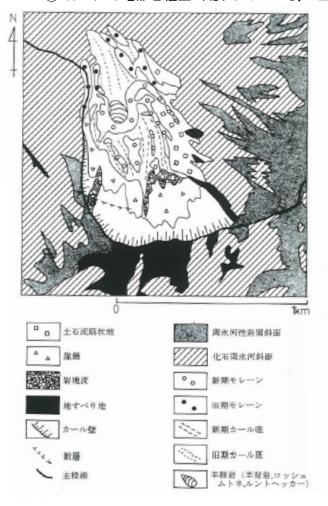


図 3-4 野口五郎岳カールの地形 (水野 1999)

図 3-5 野口五郎岳カールの植生 (水野 1999)

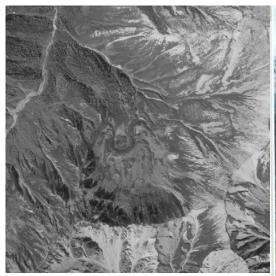


図 3-6 地理院空中写真 (1973.10.10 撮影)



写真 3-1 野口五郎岳カールの植生 秋の写真 (水野 1999)

緑:ハイマツ群落、灰褐色:針広混交林(ダケカンバ等)、 黄土色:広葉草本群落、淡黄:雪田、灰:荒原・裸地

④ カールの地形と植生(北アルプス 黒部五郎岳カール)

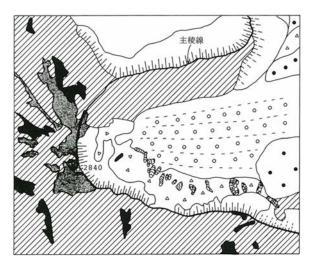


図 3-7 黒部五郎岳カールの地形 (水野 1999)

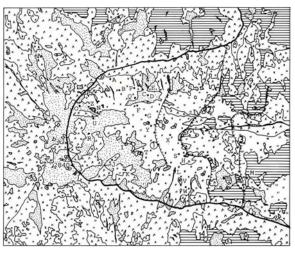


図 3-8 黒部五郎岳カールの植生 (水野 1999)

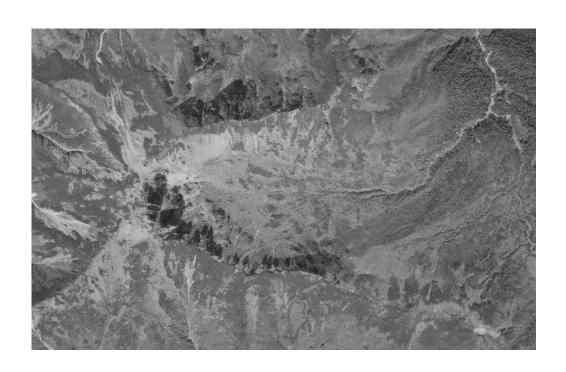


図 3-9 黒部五郎岳カールの地理院空中写真 (1973.10.10)

⑤ カールの地形と植生(南アルプス 荒川岳前岳カール)

大野啓一氏(元横浜国立大学)にヒアリングし、南アルプス荒川岳での図示方法を検討した。 南アルプス荒川岳南東面における氷河地形と植物群落(増沢・冨田・長谷川 2008)の地形と植 生の区分(図 3-10、図 3-11、表 3-1)を参考にしている。

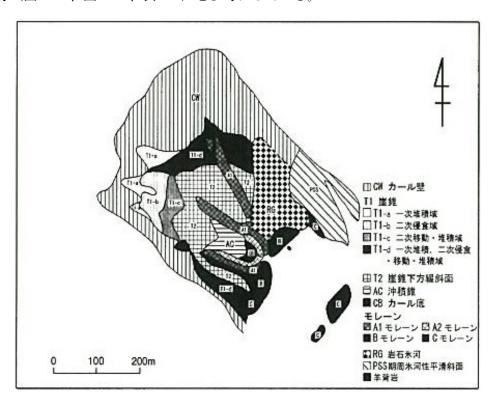


図 3-10 荒川岳の地形区分

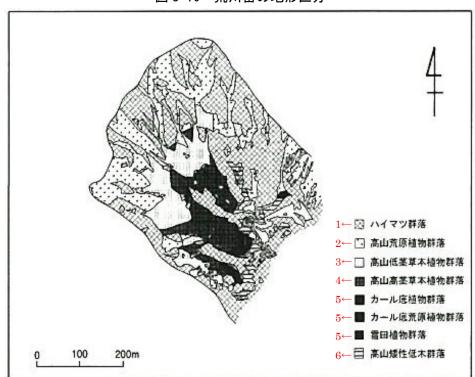


図 3-11 荒川岳の植生区分

1: コケモモーハイマツ群集、2: 高山ハイデ及 び風衝草原、3: オヤマノエンドウーヒゲハリス ゲ群集、4: シナノキンパイーミヤマキンポウゲ 群団、5: 雪田草原、6: コメバツガザクラーミ ネズオウ群集

表 3-1 南アルプス荒川岳・前岳カールにおける植生区分と地形との対応

	植物群落	構成種	地形	立地	植生単位	番号	統一凡例
1	ハイマツ群落	ハイマツ、キバナシャクナゲ、コ ガネイチゴ、タカネナナカマド		中間的な積雪地。安定 地	コケモモーハイマツ群集	1	コケモモーハイマツ群集
2	高山荒原植物群落	イワツメクサ、タカネヒゴタイ、オ ンタデ、チシマギキョウ	カール壁~崖錐。砂礫が移動している		タカネビランジーミヤマミミ ナグサ群集		高山ハイデ及び風衝草 原 など
3		イワオウギ、ミネウスユキソウ、 ヒメカラマツ、コバノコゴメグサ、 チシマギキョウ、コイワカガミ		風衝地・なだれ地	シラネヒゴタイーオヤマノエ ンドウ群集	3	オヤマノエンドウーヒゲ ハリスゲ群集
4		シナノキンバイ、タカネスイバ、 ハクサンフウロ、ミヤマアシボソ スゲ、タカネヨモギ、イワノガリヤ ス、ホソバトリカブト、ハクサンイ チゲ、クルマユリ	上部	なだれ地。中間的な積 雪地	クロユリータカネヨモギ群集	4	シナノキンパイーミヤマ キンポウゲ群団
5		アオノツガザクラ、ガンコウラ ン、タカネヤハズハハコ、ヨツバ シオガマ	沖積堆下部~カール底上 部。礫質	雪田。なだれ地	タカネヤハズハハコーアオ ノツガザクラ群集	5	雪田草原
6	カール底荒原植物群落	タテヤマキンバイ、コメススキ	カール底最低部	雪田。滞水地	タカネヤハズハハコーアオ ノツガザクラ群集		
7	雪田植物群落	(ツガザクラ、チングルマ、ハク サンコザクラ、イワイチョウ、ショ ウジョウスゲ)		雪田	タカネヤハズハハコーアオ ノツガザクラ群集		
8	高山矮性低木群落	ミネズオウ、コメバツガザクラ、 コケモモ、ガンコウラン、 ウラシ マツツジ、 クロマメノキ	モレーン・岩石氷河下部 (高山の山頂、尾根。礫の 移動が少ない。)	その他の立地(岩礫斜 面・岩塊地)	コメバツガザクラーミネズオ ウ群集		コメバツガザクラーミネズ オウ群集

^()内は「高山植物の生態学」(増沢1997)からの引用による。構成種は「南アルプス 3章 荒川三山カール群の高山植生」(大野啓一、増沢編2010)p234から追加。 地域や地形に応じて出現する群落は異なる



図 3-12 1976 年地理院空中写真 *位置補正なし



図 3-13 1976 年地理院空中写真+植生区分 (増沢ら 2008)

*位置補正なし

植生図(1/25,000)は、既存資料(増沢・冨田・長谷川 2008) の地形区分と植生区分との対応を参考に、新たに表示可能な 細かさで画像から区分線を引く

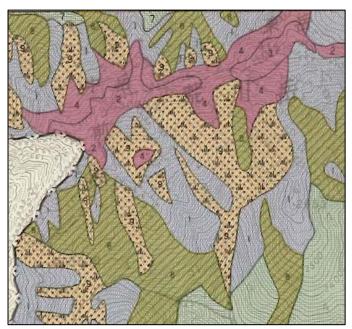


図 3-14 植生図 1/50,000 赤石岳 (1/25,000 に拡大)

1:高山低木群落、2:コメバツガザクラーミネズオウ群集、4: コマクサーイワツメクサクラス、6:ミドリユキザサーダケカンバ群団、7:シラビソートウヒ群団、9:シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団

注:下線は前岳カールの図示例で適用していない統一凡例

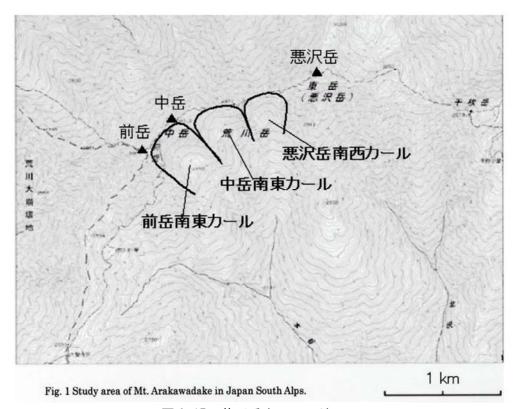


図 3-15 荒川岳カールの地形



写真 3-2 荒川岳前岳カール



写真 3-3 荒川岳前岳カール

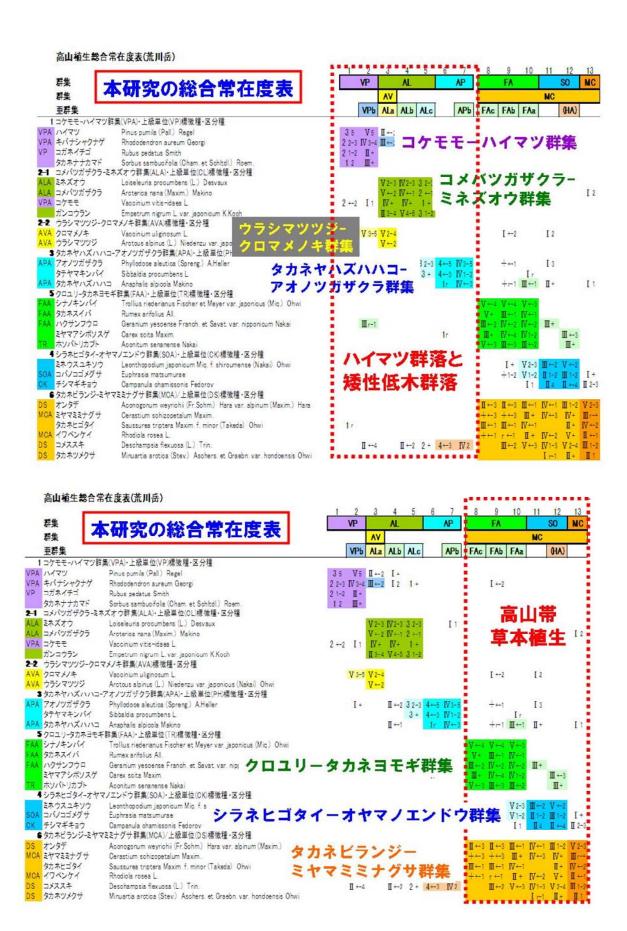


表 3-2 荒川岳の高山植生総合常在度表

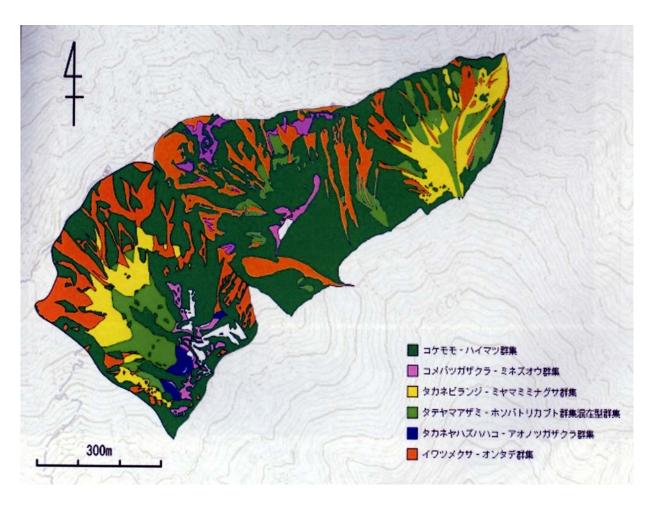


図 3-16 荒川三山の植生図

(3) ヨーロッパの事例

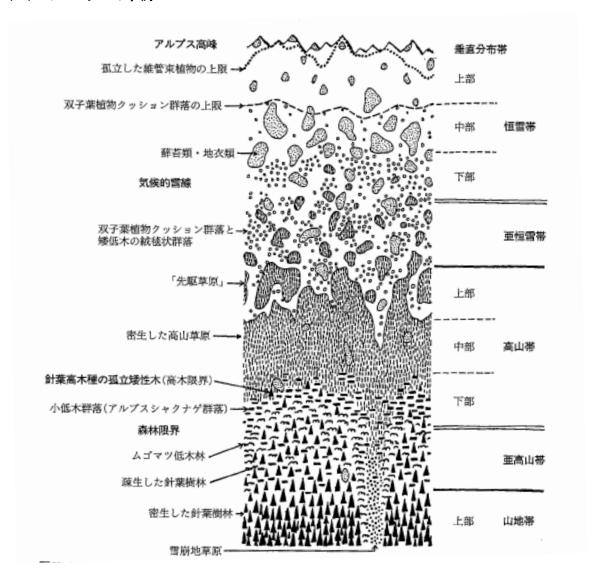


図 3-17 ヨーロッパアルプスにおける山地帯上部から恒雪帯までの群系モザイクの 垂直分布模式図 (Ellenberg1978, 1996, 大場 1977) 佐藤 2007 より転載 針葉樹が雪線で切れる。なだれ地には上位の群落が降りる。

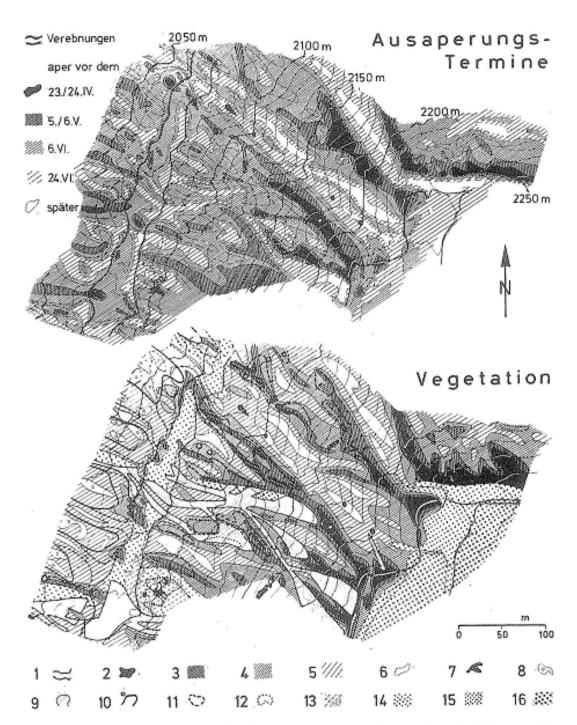


Abb. 325. Im Waldgrenzbereich und in der alpinen Stufe hängt die Verteilung der Pflanzengesellschaften wesentlich von der Andauer der Schneebedeckung ab. Eine Karte der Ausaperungstermine stimmt daher weitgehend mit der Vegetationskarte überein. Nach FRIEDEL aus AULITZKY (1961), verändert.

Oben: Interpolierte Karte der Ausaperungstermine oberhalb der Waldgrenze bei Obergurgl (2050–2250 m). Unten: Vereinfachte Vegetationskarte des oben dargestellten Geländeausschnittes. 1 = Verebnungen, 2 = Flechten-Windheiden, 3 = Alpenazaleen-Windheiden, 4 = Rauschbeerheiden, 5 = Alpenrosen-Heidelbeerheiden, 6 = dichte Alpenrosenheiden, 7 = Legföhren, 8 = Lücken im Alpenrosengestrüpp des subalpinen Waldes, 9 = Schuttvegetation, 10 = alte Arvenbestände, 11 = junge Arven, 12 = junge Lärchen, 13 = offenes Pionier-Alpenrosengesträuch mit Rhacomitrium canescens, 14 = Flächen mit Bodenüberhitzung, 15 = Flächen mit Bodenverdichtung, 16 = Krummseggenrasen (mittelalpin).

図 3-18 地形と植生 (Ellenberg1978)

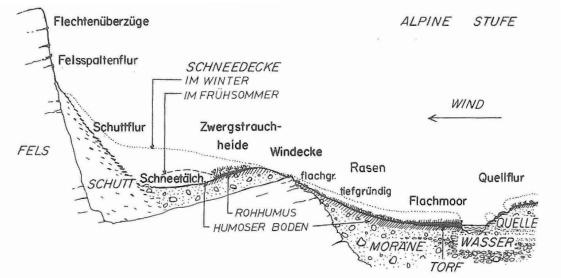


Abb. 328. Charakteristische Vegetationsformationen und deren Böden sowie die Dauer und Höhe der Schneedecke in der alpinen Stufe (halbschematisch). Je nach dem Basengehalt des Bodens werden die Formationen durch verschiedene Pflanzengesellschaften vertreten (s. Tab. 74 und folgende).

図 3-19 雪融け後の地形と対応する植物群落(高山ハイデと湿原)(Ellenberg1978)

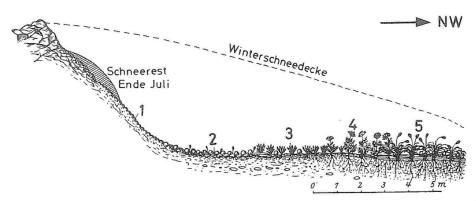


Abb. 338. Zonierung der Schneeboden-Vegetation am Minorjoch, Bernina, 2450 m ü. M. Nach Braun-Blanquet (1951).

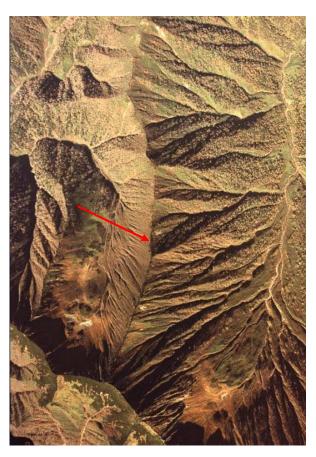
1 = Widerton-Schneeboden (Polytrichetum sexangularis), 2 = Typischer Krautweiden-Schneeboden (Salicetum herbaceae), 3 = Ausbildung mit Gnaphalium supinum, 4 = desgl. mit Ligusticum mutellina, 5 =

図 3-20 雪融けの時期と対応する雪田植物群落 (Ellenberg1978)

4. 標準的なくくり方

(1) 地形をわかりやすくする工夫

・ 尾根の両側の斜面を同じ種類の植生が広く覆っている場合(図4-2ではミヤマハンノキ群落)、 尾根のハイマツが幅 1mm 以下で細くても、鋭い尾根がある地形をわかりやすくするためにハ イマツを括る。



コケモモーハイマツ群集

図 4-1 札内岳左下の空中写真 1978 年

図 4-2 札内岳左下の植生図

(2) 月山「植生図」の判読・図化にあたっての判別点や工夫ー偽高山の低木群落の細分ー

※群落名の後に示した番号 1) ~13) は、管理サイト植生図作成支援ツールの 574060 月山で Google 画像が参照できる。→現在は閲覧ができなくなっている。

① 低木群落について

調査地は偽高山帯と言われる植生上の特徴から、各種の低木群落が様々な立地に広範に分布している。各群落は構成種、生育地の地形的、生態的特性、植生帯によって区分されている。比較的判断の容易な群落もあるが、群落特性や画像の写り方で判別が困難な群落があった。

・画像の見え方に特色があり、比較的判別しやすいのはハイマツ群落 1)、ヒメヤシャブシータニウツギ群落 2)である。ハイマツ群落は常緑低木林であるので紅葉期や落葉期には明瞭に識別できる。ヒメヤシャブシータニウツギ群落は濃い目の色調と斜面を流れ下るようなパターンが特

徴的で、急峻な地形(等高線の間隔、崩壊地・露岩地の記号)や隣接してクロベーキタゴョウ 群落が生育することなども判断の材料となった。

- ・現地での観察や目視を基に画像で確認した結果、ウラジロナナカマド群落 3) は生育地の特徴 (雪田内の沢状地) と画像の見え方 (チシマザサ群落よりやや濃いが、他の低木群落より淡色) から比較的容易に抽出できた。
- ・生育地の特性によって判別したのは**ダケカンバ群落 4**)、**ヤハズハンノキ群落 5**)である。現地での観察によって確認し、画像である程度判別でき(ダケカンバは曲がりくねった白っぽい幹、ヤハズハンノキは黒っぽく、密ででこぼことした樹冠)、地形図を手がかりに(ダケカンバは溶岩台地崖線から派生する尾根状地、ヤハズハンノキは椀状の沢筋)抽出した。
- ・ミヤマナラ群落 6) はブナクラス域上部に断裂した帯状の分布があること、比較的平坦で幅のある尾根に生育すること、風衝地であること、湿原周囲に特異的に生育することなどが既存文献から理解され、それらを考慮して判別した。しかし、ナナカマドーミネカエデ群落や一部のヒメヤシャブシータニウツギ群落とが区別困難な場合もあった。それはミヤマナラ群落が画像では識別しにくかったことによる。ミヤマナラ群落は単調できめ細かなパターンであることが多かったが、色調では特徴がなかった(あるいは撮影季節によって明瞭になるかもしれない)。したがって、画像よりも生育地の特性から判断しなければならず、判断の困難な場所があった。
- ・ナナカマドーミネカエデ群落 7) は最も広範に分布する低木群落であるが、画像に特徴がなく、特にミヤマナラ群落とは識別が非常に困難であった。高海抜地においては他の低木群落が抽出可能であったために、迷うことが少なかったが、ブナクラスとの境界付近でミヤマナラ群落との区別が難しかった。地形的な特徴などを勘案しても、決め手となる画像での違いが読み取れず、苦慮した。最終的には、海抜高度、尾根の形状、斜面の方位などを手がかりに判断した。
- ・チシマザサーブナ群団 8) は上限付近で低木林化し、高木群落とは様相を異にする。低木林化したブナ林と他の低木群落との識別は、現地での目視と画像での見え方を合わせた結果、おおむね可能となった。ブナ低木林は下部のブナ高木林からの連続性を手がかりに、白っぽい枝幹や丸みを帯びた樹冠で区別できた。

② 植生のモザイク 9) について

- ・チシマザサ群落、各種低木群落、雪田、湿原が入り組んだモザイクを呈する場合がある。現地 での観察では、各植生は比較的明瞭に棲み分けており、例えばチシマザサと低木とが分離不能 に混在することは少なかった。
- ・しかし、植生のモザイクでは省略と連結が必要であり、図化にあたっては、低木群落、湿原、 雪田をチシマザサ群落 10) の中からくくり出す要領で図示した。

③ 雪田と湿原の区分

・月山の図面では、溶岩台地上の緩斜面、斜面中腹の平坦〜緩斜面、雪溜まりとなる沢筋に広く **雪田植生**が見られる。また、**弥陀ヶ原、念仏ヶ原、行者ヶ原にはミズゴケ湿原**が分布している ことが知られている。

湿原 11) はおおむね上記3地域に発達するが、その境界部では画像による識別が困難であった。登山ルートにおける現地確認ができた地点では、ある程度実態を反映できたが、確認できない地点においての識別は難しかった。画像において、雪田と湿原の見え方は明らかに区別で

きる場合もあったが、一般化は難しかった。その都度、隣接するポリゴン同士で比較し、最終的には平坦な地形の場合を湿原とした。湿原は海抜 1600mよりも低い地域に分布するようである。

雪田 12) は広く分布し、画像での見え方も様々であった。事前の判読で雪田としながらも、その広範さに不安があった。雪田植生には様々なタイプがあり、仔細に画像と対応することで細分できるかもしれないが、1/25,000 図のスケールでは表示しきれないこと、雪田というカテゴリーが表せればその他の凡例とのバランスも取れ十分であると考え、細分はしなかった。しかし、雪田底の荒原に相当する部分が画像から判別できたので区分した。実態解明には組成調査が必要である。

現地調査では海抜 1,350m付近から雪田が確認できた。それ以高の地域では地形と画像の色調などから、雪田を判別できた。しかし、溶岩台地崖線の東側急斜面においてはより低海抜地に草原が画像から判別され、既存資料では雪田植生として示されていた。溶岩台地上の明らかな雪田とは色調が異なって見えるので、他の草本群落である可能性も考えられた。しかし、踏査や遠望の困難な場所であるので、実態の解明は困難であろう。今回は既存資料に準じて、雪田植生として表示した。

④ 高山域の代償植生 13) について

1/25,000 図では従来表記できなかった高山域の代償植生を示すことができる。既存資料に調査データが少なく、実態が判明していないが、植生の保全やモニタリングのために記録されることが望ましいと考える。月山では、現地調査で確認でき、画像でも識別できた、ある程度の面積をもつ植分を表示した。

5. その他

(1) シカの食害

南アルプスではシカの食害が報告されている。前岳、荒川岳、塩見岳、北荒川岳、仙丈岳では、1980 年頃にはシナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンイチゲなどの風衝広葉草原が見られたが、2000 年頃から食害と踏み付けによって、シカの食べないタカネヨモギ、バイケイソウ等が優占する草原や裸地が出現している。亜高山帯の高茎草原でもマルバダケブキやホソバトリカブトが優占する群落に変化している。1/25,000 図上で各 1cm 四方程の面積で広がっている。(2013.3.7 増沢先生のヒアリングによる)

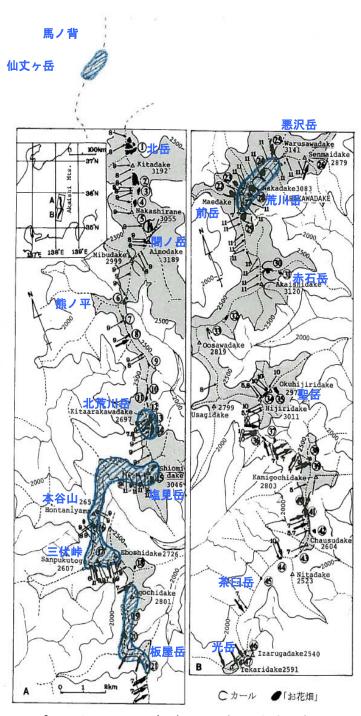


図 5-1 南アルプスにおいてシカ害が認められる地域(水野 1999 に加筆)

参考文献

Ellenberg, H (1978) Vegetation Mitteleuropas mit den Alpen in oekologischer Sicht. Verlag Eugen Ulmer. Stuttgart.

浅沼孝夫(2002)羅臼岳・硫黄山自然観察ガイド。知床サイト

菊池多賀雄(2001)地形植生誌。東京大学出版会

石塚和雄・橘ヒサ子・斎藤員郎(1972)鳥海山・飛鳥。山形県総合学術調査会

石塚和雄(1978) 多雪山地亜高山帯の植生_吉岡博士追悼植生生態論集

菊池多賀夫・菅原亀悦(1978) Ⅳ 自然公園蔵王連峰の植生

伊藤浩司(1973)大雪山の植物群落。写真集「大雪山」

大場達之(1969)日本の高山荒原植物群落。神奈川県立博物館研究報告1(2)

大場達之(1968) 日本の高山寒冷気候下における超塩基性岩地の植生。神奈川県立博物館研究報告1(1)

大場達之(1973)日本の亜高山広葉草原1。神奈川県立博物館研究報告(7)

大場達之 (1973) 日本の亜高山広葉草原-低木群落。神奈川県立博物館研究報告(6)

大場達之・安達永眞・真岡都(1979)木曽山系太田切川流域の植生、中央アルプス太田切川流域 の自然と文化総合学術報告書

小泉武栄(1974)木曽駒ヶ岳高山帯の自然景観

齋藤員郎(1978)東北地方の亜高山針葉樹林_吉岡博士追悼植生生態論集

佐藤謙(2007)北海道高山植生誌。北海道大学出版会

中村幸人(1986)中部山岳以西の亜高山性植生の植物社会学的研究 その 1 群落区分とその体系 化-横浜国立大学環境科学研究センター紀要 第13巻第1号

中村幸人(1988) 中部山岳以西の亜高山性植生の植物社会学的研究 その 2 植生単位の分布特性 -横浜国立大学環境科学研究センター紀要 第14巻第1号

羽田健三・小林圭介・平林国男(1971)仙丈岳・甲斐駒ケ岳・戸台川周辺の植生。戸台自然休養 林候補地学術調査報告。長野営林局長野営林局

羽田健三・平林国男・小林圭介・和田清(1972)御岳の植生。御岳自然休養林候補地学術調査報告。長野営林局

増沢武弘編著(2010)南アルプス 地形と生物。静岡県県民部環境局環境ふれあい室。

水野一晴(1999)高山植物と「お花畑」の科学。古今書院

宮脇昭・伊藤秀三・奥田重俊(1967)会津駒ケ岳・田代山周辺(福島県)の植生。日本自然保護協会

宮脇昭・大場達之・奥田重俊・中山冽・藤原一絵(1968) 越後三山・奥只見周辺の植生(新潟県・福島県)。越後三山 奥只見自然公園学術調査報告書

宮脇昭・大場達之・奥田重俊(1969)乗鞍岳の植生-主として飛騨側の高山帯と亜高山帯について-日本自然保護協会調査報告第36号。中部山岳国立公園乗鞍岳学術調査報告。

更新履歴

- 2013.5 「高山帯・亜高山帯調査のための手引き」として平成25年度実施要領巻末資料に追加
- 2015.5 「山岳地調査の手引き」に改称
- 2016.4 既存資料、既存画像データの追加、表 2-1 の変更、その他表記を修正